

茨城県教育財団文化財調査報告第225集

# 金谷遺跡 1

北関東自動車道（協和～友部）建設  
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

（下 卷）

平成 16 年 3 月

日 本 道 路 公 団  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第225集

かな や  
金 谷 遺 跡 1

北関東自動車道（協和～友部）建設  
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

（下 卷）

平成 16 年 3 月

日 本 道 路 公 団  
財団法人 茨城県教育財団

# 目 次

〈下巻〉	
(6) 溝跡 .....	287
(7) 鋳造関連遺構 .....	290
(8) 排滓場 .....	318
4 近世の遺構と遺物 .....	326
(1) 墓塚 .....	326
(2) 井戸跡 .....	367
(3) 土坑 .....	369
5 その他の遺構と遺物 .....	370
(1) 竪穴住居跡 .....	370
(2) 方形竪穴遺構 .....	387
(3) 掘立柱建物跡 .....	392
(4) 井戸跡 .....	393
(5) 溝跡 .....	394
(6) 土坑 .....	398
(7) ビット群 .....	408
(8) ビット列 .....	410
(9) 不明遺構 .....	412
(10) 遺物包含層 .....	415
(11) 遺構外出土遺物 .....	418
第4節 まとめ .....	437
付 章 .....	447
写真図版	
付 図	

### 第17号溝跡 (第212図・付図)

位置 中央2区西部のT44j8区からT44g8区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第19号溝に掘り込まれている。

規模と形状 T44j8区以南は調査区域外へ延びており、北東方向(N-10°-E)へ直線的に延びている。確認できた長さは11.80mである。規模は上幅0.50~0.78m, 下幅0.30~0.60m, 深さ10~20cmである。形状は底面がわずかにくぼみ、壁面は緩やかな傾斜で立ち上がっている。

覆土 単一層である。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

#### 土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量



第212図 第17号溝跡実測図

遺物出土状況 土師器片3点(坏1, 甕2), 須惠器片1点(坏)が全域から散在して出土している。出土遺物のすべてが細片で、図示できるようなものはない。

所見 当遺跡で確認されている中世と推定されている溝跡とは形状が類似しているが、炉壁片などの構造に関連する遺物が出土していないことや8世紀中葉以後と考えられる第20号溝跡と平行に付設されていることから、時期は中世以前の可能性が考えられる。また、性格は等高線に直交し、台地から低地部へ延びていることから、排水的な役割を持っていた可能性もあるが、第19・20号溝跡と共に、コの字状を呈していることから、区画溝の可能性もある。

### 第19号溝跡 (第213図・付図)

位置 中央2区中央部西寄りのT44g8区からT46i1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

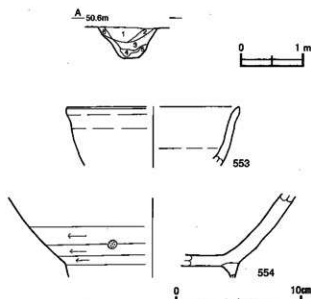
重複関係 第73・77号住居跡, 第13号掘立柱建物跡, 第17・20号溝跡を掘り込み, 第2ビット列に掘り込まれている。

規模と形状 T44g8区から北東方向(N-87°-E)へわずかに蛇行しながら直線的に延びる。確認できた長さは51.70mで, 規模は上幅0.72~1.20m, 下幅0.24~0.54m, 深さ23~42cmである。形状は底面がわずかにくぼみ, 壁面は緩やかな傾斜で直線的に立ち上がり, U字状を呈している。

覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 6 にぶい黄褐色 ロームブロック微量



第213図 第19号溝跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 弥生土器片2点(壺), 土師器片68点(坏17, 甕51), 須惠器片30点(坏19, 甕11), 炉壁片13点(817g), 鉄滓11点(449g)〔流動滓2(10g), 炉内溶解物8(438g), 白色滓1(1g)〕, 銅型片1点(24g), 粘土塊5点(94g)が全域から散在して出土している。553・554は覆土中から出土している。

所見 中世と推定される第17号溝跡を掘り込んでいるので、時期は中世以降と考えられる。性格は第17・20号溝跡と本跡で南に開くコの字状を呈していることから、区画を目的とした溝の可能性が考えられる。また、この3条南側(内側)から、鋳造に関連した遺物が出土し、工房跡と考えられる方形竪穴遺構が確認されていることから、鋳造又は製鉄関連遺構を区画する目的があった可能性がある。

#### 第19号溝跡出土遺物観察表(第213図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
553	須恵器	坏	[13.4]	(4.7)	-	長石	灰	普通	ロクロ整形	覆土中	10%
554	陶器	甕	-	(6.3)	-	長石・石英	灰褐色	普通	体部外面ヘラ削り	覆土中	10%, 外面鉄付

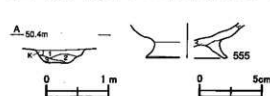
#### 第20号溝跡(第214図・付図)

位置 中央2区中央部西寄りのT45i8区からU45c8区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第68号住居跡を掘り込み、第19号溝に掘り込まれている。

規模と形状 U45c8区以南は調査区域外へ延びており、北部は北方向(N-7°-E)へ直線的に延びている。確認できた長さは17.50mで、規模は上幅0.62~0.92m、下幅0.21~0.48m、深さ20cmである。形状は底面がわずかにくぼみ、壁面は緩やかな傾斜で直線的に立ち上がり、U字状を呈している。

覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。



第214図 第20号溝跡・出土遺物実測図

#### 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片58点(坏32, 甕26), 須恵器片9点(坏7, 甕2), 土製品1点(不明), 炉壁片4点(98g), 鉄滓2点(36g)[炉内溶解物], 羽口片1点(174g)が

出土している。555は覆土中から出土している。

所見 8世紀中葉以後の第68号住居跡を掘り込み、中世と推定される第19号溝に掘り込まれていることから、時期は8世紀中葉から中世と考えられる。性格は南に開くコの字状を呈していることから、区画を目的とした溝の可能性が考えられる。この3条南側(内側)から、鉄に関連する遺物が出土し、工房跡と考えられる方形竪穴遺構が確認されていることから、鋳造又は製鉄関連遺構があり、それを区画するための溝跡の可能性が考えられる。

#### 第20号溝跡出土遺物観察表(第214図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
555	土師器	高台付甕	-	(2.7)	[6.4]	長石・雲母	明赤褐色	普通	底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け後ナデ	覆土中	10%

#### 第21号溝跡(第215図・付図)

位置 中央1区西部のT43c8区からT44c3区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 T43c8区から東方向(N-85°-E)へ進み、T43c0区で北方向(N-10°-E)に屈曲し、蛇行しながらT44c3区に至る。確認できた長さは26.0mで、規模は上幅0.29~0.60m、下幅0.21~0.47m、

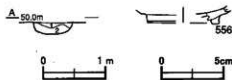
深さ8～19cmである。形状は底面がわずかにくぼみ、壁面は緩やかな傾斜で直線的に立ち上がり、U字状を呈している。

**覆土** 2層からなる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片16点(坏1, 甕15), 陶器片1点(甕), 磁器片1点(碗), 炉壁片2点(20g)が覆土中から出土している。出土遺物のすべてが細片で、図示できるようなものはない。



第215図 第21号溝跡・出土遺物実測図

**所見** 時期は、陶器片が出土しており、中世の可能性がある。性格は不規則な形状をしていることから、排水の役割を果たした溝であると考えられる。

**第21号溝跡出土遺物観察表 (第215図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
556	磁器	碗	-	(1.4)	[5.6]	緻密	灰オリブ	普通	ロクロ整形, 貼り付け高台	覆土中	10%

**第24号溝跡 (第216図・付図)**

**位置** 中央2区南東隅のV49c0区からV50c1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

**重複関係** 第24号住居跡を掘り込み、第7号井戸、第12号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 東部は調査区域外へ伸びているため、全容は不明であるが、確認できたのはV19c0区からほぼ直線的に東方向(N-90°-E)へ延びている。確認できた長さは4.12mで、規模は上幅0.64～0.82m, 下幅0.50～0.68m, 深さ30cmである。形状は底面が平坦で、壁面は外傾して直線的に立ち上がっており逆台形状を呈している。

**覆土** 2層からなる。不規則な堆積状況を示している人為堆積である。第2層は覆土が薄く、ほぼ水平に堆積し、締まりも強いことから、溝として機能をしている時に道路として使用された可能性がある。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 弥生土器片1点(甕), 土師器片11点(坏・高台付坏3, 甕8),

須恵器片2点(坏), 礫1点(破砕礫; 被熱痕)が全域にわたって覆土中から出土している。561は覆土中から出土している。本跡に伴う遺物はない。



第216図 第24号溝跡・出土遺物実測図

**所見** 4世紀後半と推定される第24号住居跡を掘り込み、中世の可能性のある第7号井戸に掘り込まれているので、古墳時代前期から中世までの間と考えられるが、当遺跡で確認されている中世と推定される溝跡と形状が類似していることから、中世と考えられる。また、性格は周辺の溝跡と同様に排水溝ではなく、区画溝として機能していたと考えられる。また、土層断面図中の第2層の覆土が薄く、硬化していることから、区画溝として機能しているときに道路としても使用された可能性がある。

第24号溝跡出土遺物観察表 (第216図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
561	須臾器	高台付環	-	(3.4)	[10.8]	長石・雲母	黒褐	普通	底部回転ヘラ切り、高台貼り付け後ナデ	覆土中	10%

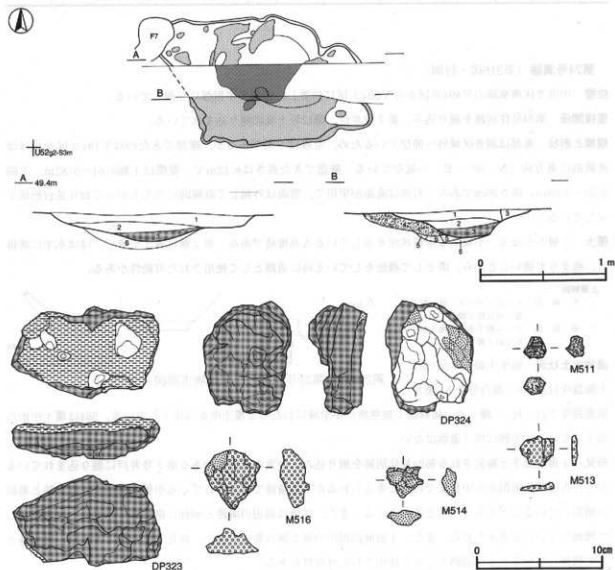
(7) 鑄造関連遺構

今回の調査では、東区と中央2区から鑄造に関連する遺構が確認されている。東区からは炉跡7基、それに付随すると考えられる鑄造関連土坑18基、中央2区からは鑄造に関連すると考えられる方形堅穴遺構9基、井戸跡10基が確認されており、既述のとおりである。ここでは、炉跡、鑄造関連土坑、方形堅穴遺構について記述する。

ア 炉跡

第1号炉跡 (第217図)

位置 東区北東部のU52g2区に位置し、台地の北西から南東へ下がる微斜面部に立地している。



第217図 第1号炉跡・出土遺物実測図

重複関係 第7号炉に掘り込まれている。

規模と形状 第7号炉に掘り込まれており、さらにトレンチャーによる擾乱を受けているため、確認された規模は長軸1.63m、短軸1.03mの不整形長方形で、深さは27cmである。断面はU字状で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長軸方向はN-89°-Wである。残存している底面は青灰色に還元し硬化している。還元面の周囲は酸化により焼土化している。この還元・酸化面の下方に深さ6cmの掘り込みがあり、多量の焼土・炭化物・鉄滓・粘土が堆積していた。これらの掘り込みは、炉の防湿施設の下部構造である可能性がある。

覆土 6層からなる。第1・2層は鉄滓や被熱痕のある礫を含む覆土であり、第2層と第3層の境界部に礫を敷いたような広がりが見られた。第3層は炉底の土層、第4層は還元面の周囲の酸化塩により焼土化した層、第5・6層は下部構造の埋土である。第1・2・5・6層は焼土・炭化物・鉄滓・礫・粘土を含んでいることから、人為堆積である。

土層解説

- |        |                       |        |                          |
|--------|-----------------------|--------|--------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、鉄滓少量         | 4 橙黄色  | 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量(粘まり弱い) |
| 2 灰色   | 粘土粒子中量、礫少量(硬化している)    | 5 明黄褐色 | 粘土ブロック中量、炭化物・鉄滓少量(粘まり強い) |
| 3 青灰色  | 粘土ブロック多量、砂粒少量(硬化している) | 6 灰白色  | 粘土ブロック多量                 |

遺物出土状況 陶器片1点(碗)、炉壁片349点(3361g)、鉄滓743点(4462g)〔炉内溶解物373(2488g)、流動滓303(971g)、白色滓67(260g)〕、鋤型片1点(3g)、粘土塊32点(213g)、礫22点(円礫2・破砕礫20;うち被熱痕14)が中央部の底面を中心に出土している。このほかには、混入した土師器8点(坏1・高台付坏1・甕6)、須恵器3点(坏2・甕1)、石器1点(石鏃)が出土している。DP320~DP324・M511・M513~M518は覆土中から出土している。DP323は溶解炉の炉底部の可能性があり、DP324は溶解炉の側壁中端である可能性がある。DP320~DP322、M512・M515・M517・M518は写真のみを掲載した。

所見 性格は炉壁及び炉内溶解物が出土していることから、溶解炉の可能性がある。時期は出土遺物から中世と考えられる。

第1号炉跡出土遺物観察表(第217図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP323	炉壁	(7.3)	(11.6)	(3.3)	(219.0)	砂粒・スサ	外面は青灰色のスサ入りの粘土で、未調整であり、内面は群青色をした半溶解状で、厚さが薄く空気排出孔が多数あり、赤錆付着し、着磁性があり	中層	炉底カ PL94
DP324	炉壁	(8.7)	(6.7)	(4.5)	(195.0)	砂粒・スサ	外面は青灰色のスサ入りの粘土で、未調整で凹凸あり、内面は暗褐色をした半溶解状で、流動による凹凸があり、着磁性は弱い	中層	炉中端

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
MS11	炉内溶解物	(1.8)	(1.8)	1.5	(4.1)	鉄	コバルト色を呈し、表面筋状の凹凸あり	覆土中	コバルト発色 赤 PL98
MS13	白色滓	(2.4)	(2.7)	0.6	(4.1)	鉄	白色をし、表面は平型	覆土中	PL98
MS14	炉内溶解物	(2.4)	(2.9)	1.2	(5.0)	鉄	黒褐色をし、表面細かな凹凸あり	覆土中	PL98
MS16	白色滓	(4.5)	(4.3)	(2.0)	(23.0)	鉄	ほぼ灰白色をし、一部黒褐色の半溶解鉄あり	覆土中	PL99

第2号炉跡(第218図)

位置 東区北東部のU52g2区に位置し、台地の北西から南東へ下がる微斜面部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる擾乱を受けているため、確認できた規模は長径0.84m、短径0.78mの不整形長方形で、深さは15cmである。断面は浅いU字形状で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN-29°-Wである。確認面で炉壁の崩落した部分が確認されている。残存している底面は青灰色に還元し硬化している



る。還元面の周囲は酸化焙により焼土化している。この還元・酸化面が互層になっているので、2回程度使用されたと考えられる。

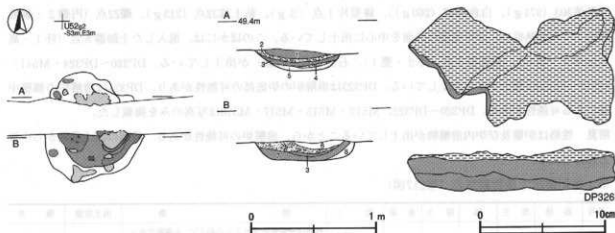
**覆土** 8層からなる。第1・3・7層は青色の還元し硬化した層、その間の第2・4層は赤色に酸化した層である。焼土ブロック・鉄滓などを含む人為堆積の状況を示している。

**土層解説**

- |                              |                         |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 暗青灰色 粘土粒子中量                | 5 オリーブ灰色 粘土粒子中量         |
| 2 明赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 6 暗オリーブ灰色 粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗青灰色 粘土粒子中量、焼土ブロック微量       | 7 暗緑灰色 粘土粒子中量、鉄滓微量      |
| 4 明赤褐色 焼土ブロック少量、鉄滓微量         | 8 オリーブ灰色 粘土粒子少量         |

**遺物出土状況** 炉壁片103点(2237g)、羽口片7点(751g)、鉄滓100点(261g)〔炉内溶解物34(115g)、流動滓47(96g)、白色滓19(50g)〕、鋳型片2点(195g)、礫12点(破砕礫；うち被熱痕10)が出土している。これらの遺物は覆土中層を中心に出土している。このほかには、混入した土師器片6点(欠)、須恵器片1点(欠)が出土している。DP325・DP326は覆土中から出土している。DP325は観察表のみを掲載した。

**所見** 性格は炉壁片及び炉内溶解物が出土していることから、鋳造のための溶解炉の可能性がある。また、還元・酸化による層が2度の互層になっていることから、この場所が溶解炉として2度以上の作り替えが行われたと考えられる。時期は周辺にある同種類の遺構と類似していることから、中世と考えられる。



第218図 第2炉跡・出土遺物実測図

第2号炉跡出土遺物観察表 (第218図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特	微	出土位置	備考
DP325	炉壁	(9.1)	(6.1)	(4.2)	(243.0)	砂粒・スサ	外面はスサ入りと砂粒入りの2層の貼り付けで、内面は薄い暗褐色の半溶解状の鉄で、着磁性强い		覆土中	実測図なし
DP326	炉壁	(16.3)	(9.4)	(3.4)	(355.0)	砂粒・スサ	外面は青灰色のスサ入り粘土で、本體であり、内面は群青色をした半溶解状鉄で、厚さが薄く平坦であり、着磁性は弱い		覆土中	PL95

**第3号炉跡 (第219図)**

**位置** 東区北東部のU52g 2区に位置し、台地の北西から南東へ下がる微斜面部に立地している。

**重複関係** 第7号鋳造関連土坑と重複しているが、重複部分がトレンチャーによる攪乱を受けているため、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 攪乱を受けているため、確認できた規模は長軸0.68m、短軸0.23mで、不整形あるいは不整形方形と推測される。深さは40cmで、断面が段を持つU字状で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長軸方向はN-88°-Wである。残存している底面は酸化により焼土化している。東部は確認面から40cmの深さで、

底面がわずかに平坦に掘り込まれ、地山との境界部分には粘土が貼り付けられている。西部は東部の底面からさらに11cmほど掘り込み、確認面から15cmほどの深さであり、断面はU字状である。東部の平坦部と西部の深い掘り込み部との境界には被熱痕のある礫が固定された状態で出土している。炉の防湿施設の下部構造は確認されなかった。

**覆土** 3層からなる。第1層は粘土・礫を含む層で、第2層は地山との境界部分に貼り付けられた層で、第3層は鉄滓を含む酸化塩により焼土化した層で、締まりが強く、硬化している。焼土ブロック・粘土ブロックを含む人為堆積の状況を示している。

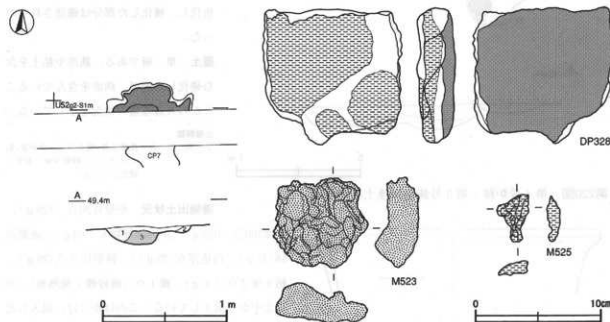
**土層解説**

- 1 暗褐色 焼土ブロック・粘土粒子・礫微量  
2 灰褐色 粘土粒子中量、焼土ブロック少量

- 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量、鉄滓微量

**遺物出土状況** 磁器片1点(碗)、炉壁片85点(2314g)、羽口片12点(317g)、鉄滓200点(522g)〔炉内溶解物134(376g)、流動滓47(96g)、白色滓19(50g)〕、銅型片2点(195g)、礫12点(破碎礫;うち被熱痕10)、が覆土中から出土している。DP328・DP329・M523・M525は覆土中から出土している。DP329は観察表のみを掲載した。

**所見** 性格は炉壁片及び炉内溶解物が出土していることから、鑄造のための溶解炉の可能性がある。また、還元塩により青灰色化した層が確認されてなく、操業回数は1回と考えられる。時期は中世と推定される磁器片が出土し、中世の鑄造に関連した遺物が出土していることから、中世と考えられる。



第219図 第3号炉跡・出土遺物実測図

第3号炉跡出土遺物観察表(第219図)

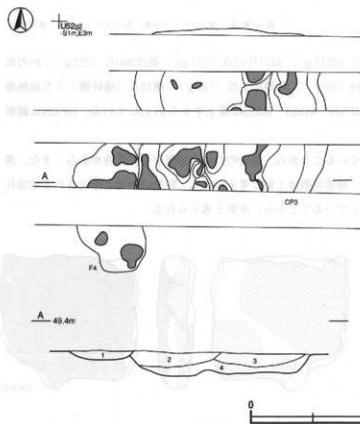
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP328	炉壁	(11.0)	(10.6)	(3.1)	(400.0)	砂粒・スサ	外面は青灰色のスサ入りの粘土で、未調整であり、内面は群青色をした半溶解状鉄で、厚さが薄く空気排出孔が多数あり、赤錆付着し、着磁性があり	覆土中	PL93
DP329	炉壁	(13.8)	(10.0)	(3.9)	(651.0)	スサ	外面はスサ入りの粘土で灰色をし、内面は黒褐色の半溶解状の炭に全面に赤錆付着	覆土中	炉底部カ、実測図無し

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M523	炉内溶解物	(7.2)	(7.5)	3.7	(160.2)	鉄	暗褐色の表面は凹凸あり、表面破砕面に多数の空気孔あり	掘り方覆土中	PL98
M525	白色滓	(3.7)	(2.5)	1.3	( 7.1)	鉄	白色の表面は凹凸あり、流動性あり	覆土中	PL99

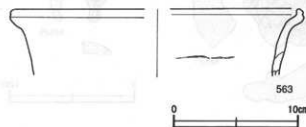
#### 第4号炉跡 (第220・221図)

位置 東区北東部のU52g2区に位置し、台地の北西から南東へ下がる微斜面部に立地している。

重複関係 第3号鋳造関連土坑を掘り込んでいる。



第220図 第4号炉跡・第3号鋳造関連土坑実測図



第221図 第4号炉跡出土遺物実測図

また、焼土や粘土・砂粒・鉄滓に還元した部分がなく、炉壁片の出土が少ないことから、炉底下部の可能性がある。時期は中世の鋳造に関連する遺物が出土していることから、中世と考えられる。

#### 第4号炉跡出土遺物観察表 (第221図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
563	土師器	瓶*	[22.8]	(5.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内外面ナデ	覆土中	10%

規模と形状 トレンチャーによる擾乱を受けているため、確認できた規模は長径1.02m、短径0.53mで、不整円形あるいは不整楕円形と推測される。深さは27cmで、断面が浅いU字状で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN-6°-Wである。掘り込み部分には白色粘土が酸化焼成により焼土化した部分と砂粒の層が確認されただけである。還元焼成により青灰色化し、硬化した部分は確認されなかった。

覆土 単一層である。鉄滓や粘土を含み硬化した層で、鉄滓を含んでいることから人為堆積の状況を示している。

#### 土層解説

1 黒褐色 鉄滓多量、焼土ブロック中量、粘土ブロック・砂粒少量 (非常に硬化している)

#### 遺物出土状況 炉壁片20点 (128g),

鉄滓200点 (522g) [炉内溶解物6 (63g), 流動滓18 (47g), 白色滓6 (25g)], 鋳型片2点 (26g), 粘土塊2点 (9g), 礫1点 (破砕礫; 被熱痕), が覆土中から出土している。このほかには、混入した土師器片1点 (堯) が出土している。

所見 性格は炉壁片及び炉内溶解物が出土していることから、鋳造のための溶解炉の可能性がある。

### 第5号炉跡 (第222図)

**位置** 東区北東部のU52h1区に位置し、台地の北西から南東へ下がる微斜面部に立地している。

**規模と形状** トレンチャーによる攪乱を受けているため、確認された規模は長径0.53m、短径0.48mで、不整形円形あるいは不整形楕円形と推測される。深さは12cmで、断面が浅いU字形状で、緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN-86°-Wである。確認面で不規則な形状の粘土が確認され、その下位には焼土を中心とした粘土・砂粒・鑄造関連遺物などの層があり、粘性・締まりとも非常に弱く、炉の下部構造の可能性がある。

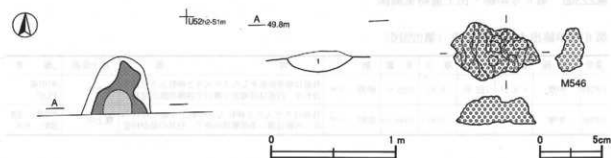
**覆土** 単一層である。焼土を中心とした粘土・砂粒・鑄造関連遺物などを含む層で、人為堆積の状況を示している。

#### 土層解説

1 赤褐色 焼土粒子・砂粒多量、粘土ブロック・鉄屑少量(粘性・締まり非常に弱い)

**遺物出土状況** 鉄製品1点(不明)、石器1点(砥石)、炉壁片21点(540g)、鉄滓17点(2621g)[炉内溶解物3(2488g)、流動滓2(3g)、白色滓7(130g)]、粘土塊2点(11g)、蝶2点(破砕蝶;被熱痕1)が覆土中から出土している。ほかに、混入した須恵器1点(甕)が出土している。M546は覆土中から出土している。

**所見** 炉壁及び炉内溶解物などの鑄造に関連する遺物が出土しているが、出土数が少なく、砂粒が被熱で赤変していることから、性格は溶解炉の下部構造の可能性がある。時期は周囲にある中世と推定される炉跡と規模と形状で類似していることから、時期は中世と考えられる。



第222図 第5号炉跡・出土遺物実測図

### 第5号炉跡出土遺物観察表 (第222図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	備	出土位置	備考
M566	白色滓	(7.2)	(4.6)	(2.3)	(41.2)	鉄	白色を呈し、歯状の突起による凹凸あり、流動性も見られる		覆土中	PL99

### 第6号炉跡 (第223図)

**位置** 東区北東部のU52h3区に位置し、台地の北西から南東へ下がる微斜面部に立地している。

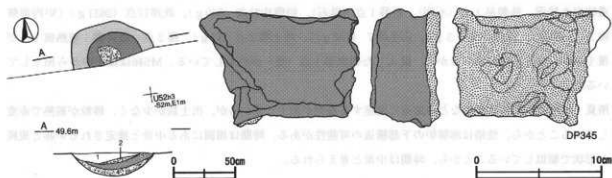
**規模と形状** トレンチャーによる攪乱を受けているため、確認された規模は長径0.65m、短径0.32mで、楕円形あるいは円形と推測される。深さは17cmで、断面は浅いU字形状で、緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN-86°-Eである。残存している底面は青灰色に還元し硬化している層と、還元面の周囲が酸化により焼土化している層が互層になっている。この還元面の下方に深さ4cmの掘り込みがあり、多量の焼土・粘土が混じり合って堆積している。

覆土 4層からなる。第1・2層は酸化により焼土化した層で、砂粒と鉄滓が混じっている。第3層は還元し硬化した層で、還元化した粘土の上に鉄滓が含まれている。第4層は被熱で赤変した粘土と砂粒の混じった層である。第1・2層は炉の覆土で、第3・4層が炉底部と推定される。各層とも人為堆積の状況を示している。

土層解説

- |                        |                              |
|------------------------|------------------------------|
| 1 褐色 焼土粒子少量            | 3 暗青灰色 粘土ブロック多量、鉄滓少量（硬化している） |
| 2 赤褐色 焼土ブロック・鉄滓中量、砂粒少量 | 4 にぶい赤褐色 粘土ブロック・砂粒中量         |

遺物出土状況 炉壁片9点(1839g)、鉄滓19点(228g)〔炉内溶解物4(138g)、流動滓15(90g)〕、粘土塊1点(7g)、鏝1点(円鏝；被熱痕あり)が覆土中から出土している。DP346は写真と観察表のみを掲載した。所見 性格は大きい炉壁片が出土していることから、溶解炉の可能性がある。周辺にある中世と推定される炉跡と類似しており、時期は中世と考えられる。



第223図 第6号炉跡・出土遺物実測図

第6号炉跡出土遺物観察表（第223図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備 考
DP345	炉壁	(9.4)	(12.6)	(5.6)	(526.0)	砂粒・スサ	外面は暗青灰色をしたスサ入りと砂粒入りで貼り合わせ、内面は暗褐色で薄い平湯解状が付き着	覆土中	炉中端 PL95
DP346	炉壁	(17.3)	(11.8)	(3.8)	(1040.0)	砂粒・スサ	外面はスサ入りと砂粒入りの粘土で貼り付けられ、内面は薄い平湯解状の鉄で、粒状の鏝が付き着	覆土中	炉中端、支道 掘削し 既図

第7号炉跡（第224図）

位置 東区北東部のU52g2区に位置し、台地の北西から南東へ下がる微斜面部に立地している。

重複関係 第1号炉跡を掘り込んでいる。

規模と形状 トレンチャーによる擾乱を受けているため、確認された規模は長径0.42m、短径0.27mの不整形円形で、深さは10cmであり、底面は平坦である。断面は浅いU字形で、緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN-36°-Eである。西部では確認されなかったが、東部では青灰色に還元し硬化している。還元面の周囲は酸化焰により焼土化して硬化している。この部分が炉底部と考えられる。この還元・酸化面の下方に深さ4cmの掘り込みがあり、多量の焼土・砂粒が堆積していた。これらの掘り込みは炉の防湿施設の下部構造と考えられる。

覆土 3層からなる。第1層は焼土ブロック・砂粒の混じった層で、粘性・締まりとも弱く、炉の防湿施設の下部構造である可能性がある。東部の第2層は被熱で粘土が焼土化した層で、第3層は粘土・砂粒が還元化した層である。第2・3層とも非常に硬化し、炉底部の可能性ある。西部は確認されなかった。粘土・砂粒を含む人為堆積である。

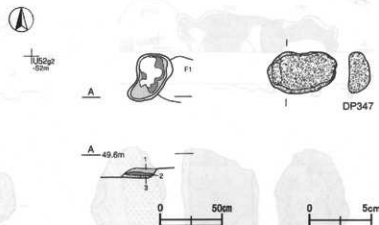
土層解説

- 1 に近い赤褐色 焼土ブロック・砂粒少量(締まりは弱い) 3 青灰色 粘土ブロック・砂粒中量(締まりは非常に強い)  
 2 橙 色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量(締まりは非常に強い)

遺物出土状況 炉壁片24点(716g), 鋳型片2点(98g), 鉄滓42点(212g) [炉内溶解物25(126g), 流動滓17(86g)], 粘土塊13点(147g),

礫1点(破砕礫; 被熱痕あり)が覆土中から出土している。

所見 土層断面では赤褐色と青灰色が層状になっていることから, 性格は溶解炉の可能性がある。覆土中から出土した炉壁片及び炉内溶解物は細片であるが, 中型の可能性のある鋳型が出土していることから, 型に流し込んだ遺構が隣接している可能性がある。周辺にある同種類の遺構と類似していることから, 時期は中世と考えられる。



第224図 第7号炉跡・出土遺物実測図

第7号炉跡出土遺物観察表(第224図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備考
DP347	鋳型	(3.8)	(5.4)	(2.1)	(35.0)	長石・石英	断面歯状で, 平出面は緩やかなテ	覆土中	中型+ PL32

イ 鑄造関連土坑

第1号鑄造関連土坑(第225図)

位置 東区北東部のU52g2区に位置し, 台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

重複関係 第2号鑄造関連土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 トレンチャーによる掘削を受けているため, 確認された規模は長径0.62m, 短径0.61m, 不定形である。深さは12cmで, 断面が浅いU字形状で, 壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。掘り込み部分には白色粘土が酸化焼成のために, 焼土化した部分がわずかに確認されただけで, 青灰色に還元し硬化した部分は確認されなかった。また, 炉の防湿施設の下部構造は確認されなかった。長径方向はN-88°-Eである。

覆土 2層からなる。第1・2層は白色粘土が酸化焼成により焼土化した層である。粘土ブロック・焼土ブロックを含む人為堆積である。

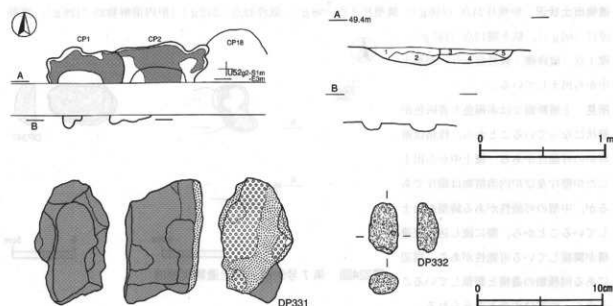
土層解説

- 1 灰黄色 焼土ブロック・粘土ブロック少量  
 2 に近い黄色 粘土粒子多量, 焼土ブロック少量

遺物出土状況 炉壁片128点(979g), 鉄製品2点(不明), 鉄滓220点(937g) [炉内溶解物74(376g), 流動滓99(388g), 白色滓47(173g)], 鋳型片1点(14g), 礫5点(破砕礫; 被熱痕あり)が覆土中から出土している。このほかには, 混入した須恵器1点(壺)が出土している。

所見 炉壁片及び炉内溶解物が出土していることから, 溶解炉と想定して調査を行った。他の遺構に比べ, 炉壁片や炉内溶解物が少なく, 青灰色に還元し硬化した部分が確認されなかったこと, 覆土中から鋳型片が出土していることから, 鑄造に関連する土坑と考えられる。時期は中世と推定される第2号鑄造関連土坑を掘り

込んでいるので、中世と考えられる。



第225図 第1・2号鑄造関連土坑・出土遺物実測図

第1号鑄造関連土坑出土遺物観察表 (第225図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP331	伊壁	(9.9)	(5.8)	(6.2)	(257.0)	砂粒・スサ	外面は暗青灰色をしたスサ入り粘土で、難なナ尹調整。内面は暗褐色をした半溶解鉄が薄く付着し、表面の一部に灰白色のものが付着	覆土中	
DP332	鍔型	(4.0)	2.3	(1.7)	(14.0)	砂粒	断面楕円形で、表面に灰白色の付着物あり	覆土中	中型*

### 第2号鑄造関連土坑 (第225図)

**位置** 東区北東部のU52g2区に位置し、台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

**重複関係** 第18号鑄造関連土坑を掘り込み、第1号鑄造関連土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 第1号鑄造関連土坑に掘り込まれており、さらにトレンチャーによる掘削を受けているため、確認された規模は長軸0.67m、短軸0.59mで、不整長方形と推定される。深さは10cmで、断面が浅いU字形で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長軸方向はN-86°-Eであり、掘り込み部分には白色粘土が酸化焼成のため焼土化した部分で、わずかに確認されただけで、青灰色に還元して硬化した部分は確認されなかった。また、炉の防湿施設の下部構造も確認されなかった。

**覆土** 3層からなる。白色粘土が酸化焼成のため焼土化した土層である。含有物の状況から人為堆積である。

#### 土層解説

3 灰黄色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量

5 灰黄色 焼土粒子・粘土ブロック少量

4 に近い黄色 粘土粒子多量、焼土ブロック少量

**遺物出土状況** 陶器片1点(椀)、炉壁片30点(224g)、鉄製品1点(不明)、鉄滓58点(330g)〔炉内溶解物47(289g)、流動滓6(19g)、白色滓5(22g)〕、粘土塊20点(56g)、礫8点(破砕礫;すべて被熱痕あり)が覆土中から出土している。遺物はすべて細片で、図示できるものはない。

**所見** 炉壁片及び炉内溶解物が出土していることから、溶解炉と想定して調査を行った。他の遺構に比べ、炉

破片や炉内溶解物が少なく、青灰色に還元し硬化した部分が確認されなかったことから、鋳造に関連する土坑と考えられる。陶器片が覆土中から出土していること、中世と推定される第1号鋳造関連土坑に掘り込まれていることから、時期は中世と考えられる。

### 第3号鋳造関連土坑 (第220・226図)

位置 東区北東部のU52g2区に位置し、台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

重複関係 第4号炉跡に掘り込まれている。

規模と形状 第4号炉跡に掘り込まれ、さらにトレンチャーによる擾乱を受けており、確認された規模は長径1.49m、短径1.29mで、不整楕円形と推測される。深さは18cmで、断面が浅いU字状で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN-89°-Wである。確認面から深さ36cmほど掘り込み、底面から8cmほどの厚さに粘土を平坦に埋め、その上に黒褐色土と被熱で赤変している粘土を互層にしている。また、東部から被熱されていない粘土が塊状で確認されている。

覆土 3層からなる。第4層は粘土を主体とする層で、西部の上面が被熱で赤変している。そのため炉の下部構造の可能性がある。第2層は焼土を含み、下部の粘土面が被熱で赤変していることから、この周辺で火気の使用がされた場所と考えられる。第3層は粘土を含む層で被熱痕がない。粘土ブロックや焼土ブロックを含む人為堆積である。

#### 土層解説

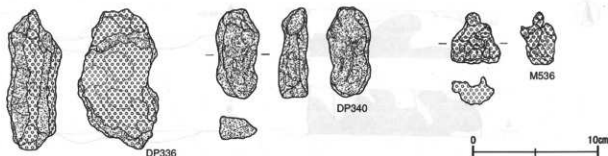
2 黒褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック少量

3 黒色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量

4 浅黄色 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量

遺物出土状況 石器1点(砥石)、炉壁片137点(3287g)、羽口片6点(495g)、鋳型片3点(162g)、鉄洋164点(1395g)(炉内溶解物137(1237g)、流動滓5(6g)、白色滓22(152g))、粘土塊32点(679g)、礫45点(破砕礫;被熱痕30)が覆土中から出土している。このほかには、混入した土師器片6点、須恵器片5点、瓦片2点が出土している。DP337・DP342は写真と観察表のみを掲載した。

所見 性格は炉壁片及び炉内溶解物などが出土していること、粘土と黒褐色土が互層になり、確認面には不規則な形状の粘土塊が確認されていることから、粘土を保管した場所または粘土で炉壁や鋳型を作った場所の可能性があると考えられる。西部の被熱痕のある部分はその中でも火気が使用された場所と考えられる。時期は周囲にある同種類の遺構から中世と考えられる。



第226図 第3号鋳造関連土坑出土遺物実測図



第3号鑄造関連土坑出土遺物観察表 (第226図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備 考
DP336	炉壁	(11.1)	(6.3)	(4.3)	(215.0)	砂粒	粘土と半溶解状鉄の互層で、粘土は暗赤褐色で、灰白色した半溶解状鉄で空気導出孔が多数あり	覆土中	PL95
DP337	炉壁	(9.3)	(6.2)	(3.2)	(152.0)	砂粒・スヤ	外面は暗灰色のスヤ入りの粘土で、内面は暗褐色の光沢のある半溶解状鉄	覆土中	炉中塊々、表面照らしPL95
DP340	粘土塊	(7.0)	(3.5)	(2.3)	(43.0)	長石・石英	多数の指痕圧痕あり	覆土中	
DP342	粘土塊	(10.4)	(7.0)	(4.6)	(235.0)	砂粒・スヤ	表面剝離のため不明	覆土中	表面照らしPL95

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M536	白色洋	(4.0)	(3.9)	(2.8)	(22.0)	鉄	白色を呈し、壺状の突起による凹凸あり、流線性も見られる	覆土中	PL99

第4号鑄造関連土坑 (第227図)

位置 東区北東部のU52h2区に位置し、台地の北西から南東に下がる微斜面部に立地している。

重複関係 第15号鑄造関連土坑を掘り込んでいる。隣接する第12号鑄造関連土坑との重複部分がトレンチャーによる攪乱を受けているため、新旧関係は不明である。

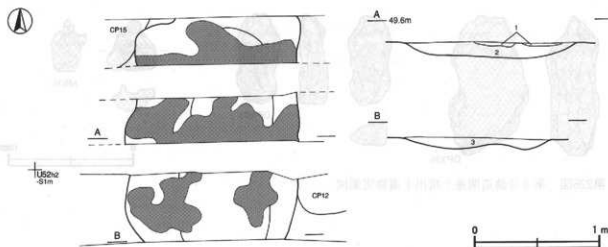
規模と形状 攪乱を受けているため、確認された規模は長軸1.79m、短軸1.39mで、不整形長方形と推測される。深さは27cmで、断面が浅いU字状で、底面は平坦で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長軸方向はN-2°-Eである。

覆土 3層からなる。各層とも砂粒を中心に、さらに鉄滓や礫が混ざり合った瓦礫のような状態で、人為堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 灰褐色 砂粒・鉄滓中量 (粘性・締まりとも非常に弱く、瓦礫のような状態)
- 2 赤褐色 砂粒多量、焼土ブロック・礫中量、炭化物少量 (粘性・締まりとも非常に弱く、瓦礫のような状態)
- 3 赤褐色 焼土ブロック・砂粒多量、礫少量 (粘性・締まりとも非常に弱い)

遺物出土状況 炉壁片50点 (966g)、鉄滓72点 (678g) [炉内溶解物30 (326g)、流動滓31 (178g)、白色洋11 (102g)]、粘土塊19点 (121g)、礫40点 (破砕礫; 被熱痕あり) が覆土中から出土している。このほかには、混入した弥生土器片1点、須恵器片1点が出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。



第227図 第4号鑄造関連土坑実測図

**所見** 本跡は覆土中に多量の砂粒が含まれ、さらに鉄滓や礫などが混ざり合っていること、炉壁片及び炉内溶解物などが出土していること、青灰色に還元し硬化している部分や酸化塩により焼土化している部分は確認できなかったことから、溶解炉跡や鑄型に鑄込みを行ったところ、または鑄型を作ったところではないかと考えられるが、詳細は不明である。時期は鑄造に関係する遺物が出土していることと、周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

#### 第5号鑄造関連土坑 (第228図)

**位置** 東区北東部のU52h2区に位置し、台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

**重複関係** 第13号鑄造関連土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** トレンチャーによる攪乱を受けているため、確認できた規模は長径0.80m、短径0.48mで、楕円形と推測される。深さは12cmで、断面が浅いU字状で、底面は平坦で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN-89°-Eである。

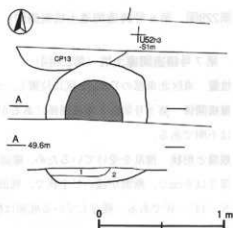
**覆土** 2層からなる。第1層は粘土の不規則な塊があり、第2層は被熱で赤変した粘土や焼土・礫を含み、粘性・締まりとも弱く、人為堆積の状況を示している。

##### 土層解説

- 1 にぶい赤褐色 砂粒中量、白色粘土ブロック少量(粘性・締まり弱い)
- 2 赤褐色 焼土粒子多量、粘土ブロック・礫中量(粘性・締まり弱い)

**遺物出土状況** 炉壁片14点(59g)、鉄滓6点(15g)〔炉内溶解物1(7g)、鉄滓5(8g)〕、礫4点(円礫;すべてに被熱痕あり)が覆土中から出土している。このほかには、混入した土師器片2点が出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。

**所見** 性格は炉壁片及び炉内溶解物などが少なく、形状や堆積状況から鑄造に関連する土坑と考えられる。時期は鑄造に関係する遺物が出土していることと、周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。



第228図 第5号鑄造関連土坑実測図

#### 第6号鑄造関連土坑 (第229図)

**位置** 東区北東部のU52h1区に位置し、台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

**重複関係** 重複関係にある第8号鑄造関連土坑とは重複部分が攪乱を受けているため、新旧関係については不明である。

**規模と形状** トレンチャーによる攪乱を受けているため、確認された規模は長軸0.98m、短軸0.80mで、不整形長方形あるいは不整形方形と推測される。深さは9cmで、断面は西が浅く、東が深く壇状で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長軸方向はN-9°-Eである。

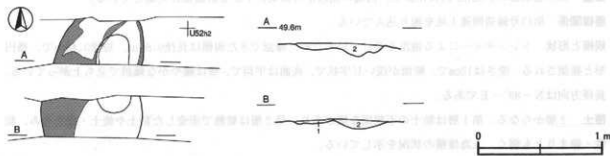
**覆土** 2層からなる。西側に位置する第1層は粘土層で、第2層は焼土ブロック・ロームブロック混じりの層である。各層とも人為堆積の状況を示している。

##### 土層解説

- 1 灰青褐色 粘土ブロック多量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

**遺物出土状況** 炉壁片27点(159g)、鉄滓26点(114g)〔炉内溶解物5(18g)、流動滓16(78g)、白色滓5(18

g)), 粘土塊 2点 (7g), 礫 3点 (破碎碎; 被熱痕あり) が覆土中から出土している。このほかには, 混入した土師器片 2点 (燬), 須恵器片 2点 (燬) が出土している。出土遺物はすべて細片で, 図示できるものはない。所見 性格はが壁片及びが内溶解物が細片で, 還元焰により硬化した部分や酸化焰により焼土化した部分が無いことから, 炉跡ではないと推測される。土層断面図中, 西側の第1層は浅く粘土層であるのに対し, 東側の第2層は深く粘土を含まない焼土を中心とした層であることから, 何かを固定した可能性があり, 鋳造に関連する土坑と考えられる。時期はが壁片や白色滓などの鋳造に関連する遺物が出土していること, 周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。



第229図 第6号鋳造関連土坑実測図

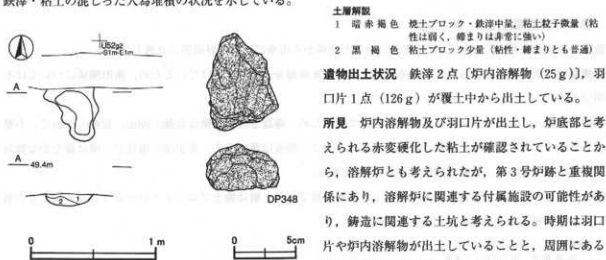
### 第7号鋳造関連土坑 (第230図)

位置 東区北東部のU52g2区に位置し, 台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

重複関係 第3号が跡と重複関係にあるが, 重複部分がトレンチャーによる掘削を受けているため, 新旧関係は不明である。

規模と形状 掘削を受けているため, 確認された規模は長径0.42m, 短径0.39mで, 不整形円形と推測される。深さは9cmで, 断面が浅いU字状で, 底面はほぼ平坦で, 壁が緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN-14°-Wである。残存している底面は酸化焼成により焼土化し, 硬化している。

覆土 2層からなる。第1層は鉄滓と粘土を含む暗赤褐色土で, 被熱で赤変して, 硬化している。炉床の底面の可能性がある。第2層は掘り方へ埋土した層で, 粘土の混じった黒褐色土をした層である。第1・2層とも鉄滓・粘土の混じった人為堆積の状況を示している。



第230図 第7号鋳造関連土坑・出土遺物実測図

#### 土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・鉄滓中量, 粘土粒子微量 (粘性は弱く, 締まりは非常に強い)
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量 (粘性・締まりとも普通)

遺物出土状況 鉄滓 2点 [炉内溶解物 (25g)], 羽口片 1点 (126g) が覆土中から出土している。

所見 炉内溶解物及び羽口片が出土し, 炉底部と考えられる赤変硬化した粘土が確認されていることから, 溶解炉とも考えられたが, 第3号が跡と重複関係にあり, 溶解炉に関連する付属施設の可能性があります。鋳造に関連する土坑と考えられる。時期は羽口片や炉内溶解物が出土していること, 周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

第7号鑄造関連土坑出土遺物観察表 (第230図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備 考
DP348	羽口	(7.6)	(5.7)	(3.7)	(126.0)	砂粒・スサ	粘土は赤褐色を呈し、内面はヘラナアの跡の指痕圧痕あり、外面は剥離し調査不明	覆土中	

## 第8号鑄造関連土坑 (第231図)

位置 東区北東部のU52g1区に位置し、台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

重複関係 第15・17号鑄造関連土坑を掘り込んでいる。重複関係にある第6号鑄造関連土坑とは重複部分が攪乱を受けているため、新旧関係は不明である。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、確認された規模は長径1.65m、短径1.39mで、不整楕円形と推測される。深さは74cmで、断面が逆台形状で、底面は平坦で、壁が外傾して立ち上がっている。確認面から4～8cmの深さが被熱で赤変硬化している部分があり、炉底の可能性はあるが、不明である。長径方向はN-6°-Eである。

覆土 7層からなる。各層とも多量の炉壁片・鉄滓・砂粒・粘土などを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。第1層上面が被熱でわずかに赤変硬化しているため、炉として使用された可能性はある。

## 土層解説

- 1 暗 褐 色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量（粘性は強く、締まりは弱い）
- 2 明 赤 褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック・砂粒中量、鉄滓少量（粘性は弱く、締まりは普通）
- 3 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック・砂粒少量、炉壁・鉄滓微量（粘性・締まりとも普通）
- 4 にふい賞褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・鉄滓中量（粘性・締まりとも非常に弱い）
- 5 極 暗 褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量（粘性は強く、締まりは普通）
- 6 にふい賞褐色 焼土ブロック・鉄滓中量（粘性・締まりとも弱い）
- 7 黒 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック微量（粘性・締まりとも普通）

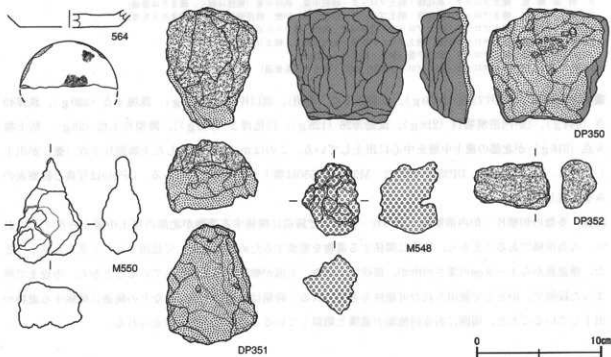
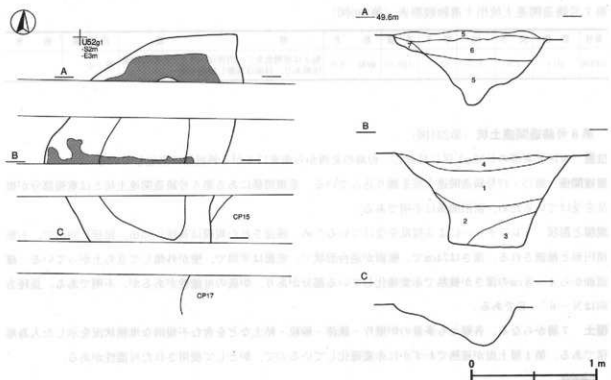
遺物出土状況 炉壁片73点（7420g）、土製品1点（不明）、羽口片2点（270g）、鉄塊4点（330g）、鉄滓43点（444g）、〔炉内溶解物14（216g）、流動滓26（128g）、白色滓3（100g）〕、鑄型片1点（53g）、粘土塊8点（516g）が北部の覆土中層を中心に出土している。このほかには、混入した土師器片1点（壺）が出土している。564・DP349・DP350～DP352・M548・M550は覆土中から出土している。DP349は写真と観察表のみを掲載した。

所見 多数の炉壁片・炉内溶解物・羽口片・鑄型など鑄造に関係する遺物が北部の覆土中層から出土しており、人為堆積であることから、鑄造に関係する遺物を廃棄するための土坑として使用されたと考えられる。また、確認面から4～8cmの深さの所が、皿状にくぼみ、上面が被熱で赤変硬化していることから、中途まで埋まった段階で、炉として使用された可能性も考えられる。時期は炉壁片や羽口片などの鑄造に関係する遺物が出土していることと、周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

第8号鑄造関連土坑出土遺物観察表 (第231図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
564	土師器	壺	-	(1.3)	[7.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にふい橙	普通	体部外面へラ削り、底部外面多方向のへラ削り	覆土中	10% 底部外縁部剥離ありか？

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備 考
DP349	炉壁	(17.7)	(19.5)	(6.1)	(2080.0)	砂粒	外面は赤褐色と青灰色で層状のスサ入りで、内面は青褐色をした平滑層状で、一部分が灰白色を呈し、粒状の層付層	覆土中	実測図無し PL96



第231図 第8号鋳造関連土坑・出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備 考
DP350	如壺	(9.1)	(9.3)	(4.3)	(250.0)	砂粒・スサ	外面は青灰色をしたスサ入り粘土で、内面は青灰色をした半溶解状で、粒状の錆付着	覆土中	伊中端々 PL95
DP351	羽口	(9.5)	(7.2)	(5.6)	(206.0)	砂粒・スサ	内面は赤褐色をした砂粒入りの粘土で、ナデ調整されているが、大部分が割壊、外面は黒褐色をした半溶解状が付き	覆土中	
DP352	鋳型	(3.7)	(6.2)	(2.6)	(53.0)	砂粒	内外面は赤褐色をしており、内面は砂粒が多い粘土が付き、黒褐色をした粒状のものは割壊	覆土中	鋳型

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M548	白色滓	(5.8)	(4.5)	(4.7)	(83.0)	鉄	白色を呈し、腐蝕の突起による凹凸あり、流動性も見られる	掘り方遺土中	PL99
M550	鉄塊	8.4	5.5	3.9	124.0	鉄	表面に亀裂のような筋がある	掘り方遺土中	PL100

### 第9号鑄造関連土坑（第232図）

**位置** 東区北東部のU52h2区に位置し、台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

**重複関係** 第11・12号鑄造関連土坑に掘り込まれている。重複関係にある第13号鑄造関連土坑とは重複部分がトレンチャーによる攪乱を受けているため、新旧関係は不明である。

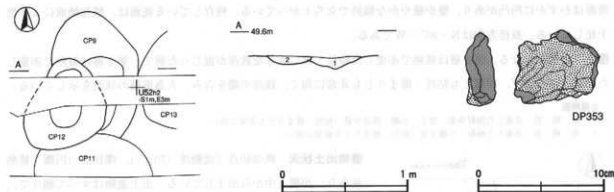
**規模と形状** 第11・12号鑄造関連土坑に掘り込まれており、確認された規模は長径1.07m、短径0.70mで、不整楕円形と推測される。深さは10cmで、断面が浅いU字状で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。残存している底面は酸化焼成により焼土化している。長径方向はN-4°-Eである。

**覆土** 単一層である。砂粒を含む酸化焼成により焼土化している部分である。

#### 土層解説

- 1 におい橙色 焼土ブロック・砂粒少量（粘性・締まり弱い）

**遺物出土状況** 炉壁片5点（85g）、鉄滓1点〔流動滓（3g）〕が覆土中から出土している。  
**所見** 酸化焼成によりわずかに焼土化し、その中から炉壁片や鉄滓が出土していることから、性格は鑄造に関連した土坑と考えられる。また、時期は周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。



第232図 第9・12号鑄造関連土坑・出土遺物実測図

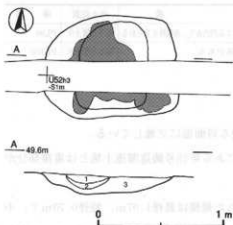
### 第9号鑄造関連土坑出土遺物観察表（第232図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	特 徴	出土位置	備 考
DP353	炉壁	(5.9)	(6.7)	(2.3)	(56.0)	砂粒・スサ	外面は暗青灰色をしたスサ入り粘土で、隅々ナリ質土がされ、内面は暗褐色をした半溶融鉄滓が付着し、着磁性は弱い	覆土中	

### 第10号鑄造関連土坑（第233図）

**位置** 東区北東部のU52h3区に位置し、台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

**規模と形状** トレンチャーによる攪乱を受けているため、確認された規模は長径1.05m、短径0.80mの不整楕円形と推測される。深さは15cmで、断面が浅いU字状で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。残存している底面は酸化焼成により焼土化している。長径方向はN-87°-Eである。



第233図 第10号鑄造関連土坑実測図

**覆土** 3層からなる。堆積状況はレンズ状を呈しているが、粘土ブロック・礫・砂粒・鉄滓などを含む人為堆積の状況を示している。

**土層解説**

- 1 灰褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量(粘性・締まりとも弱い)
- 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック・砂粒・礫少量(粘性・締まりとも弱い)
- 3 にぶい赤褐色 赤変した砂粒中量、炭化物少量

**遺物出土状況** 鉄滓20点〔流動滓(55g)〕、礫5点(円礫;被熱痕あり)が覆土中から出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。

**所見** 覆土中の焼土には鉄滓が混じっており、詳細な使用方法については不明であるが、出土遺物から鑄造に関連する遺構と考えられる。時期は、周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

**第11号鑄造関連土坑 (第234図)**

**位置** 東区北東部のU52h2区に位置し、台地の北西から南東に下がる微斜面部に立地している。

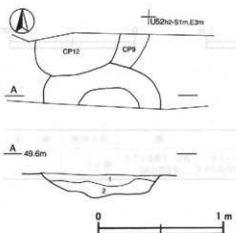
**重複関係** 第9号鑄造関連土坑を掘り込み、第12号鑄造関連土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 第12号鑄造関連土坑に掘り込まれており、さらにトレンチャーによる擾乱を受けているため、確認された規模は長径0.93m、短径0.34mで、不整形円形と推測される。深さは18cmで、断面は浅いU字状で、底面はわずかに凹凸があり、壁が緩やかな傾斜で立ち上がっている。残存している底面は、酸化焼成により焼土化している。長径方向はN-85°-Wである。

**覆土** 2層からなる。第1層は被熱で赤変した砂粒・礫に大きな鉄滓が混じった層で、第2層は被熱で赤変した砂粒・礫の層で、両層とも粘性・締まりとも非常に弱く、鉄滓や礫を含み、人為堆積の状況を示している。

**土層解説**

- 1 赤褐色 赤変した砂粒多量、焼土・小礫・鉄滓少量(粘性・締まりとも非常に弱い)
- 2 赤褐色 赤変した砂粒・小礫少量(粘性・締まりとも非常に弱い)



第234図 第11号鑄造関連土坑実測図

**遺物出土状況** 鉄滓40点〔流動滓(70g)〕、礫10点(円礫;被熱痕あり)が覆土中から出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。

**所見** 出土遺物は鉄滓や被熱痕のある礫が出土していることから、鑄造に関連する遺構であったと考えられる。時期は周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

### 第12号鑄造関連土坑（第232図）

位置 東区北東部のU52h2区に位置し、台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

重複関係 第9・11号鑄造関連土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、確認された規模は長径0.72m、短径0.63mで、不整楕円形と推測される。深さは6cmで、断面が浅い逆台形状で、底面は平坦で、壁が緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN-6°-Eである。

覆土 単一層である。堆積状況は粘土ブロックを多く含む人為堆積を示している。重複関係にある第11号鑄造関連土坑の一部とも考えられたが、堆積状況から別の遺構と判断した。

#### 土層解説

- 2 灰黄褐色 粘土ブロック多量（粘性強い・しまり普通）

遺物出土状況 出土遺物はない。

所見 他の周辺遺構との関連から鑄造遺構と考えられるが、その使用方法については出土遺物がなく、不明である。時期は周辺にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

### 第13号鑄造関連土坑（第235図）

位置 東区北東部のU52h2区に位置し、台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

重複関係 第5号鑄造関連土坑に掘り込まれている。重複関係にある第9号鑄造関連土坑とは重複部分がトレンチャーによる攪乱を受けているため、新旧関係は不明である。

規模と形状 攪乱を受けているため、確認された規模は長径0.90m、短径0.83mで、不整楕円形と推測される。深さは8cmで、断面が浅い逆台形状で、底面はほぼ平坦で、壁が緩やかな傾斜で立ち上がっている。残存している底面は酸化焼成により焼土化している。長径方向はN-89°-Wである。

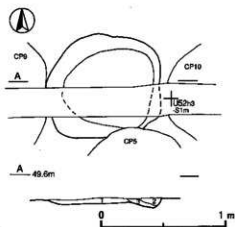
覆土 3層からなる。各層とも砂粒を含み、赤褐色及び黒褐色をした層で、人為堆積の状況を示している。

#### 土層解説

- 1 灰い橙色 焼土ブロック・砂粒少量（粘性・締まりとも非常に弱い）
- 2 赤褐色 砂粒多量（粘性・締まりとも非常に弱い）
- 3 黒褐色 炭化物・粘土ブロック少量

遺物出土状況 炉壁片1点（90g）、霰2点（円霰；被熱痕あり）が覆土中から出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。

所見 覆土に砂粒を中心とした焼土ブロック・炭化物が混じっており、鑄造に関連した遺構と考えられるが、その使用方法については不明である。この底面の下方に深さ6cmの掘り込みがあり、焼土・砂粒を覆土としていた。掘り込みには砂粒が多いことから、炉の防湿施設の下部構造と考えられる。時期は周辺にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。



第235図 第13号鑄造関連土坑実測図



#### 第14号鑄造関連土坑 (第236図)

**位置** 東区北東部のU52g3区に位置し、台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

**規模と形状** トレンチャーによる攪乱を受けているため、確認された規模は長径0.42m、短径0.35mで、不整楕円形と推測される。深さは27cmで、断面が深いU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-4°-Eである。

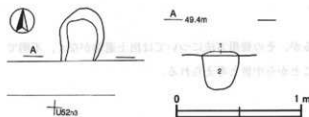
**覆土** 2層からなる。第1層は確認面上部のわずかな高まりを持つ粘土層、第2層は粘土ブロックの混じった層である。両層とも粘土と焼土を含む人為堆積の状況を示している。

##### 土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量 (粘性は弱く・締まりは強い)
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量、焼土粒子微量 (粘性・締まりとも普通)

**遺物出土状況** 出土遺物は確認されなかった。

**所見** 第2号が跡や鑄造関連土坑に隣接しているの  
で、鑄造に関連する遺構と考えられる。確認面に円  
形状に粘土塊が広がり、その下部の掘り込みの状況  
から、柱穴とも考えられたが、対応する柱穴が確認  
されていないので、性格は不明である。時期は周囲  
にある同種類の遺構と類似していることから中世と  
考えられる。



第236図 第14号鑄造関連土坑実測図

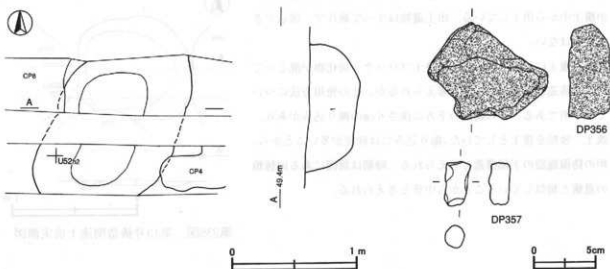
#### 第15号鑄造関連土坑 (第237図)

**位置** 東区北東部のU52g2区に位置し、台地の北西から南東に下がる微斜面部に立地している。

**重複関係** 第17号鑄造関連土坑を掘り込み、第4・8号鑄造関連土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 第4・8号鑄造関連土坑に掘り込まれており、さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため、確認された規模は長径1.20m、短径0.97mで、不整楕円形と推測される。深さは42cmで、断面が逆台形状で、底面は平坦で、壁が緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN-22°-Eである。

**覆土** 単一層である。焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒を含み、不規則な堆積状況を示していることから、人為堆積である。



第237図 第15号鑄造関連土坑・出土遺物実測図

土層解説

1 明赤褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック中量, 鉄滓少量 (粘性・締まりとも弱い)

遺物出土状況 炉壁片43点 (551g), 鉄滓43点 (580g) [炉内溶解物31 (340g), 流動滓5 (194g), 白色滓7 (46g)], 銕型片1点 (196g), 粘土塊26点 (93g), 礫2点 (円礫; 被熱痕あり) が中央部の覆土中から出土している。出土している銕型片は覆土中層周辺から出土している。DP356・DP357は覆土中から出土している。

所見 性格は焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック・砂粒とともに炉壁片及び炉内溶解物・銕型片などの鑄造に関係する遺物が出土していることから, これらの廃棄土坑と考えられる。また, 本跡の下部に位置している第17号鑄造関連土坑も廃棄土坑と考えられ, 同じような場所に深く掘り込んでいることから, 工房区域内に廃棄場所を決めていたと考えられる。時期は周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

第15号鑄造関連土坑出土遺物観察表 (第237図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 徴	出土位置	備 考
DP356	銕型	(7.6)	(9.7)	(3.6)	(196.0)	砂粒・スサ	内外面とも暗赤褐色を呈し, 外面はスサが多く含み, 内面は砂粒が多く含む粘土で, 表面が割離	覆土中	銕型 PL92
DP357	不明	(3.6)	(2.0)	(1.7)	(12.0)	砂粒	円筒状で, 上下部は欠損, ナテ調整	覆土中	結物*

第16号鑄造関連土坑 (第238図)

位置 東区北東部のU52g2区に位置し, 台地の北西から南東に下がる微斜面部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる掘削を受けているため, 確認された規模は長径0.88m, 短径0.28mで, 円形あるいは楕円形と推測される。深さは76cmで, 断面が逆台形状で, 底面がほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-88°-Eである。

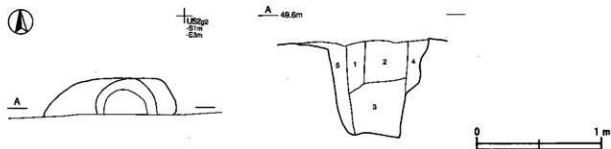
覆土 5層からなる。粘土ブロックを主とした焼土・炭化物・鉄滓を含む層で, 人為堆積の状況を示している。

土層解説

- |                                 |                                 |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒 色 粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量      | 4 褐 灰 色 炭化粒子・粘土粒子微量             |
| 2 灰 黄 褐色 粘土粒子中量, 炭化物微量          | 5 黒 褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 に近い黄褐色 粘土粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子・鉄滓 |                                 |

遺物出土状況 出土遺物は確認されなかった。

所見 周辺に鑄造に関連する遺構があることと覆土の含有物から, 鑄造に関連した遺構があったと考えられる。なお, 時期は周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。



第238図 第16号鑄造関連土坑実測図

第17号鑄造関連土坑（第239図）

位置 東区北東部のU52g2区に位置し、台地の北西から南東に下がる微斜面部に立地している。

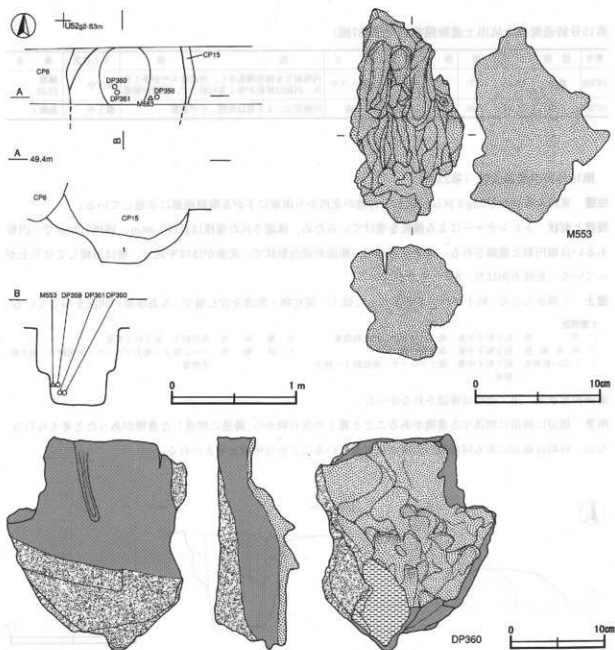
重複関係 第8・15号鑄造関連土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第15号鑄造関連土坑に掘り込まれており、確認された規模は長径1.17m、短径0.48mで、不整楕円形と推測される。深さは68cmで、断面が逆台形状で、底面はほぼ平坦で、壁が外傾して立ち上がっている。長径方向はN-89°-Eである。

覆土 単一層である。粘土を主とした焼土・炭化物を含む暗褐色土で、人為堆積の状況を示している。

土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量、砂質微量



第239図 第17号鑄造関連土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 炉壁片28点(7492g)、羽口片1点(187g)、鉄滓6点〔炉内溶解物(844g)〕、鑄型片2点(38g)が中央部の底面を中心に出土している。DP358・DP360・DP361・M553は中央部の覆土下層から出土している。DP358・DP361は写真と観察表のみを掲載した。

所見 東区の鑄造関連遺構の中心にあり、円筒形に掘り込まれている。確認面から深さ68cmの比較的浅い位置から、湧水があることから当初は井戸として使用されたと考えられる。底面付近から炉壁片及び炉内溶解物などが出土していることから、その後破壊した炉壁を投棄した廃棄土坑として使用されるようになったと考えられる。また、東に広がる排滓場以外に鑄造関連遺構の中心に、廃棄をする場所が決められていたことが推測される。時期は周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

第17号鑄造関連土坑出土遺物観察表(第239図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP358	炉壁	(14.2)	(18.5)	(4.3)	(1170.0)	砂粒・スサ	外面はスサ入りの粘土で、暗褐色で、凹凸ナデ調整。内面は半溶解状態で、暗褐色で一部灰白色である	中央部下層	実測図無し PL96
DP360	炉壁	(22.4)	(19.1)	(9.0)	(1980.0)	砂粒・スサ	外面は暗褐色・赤褐色をしたスサ入り粘土でナデ調整。数次の再圧縮がなされ、内面は黒褐色をした半溶解状態で、光沢があり流動性が見られ、下部の暗灰色の鉄に着磁性が強くあり、外径〔49.6〕cm	中央部下層	PL95
DP361	炉壁	(16.0)	(10.3)	(9.0)	(367.0)	スサ	外面はスサ入りの粘土で、大部分が赤褐色。一部は濃熱で青灰色で変色し、内面は半溶解状態で、着磁性はわずかにある	中央部下層	実測図無し PL95

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M553	炉内溶解物	(12.1)	(9.0)	(11.6)	(164.3)	鉄	黒褐色を呈し、流動性が見られ、凹凸が多数	中央部下層	PL99

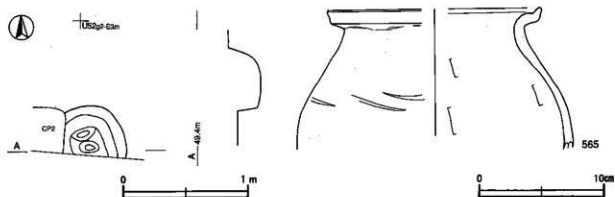
第18号鑄造関連土坑(第240図)

位置 東区北東部のU52g2区に位置し、台地の北西から南東に下がる微斜面部に立地している。

重複関係 第2号鑄造関連土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第2号鑄造関連土坑に掘り込まれており、確認された規模は長径0.64m、短径0.40mで、不整形円形あるいは不整形円形と推測される。深さは25cmで、断面がU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-88°-Eである。

覆土 第2号鑄造関連土坑の一部と考え、調査を進めたため、土層は図示できるものがないが、人為堆積の状況を示している。



第240図 第18号鑄造関連土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片1点(甕)が本跡の下位から出土している。565は本跡の下位から出土している。

所見 覆土は砂粒を中心とした焼土ブロック・炭化物が混じった層で、鑄造に関連した土坑と考えられる。時期は本跡の下位から平安時代の土師器甕片が出土していることと、周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

第18号鑄造関連土坑出土遺物観察表 (第240図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
565	土師器	甕	[16.7]	(11.2)	-	長石・石英・燧石	ぶい濁	普通	体部内外面ヘラナデ	覆土中	10%

#### ウ 方形竪穴遺構

##### 第10号方形竪穴遺構 (第241図)

位置 中央2区東部のU49f1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第11号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。重複関係にある第12・13号方形竪穴遺構との重複部分は攪乱を受けているため、新旧関係は不明である。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸2.26m、東西軸1.84mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは18cmで、東壁が直立し、南・北壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である南北軸はN-0°である。

床 ほほ平坦で、全体的に踏み固められている。北部の中央部に長径60cm、短径44cmの楕円形のくぼみがあり、深さ5cmほどで、底面及びその周囲に焼土の広がり確認された。

炉・竈 確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

覆土 単一層である。残存部分がロームブロックを含む堆積状況から人為堆積である。

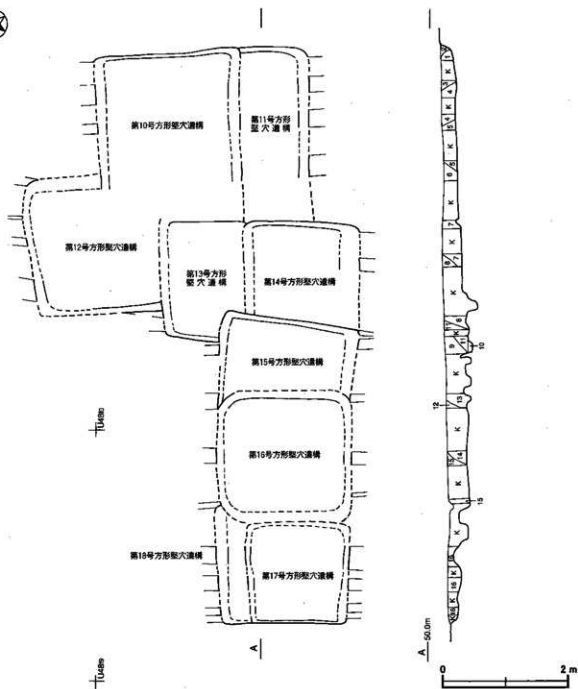
遺物出土状況 土師器片8点(坏1、甕7)、須恵器片1点(坏)、炉壁片739.8g、鉄滓3233.7g(製錬滓1360.9g、炉内溶解物1791.0g、流動滓13.0g、白色滓68.8g)、粘土塊105.7g、砂鉄552.0g、礫22点(被熱痕あり)が全域から散在した状態で出土している。出土遺物は細片で、図示できるものはない。

所見 本跡は攪乱を受けているため、遺存状態は非常に悪く、遺構の確認も非常に難しい状態であった。4m北に中世と推定される第7号溝跡があり、出土している鑄造関係遺物が南部から投棄されたものと考えられ、本跡周辺の方形竪穴遺構に伴うものと考えられることから、時期は中世と考えられる。第7号溝跡に投棄されていた炉壁片は本跡及びその周辺に広がる第11~18号方形竪穴遺構に付設されていた炉の可能性があり、本跡の覆土から鑄造に関係すると考えられる白色滓以外に精錬滓が多量に出土していることから、鑄造だけでなく、製鉄も行われていた可能性がある。また、北部中央部のくぼみに確認された焼土の広がりが、炉の痕跡の可能性もある。

##### 第11号方形竪穴遺構 (第241図)

位置 中央2区東部のU49f1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第10・14号方形竪穴遺構に掘り込まれている。重複関係にある第12・13号方形竪穴遺構との重複部分は攪乱を受けているため、新旧関係は不明である。



第241図 第10～18号方形堅穴遺構実測図

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸1.10 m、東西軸2.74mで、方形あるいは長方形と推測される。深さは17cmで、壁が外傾して立ち上がっている。長軸方向である東西軸はN-85°-Eである。

床 はほぼ平坦で、遺存している部分は踏み固められているので、全体的に踏み固められていたと推定される。

炉・竈 確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

覆土 6層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

1	褐色	ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量	4	褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
3	褐色	ロームブロック少量	6	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 炉壁片537.0g、鉄滓1537.6g（精錬滓762.7g、炉内溶解物729.0g、流動滓12.0g、白色滓33.9g）、羽口片115.0g、鋳型片13.9g、粘土塊54.8g、鉄製品3点（不明）、砂鉄962.0g、礫2点（被熱痕あり）が出土している。出土遺物は細片で、図示できるものはない。

所見 本跡は攪乱を受けているため、遺存状態は非常に悪く、遺構の確認も非常に難しい状態であった。4m北に中世と推定される第7号溝跡があり、出土している鋳造関係遺物が南部から投棄されたものと考えられ、本跡周辺の方形竪穴遺構に伴うものと考えられることから、時期は中世と考えられる。本跡から羽口片や鋳型片や白色滓が出土していることから、鋳造が行われ、遺構としては確認できなかったが溶解炉が本跡に付設されていた炉の可能性がある。また、第10号方形竪穴遺構同様に精錬滓が多量に出土していることから、鋳造だけでなく、製鉄または鍛冶も行われていた可能性もある。

#### 第12号方形竪穴遺構（第241図）

位置 中央2区東部のU48e0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第13号方形竪穴遺構に掘り込まれている。重複関係にある第10号方形竪穴遺構との重複部分は攪乱を受けているため、新旧関係は不明である。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸2.00m、東西軸2.22mで、方形あるいは長方形と推測できる。深さは32cmで、北壁が外傾して立ち上がり、確認された他の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向である東西軸はN-90°-Eである。

床 ほぼ平坦で、遺存している部分は踏み固められている。

炉・竈 確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

覆土 単一層である。ロームブロックを含む人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片3点（甕）、須恵器片1点（長頸壺）、炉壁片1165.7g、鉄滓6946.9g（精錬滓4084.4g、炉内溶解物2753.0g、流動滓24.6g、白色滓120.9g）、羽口片318.2g、鋳型片133.7g、粘土塊187.1g、砂鉄798.0g、礫19点（破砕礫；被熱痕あり）が出土している。出土遺物は細片で、図示できるものはない。

所見 本跡は攪乱を受けているため、遺存状態は非常に悪く、遺構の確認も非常に難しい状態であった。4m北に中世と推定される第7号溝跡があり、出土している鋳造関係遺物が南部から投棄されたものと考えられ、本跡周辺の方形竪穴遺構に伴うものと考えられることから、時期は中世と考えられる。第7号溝跡に投棄されていた炉壁片は本跡及びその周辺に広がる第10・11・13～18号方形竪穴遺構に付設されていた炉の可能性がある。鋳造に関する遺物以外に精錬滓が多量に出土していることから、鋳造だけでなく、製鉄も行われていた可能性がある。

#### 第13号方形竪穴遺構（第241図）

位置 中央2区東部のU48f0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第12号方形竪穴遺構を掘り込み、第14・15号方形竪穴遺構に掘り込まれている。重複関係にある第10・11号方形竪穴遺構との重複部分は攪乱を受けているため、新旧関係は不明である。

**規模と形状** トレンチャーによる擾乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸1.32m、東西軸1.90mで、方形あるいは長方形と推測できる。深さは35cmで、確認された壁はほぼ直立している。長軸方向である東西軸方向はN-87°-Eである。

**床** ほぼ平坦で、遺存している部分は踏み固められているので、全体的に踏み固められている。

**炉・竈** 確認されなかった。

**ピット** 確認されなかった。

**覆土** ロームブロックを含む単一層で、人為堆積である。

**遺物出土状況** 土師器片9点(甕)、陶器片1点(碗)、炉壁片1219.7g、羽口片204.0g、鉄滓5773.9g(精錬滓4504.2g、炉内溶解物1151.6g、流動滓34.9g、白色滓83.2g)、銅型片77.2g、粘土塊87.8g、砂鉄157.0g、礫20点(破砕礫;被熱痕あり)が出土している。出土遺物は細片で、図示できるものはない。

**所見** 本跡は擾乱を受けているため、遺存状態は非常に悪く、遺構の確認も非常に難しい状態であった。4m北に中世と推定される第7号溝跡があり、出土している鋳造関係遺物が南部から投棄されたものと考えられ、本跡周辺の方形竪穴遺構に伴うものと考えられることから、時期は中世と考えられる。第7号溝跡に投棄されていた炉壁片は本跡及びその周辺に広がる第10~12・14~18号方形竪穴遺構に付設されていた炉の可能性がある。また、本跡の覆土から鋳造に関係する遺物以外に精錬滓も多量に出土していることから、鋳造だけでなく、製鉄・鍛冶も行われていた可能性がある。

#### 第14号方形竪穴遺構 (第241図)

**位置** 中央2区東部のU48f0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

**重複関係** 第13号方形竪穴遺構を掘り込み、第15号方形竪穴遺構に掘り込まれている。重複関係にある第10・11号方形竪穴遺構との重複部分がトレンチャーによる擾乱を受けているため、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 擾乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸1.84m、東西軸1.66mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは35cmで、南壁は緩やかな傾斜で立ち上がり、確認された他の壁はほぼ直立している。長軸方向である南北軸はN-10°-Eである。

**床** ほぼ平坦で、遺存している部分は踏み固められているので、全体的に踏み固められている。

**炉・竈** 確認されなかった。

**ピット** 確認されなかった。

**覆土** 2層からなる。焼土粒子・ロームブロックを含む人為堆積である。

##### 土層解説

7 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

8 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片1点(甕)、炉壁片982.0g、羽口片132.4g、鉄滓4910.4g(炉内溶解物4821.3g、流動滓27.2g、白色滓61.9g)、銅型片5.5g、粘土塊26.5g、鉄製品1点(不明;9.3g)、砂鉄1699.0g、礫4点(破砕礫;被熱痕あり)が出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。

**所見** 本跡は擾乱を受けているため、遺存状態は非常に悪く、遺構の確認も非常に難しい状態であった。4m北に中世と推定される第7号溝跡があり、出土している鋳造関係遺物が南部から投棄されたものと考えられ、本跡周辺の方形竪穴遺構に伴うものと考えられることから、時期は中世と考えられる。第7号溝跡に投棄されていた炉壁片は本跡及びその周辺に広がる第10~12・14~18号方形竪穴遺構に付設されていた炉の可能性がある。また、本跡の覆土から鋳造に関係する遺物が多量に出土していることから、鋳造が行われていたと考えら



れる。

#### 第15号方形竪穴遺構 (第241図)

位置 中央2区東部のU49f0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第13・14号方形竪穴遺構を掘り込み、第16号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる擾乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸2.20m、東西軸1.22mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは16cmで、東壁が直立し、南・北壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である南北軸は $N-0^\circ$ である。

床 ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。

炉・竈 確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

覆土 4層からなる。焼土粒子やロームブロックを含む人為堆積である。

##### 土層解説

- |                             |                              |
|-----------------------------|------------------------------|
| 8 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量        | 10 暗赤褐色 焼土粒子少量、ロームブロック微量     |
| 9 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化物微量 | 11 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |

遺物出土状況 炉壁片3123.3g、羽口片915.1g、鉄製品4点(不明;86.0g)、鉄滓5696.6g(製錬滓3190.7g、炉内溶解物2310.0g、流動滓33.9g、白色滓157.0g、コバルト色滓5.0g)、粘土塊94.8g、砂鉄1581.0g、礫2点(破砕礫;被熱痕あり)が出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。

所見 本跡は4m北にある第7号溝跡から出土している鑄造関連遺構の炉壁片や鉄滓・被熱痕のある礫などは南部から投棄された様相が見られることから、南部に位置する本跡及びその周辺に広がる第10～14・16～18号方形竪穴遺構に付設されていた炉の可能性がある。また、遺存状態が不良で、さらに出土土器が少なく、すべてが細片であるため、時期判断は困難であるが、第7号溝跡に投棄されたものが、本跡周辺の方形竪穴遺構から出土していると考え、中世の可能性もある。

#### 第16号方形竪穴遺構 (第241図)

位置 中央2区東部のU48f9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第15・18号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。重複関係にある第17号方形竪穴遺構と重複部分が擾乱を受けているため、新旧関係は不明である。

規模と形状 トレンチャーによる擾乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸2.10m、東西軸2.08mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは18cmで、東壁が直立し、南・北壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である南北軸は $N-0^\circ$ である。

床 ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。

炉・竈 確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

覆土 4層である。ロームブロックを含む人為堆積である。

##### 土層解説

- |                                 |                                 |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 12 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量    | 14 暗赤褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物・砂粒微量 |
| 13 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化物・砂粒微量 | 15 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 炉壁片2861.0g、羽口片1022.8g、鉄製品2点(不明;26.2g)、鉄滓11523.8g(製錬滓7068.7g、炉内溶解物4138.5g、流動滓49.5g、白色滓267.1g)、鑄型片17.1g、粘土塊109.8g、砂鉄5816.0gが

出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。

**所見** 本跡は攪乱を受けているため、遺存状態は非常に悪く、遺構の確認も非常に難しい状態であった。4 m 北に中世と推定される第7号溝跡があり、出土している鑄造関係遺物が南部から投棄されたものと考えられ、本跡周辺の方形竪穴遺構に伴うものと考えられることから、時期は中世と考えられる。本跡及びその周辺に広がる第10～15・17・18号方形竪穴遺構に付設されていた炉の可能性がある。鑄造に関係する遺物以外に精錬滓が多量に出土していることから、鑄造だけでなく、製鉄も行われていた可能性がある。

#### 第17号方形竪穴遺構（第241図）

**位置** 中央2区東部のU48f9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

**重複関係** 第18号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。重複関係にある第16号方形竪穴遺構の重複部分がトレンチャーによる攪乱を受けているため、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸1.60m、東西軸1.60mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは38cmで、東側が直立し、南・北壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である南北軸はN-0°である。

**床** ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。

**炉・竈** 確認されなかった。

**ピット** 確認されなかった。

**覆土** ロームブロックを含む単一層で、人為堆積である。

##### 土層解説

16 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 炉壁片300.0g、羽口片32.5g、鉄滓1669.5g（製錬滓1242.7g、炉内溶解物369.0g、白色滓57.8g）、粘土塊31.5g、砂鉄723.0gが出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。

**所見** 本跡は攪乱を受けているため、遺存状態は非常に悪く、遺構の確認も非常に難しい状態であった。4 m 北に中世と推定される第7号溝跡があり、出土している鑄造関係遺物が南部から投棄されたものと考えられ、本跡周辺の方形竪穴遺構に伴うものと考えられることから、時期は中世と考えられる。本跡及びその周辺に広がる第10～16・18号方形竪穴遺構に付設されていた炉の可能性がある。鑄造に関係する遺物以外に精錬滓が多量に出土していることから、鑄造だけでなく、製鉄も行われていた可能性がある。

#### 第18号方形竪穴遺構（第241図）

**位置** 中央2区東部のU48f9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

**重複関係** 第11・16・17号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

**規模と形状** 攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸1.84m、東西軸0.48mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは24cmで、東壁が直立し、南・北壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である南北軸はN-0°である。

**床** ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。

**炉・竈** 確認されなかった。

**ピット** 確認されなかった。

**覆土** 単一層である。ロームブロックを含む単一層で、人為堆積である。

遺物出土状況 炉壁片459.7g, 羽口片5.0g, 鉄滓2572.6g (製煉滓1630.0g, 炉内溶解物821.5g, 流動滓20.5g, 白色滓100.6g), 鋳型片61.0g, 粘土塊22.2g, 砂鉄849.0g, 礫15点 (破砕礫; 被熱痕あり) が出土している。出土遺物はすべて細片で, 図示できるものはない。

所見 本跡は攪乱を受けているため, 遺存状態は非常に悪く, 遺構の確認も非常に難しい状態であった。4m北に中世と推定される第7号溝跡があり, 出土している鋳造関連遺物が南部から投棄されたものと考えられ, 本跡周辺の方形竪穴遺構に伴うものと考えられることから, 時期は中世と考えられる。本跡及びその周辺に広がる第10~17号方形竪穴遺構に付設されていた炉の可能性がある。鋳造に関連する遺物以外に精錬滓が多量に出土していることから, 鋳造だけでなく, 製鉄も行われていた可能性がある。

#### (8) 排滓場

##### 第1号排滓場 (第242・243図)

位置 東区東部のU52i1区からV52d9区に位置し, 台地の北西から南東へ下がる微斜面部に立地しており, 東部は低部で湿地になっている。

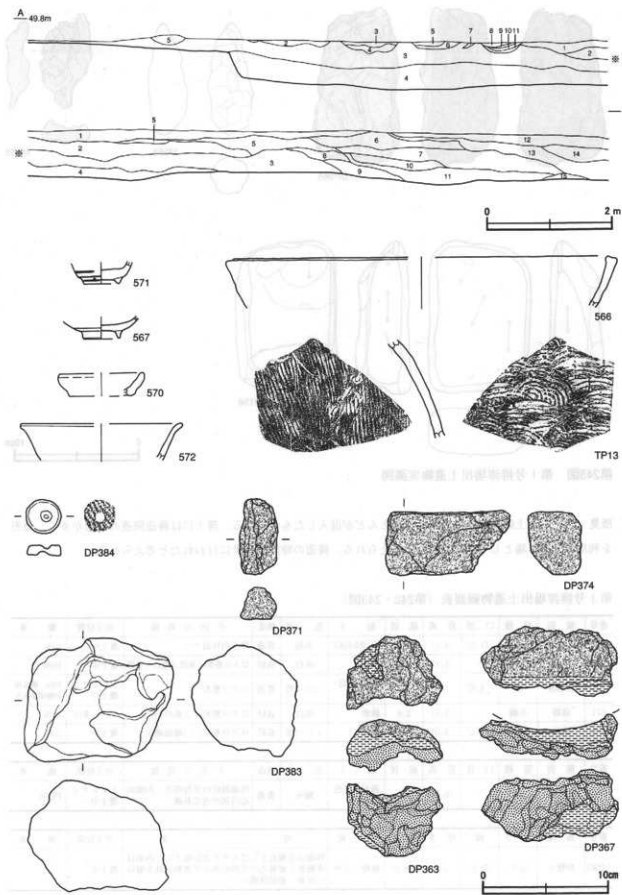
規模と形状 南北20m, 東西36mの東に広がる扇状を呈した範囲で確認されている。北西から南東になだらかに下がる斜面であり, 南東部の調査区域際でも確認されていることから, 調査区域の南東側にもその範囲が広がっていると考えられる。浅いところでは確認面から20cmほど掘り込むと湧水し, それ以下からも遺物が出土している。

覆土 15層からなる。南北方向にトレンチを設定し, 土層観察を行った。表土周辺は近年の整地事業による土層が見られる。大部分が西部からの流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

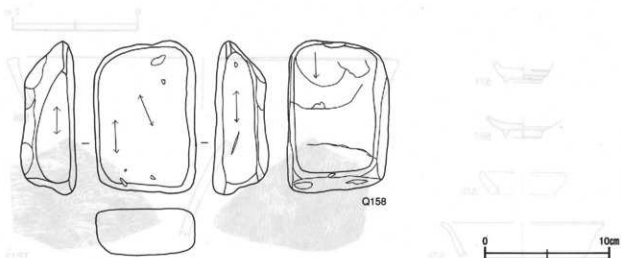
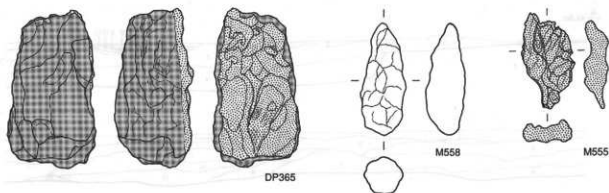
##### 土層解説

1 灰褐色 砂粒中量, 焼土ブロック少量, 白色粒子微量	9 暗褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 焼土ブロック少量	10 黒褐色 鉄滓中量, 炭化物少量
3 黒褐色 焼土粒子微量	11 明赤褐色 焼土粒子少量, 砂粒・鉄滓微量
4 黒褐色 焼土粒子・白色粒子微量	12 褐色 焼土ブロック少量
5 褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量, 砂粒微量	13 暗褐色 鉄滓多量, 焼土ブロック少量, 炭化物微量
6 灰褐色 焼土ブロック少量, 砂粒・鉄滓微量	14 褐色 焼土ブロック少量
7 明褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量, 砂粒・鉄滓微量	15 黒褐色 焼土ブロック少量, 粘土粒子微量
8 黒褐色 焼土ブロック少量	

遺物出土状況 トレンチ1から炉壁片14点 (63g), 鉄滓5点 (129g) [炉内溶解物1 (88g), 流動滓1 (20g), 白色滓3 (21g)], 鋳型片30点 (236g), 土師器片14点 (坏4・壺10), 須惠器片6点 (坏), 灰釉陶器片2点, 瓦質土器片2点, 礫50点 (破砕礫; 被熱痕あり), トレンチ2から炉壁片6点 (247g), 鉄滓8点 (65g) [炉内溶解物4 (45g), 流動滓4 (20g)], 粘土塊91g, 縄文土器片2点 (深鉢), 土師器片25点 (坏2・壺23), 須惠器片7点 (坏3・壺1・甕3), 瓦質土器片1点, 石器2点 (敲石), 礫11点 (破砕礫; 被熱痕あり), トレンチ3から炉壁片3275g, 鉄滓75点 (1362g) [炉内溶解物13 (980g), 流動滓58 (352g), 白色滓4 (30g)], 羽口片2点 (47g), 粘土塊27g, 縄文土器片3点 (深鉢), 土師器片115点 (坏19・壺94・不明2), 須惠器片50点 (坏13・壺37), 灰釉陶器片6点 (壺), 陶器片8点 (碗), 磁器片16点 (碗9・皿7), 石器3点 (敲石1・砥石2), 瓦片8点 (平瓦), 銅製品1点 (煙管), 礫53点 (破砕礫; 被熱痕あり), トレンチ4から土師器片15点 (坏5・壺10), 須惠器片3点 (坏2・壺1), 鉄製品1点 (不明), 排滓場の覆土中から炉壁片607点 (28572g), 羽口片122点 (2934g), 鉄滓475点 (16277g) [炉内溶解物156 (14113g), 流動滓25 (126g), 白色滓283 (1984g), 銅発色滓11 (54g)], 鋳型片916g, 粘土塊3432g, 土師器片52点 (坏19・壺33), 須惠器片51点 (坏19・壺32), 陶器片2点 (碗), 磁器片3点 (碗), 瓦片1点 (平瓦), 礫8点 (破砕礫; 被熱痕あり) が出土している。DP370は写真と観察のみを掲載した。



第242图 第1号排滓場・出土遺物実測図



第243図 第1号排滓場出土遺物実測図

所見 出土した土師器片・須恵器片はほとんどが混入したものである。覆土には鋳造関連の遺物が多く、地形を利用して排滓場として使用されたと考えられる。鋳造の時期は中世に行われたと考えられる。

第1号排滓場出土遺物観察表 (第242・243図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
566	土師質土器	内耳瓶	[31.0]	(4.1)	-	胚・黒色粒状	赤褐	普通	体部内外面ナデ	覆土中	10%
567	磁器	小碗	-	(1.8)	2.8	緻密	灰白	良好	ロクロ整形, 体部下端に二重線	覆土中	10%
570	土師器	皿	[6.6]	1.8	[5.0]	長石・雲母・黒色粒状	にぶい黄橙	普通	ロクロ整形	トレンチ3 覆土中	10%, 焼成後の利交換あり
571	磁器	小碗	-	(1.7)	2.8	緻密	灰白	良好	ロクロ整形, 三重の円文	トレンチ3 覆土中	40%
572	磁器	碗	[12.5]	(3.0)	-	緻密	オリーブ黄	良好	ロクロ整形, 口縁部端反	覆土中	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP13	須恵器	壺	-	(8.0)	-	長石・黒色粒状	暗灰	普通	外面斜位の平行明き, 内面同心円状の当て具痕	トレンチ3 覆土中	PL78

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP363	加壁*	(5.7)	(7.6)	4.0	(98.0)	砂粒・スサ	外面は赤褐色をしたスサを含む粘土で, 内面は青褐色と暗褐色の光沢のある平滑状款が層状に付着, 若磁性弱い	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
DP365	炉壁	(12.6)	(6.8)	(6.3)	(456.0)	砂粒・スサ	外面はスサを含む粘土で暗褐色を呈し、内面は光沢のある暗褐色の平滑状の灰で、着磁性弱い。粒状の鍵付着	覆土中	PL95
DP367	羽口	(5.7)	(10.7)	(3.4)	(101.0)	砂粒	内面は暗褐色をした砂粒入りの粘土でヘラナデ調整。外面は平滑状の灰が付着し、底面には暗褐色を呈し、着磁性が弱い。他の部分は黒褐色で着磁性が見られ、着磁性が弱い。内径 [13.4] cm	覆土中	
DP370	羽口	(10.9)	(14.1)	(5.2)	(728.0)	雲母・砂粒・スサ	内面は赤褐色をした砂粒を含む粘土で、ヘラナデ調整。外面は黒褐色をした平滑状の灰で、内径 [9.8] cm	覆土中	表面因無し PL97
DP371	粘土塊	(6.1)	(3.1)	(2.6)	( 42.0)	砂粒	2面が割離。一部がナデ調整	覆土中	
DP374	鋳型	(5.1)	(9.9)	(4.2)	(206.0)	砂粒	全面が赤褐色をし、内面が割離し、砂粒を含む粘土が露出し、外面はスサ入りの粘土	覆土中	PL92
DP383	粘土塊	(9.8)	(11.8)	(8.8)	(723.0)	長石・石英	灰黄褐色をした粘土塊で、全面が割離	トレンチ1覆土中	PL96

番号	器種	径	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
DP384	土器円板	(2.7)	-	0.8	(7.6)	長石・石英・雲母	各辺部研削。凹部表1か所、裏1か所、未穿孔	トレンチ1覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特 徴	出土位置	備 考
Q158	碱石	11.1	8.4	3.8	576.1	砂岩	縦面3面、一方面に使用	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M555	炉内溶解物	7.6	4.3	2.9	44.0	鉄	黒褐色を呈し、流動性が見られ、表面は凹凸あり、側面に空気排出孔あり	覆土中	PL98
M558	鉄塊	8.8	3.6	3.2	101.2	鉄	円錐形、暗褐色を呈し、表面に貫入状にひびが入る	覆土中	PL100

## 第2号排滓場 (第244~246区)

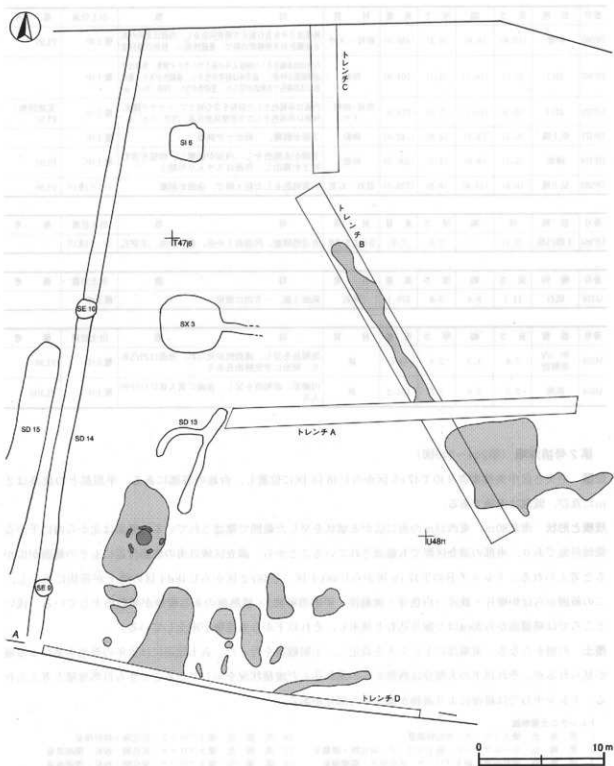
位置 中央2区中央部東寄りのT47i5区からU48j6区に位置し、台地の谷部にある。平坦部との比高は2mに及び、低部は湿地である。

規模と形状 南北80m、東西44mの南に広がる扇状を呈した範囲で確認されている。底部は北から南に下がる微傾斜地であり、南部の調査区際でも確認されていることから、調査区域以南の底面付近にもその範囲が広がると考えられる。トレンチBのT47j9区からU48c1区、U48c2区からU48d4区の焼土が帯状に出土し、この範囲からは炉壁片・鉄滓（白色滓・流動滓・炉内溶解物）・被熱痕のある礫等が多数出土している。浅いところでは確認面から20cmほど掘り込むと湧水し、それ以下からも遺物が出土している。

覆土 87層からなる。南端部にトレンチを設定し、土層観察を行った。表土周辺には近年の整地事業による層が見られるが、それ以下の大部分は西部からの流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。トレンチDでは排滓により遺物が溜まった部分がある。

### トレンチD土層解説

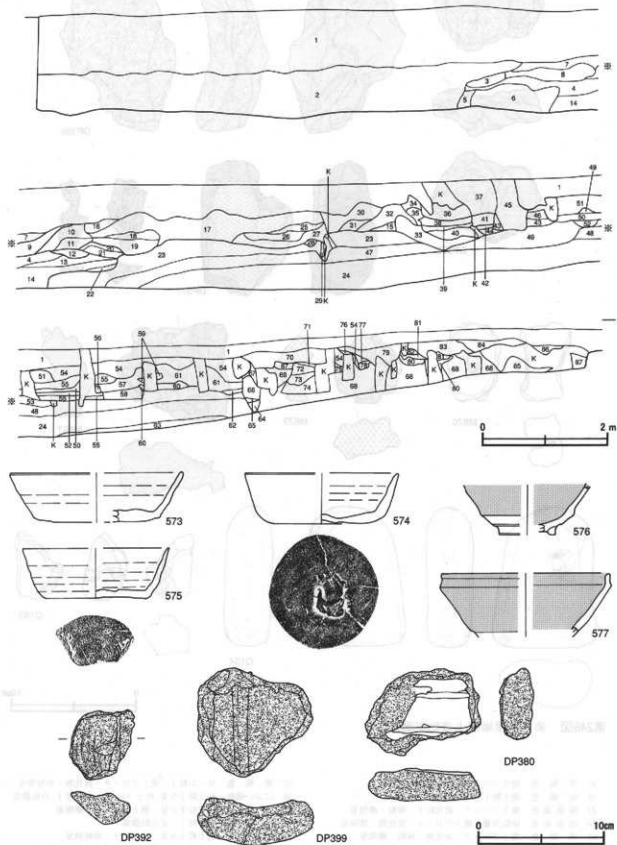
1	黒褐色	焼土ブロック・炭化物微量	16	黒褐色	焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・微塵微量	17	黒褐色	焼土ブロック・炭化物・砂粒・微塵微量
3	暗褐色	砂粒少量、焼土ブロック・炭化粒子・微塵微量	18	暗褐色	焼土ブロック・炭化物・砂粒・微塵微量
4	黒褐色	砂粒少量、焼土ブロック・炭化物・微塵微量	19	橙	焼土ブロック少量、炭化物・砂粒・微塵微量
5	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	20	明褐色	微塵少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・鉄滓微量
6	暗褐色	焼土粒子・炭化物・砂粒微量	21	灰褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、炭化物・砂粒・微塵微量
7	黒褐色	砂粒少量、焼土ブロック・炭化粒子・微塵微量	22	黒灰色	焼土ブロック少量
8	暗褐色	砂粒少量、焼土ブロック・炭化粒子・微塵微量	23	黒褐色	炭化粒子少量、焼土粒子微量
9	暗褐色	焼土ブロック・炭化物・砂粒微量	24	褐色	炭化物微量
10	褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量	25	暗褐色	砂粒・微塵少量、焼土ブロック・炭化物・鉄滓微量
11	暗褐色	焼土ブロック・炭化物・砂粒・微塵微量	26	にじみ褐色	砂粒少量、焼土ブロック・炭化物・微塵・鉄滓微量
12	明褐色	焼土粒子・砂粒少量、炭化粒子・微塵微量	27	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・微塵微量
13	黒褐色	砂粒・微塵・焼土ブロック・炭化物微量	28	黒褐色	焼土粒子・砂粒微量
14	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量、微塵微量	29	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
15	暗赤褐色	焼土粒子・砂粒少量、炭化物・粘土粒子微量	30	黒褐色	焼土ブロック・炭化物・砂粒・微塵微量



第244図 第2 排滓場実測図

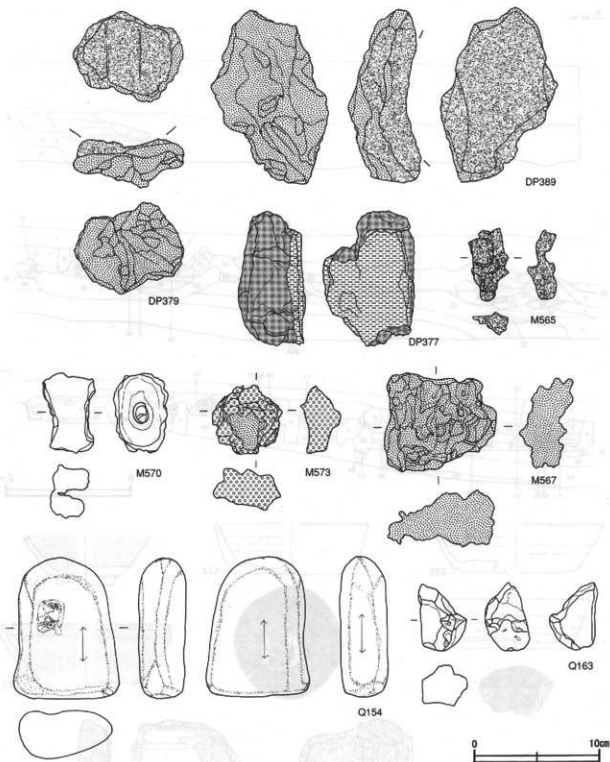
- |         |                            |         |                        |
|---------|----------------------------|---------|------------------------|
| 31 黒 褐色 | 砂粒少量, 焼土ブロック・炭化物・微塵・鉄滓微量   | 39 赤 褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化物・微塵微量     |
| 32 黒 褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂粒・微塵微量         | 40 赤 褐色 | 焼土ブロック・砂粒少量, 炭化物・微塵微量  |
| 33 黒 褐色 | 砂粒少量, 焼土ブロック・炭化物・微塵・粘土粒子微量 | 41 黒 褐色 | 焼土粒子・砂粒少量, 炭化物・粘土粒子微量  |
| 34 暗 褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子・砂粒・微塵微量       | 42 黒 褐色 | 炭化粒子・砂粒少量, 焼土粒子・微塵微量   |
| 35 暗 褐色 | 焼土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量          | 43 黒 褐色 | 炭化粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量      |
| 36 褐色   | 焼土粒子・砂粒少量, 炭化粒子・微塵・鉄滓微量    | 44 暗 褐色 | 砂粒少量, 焼土ブロック・炭化粒子・微塵微量 |
| 37 黒 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・微塵微量    | 45 黒 褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂粒・微塵微量     |
| 38 赤 褐色 | 焼土ブロック・砂粒少量, 炭化物・微塵微量      | 46 黒 褐色 | 焼土粒子・炭化物・砂粒微量          |

A 49.4m



第245図 第2排洋場・出土遺物実測図





第246図 第2排滓場出土遺物実測図

- 47 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
- 48 暗褐色 焼土粒子・砂粒微量
- 49 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・礫微量
- 50 暗赤褐色 砂粒少量、焼土ブロック・炭化物・礫微量
- 51 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・砂粒・礫微量
- 52 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
- 53 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 54 黒褐色 ロームブロック・炭化物・砂粒・礫微量

- 55 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
- 56 におい褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
- 57 黒褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック・礫微量
- 58 黒褐色 焼土粒子・炭化物微量
- 59 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・砂粒微量
- 60 褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 61 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 62 黒褐色 炭化粒子微量

63	黒褐色	ローム粒子微量	76	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量
64	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	77	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
65	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	78	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
66	褐灰色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物・砂粒微量	79	黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
67	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	80	黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
68	暗褐色	ローム粒子・炭化物・砂粒微量	81	黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
69	黒褐色	焼土ブロック・炭化物・砂粒微量	82	黒褐色	ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
70	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	83	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
71	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	84	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・炭化粒子微量
72	黒褐色	焼土ブロック・炭化物微量	85	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
73	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	86	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・炭化粒子微量
74	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量	87	黒褐色	ロームブロック微量
75	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量			

**遺物出土状況** トレンチAから炉壁2点(7186g)、羽口107点(2146g)、鉄滓162点(2089g)〔炉内溶解物63(1530g)、流動滓70(350g)、白色滓29(209g)〕、鋳型2点(507g)、土師器片3点(甕)、須恵器片2点(甕)、礫20点(破砕礫;被熱痕)、トレンチBから炉壁25点(6239g)、羽口9点(198g)、鉄滓247点(4550g)〔炉内溶解物169(4077g)、流動滓38(190g)、白色滓40(283g)〕、粘土塊306g、縄文土器片2点、土師器片29点(坏6、甕23)、須恵器片21点(坏16、甕5)、陶器片8点(碗6、皿2)、土製品1点(支脚)、瓦片3点(平瓦)、石器2点(砥石)、礫2点(破砕礫;被熱痕)、トレンチCから炉壁4点(812g)、鉄滓3点(炉内溶解物;67g)、鋳型2点(13g)、縄文土器片3点、土師器片52点(坏4、器台1、甕47)、須恵器片60点(坏29、甕31)、土製品1点(支脚)、礫10点(破砕礫;被熱痕8)、トレンチDから炉壁95点(22805g)、羽口28点(2618g)、鉄滓478点(10524g)〔炉内溶解物388(9323g)、流動滓9(75g)、白色滓81(1126g)〕、鋳型13点(1263g)、粘土塊93点(2214g)、縄文土器片1点、土師器片21点(坏6、高台付坏2、甕13)、須恵器片30点(坏17、高台付坏4、甕9)、陶器片3点(碗2、不明1)、瓦片1点(平瓦)、石器3点(砥石2、磨石1)、礫60点(破砕礫;被熱痕35、流動滓付着1)、トレンチEから炉壁185点(4444g)、鉄滓135点(2071g)〔炉内溶解物66(1593g)、流動滓7(39g)、白色滓62(439g)〕、鋳型10点(320g)、粘土塊560g、土師器片22点(坏15、甕7)、トレンチFから炉壁122点(2945g)、羽口5点(602g)、鉄滓90点(568g)〔流動滓34(172g)、白色滓56(396g)〕、鋳型32点(573g)、粘土塊117g、土師器片1点(坏)、須恵器片1点(甕)、石器1点(砥石)、礫5点(破砕礫;被熱痕)、覆土中から炉壁1452点(34861g)、羽口120点(2405g)、鉄滓1038点(19277g)〔炉内溶解物708(16994g)、流動滓18(94g)、白色滓312(2189g)〕、鋳型15点(270g)、粘土塊1638g、土師器片71点(坏3、甕65、不明3)、須恵器片34点(坏16、甕18)、土師質土器片2点(焙烙)、磁器片4点(碗3、皿1)、石器3点(砥石)、鉄製品1点(不明)、土製品9点(不明)、礫3点(破砕礫;被熱痕)、褐鉄鉱90点(230g)から出土している。573はトレンチB、574・575はトレンチC、576・577・Q154・Q163はトレンチDから出土している。DP378・DP395・DP400・Q160は写真と観察表のみを掲載した。

**所見** 最下層は8世紀代の土器片、下層から上層は中世の鋳造に関係する遺物、最上層は近世の陶磁器片が出土している。鋳造に関係する遺物が多量に出土しているため、排滓場の時期は中世であったと考えられる。また、第7号溝跡の西端で、扇状に焼土や被熱痕のある礫が出土しており、溝を流れたものが堆積したと考えられる。

第2号排滓場出土遺物観察表(第245・246図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
573	須恵器	坏	[13.4]	4.0	[9.8]	灰白・白色粒子	灰黄	普通	ロクロ製形、底部回転ヘラ切	トレンチE層中	20%
574	須恵器	坏	[12.0]	(4.0)	7.8	灰石・白色粒子	灰	普通	ロクロ製形、底部回転ヘラ切	トレンチC覆土中	75%、底部煤付着 PL76
575	須恵器	坏	[11.5]	4.0	8.0	灰石・白色粒子	灰	普通	ロクロ製形、底部回転ヘラ切	トレンチE層中	20% PL76
576	陶器	天目茶碗	-	(4.0)	[4.4]	灰石	灰白・赤黒	普通	ロクロ製形、内外面輪轉	トレンチE層中	10%
577	陶器	天目茶碗	[13.2]	(5.1)	-	緻密	灰白・赤黒	普通	ロクロ製形、内外面輪轉	トレンチE層中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
DP377	炉壁	(10.6)	(7.3)	(5.4)	(320.0)	赤色粒子・砂粒・スサ	外面は暗褐色をしたスサ入り粘土で、その外側に粘土貼り付け暗褐色化している。内面は灰白色をした半溶解状鉄で、表面に多数の空気泡孔あり	覆土中	PL95
DP378	炉壁	(17.0)	(12.5)	(4.7)	(797.0)	砂粒・スサ	外面は火熱により剥落し、内面は半溶解状鉄で、暗褐色のガラス質で光沢あり	覆土中	実測図無し PL96
DP379	羽口	(7.3)	(8.6)	(4.0)	(113.0)	砂粒	内面は赤褐色をした砂粒入りの粘土で、幅の広いヘラ状工具によるナデ、外面は暗褐色をした半溶解状鉄で、流動による凹凸あり、内径「12.4」cm	覆土中	
DP380	鍋型	(6.9)	(9.1)	(2.6)	(129.0)	砂粒・スサ	内面は暗褐色をした塊状のものわずかに残存し、その下部には赤褐色をした砂粒・スサ入りの粘土に貼り付けられる	覆土中	PL92
DP389	羽口	(13.7)	(9.3)	(5.8)	(353.0)	砂粒	粘土と半溶解状鉄の互層になり、内面は赤褐色をした砂粒入りの粘土で、ナデ調整、外面は暗褐色をした半溶解状鉄で、流動による凹凸あり	覆土中	PL97
DP392	鍋型	(5.5)	(5.1)	(2.4)	(2.4)	土	凹面に5条の線状の浮彫り、凸面に白色粘土付着	覆土中	PL92
DP395	羽口	(10.6)	(10.4)	(3.8)	(338.0)	砂粒・スサ	内面は砂粒を含む粘土で、ナデ調整、その下部はスサを含む粘土、外面は半溶解状鉄が付着	覆土中	実測図無し PL97
DP399	羽口	(8.6)	(9.2)	(3.8)	(199.0)	砂粒	全面が赤褐色をし、内面はヘラ状工具によるナデ、外面はナデ、内径「12.6」cm	覆土中	
DP400	鍋型	(8.6)	(3.7)	(2.35)	(82.0)	砂粒・スサ	内面は灰色の塊状のもの付着、その下部は砂粒を含む粘土、その下部はスサを含む粘土で3層である	覆土中	実測図無し PL92

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特 徴	出土位置	備 考
Q154	砥石	11.1	8.4	3.8	576.1	砂岩	砥面3面、一方向に使用	トレンチD壁土	
Q160	砥石	10.8	7.1	4.1	435.0	泥岩	砥面2面、一方向に使用	覆土中	磨付者、実測図無し PL86
Q163	礫	5.3	3.8	3.5	215.0	泥岩	砥砂礫、流動層の付着	トレンチD壁土	PL87

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M565	炉内溶解物	(5.6)	(3.3)	(2.3)	(18.2)	鉄	コバルト色を呈し、流動性が見られる	覆土中	PL98
M567	炉内溶解物	(7.9)	(9.0)	(4.5)	(205.1)	鉄	暗褐色を呈し、表面が瘤状の突起による凹凸あり	覆土中	PL98
M570	鉄片	6.4	4.2	4.3	247.0	鉄	中央部に貫通孔あり、凹面がU字状にぼむ	覆土中	
M573	白色片	5.4	5.6	3.5	54.0	鉄	白色を呈し、一部破壊による黒褐色面が露出	覆土中	PL99

#### 4 近世の遺構と遺物

今回の調査で、墓壇50基、井戸跡4基、土坑1基を確認した。以下、確認された遺構と遺物について記述する。

##### (1) 墓壇

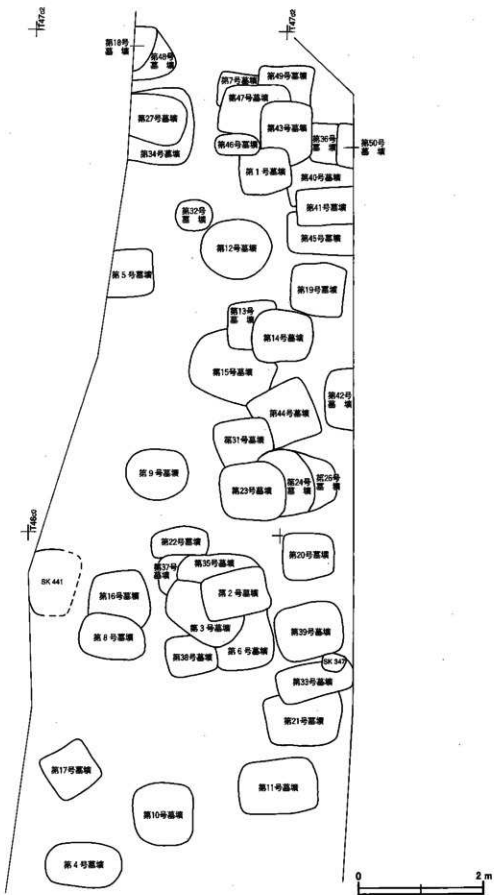
###### 第1号墓壇(第248図)

位置 中央1区東部のT47c1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第40・43号墓壇を掘り込み、第46号墓壇に掘り込まれている。

規模と形状 長軸0.82m、短軸0.75mの方形で、深さは130cmであり、底面はわずかに凹凸で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-10°-Wである。

覆土 7層からなり、ロームブロック・鹿沼バミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。鹿沼バミス層まで掘り込んでいる。



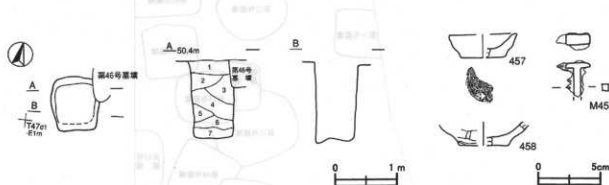
第247图 墓塚全体图

#### 土層解説

- |       |                          |       |                              |
|-------|--------------------------|-------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量、鹿沼バミス中量        | 5 黒褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック微量           |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、鹿沼バミス微量        | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量      |
| 3 褐色  | 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量        | 7 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子・黒色粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 鹿沼バミス少量、ロームブロック・粘土ブロック微量 |       |                              |

遺物出土状況 土師質土器片2点（小皿）、鉄製品1点（釘）、人骨片が覆土中から出土している。このほかには、混入した弥生土器片1点、土師器片5点、須恵器片1点が出土している。457・458・M45は覆土中から出土している。人骨片は部位が不明である。M45は棺に使用されたものと考えられる。M45は本跡に伴う遺物である。

所見 周辺の墓塚と形状が類似していることと、457・458が近世の土師質土器小皿であることと、18世紀以降と推定される第43号墓塚を掘り込んでいるので、時期は18世紀以降と考えられる。



第248図 第1号墓塚・出土遺物実測図

#### 第1号墓塚出土遺物観察表（第248図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
457	土師質土器	小皿	[5.2]	1.9	3.5	石英	にぶい褐色	普通	体部内外面ナデ、底部回転糸切り	覆土中	40% 薬付着
458	土師質土器	小皿	-	(1.6)	[4.0]	白色粒子	概	普通	体部外面ヘラナデ、底部回転糸切り後ナデ	覆土中	40%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M45	釘	(2.8)	2.1	0.6	(5.3)	鉄	角釘、先端部欠損	覆土中	

#### 第2号墓塚（第249図）

位置 中央1区東部のT46c9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第3・6・35号墓塚を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.04m、短軸0.75mの長方形で、深さは94cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-15°-Wである。

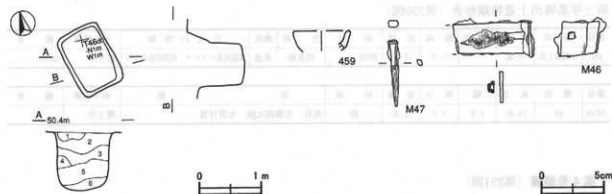
覆土 6層からなり、ロームブロック・鹿沼バミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- |       |                    |          |                   |
|-------|--------------------|----------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量          | 4 にぶい黄褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス多量     |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 | 5 暗褐色    | ロームブロック少量         |
| 3 黄褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス多量    | 6 褐色     | 鹿沼バミス中量、ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師質土器4点(小皿), 鉄製品3点(釘1・不明2), 粘土塊4, 礫1点(円礫)が覆土中から出土している。このほかには, 混入した縄文土器片1点, 土師器片29点, 須恵器片10点が出土している。459・M46・M47は覆土中から出土している。本跡に伴う遺物はない。

所見 時期は, 周辺の墓塚と形状が類似していることと, 近世の土師質土器小皿が出土していることから, 近世と考えられる。



第249図 第2号墓塚・出土遺物実測図

第2号墓塚出土遺物観察表(第249図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
459	土師質土器	小皿	[4.3]	(1.6)	-	石英	ぶい性	普通	体部内外面ナデ	覆土中	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M46	鉄金具	(6.4)	2.8	0.3	(17.4)	鉄	角釘状の部分に木質付着	覆土中	PL88
M47	釘	5.1	0.8	0.4	(3.0)	鉄	角釘, 先端部に木質付着	覆土中	

第3号墓塚(第250図)

位置 中央1区東部のT46c9区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

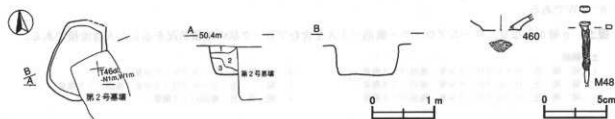
重複関係 第6・35・37・38号墓塚を掘り込み, 第2号墓塚に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.26m, 短軸0.74mの隅丸長方形で, 深さは48cmであり, 底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-35°-Eである。

覆土 3層からなり, ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量, 骨片
- 3 褐色 ロームブロック少量



第250図 第3号墓塚・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器1点(小皿)、鉄製品1点(釘)、炭化材が覆土中から出土している。このほかには、混入した土師土器片15点、須恵器片6点が出土している。460・M48は覆土中から出土しており、本跡に伴う遺物はない。

所見 時期は、周辺の墓塚と形状が類似していることと、近世の土師質土器小皿が出土していることから、近世と考えられる。

#### 第3号墓塚出土遺物観察表(第250図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
460	土師質土器	小皿	-	(0.9)	[2.9]	砂粒	浅黄緑	普通	体部外面ヘラナテ、底部回転未切り	覆土中	30%

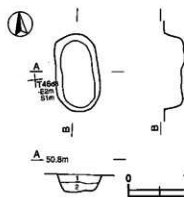
  

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M48	釘	(4.8)	0.8	0.3	(1.4)	鉄	角釘、先端部欠損、木質付着	覆土中	

#### 第4号墓塚(第251図)

位置 中央1区東部のT46c8区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.22m、短径0.69mの楕円形で、深さは33cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-3°-Eである。



覆土 2層からなり、ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 須恵器片3点、炉壁1点が出土している。出土遺物はすべてが細片で、図示できるようなものはない。

所見 本跡は、骨片は確認できなかったが、周辺遺構の規模と形状から、近世の墓塚の可能性がある。

第251図 第4号墓塚実測図

#### 第5号墓塚(第252図)

位置 調査区の中央1区東部のT47c1区に位置し、緩やかな台地平坦部に立地している。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びるため、確認できた南北軸0.66m、東西軸0.73mで、平面形は長方形と推測される。深さは63cmで、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向と推測できる南北軸はN-9°-Wである。

覆土 6層からなり、ロームブロック・鹿沼バミスを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

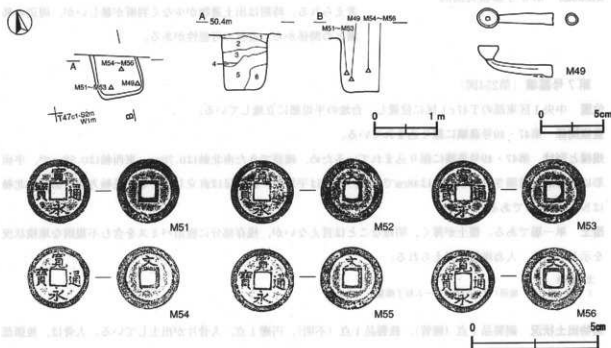
土層解説

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量        |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量 | 5 褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量 | 6 暗褐色 鹿沼バミス微量          |

遺物出土状況 古銭6枚(寛永通寶)、銅製品2点(煙管雁首、煙管吸口)、鉄製品1点(釘)、礫1点(円礫)、

木片が出土している。このほかには、混入した土師器片4点、須恵器片1点が出土している。M49は南東部の覆土下層、M51～M53は南西部の覆土下層、M54～M56は中央部の覆土下層から出土している。M49～M56は出土状況から本跡に伴う遺物である。

所見 時期は、六道銭である寛永通寶に背文字に「文」のない新寛永銭であることから、17世紀後半以降で、喫煙習慣のあった人物の墓と考えられる。



第252図 第5号墓塚・出土遺物実測図

第5号墓塚出土遺物観察表(第252図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
M49	煙管残片	5.9	2.6	1.0	6.0	銅	接合部一部欠損。火鼠椿円形		南東部下層	
番号	銭名	径	孔径	重量	初鋳年	材質	特	徴	出土位置	備考
M51	寛永通寶	2.5	0.6	2.30	1679年	銅	無背文、新寛永		南西部下層	PL89
M52	寛永通寶	2.5	0.6	2.40	1668年	銅	背「文」		南西部下層	PL89
M53	寛永通寶	2.5	0.6	3.20	1679年	銅	無背文、新寛永		南西部下層	PL89
M54	寛永通寶	2.4	0.6	4.16	1668年	銅	背「文」		中央部下層	PL89
M55	寛永通寶	2.5	0.6	3.90	1668年	銅	背「文」		中央部下層	PL89
M56	寛永通寶	2.5	0.6	3.04	1668年	銅	背「文」		中央部下層	PL89

### 第6号墓塚(第253図)

位置 中央1区東部のT46c9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第2・3・38号墓塚に掘り込まれている。

規模と形状 重複関係のため、確認できた南北軸は0.95m、東西軸は0.80mで、平面形は長方形と推測される。深さは22cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾に立ち上がっている。長軸方向である東西軸はN-75°-E





第253図 第6号墓墳実測図

である。

**覆土** 不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**遺物出土状況** 粘土塊2点、鉄滓1点が出土している。このほかには、混入した土師器片9点が出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。

**所見** 性格は、周辺の墓壇と形状が類似していることから墓壇と考えられる。時期は出土遺物が少なく判断が難しいが、周辺の墓壇との関係から、近世の可能性がある。

### 第7号墓壇 (第254図)

**位置** 中央1区東部のT47c1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

**重複関係** 第47・49号墓壇に掘り込まれている。

**規模と形状** 第47・49号墓壇に掘り込まれているため、確認できた南北軸は0.70m、東西軸は0.58mで、平面形は長方形と推測される。深さは48cmであり、底面は平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向である南北軸はN-10°-Eである。

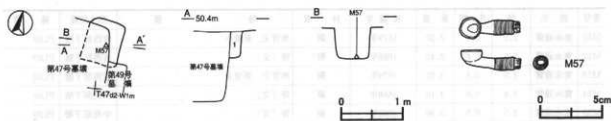
**覆土** 単一層である。覆土が薄く、明確なことは言えないが、残存部分に鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 暗褐色 鹿沼パミス中量、ローム粒子微量

**遺物出土状況** 銅製品1点(煙管)、鉄製品1点(不明)、円鏢1点、人骨片が出土している。人骨は、後頭部が北に位置し、大腿骨と思われる骨が頭部の南側から出土しているため、座棺での埋葬と考えられる。このほかには、混入した土師器片2点が出土している。M57は中央部の底面にある頭骨の脇から出土している。M57は出土状況から本跡に伴う遺物である。

**所見** 時期は、M57の形状から18世紀以降で、喫煙の習慣のあった人物の墓と考えられる。



第254図 第7号墓壇・出土遺物実測図

### 第7号墓壇出土遺物観察表 (第254図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M57	煙管筆首	4.0	1.7	1.1	6.2	銅	羅字竹管残存、接合部に鍛製、火皿部楕円形	中央部床面	

### 第8号墓墳 (第255図)

位置 中央1区東部のT46c9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第16号墓墳を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.06m、短軸0.68mの長方形で、深さは83cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-4°-Eである。

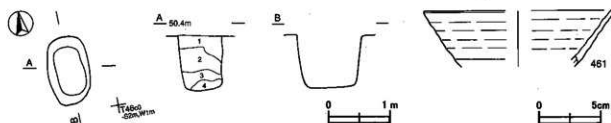
覆土 4層からなり、ロームブロック・鹿沼バミスを含むブロック状の人為堆積の状況を示している。

#### 土層解説

- |       |                    |          |                 |
|-------|--------------------|----------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス中量、骨片 | 3 におい黄褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス少量 |
| 2 褐色  | ロームブロック中量          | 4 褐色     | ロームブロック中量       |

遺物出土状況 土師器片20点(坏1, 甕19), 須恵器片12点(坏9, 甕3), 骨片が覆土中から出土している。461は覆土中から出土している。

所見 骨片が確認されており、周囲の墓墳の規模と形状に類似していることから、時期は近世と考えられる。



第255図 第8号墓墳・出土遺物実測図

### 第8号墓墳出土遺物観察表 (第255図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
461	須恵器	坏	[14.8]	(4.4)	-	長石・石英	灰白	普通	体部外面へフ割り後ナデ	覆土中	10%

### 第9号墓墳 (第256図)

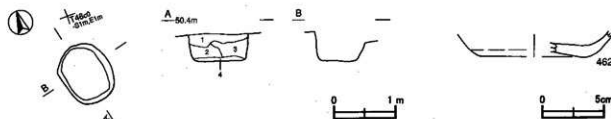
位置 中央1区東部のT46c0区に位置し、台地の緩斜面部に立地している。

規模と形状 長径0.98m、短径0.77mの楕円形で、深さは41cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長径方向はN-15°-Wである。

覆土 4層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- |       |                          |          |           |
|-------|--------------------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス中量、焼土ブロック少量 | 3 暗褐色    | ロームブロック少量 |
| 2 褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック微量       | 4 におい黄褐色 | ローム粒子多量   |



第256図 第9号墓墳・出土遺物実測図

遺物出土状況 粘土塊1点、円礫1点、人骨片が覆土中から出土している。大腿骨の一部が長径方向に延びた状態で出土している。規模から座棺での埋葬と考えられる。このほかには、混入した土師器片12点、須恵器片4点が出土している。462は覆土中から出土し、埋葬の際に混入したものと考えられる。本跡に伴う出土遺物はない。

時期は、形状と周囲の墓塚との関係から、18世紀代と考えられる。

#### 第9号墓塚出土遺物観察表 (第256図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
462	須恵器	坏	-	(2.0)	[8.4]	長石	オリーブ灰	普通	底部外面へラ削り後ナデ、内面指頭圧痕	覆土中	60% 二次焼成

#### 第10号墓塚 (第257図)

位置 中央1区南西部のT46c8区に位置し、台地の緩斜面部に立地している。

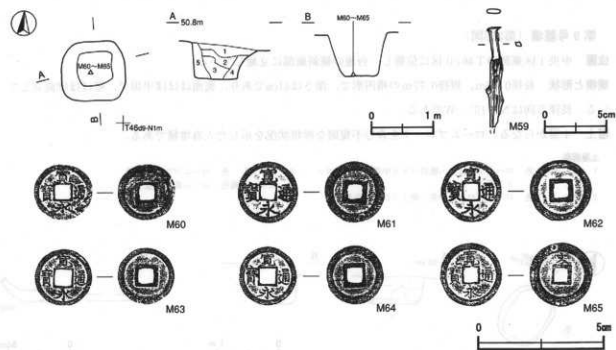
規模と形状 長軸1.01m、短軸0.95mの方形である。深さは69cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-4°-Eである。

覆土 5層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

##### 土層解説

- |       |                   |       |           |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量         | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量         | 5 黄褐色 | ローム粒子多量   |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ロームブロック微量 |       |           |

遺物出土状況 古銭6枚(寛永通寶)、鉄製品3点(釘)、人骨片、礫7点(破砕礫)、炭化材、木片が底面から出土している。人骨は、頭骨が南東部に位置し、上腕骨と大腿骨が中央部に並ぶような状態で出土している。



第257図 第10号墓塚・出土遺物実測図

ので、座棺での埋葬と考えられる。破砕礫7点が骨を取り囲むように出土している。このほかには、混入した土師器片7点、須恵器片3点が出土している。M59は覆土中、M60～65は中央部の底面から出土している。M60～M65は本跡に伴う遺物である。

所見 時期は、六道銭である寛永通寶は背文字に「文」のない新寛永銭を含むことから、時期は17世紀末葉以降と考えられる。人骨を取り囲むように出土している破砕礫は棺を固定するのに使用した可能性が考えられる。

#### 第10号墓出土遺物観察表 (第257図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M59	釘	(8.0)	1.1	0.4	(8.0)	鉄	角釘、先端部欠損、木貫付着	覆土中	

番号	銭名	径	孔 幅	重量	初 鋳 年	材 質	特 徴	出土位置	備 考
M60	寛永通寶	2.3	0.6	2.22	1697年	銅	無背文、新寛永	中央部床面	PL89
M61	寛永通寶	2.4	0.6	3.20	1636年	銅	無背文、真書、古寛永	中央部床面	PL89
M62	寛永通寶	2.5	0.6	3.52	1636年	銅	無背文、真書、古寛永	中央部床面	PL89
M63	寛永通寶	2.3	0.6	2.60	1697年	銅	無背文、真書、新寛永	中央部床面	PL89
M64	寛永通寶	2.3	0.6	2.22	1697年	銅	無背文、真書、新寛永	中央部床面	PL89
M65	寛永通寶	2.5	0.6	3.54	1668年	銅	背「文」、真書	中央部床面	PL89

#### 第11号墓墳 (第258図)

位置 中央1区東部のT46c8区に位置し、台地の平坦部に立地している。

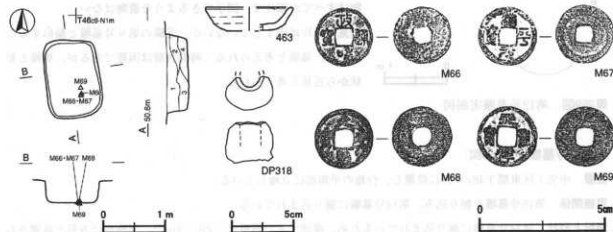
規模と形状 長軸1.25m、短軸0.86mの長方形である。深さは36cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-10°-Wである。

覆土 4層からなり、ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

##### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、骨片

遺物出土状況 土師質土器2点(小皿)、古銭4枚(政和通寶1、治平元寶1、元豊通寶2)、人骨片が出土している。人骨は、大腿骨が軸線に平行に出土している。また、古銭が人骨片とともに南東部から出土している。



第258図 第11号墓墳・出土遺物実測図

このほかには、混入した土師器片5点、須恵器片4点(坏1, 甕2, 鍾1), 円礫1点が出土している。463・DP318は覆土中から、M66~M69は南東部の底面から出土している。

所見 時期は、南東部の底面から骨片と共に政和通寶などが出土していることから、頭部が南東部に位置していた可能性がある。古銭は六道銭としての性格が考えられる。本邦銭は含まれず、北宋銭を含む渡来銭であることから、時期は17世紀前半以前と考えられる。

#### 第11号墓墳出土遺物観察表 (第258図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
463	土師質土器	小皿	[6.8]	1.8	[4.6]	砂粒	浅黄	普通	体部内外面ナデ, 底部回転糸切り後ヘラ削り	覆土中	40%, 煤付着

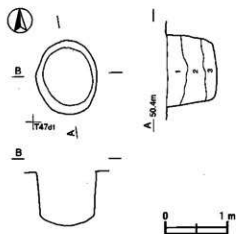
番号	種別	径	孔径	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
DP318	土師	(3.8)	(1.3)	(3.1)	(8.5)	土質	須恵質, 裏面ナデ, 自然粘付着, 胎土:長石・黒色粒子		覆土中	20%

番号	銭名	径	孔径	重量	初鑄年	材質	特	徴	出土位置	備考
M66	政和通寶	2.35	0.6	2.66	1111年	銅	無背文カ, 裏書		南東部床面	PL89
M67	治平元寶	2.4	0.6	2.64	1064年	銅	無背文, 裏書		南東部床面	PL89
M68	元豊通寶	2.4	0.6	3.8	1078年	銅	無背文, 行書		南東部床面	PL89
M69	元豊通寶	2.4	0.6	3.8	1078年	銅	無背文, 行書		南東部床面	PL89

#### 第12号墓墳 (第259図)

位置 中央1区東部のT47c1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.16m, 短径0.95mの楕円形で、深さは85cmであり、底面はほぼ平坦であり、壁はほぼ直立している。長径方向はN-9°-Wである。



覆土 3層からなり、ロームブロック・鹿沼バミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

##### 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 鹿沼バミス少量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 鹿沼バミス微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片1点, 円礫1点が出土している。出土遺物はすべてが細片で、図示できるような遺物はない。

所見 骨片は出土していないが、近隣の第9号墓墳と類似することから、墓墳と考えられる。時期判断は困難であるが、規模と形状から近世と考えられる。

第259図 第12号墓墳実測図

#### 第13号墓墳 (第260図)

位置 中央1区東部T46c0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第15号墓墳を掘り込み、第14号墓墳に掘り込まれている。

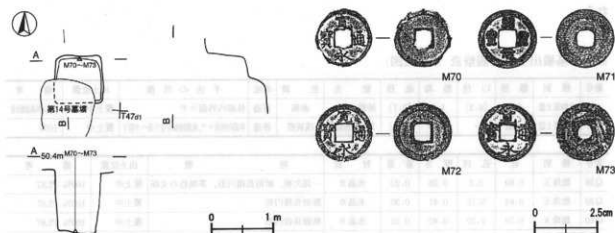
規模と形状 第14号墓墳に掘り込まれているため、確認できた規模は一辺0.73mで、平面形は方形と推測される。深さは95cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向と推測される東西軸はN-4°

-Wである。

覆土 不規則な堆積を示した人為堆積である。

遺物出土状況 古銭4枚(寛永通寶3, 紹興元寶1)が出土している。M70~M73は北部の底面から出土している。M70~M73は本跡に伴う遺物である。

所見 時期は、寛永通寶が背文字に「文」のない新寛永銭であることから、17世紀末業以降と考えられる。古銭は4枚であるが、六道銭としての性格が考えられる。



第260図 第13号墓墳・出土遺物実測図

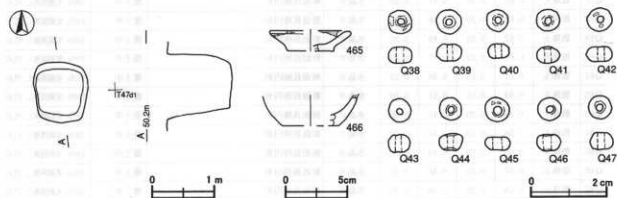
第13号墓墳出土遺物観察表(第260図)

番号	銭名	径	孔	幅	重量	初铸年	材質	特	徴	出土位置	備考
M70	寛永通寶	2.3	0.6	2.24	1636年	銅	無背文, 真書, 新寛永		北部床面	PL89	
M71	紹興元寶*	2.3	0.6	2.52	1131年	銅	無背文, 篆書		北部床面	PL89	
M72	寛永通寶	2.3	0.6	1.90	1636年	銅	無背文, 真書, 新寛永		北部床面	PL89	
M73	寛永通寶	2.3	0.6	3.40	1636年	銅	無背文, 真書, 新寛永		北部床面	PL89	

第14号墓墳(第261図)

位置 中央1区東部のT46c0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第13・15号墓墳を掘り込んでいる。



第261図 第14号墓墳・出土遺物実測図

規模と形状 長軸0.96m, 短軸0.82mの不整長方形である。深さは130cmであり, 底面はほぼ平坦で, 壁はほぼ直立している。長軸方向はN-3°-Eである。

覆土 ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器4点(小皿), 鉄製品1点(釘), 数珠玉48点が覆土中から出土している。このほかには, 混入した土師器片3点, 須恵器片1点, 炉壁片1点, 粘土塊1点が出土している。465・466・Q38~Q85は覆土中から出土している。数珠玉は48点出土しているが, そのうち10点を掲載した。

所見 時期は, 第13号墓墳を掘り込んでいることと, 土師質土器の小皿の形状から18世紀以降の近世と考えられる。

第14号墓墳出土遺物観察表 (第261図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
465	土師質土器	小皿	[6.2]	1.6	[3.7]	砂殻	赤褐	普通	体部内外面ナア	覆土中	0%, 実測図無し
466	土師質土器	小皿	-	(2.4)	[4.4]	長石・褐色胎子	浅黄橙	普通	体部内外面ナア, 底部部輪縁部ナアへり	覆土中	10%

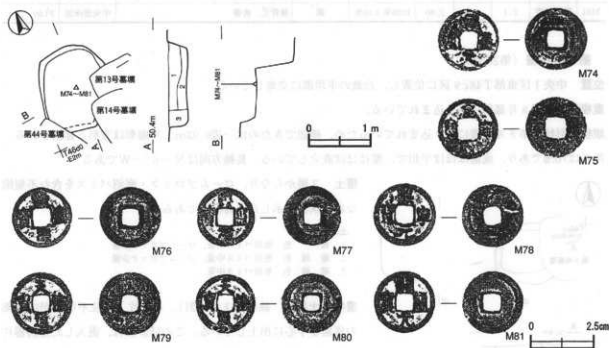
番号	種別	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q38	数珠玉	0.60	0.2	0.38	0.20	水晶カ	一部欠損, 断面長楕円形, 茶褐色の文様	覆土中	100% PL87
Q39	数珠玉	0.64	0.15	0.41	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q40	数珠玉	0.59	0.20	0.40	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q41	数珠玉	0.60	0.20	0.44	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q42	数珠玉	0.61	0.20	0.38	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q43	数珠玉	0.59	0.15	0.43	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q44	数珠玉	0.61	0.20	0.44	0.25	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q45	数珠玉	0.66	0.25	0.36	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q46	数珠玉	0.62	0.20	0.42	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q47	数珠玉	0.60	0.20	0.44	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q48	数珠玉	0.56	0.20	0.41	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q49	数珠玉	0.58	0.20	0.51	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q50	数珠玉	0.58	0.20	0.47	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q51	数珠玉	0.55	0.20	0.38	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q52	数珠玉	0.57	0.20	0.45	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q53	数珠玉	0.58	0.25	0.48	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q54	数珠玉	0.52	0.20	0.45	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q55	数珠玉	0.50 (0.20)	(0.22)	(0.10)	0.10	水晶カ	断面長楕円形, 一部欠損	覆土中	58% 実測図無し PL87
Q56	数珠玉	0.54	0.20	0.48	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q57	数珠玉	0.60	0.20	0.41	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q58	数珠玉	0.62	0.20	0.48	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q59	数珠玉	0.62	0.20	0.49	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q60	数珠玉	0.60	0.20	0.47	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q61	数珠玉	0.51	0.15	0.38	0.10	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q62	数珠玉	0.59	0.15	0.51	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q63	数珠玉	0.63	0.20	0.47	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q64	数珠玉	0.59	0.20	0.47	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q65	数珠玉	0.60	0.20	0.49	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q66	数珠玉	0.57	0.20	0.46	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q67	数珠玉	0.58	0.20	0.38	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87

番号	種別	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q68	数珠玉	0.62	0.20	0.49	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q69	数珠玉	0.58	0.20	0.40	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q70	数珠玉	0.61	0.15	0.47	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q71	数珠玉	0.61	0.20	0.49	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q72	数珠玉	0.60	0.20	0.42	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q73	数珠玉	0.56	0.15	0.43	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q74	数珠玉	0.50	0.20	0.36	0.10	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q75	数珠玉	0.62	0.20	0.47	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q76	数珠玉	0.60	0.20	0.36	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q77	数珠玉	0.56	0.20	0.47	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q78	数珠玉	0.60	0.20	0.48	0.10	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q79	数珠玉	0.56	0.20	0.37	0.10	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q80	数珠玉	0.57	0.20	0.49	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q81	数珠玉	0.61	0.20	0.49	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q82	数珠玉	0.60	0.20	0.46	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q83	数珠玉	0.57	0.20	0.43	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q84	数珠玉	0.54	0.20	0.40	0.15	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q85	数珠玉	0.59	0.20	0.43	0.15	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87

### 第15号墓壇 (第262図)

位置 中央1区東部のT46c0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第13・14・44号墓壇に掘り込まれている。



第262図 第15号墓壇・出土遺物実測図



**規模と形状** 他の墓塚に掘り込まれているため、確認できたのは南北軸1.28m、東西軸1.07mである。平面形は不整形と推測され、深さは30cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向である南北軸はN-27°-Eである。

**覆土** 3層からなり、不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量  
 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量  
 3 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス少量

**遺物出土状況** 土師質土器1点(小皿)、古銭8枚(開元通寶1、熙寧元寶1、天禧通寶2、□□元寶1、不明3)、鉄製品1点(釘)、人骨片(大腿部)が中央部の底面を中心に出土している。M74~M81は中央部の底面から出土し、本跡に伴う遺物と考えられる。

**所見** 時期は、古銭に本邦銭を含まず、判読できたものはすべて渡来銭であり、中世の可能性もあるが、第13・14・43号墓塚に掘り込まれていることから、17世紀末葉以降と考えられる。また、古銭は8枚であるが、六道銭としての性格が考えられる。

第15号墓塚出土遺物観察表 (第262図)

番号	銭名	径	孔	幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M74	不明	2.5	0.7	2.76			銅	無背文	中央部床面	PL89
M75	不明	2.4	0.8	2.26			銅	無背文、篆書	中央部床面	PL89
M76	不明	2.4	0.7	2.26			銅	無背文、篆書カ	中央部床面	PL89
M77	□□元寶	2.4	0.6	3.82			銅	無背文、篆書	中央部床面	PL89
M78	熙寧元寶	2.5	0.7	2.78	1068年		銅	無背文、真書	中央部床面	PL89
M79	天禧通寶	2.4	0.6	3.20	1017年		銅	無背文、真書	中央部床面	PL89
M80	天禧通寶	2.4	0.6	3.20	1017年		銅	無背文、真書	中央部床面	PL89
M81	開元通寶	2.4	0.6	2.80	1035年±10年		銅	無背文、真書	中央部床面	PL89

第16号墓塚 (第263図)

**位置** 中央1区東部T46c9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

**重複関係** 第8号墓塚に掘り込まれている。

**規模と形状** 第8号墓塚に掘り込まれているため、確認できたのは一辺0.93m、平面形は方形と推測される。深さは70cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-6°-Wである。

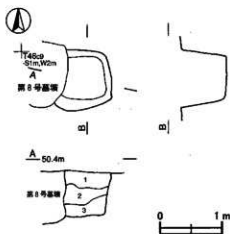
**覆土** 3層からなり、ロームブロック・鹿沼バミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- 1 褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量  
 2 暗褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量  
 3 暗褐色 鹿沼バミス中量

**遺物出土状況** 鉄製品1点(釘)、人骨片(部位不明)が中央部の底面を中心に出土している。このほかには、混入した土師器片4点、粘土塊2点、円礫1点が出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。

**所見** 時期は形状と周辺の墓塚との関係から、近世と考えられる。



第263図 第16号墓塚実測図

第17号墓墳 (第264図)

位置 中央1区東部のT46c9区に位置し、台地の緩斜面部に立地している。

規模と形状 長軸0.80m、短軸0.75mのはほぼ方形である。深さは112cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-33°-Wである。

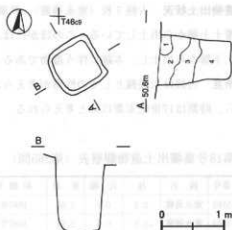
覆土 4層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |                   |
|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・裏沼パミス微量   |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・裏沼パミス微量   |
| 3 黒褐色 | 裏沼パミス少量、ロームブロック微量 |
| 4 黒褐色 | 裏沼パミス少量、ロームブロック微量 |

遺物出土状況 出土遺物は確認できなかった。

所見 時期は、形状と周辺の墓墳との関係から、近世と考えられる。



第264図 第17号墓墳実測図

第18号墓墳 (第265図)

位置 中央1区東部のT47c1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

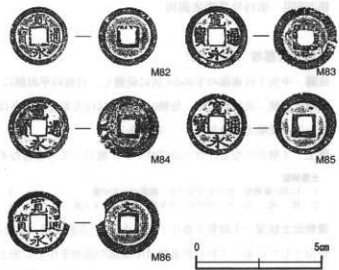
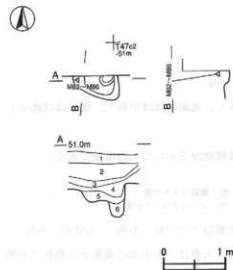
重複関係 第48号墓墳を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているため、確認できた長軸は0.74m、短軸は0.52mで、平面形は長方形と推測される。深さは90cmであり、底面に凹凸があり、壁はほぼ外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-59°-Wである。

覆土 6層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |       |           |       |                |
|-------|-----------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量   | 4 黒褐色 | ロームブロック・異化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量      |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量      |



第265図 第18号墓墳・出土遺物実測図

遺物出土状況 古銭5枚(寛永通寶)、鉄製品1点(不明)、礫2点が出土している。これらの遺物は北東部の覆土上層から出土している。このほかには、混入した土師器片3点が出土している。M82~M86は北西部の覆土下層から出土し、本跡に伴う遺物である。

所見 古銭は六道銭としての性格が考えられる。寛永通寶に背文字の「文」のない新寛永銭が含まれることから、時期は17世紀末葉以降と考えられる。

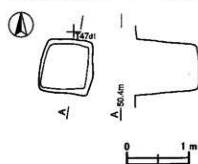
#### 第18号墓出土遺物観察表 (第265図)

番号	銭名	径	孔径	重量	初鋳年	材質	特	出	備考
M82	寛永通寶	2.3	0.6	2.68	1697年	銅	無背文、真書、新寛永	北西部下層	PL89
M83	寛永通寶	2.5	0.6	2.64	1697年	銅	無背文、真書	北西部下層	PL89
M84	寛永通寶	2.5	0.6	2.86	1636年	銅	無背文、真書	北西部下層	PL89
M85	寛永通寶	2.5	0.6	3.16	1697年	銅	古寛永	北西部下層	PL89
M86	寛永通寶	2.5	0.6	2.48	1668年	銅	一部破損、背「文」、真書	北西部下層	PL89

#### 第19号墓 (第266図)

位置 中央1区東部のT46d0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸0.87m、短軸0.85mの方形で、深さは101cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-6°-Eである。



覆土 ロームブロック・鹿沼バミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

遺物出土状況 鉄製品1点(不明)、木片が覆土中から出土している。このほかには、混入した土師器片3点、粘土塊1点が出土している。出土遺物のすべて細片で、図示できるものはない。

所見 時期は、周辺の墓塚と規模と形状が類似していることから、近世と考えられる。

第266図 第19号墓塚実測図

#### 第20号墓 (第267図)

位置 中央1区東部のT46d9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸0.82m、短軸0.75mのほぼ方形で、深さは78cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-6°-Wである。

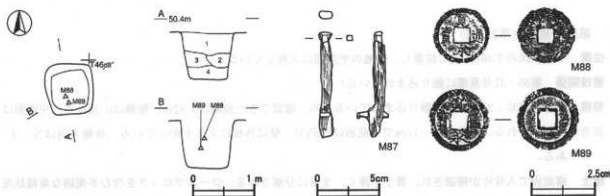
覆土 4層からなる。ロームブロック・鹿沼バミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

##### 土層解説

- |         |                   |       |           |
|---------|-------------------|-------|-----------|
| 1 濃い黄褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス中量   | 3 暗褐色 | 鹿沼バミス中量   |
| 2 暗褐色   | ロームブロック多量、鹿沼バミス少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)、古銭2枚(寛永通寶)、鉄製品2点(釘・不明)、人骨片、木片が出土している。これらの遺物は中央部の底面を中心に出土している。人骨は、中央部の底面から形状の不明確な状態で出土している。このほかには、混入した土師器片5点、円礫1点が出土している。M87は覆土中、M88・M89は南西部の覆土中層から出土している。

所見 六道銭の性格が考えられる寛永通寶に新寛永銭が混じっていることから、時期は17世紀末葉以降と考えられる。



第267図 第20号墓墳・出土遺物実測図

第20号墓墳出土遺物観察表 (第267図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	数	出土位置	備考
M87	釘カ	8.4	1.1	0.4	(8.4)	鉄	角釘、木質付着、鉄製の付着物あり		覆土中	PL88

番号	銭名	径	孔径	幅	重量	初铸年	材質	特徴	数	出土位置	備考
M88	寛永通寶	2.3	0.6	1.66		1697年	銅	無背文カ、真書、新寛永		南西部中層	PL89
M89	寛永通寶	2.5	0.6	2.12		1697年	銅	一部破損、無背文、真書、新寛永		南西部中層	PL89

第21号墓墳 (第268図)

位置 中央1区東部のT46d9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第33号墓墳に掘り込まれている。

規模と形状 第33号墓墳に掘り込まれているため、確認できた長軸は1.21m、短軸は0.80mで、平面形は長方形と推測される。深さは15cmであり、底面はほぼ平坦で、長軸方向はN-12°-Wである。壁はほぼ外傾に立ち上がっている。

覆土 確認面で人骨片が確認され、覆土が薄いが残存部分は単一層である。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器2点(小皿)、人骨片が出土している。これらの遺物は中央部の底面を中心に出土している。

人骨は頭部が北東に位置し、大腿骨が南東部に延びるような状態で出土している。このほかには、混入した土師器片10点、須恵器片3点、鉄滓2点が出土している。467は覆土中から出土している。



第268図 第21号墓墳・出土遺物実測図

所見 周辺の墓墳と規模や形状と類似していることと、出土した土師質土器小皿から、時期は18世紀以降と考えられる。

第21号墓墳出土遺物観察表 (第268図)

番号	種別	器種	口径	径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
467	土師質土器	小皿	[8.8]	3.0	[4.0]		白地灰子-赤灰子	浅黄	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	覆土中	20%

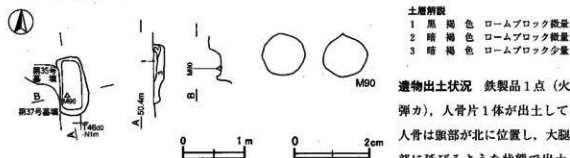
第22号墓墳 (第269図)

位置 中央1区のT46c9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第35・37号墓墳に掘り込まれている。

規模と形状 第35・37号墓墳に掘り込まれているため、確認できた長軸は0.92m、短軸は0.48mで、平面形は長方形と推測される。深さは6～17cmで、底面は凹凸で、壁は外傾に立ち上がっている。長軸方向はN-4°-Wである。

覆土 確認面で人骨片が確認され、覆土が薄く、3層に分層される。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。



第269図 第22号墓墳・出土遺物実測図

2点が出土している。M90は南西部底面の骨片の間から出土している。

所見 周辺の墓墳に規模と形状が類似していることから、時期は18世紀以降と考えられる。

土層解説  
1 黒褐色 ロームブロック微量  
2 暗褐色 ロームブロック微量  
3 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 鉄製品1点(火縄銃の弾丸)、人骨片1体が出土している。人骨は頭部が北に位置し、大腿骨が南部に延びるような状態で出土している。このほかには、混入した土師器片

第22号墓墳出土遺物観察表 (第269図)

番号	種別	径	幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
M90	弾	1.2	-	1.2	7.1	鉄	球状		南西部床面	PL88

第23号墓墳 (第270図)

位置 中央1区東部のT46c0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第24・31号墓墳を掘り込んでいる。

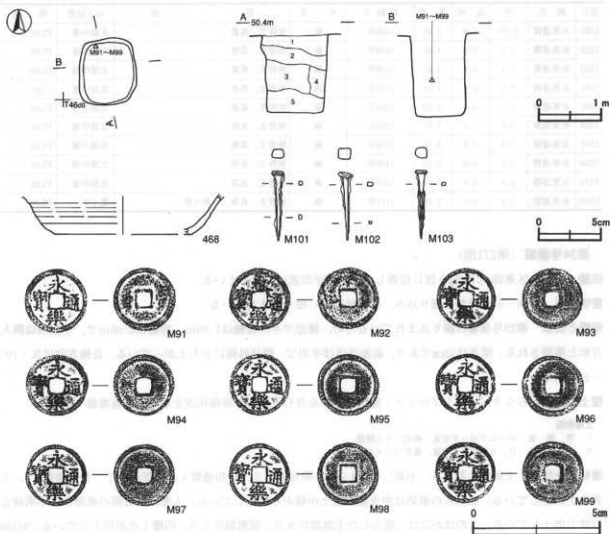
規模と形状 長軸1.06m、短軸は0.91mの長方形で、深さは127cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-6°-Wである。

覆土 5層からなり、ロームブロック・鹿沼バミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説					
1 暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼バミス少量	4 黒褐色	ロームブロック・鹿沼バミス微量		
2 暗褐色	ロームブロック・鹿沼バミス中量	5 黒褐色	鹿沼バミス少量、ロームブロック微量		
3 黒褐色	ロームブロック・鹿沼バミス少量				

遺物出土状況 古銭10枚(永楽通寶)、鉄製品12点(釘)、人骨片1体が中央部の底面を中心に出土している。

人骨は中央部底面から不明確な状態で出土している。このほかには、混入した土師器片5点、須恵器片2点、



第270図 第23号墓墳・出土遺物実測図

粘土塊 2点が出土している。468は覆土中，M91～M99は北部の覆土中層，M100～M103は覆土中から出土している。

所見 時期は，17世紀末葉以降の第24・31号墓墳を掘り込んでいることと，周辺の墓墳の規模と形状から17世紀末葉以降と考えられる。古銭が10枚出土し，その内9枚が永楽通寶であることから，確認できなかったが，本跡は同じ場所に中世の墓墳があり，それを壊して本跡が作られたことも考えられる。

第23号墓墳出土遺物観察表（第270図）

番号	種別	器種	口径	径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
468	土師器	坏	-	(3.0)	[1.8]		赤色粒子・黒色粒子	にぶい陶	普通	ロクロ整形，体部回転ヘラ削り，底部ヘラ切り後ナデ	覆土中	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M101	釘	5.5	1.0	0.3～0.4	2.0	鉄	角釘	覆土中	
M102	釘	5.5	1.0	0.2～0.3	2.2	鉄	角釘	覆土中	
M103	釘	5.5	1.0	0.3	2.1	鉄	角釘，木質付着	覆土中	

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特 徴	出土位置	備 考
M91	永楽通寶	2.55	0.6	3.56	1408年	銅	無背文、真書	北部中層	PL89
M92	永楽通寶	2.5	0.6	3.18	1408年	銅	無背文、真書	北部中層	PL89
M93	永楽通寶	2.5	0.6	3.40	1408年	銅	無背文、真書	北部中層	PL89
M94	永楽通寶	2.5	0.6	3.04	1408年	銅	無背文、真書	北部中層	PL89
M95	永楽通寶	2.5	0.6	3.80	1408年	銅	無背文、真書	北部中層	PL89
M96	永楽通寶	2.4	0.6	3.10	1408年	銅	無背文、真書	北部中層	PL89
M97	永楽通寶	2.4	0.6	3.20	1408年	銅	無背文、真書	北部中層	PL89
M98	永楽通寶	2.5	0.6	3.22	1408年	銅	無背文、真書	北部中層	PL89
M99	永楽通寶	2.4	0.6	2.90	1408年	銅	無背文、真書	北部中層	PL89
M100	永楽通寶	2.4	0.6	2.16	1408年	銅	無背文、真書、一部欠損	覆土中	PL89

### 第24号墓墳（第271図）

位置 中央1区東部のT46d0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第26・31号墓墳を掘り込み、第23号墓墳に掘り込まれている。

規模と形状 第23号墓墳に掘り込まれているため、確認できた長軸は1.05m、短軸は0.46mで、平面形は隅丸方形と推測される。深さは52cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾に立ち上がっている。長軸方向はN-79°-Eである。

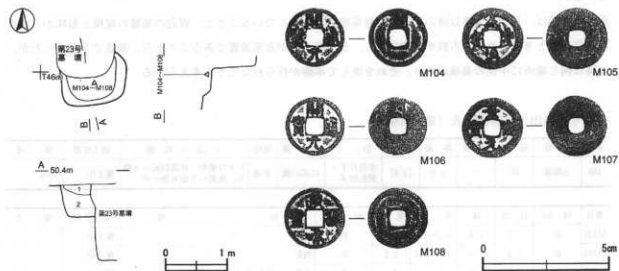
覆土 2層からなり、ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミス微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼パミス少量

遺物出土状況 土師質土器1点（小皿）、古銭5枚（開元通寶2、政和通寶1、元意通寶1、景定通寶1）、人骨片が出土している。これらの遺物は中央部の覆土中層から出土している。人骨は中央部の底面から不明確な形状で出土している。このほかには、混入した土師器片9点、須恵器片5点、円礫1点が出土している。M104～M108は中央部の覆土下層から出土している。

所見 六道銭としての性格が考えられる古銭5枚のうち3枚が渡来銭であるが、新寛永銭の出土している第31号墓墳を掘り込んでいることから、時期は17世紀末葉以降と考えられる。



第271図 第24号墓墳・出土遺物実測図

第24号墓塚出土遺物観察表 (第271図)

番号	銭名	径	孔幅	重量	初铸年	材質	特 徴	出土位置	備 考
M104	開元通寶	2.4	0.7	2.52	1035年±10年	銅	背文「口」, 真書	中央部下層	PL89
M105	元豊通寶	2.45	0.7	2.72	1078年	銅	無背文, 真書	中央部下層	PL89
M106	開元通寶	2.4	0.6	3.06	1035年±10年	銅	無背文, 真書	中央部下層	PL89
M107	景定元寶	2.4	0.6	2.98	1260年	銅	無背文, 真書	中央部下層	PL90
M108	政和通寶	2.4	0.6	3.16	1111年	銅	無背文, 篆書	中央部下層	PL90

第25号墓塚 (第272図)

位置 中央2区東部のU49j8区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第17号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.28m, 短径0.77mの楕円形で, 深さは47cmであり, 底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-10°-Eである。

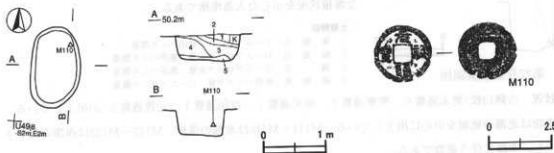
覆土 5層からなり, ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 5 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 |               |

遺物出土状況 古銭1枚(元祐通寶), 白色滓1点が出土している。このほかには, 混入した土師器片10点, 須恵器片1点が出土している。M110は北東部の覆土中層から出土している。

所見 六道銭としての性格が考えられる北宋銭1枚が出土しているので, 中世の可能性もあるが, 近世墓にも北宋銭が副葬される例がある。規模と形状からは中央1区で確認された近世の墓塚と規模と形状で類似していることから, 時期は近世と考えられる。



第272図 第25号墓塚・出土遺物実測図

第25号墓塚出土遺物観察表 (第272図)

番号	銭名	径	孔幅	重量	初铸年	材質	特 徴	出土位置	備 考
M110	元祐通寶	2.35	0.65	2.75	1080年	銅	無背文, 篆書	北東部中層	PL90

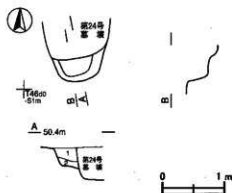
第26号墓塚 (第273図)

位置 中央1区東部のT46d0区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第24号墓塚に掘り込まれている。

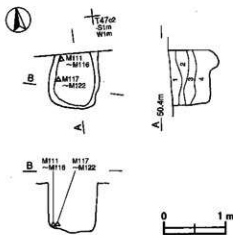


**規模と形状** 第24号墓塚に掘り込まれているため、確認できた南北軸は0.34m、東西軸は0.80mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは36cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾に立ち上がっている。長軸である東西軸方向はN-79°-Eである。



第273図 第26号墓塚実測図

第27号墓塚 (第274・275図)



第274図 第27号墓塚実測図

**遺物出土状況** 古銭12枚(寛永通寶6, 熙寧通寶2, 開元通寶1, 政和通寶1, 元豊通寶2)が出土している。これらの遺物は北部の底面を中心に出土している。M111~M116は北部の底面, M117~M122は西部の覆土下層から出土し、本塚に伴う遺物である。

**所見** 六道銭としての性格が考えられる寛永通寶6枚と開元通寶を含む渡来銭6枚が、墓塚内で出土地点を異にしている特異な例である。時期を異にして同一墓塚への埋葬があったかどうかについては、調査では分からなかった。時期は寛永通寶が古寛永銭であることから17世紀中葉以降と考えられる。

第27号墓塚出土遺物観察表 (第275図)

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材質	特 徴	出土位置	備考
M111	元豊通寶	2.45	0.7	2.38	1078年	銅	無背文、篆書、一部欠損	北部床面	PL90
M112	政和通寶	2.3	0.6	2.16	1111年	銅	無背文、篆書	北部床面	PL90

**覆土** 2層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 混入した須恵器片1点, 白色滓1点, 土製品4点(支脚2, 土錘1, 不明1), 鉄製品2点(不明), 剥片1点, 礫1点が出土している。出土した遺物はすべてが細片で、図示できるような遺物はない。

**所見** 本塚は近隣の墓塚と規模と形状から類似していること、17世紀末葉以降と推定される第24号墓塚に掘り込まれていることから、時期は17世紀末葉以降と考えられる。

**位置** 中央1区東部のT47c1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

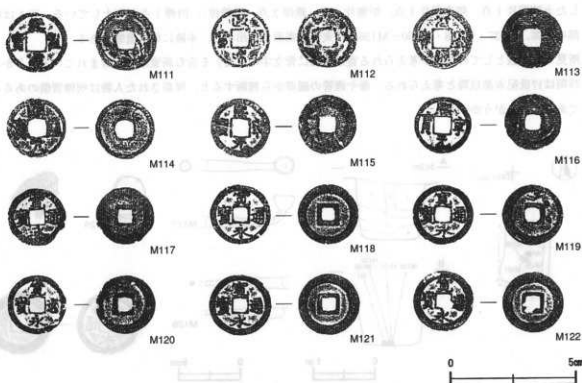
**重複関係** 第34号墓塚を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長軸0.85m, 短軸0.80mのほぼ長方形で、深さは79cmであり、底面はわずかに凹凸で、壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-8°-Eである。

**覆土** 4層からなる。ロームブロック・鹿沼バミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量
- 4 暗褐色 鹿沼バミス少量、ロームブロック微量



第275図 第27号墓出土遺物実測図

番号	銭名	径	孔径	重量	初铸年	材質	特 徴	出土位置	備考
M113	元豊通寶	2.45	0.7	2.50	1078年	銅	無背文、篆書	北部床面	PL90
M114	開元通寶	2.4	0.7	2.46	1035年±10年	銅	無背文、真書	北部床面	PL90
M115	熙寧元寶	2.4	0.6	2.86	1068年	銅	無背文、真書	北部床面	PL90
M116	熙寧元寶	2.3	0.6	2.86	1068年	銅	無背文、真書	北部床面	PL90
M117	寛永通寶	2.4	0.6	2.20	1636年	銅	無背文、真書	西部下層	PL90
M118	寛永通寶	2.4	0.6	3.52	1636年	銅	無背文、真書	西部下層	PL90
M119	寛永通寶	2.4	0.6	2.90	1636年	銅	無背文、真書	西部下層	PL90
M120	寛永通寶	2.4	0.6	3.18	1636年	銅	無背文、真書	西部下層	PL90
M121	寛永通寶	2.5	0.6	3.74	1636年	銅	無背文、真書	西部下層	PL90
M122	寛永通寶	2.5	0.6	2.96	1636年	銅	無背文、真書	西部下層	PL90

第28号墓墳 (第276図)

位置 中央2区中央部のT47i1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第40号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.07m、短軸0.80mのほぼ長方形で、深さは95cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-6°-Wである。

覆土 4層からなる。ロームブロック・鹿沼バミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

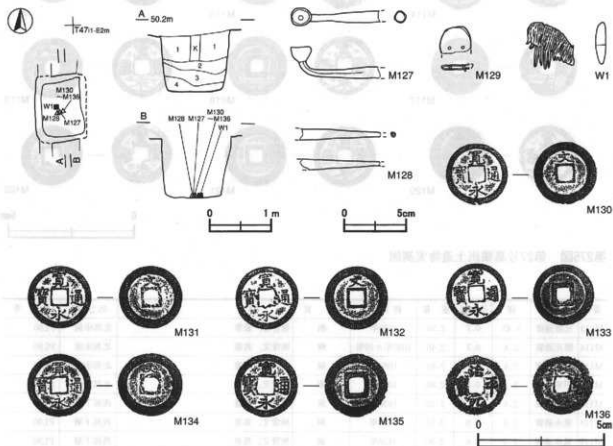
土層解説

- 1 濃い黄褐色 鹿沼バミス中量、ローム粒子少量  
 2 黒 褐色 炭化物中量、ロームブロック・鹿沼バミス少量  
 3 黒 褐色 鹿沼バミス中量、ローム粒子少量  
 4 黒 褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量

遺物出土状況 古銭7枚(寛永通寶6、治平元寶1)、木製品1点(櫛)、銅製品3点(鈍匙、煙管雁首、煙管吸口)、人骨片が出土している。人骨は中央部の底面から不明確な状態で出土している。このほかには、混入

した土師器片1点、須恵器片1点、炉壁片4点、鉄滓2点(流動滓)、円礫1点が出土している。W1は中央部の底面、M127・M128・M130～M136は中央部の底面から出土し、本跡に伴う遺物である。

所見 六道銭としての性格が考えられる寛永通寶に背文字の「文」を含む新寛永銭が含まれていることから、時期は17世紀末葉以降と考えられる。櫛や煙管の副葬から判断すると、埋葬された人物は喫煙習慣のある女性であったことがうかがえる。



第276図 第28号墓墳・出土遺物実測図

第28号墓墳出土遺物観察表(第276図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M127	煙管管首	(7.0)	2.6	0.9	(7.2)	銅	火皿部円形・径1.6cm、接合部円形	中央部床面	PL88
M128	煙管吸口	(6.4)	0.9	0.9	(2.3)	銅	接合部欠損、吸口部円形・径0.3cm、接着部あり	中央部床面	PL88
M129	櫛尾	(2.1)	2.3	0.4~0.6	(4.2)	銅	銀留め2か所	覆土中	

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特 徴	出土位置	備 考
M130	寛永通寶	2.5	0.6	3.00	1668年	銅	背「文」、真書、新寛永	中央部床面	PL90
M131	寛永通寶	2.55	0.6	3.82	1668年	銅	背「文」、真書、新寛永	中央部床面	PL90
M132	寛永通寶	2.5	0.6	3.12	1668年	銅	背「文」、真書、新寛永	中央部床面	PL90
M133	寛永通寶	2.4	0.5	3.64	1636年	銅	無背文、真書、古寛永	中央部床面	PL90
M134	寛永通寶	2.5	0.5	3.60	1668年	銅	背「文」、真書、新寛永	中央部床面	PL90
M135	寛永通寶	2.5	0.6	2.26	1636年	銅	無背文、真書、古寛永	中央部床面	PL90
M136	治平元寶	2.4	0.6	3.54	1064年	銅	無背文、真書	中央部床面	PL90

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
W1	塼	(2.5)	2.2	0.5	(2.0)	木	わずかな残存		中央部床面	

### 第29号墓墳 (第277図)

位置 中央2区中央部のU46b9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第51号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.12m、短軸1.05mの長方形で、深さは135cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-6°-Eである。

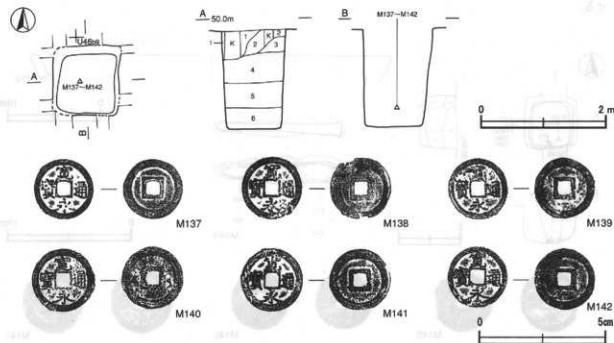
覆土 6層からなる。ロームブロック・鹿沼バミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- |       |                          |       |                   |
|-------|--------------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス中量          | 4 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス少量   |
| 2 黒褐色 | 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス少量   |
| 3 暗褐色 | 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量        | 6 黒褐色 | 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量 |

遺物出土状況 古銭6枚(寛永通寶)、鉄製品2点(釘)、人骨が出土している。これらの遺物は中央部の底面を中心に出土している。人骨は中央部から南東寄りの底面から不明確な状態で出土している。このほかには、混入した土師器片8点、鉄滓1点(流動滓)、円礫1点が出土している。M137~M142は中央部の覆土下層から出土し、本跡に伴う遺物である。

所見 六道銭としての性格が考えられる寛永通寶がすべて古寛永銭であることから、時期は17世紀中葉以降と考えられる。



第277図 第29号墓墳・出土遺物実測図

#### 第29号墓墳出土遺物観察表 (第277図)

番号	銭名	径	孔径	重量	初鋳年	材質	特	徴	出土位置	備考
M137	寛永通寶	2.4	0.5	3.06	1636年	銅	無背文、真書		中央部下層	PL90

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特	徴	出土位置	備考
M138	寛永通寶	2.4	0.6	2.30	1636年	銅	無背文、真書		中央部下層	PL90
M139	寛永通寶	2.4	0.6	3.72	1636年	銅	無背文、真書		中央部下層	PL90
M140	寛永通寶	2.5	0.6	3.20	1636年	銅	無背文、真書		中央部下層	PL90
M141	寛永通寶	2.5	0.6	4.20	1636年	銅	無背文、真書		中央部下層	PL90
M142	寛永通寶	2.4	0.6	2.68	1636年	銅	無背文、真書		中央部下層	PL90

### 第30号墓墳 (第278図)

位置 中央2区東部のT46c7区に位置し、台地の緩斜面部に立地している。

規模と形状 一辺0.85mの方形で、深さは59cmである。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-0°である。

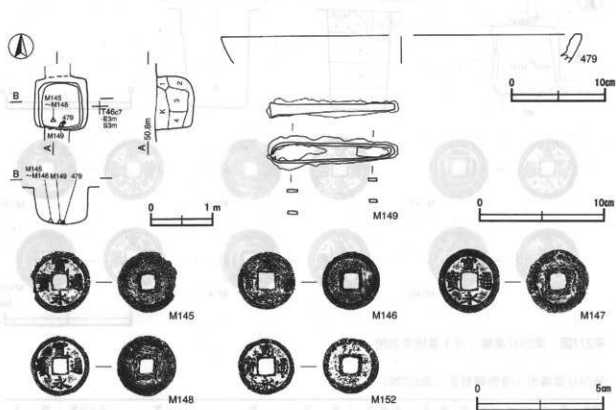
覆土 4層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片1点(焙烙)、古銭5枚(寛永通寶)、鉄製品2点(釘・毛抜き)、人骨1体が出土している。人骨は頭骨が大腿骨などと重なり合うように中央部の底面から出土している。このほかには、混入した土師器片1点、須恵器片1点が出土している。479、M145~M149は南部の底面、M152は覆土中から出土している。

所見 六道銭としての性格と考えられる寛永通寶が古寛永銭であることから、時期は17世紀中葉以降と考えられる。毛抜きは当時、女性が眉を整えるための必需品であり、埋葬された人物は女性であったことをうかがわせる。



第278図 第30号墓墳・出土遺物実測図

第30号墓塚出土遺物観察表 (第278図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
479	土加賀土器	焙烙	[38.0]	(1.9)	—	石灰白色灰子	におい焼	普通	横ナデ	南部床面	5%

番号	銭名	径	孔幅	重量	初铸年	材質	特徴	出土位置	備考
M145	寛永通寶	2.4	0.6	2.62	1636年	銅	無背文、真書、一部欠損	南部床面	PL90
M146	寛永通寶	2.3	0.6	2.12	1636年	銅	無背文、真書	南部床面	PL90
M147	寛永通寶	2.5	0.6	2.56	1636年	銅	無背文、真書	南部床面	PL90
M148	寛永通寶	2.4	0.5	3.02	1636年	銅	無背文、真書	南部床面	PL90
M152	寛永通寶	2.3	0.6	2.02	1636年	銅	無背文、真書	覆土中	PL90

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M149	毛拵き	9.9	1.6	0.2	(17.4)	鉄	断面形長方形、全面錆付着	南部床面	PL88

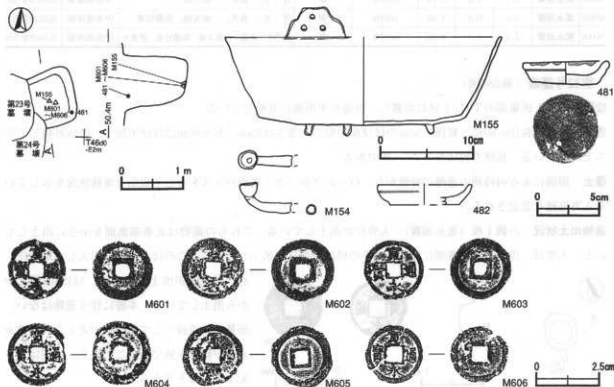
第31号墓塚 (第279図)

位置 中央1区中央部のT46c0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第44号墓塚に掘り込み、第23・24号墓塚に掘り込まれている。

規模と形状 第23号墓塚に掘り込まれているため、確認できた南北軸は0.89m、東西軸は0.70mで、平面形は長方形と推測される。深さは102cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は直立または外傾して立ち上がっている。長軸方向である南北軸はN-15°-Wである。

覆土 周囲にある同時期の遺構の特徴から、ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積と想定される。



第279図 第31号墓塚・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片2点(小皿), 古銭6枚(寛永通寶), 鉄製品3点(鍋1, 不明2), 銅製品1点(煙管雁首), 人骨片が出土している。これらの遺物は中央部の底面を中心に出土している。人骨は中央部の底面から頭部が鉄鍋で被せられた状態で確認されている。このほかには, 混入した土師器片3点が出土している。481は南東部の覆土上層から, 482・M154は覆土中, M155・M601~M606は中央部の底面から出土し, 本跡に伴う遺物である。

**所見** 本跡の埋葬方法は鍋被り葬である。時期は, 六道銭の性格が考えられる寛永通寶が背文字に「文」を有する新寛永銭であることから, 17世紀末葉以降で, 喫煙の習慣のあった人物の墓と考えられる。

### 第31号墓墳出土遺物観察表 (第279図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
481	土師質土器	灯明皿	6.1	1.9	5.0	黄褐色・白色粒 子・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内外面ナデ, 底部回転糸 切り幾ナデ・右目微あり	南東部上層	95%口縁部遺 層付着 PL74
482	土師質土器	小皿	[7.4]	1.6	[5.6]	粘粒質粘土	にぶい橙	普通	体部内外面ナデ, 底部回転糸切り	覆土中	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M154	煙管雁首	(4.2)	(2.5)	0.8	(5.1)	銅	接合部一部欠損。火皿部円形, 接合部円形	覆土中	

番号	種別	口径	器高	底径	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M155	鍋	[29.3]	10.4	22.0	(852.0)	鉄	3か所の穿孔のある吊耳と胴との境界に種あり, 短い三足が付く, 吊り手状のものが器面に付着	中央部床面	PL88

番号	銭名	径	孔径	重量	初鋳年	材質	特 徴	出土位置	備考
M601	寛永通寶	2.5	0.5	2.82	1697年	銅	無背文, 真書, 一部欠損	中央部床面	MBSに付着 PL81
M602	寛永通寶	2.5	0.6	2.98	1636年	銅	無背文, 真書, 古寛永カ	中央部床面	MBSに付着 PL81
M603	寛永通寶	2.5	0.6	2.72	1636年	銅	無背文, 真書, 一部欠損, 古寛永	中央部床面	MBSに付着 PL81
M604	寛永通寶	2.5	0.6	3.14	1668年	銅	背「文」, 真書, 一部欠損	中央部床面	MBSに付着 PL81
M605	寛永通寶	2.5	0.6	3.42	1668年	銅	背「文」, 真書, 一部欠損, 鉄錆付着	中央部床面	MBSに付着 PL81
M606	寛永通寶	2.5	0.6	3.32	1697年	銅	無背文, 真書, 一部欠損, 鉄錆付着, 新寛永	中央部床面	MBSに付着 PL81

### 第32号墓墳 (第280図)

**位置** 中央1区東部のT47c1区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

**規模と形状** 長径0.60m, 短径0.50mのほぼ楕円形で, 深さは25cmであり底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-7°-Wである。

**覆土** 周囲にある同時期の遺構の特徴から, ロームブロック・鹿沼バミスを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積と想定される。

**遺物出土状況** 古銭1枚(寛永通寶), 人骨片が出土している。これらの遺物は北東部底面を中心に出土している。人骨は, 後頭部が北東部に位置し, その周囲に骨片が出土している。このほかには, 混入した炉焼片5点, 褐鉄鉢が出土している。M156は覆土中から出土している。本跡に伴う遺物はない。  
**所見** 六道銭としての性格が考えられる寛永通寶が新寛永銭であることから, 時期は17世紀末葉以降と考えられる。



第280図 第32号墓墳・出土遺物実測図

### 第32号墓出土遺物観察表 (第280図)

番号	銭名	径	孔幅	重量	初铸年	材質	特	徴	出土位置	備考
M156	寛永通寶	2.5	0.6	3.32	1697年	銅	無背文、真書、一部欠損、鉄錆付着		覆土中	PL90

### 第33号墓壙 (第281・282図)

**位置** 中央1区東部のT46d9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

**重複関係** 第21号墓壙を掘り込み、第347号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸1.25m、短軸0.57mの隅丸長方形で、深さは22cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-16°-Wである。

**覆土** 周囲にある同時期の遺構の特徴から、ロームブロック・鹿沼バミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と想定される。

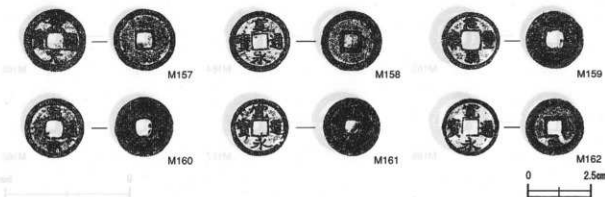
**遺物出土状況** 古銭6枚(寛永通寶3、元豊通寶1、宋通元寶1、不明1)、人骨が出土している。人骨は頭部が北東部に位置し、大腿骨が南西方向に寝せた状態で出土している。これらの遺物は北東部の底面から出土している。

M157～M162は北西部の底面から出土し、方孔部分に布片が付着している。

**所見** 古銭は六道銭としての性格が考えられる最新銭が古寛永銭であることから、時期は17世紀中葉以降と考えられる。



第281図 第33号墓壙実測図



第282図 第33号墓壙出土遺物実測図

### 第33号墓出土遺物観察表 (第282図)

番号	銭名	径	孔幅	重量	初铸年	材質	特	徴	出土位置	備考
M157	宋通元寶	2.5	0.6	3.36	960年	銅	無背文、真書		北西部床面	布片付着 PL90
M158	寛永通寶	2.45	0.65	3.22	1636年	銅	無背文、真書		北西部床面	PL90
M159	元豊通寶	2.35	0.7	2.74	1078年	銅	無背文、真書方		北西部床面	PL90
M160	□通寶	2.3	0.6	2.30	-	銅	無背文、真書		北西部床面	PL90
M161	寛永通寶	2.3	0.6	2.88	1636年	銅	無背文、真書		北西部床面	PL90
M162	寛永通寶	2.3	0.6	1.90	1636年	銅	無背文、真書、一部欠損		北西部床面	PL90

### 第34号墓壙 (第283図)

**位置** 中央1区東部のT47c1区に位置し、台地の平坦部に立地している。



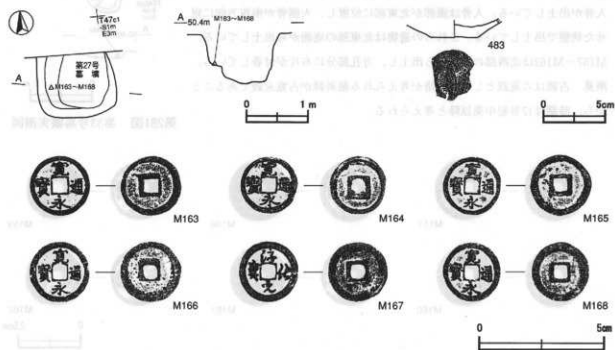
重複関係 第27号墓塚に掘り込まれている。

規模と形状 第27号墓塚に掘り込まれているため、確認できた長軸1.24m、短軸1.03mで、平面形は不整長方形と推測される。深さは79cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である東西軸はN-83°-Wである

覆土 周囲にある同時期の遺構の特徴から、ロームブロック・鹿沼ガミスを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積と想定される。

遺物出土状況 土師質土器1点(小皿)、古銭6枚(寛永通寶5, 淳化元寶1)、鉄製品1点(不明)、人骨片が出土している。人骨片は西部の底面で確認された。483は覆土中、M163~M168は南西部の底面から出土しており、本跡に伴う遺物である。

所見 古銭6枚が六道銭の性格と考えられる寛永通寶が古寛永銭であることから、時期は17世紀中葉以降と考えられる。



第283図 第34号墓塚・出土遺物実測図

第34号墓塚出土遺物観察表(第283図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
483	土師質土器	小皿	-	(1.4)	3.8	雲母・赤色 粒子	にぶい橙	普通	体部内外面ナデ、底部回転糸 切り後ナデ	覆土中	50%

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M163	寛永通寶	2.4	0.6	4.48	1636年	銅	無背文、真書	南西部床面	PL90
M164	寛永通寶	2.3	0.6	4.08	1636年	銅	無背文、真書	南西部床面	PL90
M165	寛永通寶	2.4	0.6	4.78	1636年	銅	無背文、真書	南西部床面	PL90
M166	寛永通寶	2.45	0.6	4.16	1636年	銅	無背文、真書	南西部床面	PL90
M167	淳化元寶	2.44	0.6	3.46	1340年±10	銅	無背文、草書	南西部床面	PL90
M168	寛永通寶	2.3	0.55	2.18	1636年	銅	無背文、真書	南西部床面	PL90

### 第35号墓墳 (第284図)

位置 中央1区東部のT46c9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第22・37号墓墳に掘り込み、第2・3号墓墳に掘り込まれている。

規模と形状 第2・3号墓墳に掘り込まれているため、確認できた長径は1.35m、短径は0.36mで、平面形は楕円形と推測される。深さは51cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長径方向はN-0°である。

覆土 3層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 概黄褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 概褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)が出土している。出土

遺物は細片で、図示できるものではない。

所見 周囲の墓墳と規模と形状及び重複関係から、時期は近世と考えられる。



第284図 第35号墓墳実測図

### 第36号墓墳 (第285図)

位置 中央1区東部のT47d1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第40号墓墳に掘り込み、第43・50号墓墳に掘り込まれている。

規模と形状 第43・50号墓墳に掘り込まれているため、確認できた南北軸は0.48m、東西軸は0.70mで、平面形はほぼ方形と推測される。深さは101cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向である東西軸はN-2°-Eである。

覆土 ロームブロック・鹿沼バミスを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積と想定される。

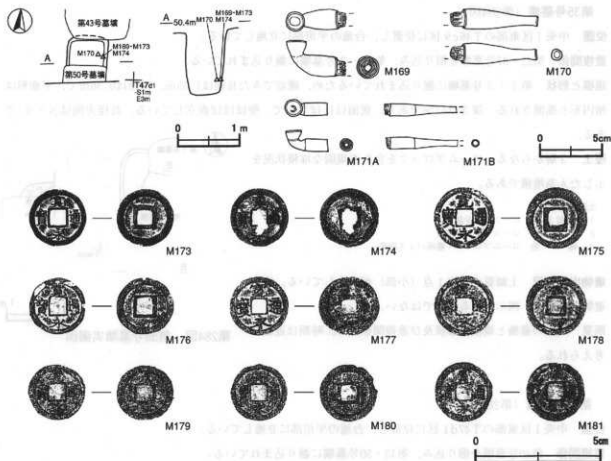
遺物出土状況 古銭9枚(寛永通寶)、銅製品4点(煙管雁首2、煙管吸口2)、鉄製品2点(不明)、人骨片が出土している。人骨片は後頭部が北に位置し、大腿骨の一部が顔の前面に立ったような状態で出土しているので、座棺での埋葬と考えられる。このほかには、混入した土師器片2点が出土している。M169・M170・M173・M174は東部の覆土下層、M175～M181は覆土中から出土している。

所見 古銭9枚が六道銭の性格と考えられる寛永通寶に背文字の「元」のある新寛永銭を含んでいることから、時期は18世紀中葉以降で、喫煙の習慣のあった人物の墓と考えられる。

### 第36号墓墳出土遺物観察表 (第285図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M169	煙管雁首	4.7	2.9	1.5	13.2	銅	羅字竹管残存、火皿部円形、接合部断面円形	東部下層	図285-1-18
M170	煙管吸口	7.0	1.6	0.9	13.1	銅	羅字竹管残存、吸口部断面円形・厚みあり	東部下層	図285-1-19
M171A	煙管雁首	3.3	1.7	0.1	(8.2)	銅	羅字竹管残存、火皿部下・接合部に接着面あり	覆土中	PL88
M171B	煙管吸口	(5.9)	0.5-0.7	0.1	(8.0)	鉄	断面方形、先端部・基部の欠損	覆土中	PL88

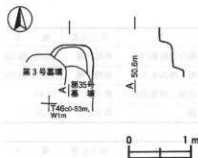
番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M173	寛永通寶	2.3	0.6	2.44	1697年	銅	無背文、真書	東部下層	PL90



第285図 第36号墓・出土遺物実測図

番号	銭名	径	孔径	重量	初鋳年	材質	特	数	出土位置	備考
M174	寛永通寶	2.4	0.6	2.40	1636年	銅	無背文、真書、一部欠損		東部下層	
M175	寛永通寶	2.5	0.6	3.12	1636年	銅	無背文、真書、古寛永		覆土中	PL91
M176	寛永通寶	2.3	0.7	2.18	1697年	銅	無背文、真書		覆土中	PL91
M177	寛永通寶	2.4	0.6	3.30	1636年	銅	無背文、真書、古寛永		覆土中	PL91
M178	寛永通寶	2.5	0.6	3.52	1741年	銅	背「元」カ、真書		覆土中	PL91
M179	寛永通寶	2.3	0.6	2.14	1697年	銅	無背文、真書		覆土中	PL91
M180	寛永通寶	2.3	0.6	1.80	1697年	銅	無背文、真書		覆土中	PL91
M181	寛永通寶	2.4	0.6	2.14	1697年	銅	無背文、真書		覆土中	PL91

第37号墓 (第286図)



位置 中央1区東部のT46c9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第22号墓を掘り込み、第3・35号墓に掘り込まれている。  
規模と形状 第3・35号墓に掘り込まれているため、確認できたのは南北軸0.32m、東西軸0.70mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは12cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である東西軸はN-85°-Eである。

第286図 第37号墓実測図

**覆土** 周囲にある同時期の遺構の特徴から、ロームブロック・鹿沼バミスを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積と想定される。

**遺物出土状況** 出土していない。

**所見** 時期は、周辺の墓塚の規模と形状が類似していることから、近世と考えられる。

### 第38号墓塚 (第287図)

**位置** 中央1区東部のT46c9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

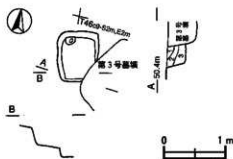
**重複関係** 第6号墓塚に掘り込み、第3号墓塚に掘り込まれている。

**規模と形状** 第3号墓塚に掘り込まれているため、確認できたのは長軸が0.95m、短軸が0.65mで、平面形は長方形と推測される。深さは30cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-14°-Wである。

**覆土** 3層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- |       |                  |      |           |
|-------|------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 3 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量        |      |           |



**遺物出土状況** 鉄製品1点(不明)、木製品1点(不明)、人骨片1体が出土している。人骨片は頭部が北西部に位置し、南東方向へ骨片が広がっていることから、仰向けの状態で埋葬されたと考えられる。出土遺物は細片で、図示できるものはない。

**所見** 時期は、周辺の墓塚の規模と形状と類似していることから、近世と考えられる。

第287図 第38号墓塚実測図

### 第39号墓塚 (第288図)

**位置** 中央1区東部のT46d9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

**重複関係** 第347号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 第347号土坑に掘り込まれており、長軸1.06m、短軸0.90mの長方形である。深さは102cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-14°-Wである。

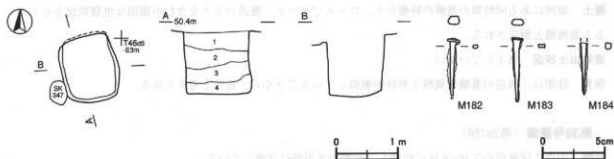
**覆土** 4層からなる。ロームブロック・鹿沼バミスを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

#### 土層解説

- |       |                   |       |                 |
|-------|-------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス少量   | 3 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス中量 |
| 2 黒褐色 | 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量 | 4 褐色  | ロームブロック・鹿沼バミス中量 |

**遺物出土状況** 鉄製品20点(釘)が出土している。人骨片は確認されなかった。M182~M184は棺の釘と考えられるが、人骨及び棺は確認されなかったため、朽ち果ててしまったと考えられる。

**所見** 釘などが出土していることから、性格は墓塚と考えられる。時期は近隣の墓塚と規模と形状で類似していることから、近世と考えられる。



第288図 第39号墓墳・出土遺物実測図

第39号墓墳出土遺物観察表 (第288図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	微	出土位置	備考
M182	釘	(4.6)	1.0	0.3	(2.0)	鉄	角釘, 先端部一部欠損		覆土中	
M183	釘	5.1	0.9	0.3	2.0	鉄	角釘, 断面長方形		覆土中	
M184	釘	(4.0)	0.5	0.5	(1.2)	鉄	角釘, 基部欠損, 断面長方形		覆土中	

第40号墓墳 (第289図)

位置 中央1区東部のT47d1区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

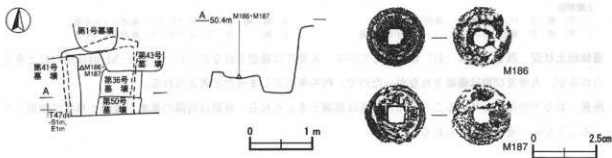
重複関係 第1・36・41・43・50号墓墳に掘り込まれている。

規模と形状 第1・36・41・43・50号墓墳に掘り込まれているため, 確認できた規模は南北軸が1.06m, 東西軸が0.62mで, 平面形は長方形と推測される。深さは75cmであり, 底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である南北軸はN-4°-Wである。

覆土 周囲にある同時期の遺構の特徴から, 人為堆積と想定される。

遺物出土状況 古銭5枚(寛永通寶), 鉄製品44点(釘), 人骨片1体が出土している。これらの遺物は北西部の底面から出土している。人骨片は頭骨が北西部に位置し, 大腿骨が南東部の頭骨の前に位置した状態で出土している。座棺での埋葬と考えられる。このほかには, 混入した須恵器片1点が出土している。M186・M187は北西部の底面から出土している。古銭は5枚出土しているが, 3枚は破損がひどく, 図示できなかった。

所見 六道銭の性格が考えられる古銭は寛永通寶が古寛永銭であることから, 時期は17世紀中葉以降と考えられる。



第289図 第40号墓墳・出土遺物実測図

第40号墓出土遺物観察表 (第289図)

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特 徴	出土位置	備考
M186	寛永通寶	2.4	0.5	3.20	1636年	銅	背文不明、真書	北西部床面	PL91
M187	寛永通寶	2.4	0.6	2.46	1636年	銅	背文不明、真書、鉄錆付着	北西部床面	PL91

第41号墓墳 (第290図)

位置 中央1区東部のT47d1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

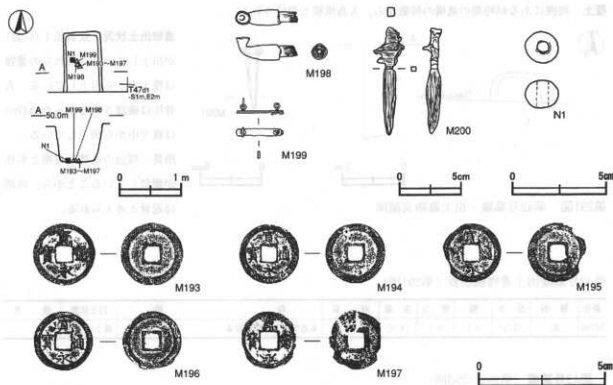
重複関係 第40・45号墓墳を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びているため、確認できた長軸は0.93m、短軸は0.56mで、平面形は長方形と推測される。深さは53cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-5°-Wである。

覆土 周囲にある同時期の遺構の特徴から、人為堆積と想定される。

遺物出土状況 古銭5枚(寛永通寶)、鉄製品1点(釘)、銅製品5点(飾り金具3、煙管雁首1、煙管吸口1)、珊瑚玉1点(煙草入れの緒締の玉カ)、人骨片が出土している。これらの遺物は北部の底面を中心に出土している。人骨は頭部が北部に位置し、大腿骨が南部に延びた状態で出土している。M193~M198は中央部の底面、M199は中央部の覆土下層、M200は覆土中から出土している。N1の珊瑚玉は西部の底面から出土し、煙草入れの緒締の玉である可能性がある。

所見 六道銭としての性格が考えられる古銭は寛永通寶に背文字に「文」のない新寛永銭であることから、時期は17世紀末葉以降で、喫煙の習慣のあった人物の墓と考えられる。



第290図 第41号墓墳・出土遺物実測図

第41号墓出土遺物観察表 (第290図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
M198	鍔管産首	4.8	1.8	1.2	7.4	銅	接合部一部欠損、鏝字竹管残存、火皿部不整形		中央部床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
M199	鍔金具	3.7	0.5	1.3	2.0	銅	吊り手筋留め2か所		中央部下層	PL88
M200	釘	8.4	2.4	0.7	7.8	鉄	全面木質付着		覆土中	PL88

番号	鏡名	径	孔幅	重量	初録年	材質	特	徴	出土位置	備考
M193	寛永通寶	2.5	0.6	3.02	1697年	銅	無背文、真書		中央部床面	PL91
M194	寛永通寶	2.4	0.6	2.84	1697年	銅	無背文、真書		中央部床面	PL91
M195	寛永通寶	2.4	0.6	1.90	1697年	銅	無背文、真書、一部欠損		中央部床面	PL91
M196	寛永通寶	2.4	0.6	2.38	1697年	銅	無背文、真書		中央部床面	PL91
M197	寛永通寶	2.3	0.6	1.48	1697年	銅	無背文、真書、一部欠損		中央部床面	PL91

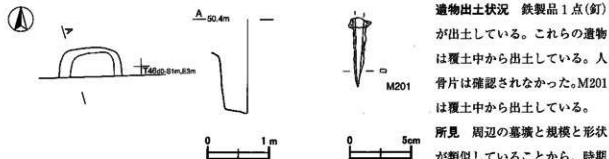
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
N1	珊瑚玉	1.7	0.6	1.4	12.0	珊瑚	両側からの穿孔		西部床面	

第42号墓 (第291図)

位置 中央1区東部のT46d0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びているため、確認できた東西軸は0.98m、南北軸は0.50mで、平面形は長方形と推測される。深さは124cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向である東西軸はN-84°-Wである。

覆土 周囲にある同時期の遺構の特徴から、人為堆積と想定される。



第291図 第42号墓・出土遺物実測図

遺物出土状況 鉄製品1点(釘)が出土している。これらの遺物は覆土中から出土している。人骨片は確認されなかった。M201は覆土中から出土している。

所見 周辺の墓墳と規模と形状が類似していることから、時期は近世と考えられる。

第42号墓出土遺物観察表 (第291図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
M201	釘	(5.5)	0.7	0.3	(4.0)	鉄	基部欠損、全面錆付着		覆土中	

第43号墓 (第292・293図)

位置 中央1区東部のT47d1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第36・40・47・49号墓を掘り込み、第1号墓に掘り込まれている。

**規模と形状** 第1号墓塚に掘り込まれているため、確認できたのは長軸が1.05m、短軸が0.80mで、平面形は長方形と推測される。深さは20cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-88°-Wである。

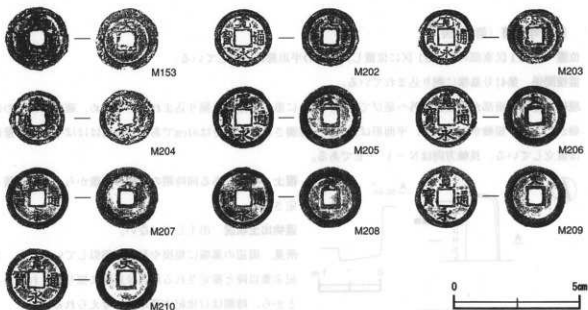
**覆土** 周囲にある同時期の遺構の特徴から、人為地積と想定される。

**遺物出土状況** 古銭10枚（寛永通寶）、人骨片が出土している。人骨片は南部の底面から出土している。このほかには、混入した縄文土器片36点、土師器片345点、須恵器片9点、灰軸陶器片2点、土製品4点（支脚2、土錘1、不明1）、鉄製品2点（不明）、剥片1点、破砕礫1点が出土している。M153・M202～M210は西部の底面から出土し、本跡に伴う遺物である。

**所見** 古銭は10枚出土しているが、六道銭の性格が考えられる寛永通寶は背文字に「文」・「足」を有する新寛永銭であることから、時期は18世紀以降と考えられる。



第292図 第43号墓塚実測図



第293図 第43号墓塚出土遺物実測図

第43号墓塚出土遺物観察表（第293図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初铸年	材質	特 徴	出土位置	備考
M153	寛永通寶	2.4	0.7	2.04	1636年	銅	背「文」、真書	西部床面	PL90
M202	寛永通寶	2.3	0.6	2.84	-	銅	背「足」、真書	西部床面	PL91
M203	寛永通寶	2.3	0.6	2.44	-	銅	背「足」、真書	西部床面	PL91
M204	寛永通寶	2.3	0.6	1.88	-	銅	背「足」、真書	西部床面	PL91
M205	寛永通寶	2.5	0.6	3.60	1668年	銅	背「文」、真書	西部床面	PL91
M206	寛永通寶	2.5	0.6	3.72	1668年	銅	背「文」、真書	西部床面	PL91
M207	寛永通寶	2.5	0.6	3.54	1668年	銅	背「文」、真書	西部床面	PL91
M208	寛永通寶	2.5	0.6	3.20	1668年	銅	背「文」、真書	西部床面	PL91
M209	寛永通寶	2.5	0.6	3.08	1668年	銅	背「文」、真書	西部床面	PL91
M210	寛永通寶	2.5	0.6	3.26	1668年	銅	背「文」、真書	西部床面	PL91

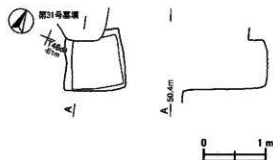


#### 第44号墓墳 (第294図)

位置 中央1区東部のT46d0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第15号墓墳を掘り込み、第31号墓墳に掘り込まれている。

規模と形状 一辺が0.92mの方形で、深さは129cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-24°-Wである。



覆土 周囲にある同時期の遺構の特徴から、人為堆積と想定される。

遺物出土状況 出土していない。

所見 周辺の墓墳と規模と形状で類似していること、17世紀末業以降と推定される第31号墓墳に掘り込まれていることから、時期は17世紀末業以前と考えられる。

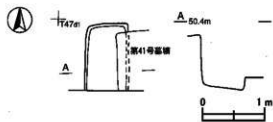
第294図 第44号墓墳実測図

#### 第45号墓墳 (第295図)

位置 中央1区東部のT47d1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第41号墓墳に掘り込まれている。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びており、さらに第41号墓墳に掘り込まれているため、確認できたのは長軸が1.08m、短軸が0.69mで、平面形は長方形と推測される。深さは91cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-1°-Eである。



覆土 周囲にある同時期の遺構の特徴から、人為堆積と想定される。

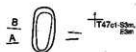
遺物出土状況 出土していない。

所見 周辺の墓墳に規模や形状が類似していること、17世紀末業以降と推定される第41号墓墳に掘り込まれていることから、時期は17世紀末業以前と考えられる。

第295図 第45号墓墳実測図

#### 第46号墓墳 (第296図)

位置 中央1区東部のT47c1区に位置し、台地の平坦部に立地している。



重複関係 第1・47号墓墳を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.71m、短径0.35mのはほぼ楕円形で、深さは42cmで、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長径方向はN-4°-Wである。

第296図 第46号墓墳実測図

覆土 2層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

土層解説

1 層 褐色 鹿沼パミス粒子少量、ロームブロック微量

2 層 褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量

遺物出土状況 出土していない。

所見 周辺の墓塚と規模や形状が類似していること、18世紀代と推定される第47号墓塚を掘り込んでいることから、時期は18世紀以降と考えられる。

#### 第47号墓塚 (第297図)

位置 中央1区東部のT47c1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第7・40・49号墓塚を掘り込み、第43・46号墓塚に掘り込まれている。

規模と形状 第43・46号墓塚に掘り込まれているため、確認できたのは長軸が1.08m、短軸が0.90mで、平面形は長方形と推測される。深さは112cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-5°-Wである。

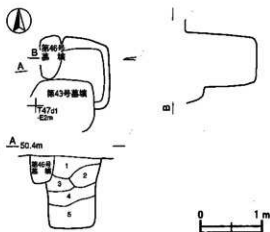
覆土 5層からなる。鹿沼ブロックを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

##### 土層解説

- 1 暗褐色 鹿沼パミス中量
- 2 褐色 鹿沼パミス中量
- 3 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量
- 4 褐色 鹿沼パミス中量、ローム粒子少量
- 5 褐色 鹿沼パミス少量

遺物出土状況 人骨片が出土している。

所見 人骨が出土していることから、墓塚と考えられる。周辺の墓塚に規模や形状が類似していること、18世紀以降と推定される第7号墓塚を掘り込み、18世紀以降と推定される第43号墓塚に掘り込まれていることから、時期は18世紀代と考えられる。



第297図 第47号墓塚実測図

#### 第48号墓塚 (第298図)

位置 中央1区東部のT47c1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第18号墓塚に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、さらに第18号墓塚に掘り込まれているため、確認できたのは東西が0.60m、南北が0.70mで、平面形は長方形と推測される。深さは14cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である南北軸はN-28°-Wである。

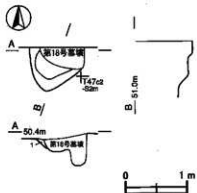
覆土 単一層である。第18号墓塚に掘り込まれているため、残存部が少なく、ロームブロックを含む人為堆積である。

##### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 出土していない。

所見 周辺の墓塚に規模や形状で類似していること、17世紀末葉以降と推定される第18号墓塚に掘り込まれていることから、時期は17世紀末葉以前と考えられる。

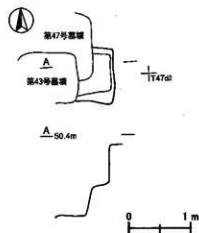


第298図 第48号墓塚実測図

### 第49号墓墳 (第299図)

位置 中央1区東部のT47c1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第7号墓墳を掘り込み、第43・47号墓墳に掘り込まれている。



規模と形状 第43・47号墓墳に掘り込まれているため、確認できたのは南北軸が0.87m、東西軸が0.56mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは65cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向である南北軸は $N-3^{\circ}-E$ である。

覆土 周囲にある同時期の遺構の特徴から、人為堆積と想定される。

遺物出土状況 人骨片が出土している。人骨片は後頭部が北に位置していたものが、南東部に転倒したものと考えられる。

所見 周辺の墓墳に規模や形状が類似していること、18世紀以降と推定される第7号墓墳を掘り込み、18世紀以降と推定される第43号墓墳に掘り込まれていることから、時期は18世紀代と考えられる。

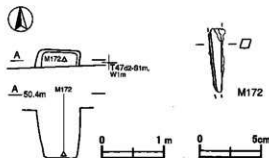
第299図 第49号墓墳実測図

### 第50号墓墳 (第300図)

位置 中央1区東部のT47d1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第36号墓墳を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びており、確認できたのは南北軸が0.29m、東西軸が0.70mで、平面形はほぼ方形と推測される。深さは60cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向である東西軸は $N-86^{\circ}-E$ である。



覆土 周囲にある同時期の遺構の特徴から、人為堆積と想定される。

遺物出土状況 鉄製品1点(釘)、人骨片1体が出土している。M172は北部の覆土下層から出土している。

所見 周辺の墓墳に規模や形状が類似していること、17世紀末葉以降と推定される第36号墓墳を掘り込んでいることから、時期は17世紀末葉以降と考えられる。

第300図 第50号墓墳・出土遺物実測図

第50号墓墳出土遺物観察表 (第300図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	数	出土位置	備考
M172	釘	(5.2)	0.8	0.8	(6.0)	鉄	先端部・基部欠損、全面錆付着		北部下層	

## (2) 井戸跡

### 第3号井戸跡 (第301図)

位置 中央1区東部のV50d5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第5号井戸跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は、長径1.02m、短径0.88mの楕円形で、長径方向はN-24°-Wである。円筒形に掘り込まれているが、確認面から1.70mまで掘り込んだ時点で湧水のため、それ以下の調査を中止した。

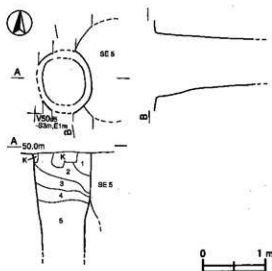
覆土 5層からなり、ロームブロック・鹿沼バミスを含むブロック状の人為堆積の状況を示している。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 鹿沼バミス少量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量
- 5 灰褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量

遺物出土状況 出土していない。

所見 時期は中世以降と考えられる第5号井戸跡を掘り込んでいること、当遺跡の近世の井戸に規模や形状が類似していることから、近世と考えられる。



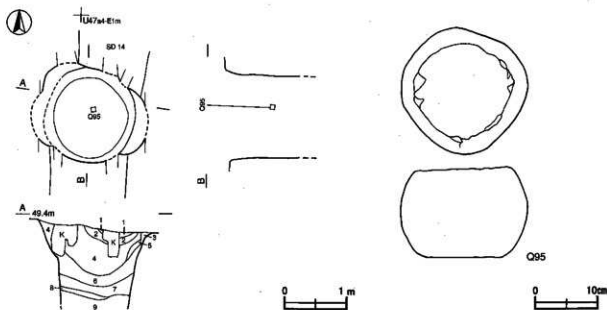
第301図 第3号井戸跡実測図

### 第10号井戸跡 (第302図)

位置 中央2区中央部のU47a4区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第14号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 トレンチャーによる捜査を受けており、確認できた規模は確認面が、長径1.86m、短径1.50mの楕円形で、長径方向はN-48°-Wである。確認面から深さ0.48mまでわずかに漏斗状に掘り込み、下部は長



第302図 第10号井戸跡・出土遺物実測図

径1.24m, 短径1.16mの円筒形に掘り込まれている。確認面から1.28mまで掘り込んだ時点で湧水のため、以下の調査を中止した。

**覆土** 9層からなる。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

- |         |                 |       |                    |
|---------|-----------------|-------|--------------------|
| 1 におい褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス微量   | 6 暗褐色 | 鹿沼パミス少量, ローム粒子微量   |
| 2 暗褐色   | ロームブロック・鹿沼パミス微量 | 7 褐色  | 鹿沼パミス少量, ローム粒子微量   |
| 3 明褐色   | 鹿沼パミス多量         | 8 褐色  | 鹿沼パミス粒子中量, ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色   | ロームブロック少量       | 9 暗褐色 | 鹿沼パミス少量            |
| 5 黒褐色   | ロームブロック・鹿沼パミス微量 |       |                    |

**遺物出土状況** 土師器片2点(坏), 須恵器片2点(坏, 甕), 青磁片1点(碗), 石製品1点(五輪塔水輪)が覆土下層を中心に出土している。Q95は中央部の覆土下層から出土している。

**所見** 本跡は、鍛造遺構関係遺物の出土がなく、覆土下層からQ95の五輪塔部材が出土していることから、近世と考えられる。

**第10号井戸跡出土遺物観察表 (第302図)**

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特	徴	出土位置	備考
Q95	五輪塔	14.4	20.4	19.9	8320.0	花崗岩	上部に一部破損		中央部下層	水輪 PL87

**第11号井戸跡 (第303図)**

**位置** 中央2区中央部のT4513区に位置し、台地の平坦部に立地している。

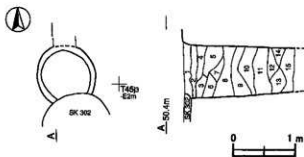
**重複関係** 第302号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 確認面は長径0.99m, 短径0.92mの円形で、長径方向はN-25°-Wである。下部は長径0.84m, 短径0.76mの円筒形に掘り込まれている。確認面から1.76mまで掘り込んだ時点で湧水のため、以下の調査を中止した。

**覆土** 15層からなる。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                      |        |                   |
|-------|----------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・鹿沼パミス微量 | 9 黒褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量  | 10 褐色  | ロームブロック・粘土ブロック微量  |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミス少量   | 11 暗褐色 | ロームブロック少量         |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量   | 12 暗褐色 | ローム粒子多量           |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量   | 13 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス少量   |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス少量      | 14 黒褐色 | ロームブロック少量         |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス少量      | 15 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス少量     |
| 8 黒褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量   |        |                   |



**遺物出土状況** 土師器片4点(甕), 灰壁片4点, 褐鉄釘3点, 円標1点(被熱痕)が覆土中から出土している。出土した遺物はすべて細片で、図示できるものはない。

**所見** 周辺にある近世以降の井戸の形状に類似していることから、時期は近世以降と考えられる。

第303図 第11号井戸跡実測図

### 第12号井戸跡 (第304図)

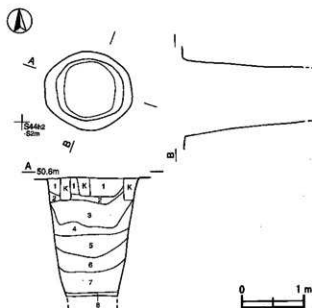
位置 中央1区西部のS44h2区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 確認面は長径1.43m、短径1.23mの楕円形で、長径方向はN-68°-Wである。確認面から深さ0.8mまではわずかに漏斗状に掘り込み、下部は長径0.88m、短径0.84mの円筒形に掘り込まれている。確認面から2.0mまで掘り込んだ時点で湧水のため、以下の調査を中止した。

覆土 8層からなり、ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 2 黒褐色 鹿沼パミス少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 黒褐色 鹿沼パミス少量、ロームブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子・鹿沼パミス少量、焼土粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック中量
- 7 黒色 ローム粒子微量
- 8 灰褐色 粘土粒子多量



第304図 第12号井戸跡実測図

遺物出土状況 出土していない。

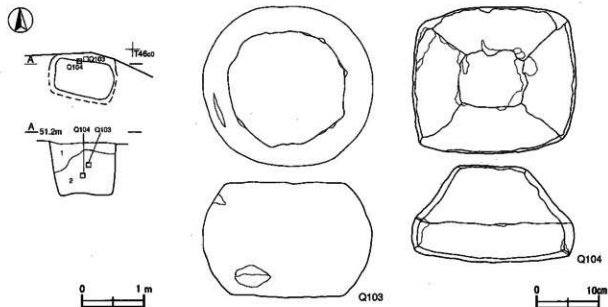
所見 当遺跡で確認されている近世と推定される井戸跡の形状と類似していることと、炉壁片や鉄滓などの銕造に関する遺物が出土していないことから、時期は近世以降と考えられる。

### (3) 土坑

#### 第441号土坑 (第305図)

位置 中央1区北東部のT46c9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸1.04m、短軸0.39mの長方形で、深さは81cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち



第305図 第441号土坑・出土遺物実測図

上がっている。長軸方向はN-78°-Wである。

覆土 2層からなる。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 石製品2点(五輪塔火輪、五輪塔水輪)が覆土中層から出土している。Q103・Q104の五輪塔部材は第2層の上部から出土しており、本跡を埋め戻す過程で混入したものと考えられる。

所見 本跡は現表土面からローム面をわずかに掘り込んだ深さの土坑である。Q103・Q104は大きさから別個の五輪塔部材といえ、本跡を埋め戻す過程で混入したものと考えられ、周辺の墓塚群と五輪塔の形状から考え、中世末の墓塚に伴って建てられたもので、土地の利用状況の変化に伴って埋められたと考えられる。時期は近世以降と考えられる。

第441号土坑出土遺物観察表(第305図)

番号	種別	外径	内径	高さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q103	五輪塔	26.9	18.4	18.4	(18200.0)	花崗岩	下部側面一部欠損	北部中層	水輪 PL87

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q104	五輪塔	23.3	25.6	15.3	(12200.0)	花崗岩	上部・側面の一部欠損	北部中層	火輪 PL87

## 5 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期不明の竪穴住居跡15軒、方形竪穴遺構5基、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基、土坑39基、溝跡5条、ピット群7か所、ピット列3条、不明遺構4基、遺物包含層1か所が確認されている。以下、遺構と遺物について記述する。

### (1) 竪穴住居跡

#### 第18号住居跡(第306図)

位置 中央2区東部のU49j9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第127号土坑を掘り込み、第4・5・9・18・60・61号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 規模は長軸4.92m、短軸4.52mの方形で、主軸方向はN-82°-Wである。壁高は43cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が特に踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈・炉 確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

覆土 11層からなる。レンズ状の堆積状況を示した人為堆積である。

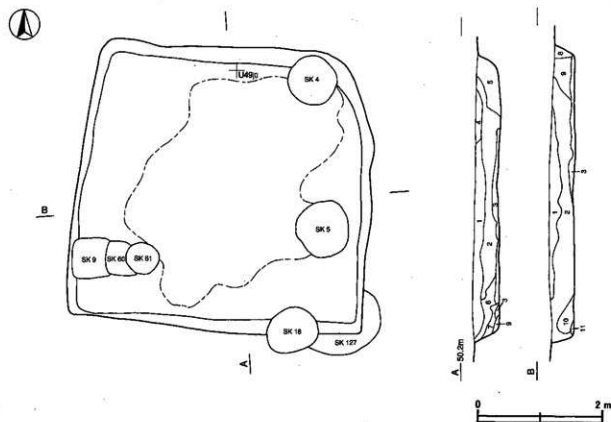
土層解説

- |        |                       |        |                         |
|--------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 7 黒褐色  | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量  |
| 3 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量      | 9 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量    |
| 4 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量  | 10 暗褐色 | ロームブロック少量               |
| 5 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 11 黒褐色 | ロームブロック微量               |
| 6 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |        |                         |

遺物出土状況 土師器片74点(碗1, 甕73), 須恵器片19点(坏13, 壺2, 甕3, 短頸壺1), 礫7点(破砕礫)が出土している。これらの遺物は全域にわたって散在した状態で覆土中層から下層を中心に出土している。こ

のほかには、混入した縄文土器片19点、弥生土器片3点が出土している。本跡に伴う土器はない。出土遺物のすべてが細片で、図示できるものはない。

所見 出土遺物が体部片で、さらに細片であるため、時期は不明である。



第306図 第18号住居跡実測図

#### 第47号住居跡 (第307図)

位置 中央2区中央部のU46b7区に位置し、台地の微斜面部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.30m、短軸2.85mで、平面形は長方形と推測される。長軸方向はN-90°-Wである。壁高は24~40cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほは平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は確認できなかった。南東コーナー付近の床面から焼土が確認され、わずかではあるが被熱のため赤変していた。

竈・炉 確認できなかった。

ピット 確認できなかった。

覆土 9層からなる。ロームブロックを多く含む不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

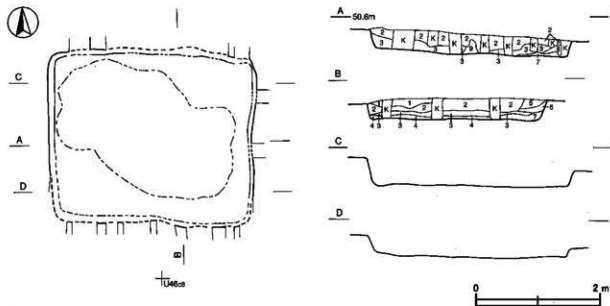
##### 土層解説

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 1 灰褐色 ロームブロック多量    | 6 黄褐色 ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量    | 7 黄褐色 ローム粒子多量   |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量    | 8 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量    | 9 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 5 におい黄褐色 ロームブロック多量 |                 |

遺物出土状況 土師器片58点(坏4, 甕54), 須恵器片4点(蓋1, 甕1, 甕2), 瓦片2点(平瓦), 礎27点



(破砕礫；被熱痕12)が出土している。これらの遺物は南東コーナー部の覆土下層を中心に出土している。このほかには、混入した石器1点、攪乱により混入した陶器片1点、鉄滓4点が出土している。南東コーナー付近の床面から焼土と共に土師器壺片が出土している。出土した遺物はすべて細片で、図示できるものはない。所見 炉が確認されていないことから工房跡の可能性はあるが、中央部の床面は踏み固められていること、土師器片や須恵器片が出土していることから、住居として使用されていたと考えられる。出土した土器のすべてが細片であるため、時期は不明である。



第307図 第47号住居跡実測図

#### 第59号住居跡（第308図）

位置 中央2区中央部のT46f2区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているため、さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため、確認できた規模は長軸が3.56m、短軸が1.60mで、平面形は方形または長方形と推測される。主軸方向は $N-1^{\circ}-W$ である。壁高は30~35cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、硬化面が確認できなかった。壁溝は深さ8cmほどで、確認された壁際を巡っている。

ピット P1は深さ16cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

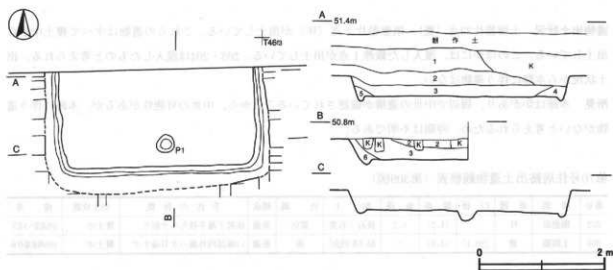
覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

#### 土層解説

- |                      |                  |
|----------------------|------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量      | 4 におい黄褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・流土粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量  |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量      | 6 黒褐色 ローム粒子微量    |

遺物出土状況 土師器片10点(壺)、須恵器片9点(壺・瓶9)が出土している。これらの遺物は中央部及び東部の覆土上層を中心に出土している。このほかには、攪乱による混入した陶器片1点が出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。本跡に伴う土器はない。

所見 本跡は周辺の同規模の住居跡から平安時代の可能性もあるが、本跡に伴うと考えられる土器が少なく、時期は不明である。



第308図 第59号住居跡実測図

第70号住居跡 (第309図)

位置 中央2区中央部のU45b9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第433号土坑を掘り込み、第380・428号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 規模は長軸2.43m、短軸2.32mの方形で、長軸方向はN-0°である。壁高は20cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほは平坦で、中央部が踏み固められている。

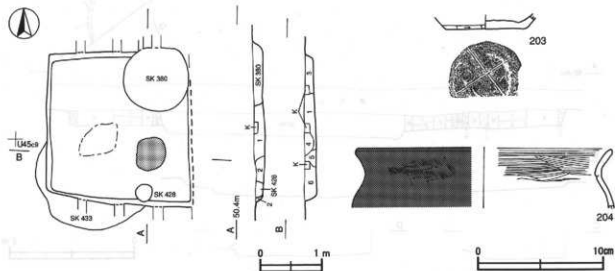
炉 ほは中央部の南東寄りに位置している。攪乱を受けているため、確認できたのは長径60cm、短径44cmで、平面形が楕円形と推測される。床面をわずかに掘りくぼめられた地床が、炉底は焼土の広がりが見られる程度である。

ピット 確認されなかった。

覆土 6層からなる。不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- |                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量           | 4 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック少量              |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量    | 6 褐色 ロームブロック微量              |



第309図 第70号住居跡・出土遺物実測図

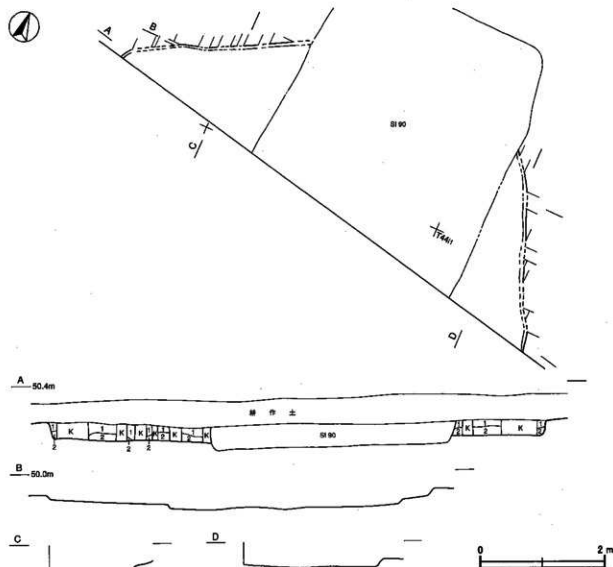
遺物出土状況 土師器片33点(甕), 須恵器片2点(坏)が出土している。これらの遺物はすべて覆土中から出土している。このほかには, 混入した鉄滓1点が出土している。203・204は混入したものと考えられる。出土状況から本跡に伴う遺物はない。

所見 本跡は伊があり, 周辺で中世の遺構が確認されていることから, 中世の可能性があるが, 本跡に伴う遺物がないと考えられるため, 時期は不明である。

第70号住居跡出土遺物観察表 (第309図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
203	須恵器	坏	-	(1.2)	6.2	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	20%底部ヘラ削り
204	土師器	甕	[20.1]	(4.6)	-	紅褐色粘土	褐	普通	口縁部内外面ハケ目後ナゲ	覆土中	10%外縁部付着

第75号住居跡 (第310図)



第310図 第75号住居跡実測図

位置 中央2区西部のT43h0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第90号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びており、さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため、確認できた規模は長軸が6.00m、短軸が4.88mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向はN-65°-Eである。壁高は24cmほどで、ほぼ直立している。

床 はほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。硬化面、壁溝は確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

覆土 2層からなる。覆土が少なく、残存部分がレンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 出土していない。

所見 当遺跡で確認されている古墳時代前期の住居に規模と形状が類似しているが、出土遺物がなく、さらに重複関係にある第90号住居跡も時期不明であるため、時期は不明である。

### 第80号住居跡 (第311図)

位置 中央2区中央部のU45a2区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第81号住居に掘り込まれている。

規模と形状 第81号住居に掘り込まれ、さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.40m、短軸2.96mで、平面形は長方形と推測される。長軸方向はN-3°-Wである。壁高は7~10cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。

炉 確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

覆土 5層からなる。覆土が薄く、残存部分がロームブロックを含む不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- |                          |                      |
|--------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量     | 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量     | 5 黒褐色 ロームブロック微量      |
| 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |                      |

遺物出土状況 土師器片4点(坏1, 甕3), 須恵器片1点(甕), 炭化材が出土している。これらの遺物はすべて覆土中から出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できる遺物はない。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見 重複関係にある第81号住居跡が時期不明であり、さらに本跡に伴うと考えられる出土土器もなく、時期は不明である。

### 第81号住居跡 (第311・312図)

位置 中央2区中央部のU45a3区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第80号住居跡を掘り込み、第341・356~358・366号土坑に掘り込まれている。

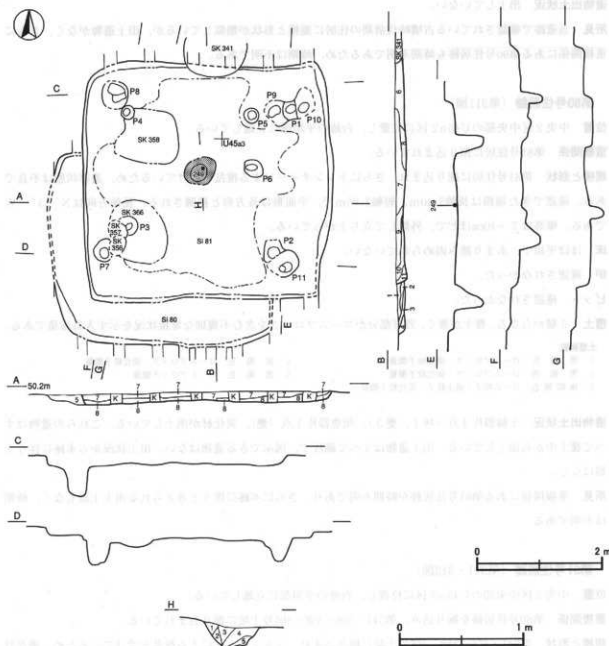
規模と形状 第341・356~358・366号土坑に掘り込まれ、トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸が9.98m、短軸が9.87mで、平面形は方形と推測される。長軸方向は

N-5°-Wである。壁高は12~17cmほどで、外傾して立ち上がっている。床はほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。炉中央部に付設されている。長径0.42m、短径0.40mの円形である。床面とわずかに掘りくぼめられた地床炉で、炉底は被熱でわずかに変色している部分が確認されている。

炉土層解説

- |        |                   |       |                  |
|--------|-------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量、ロームブロック微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量     | 5 暗褐色 | ロームブロック少量        |
| 3 黒褐色  | ロームブロック少量         |       |                  |

ピット 11か所。P1~P4は深さ37~65cmで、各コーナー寄りに位置する主柱穴と考える。P1~P4に掘り込まれているP7~P9・P11は深さ40~54cmで、コーナー寄りに位置することから主柱穴と考えられる。



第311図 第80・81号住居跡実測図

P7～P9・P11がP1～P4に作り替えが行われたと考えられる。P5・P10は深さ50cmで、対応する柱穴がないことから、性格は不明である。

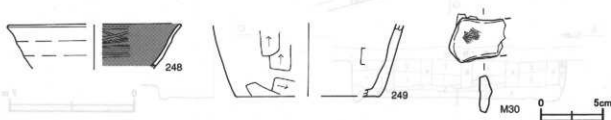
**覆土** 6層からなる。覆土が薄く、残存部分がロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

**土層解説**

6	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量			
8	黒褐色	ロームブロック微量	11	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量			

**遺物出土状況** 土師器片16点(坏2, 甕14), 須恵器片3点(坏2, 甕1), 鉄製品1点(不明), 礫1点(破砕礫; 被熱痕あり) 鉄滓4点, 炉壁片1点が出土している。これらの遺物はほとんどが覆土中で、他は中央部の覆土下層を中心に出土している。248は覆土中, 249は炉底, M30はP6の覆土中から出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。

**所見** 工房跡とも住居跡とも考えられるが、本跡に伴うと考えられる遺物がないため、時期及び性格は不明である。



第312図 第81号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡出土遺物観察表(第312図)

番号	種別	器種	口径	口径	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
248	土師器	坏	[13.7]	(3.6)	-	赤褐色粒子	にぶい橙	普通	口縁整形, 体部内面へラ磨き	覆土中	10% 内面黒色処理
249	土師器	甕	-	(5.6)	[11.4]	細針状針腫	橙	普通	体部外面・底部へラ削り	炉底面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M30	不明	(4.5)	(3.5)	1.0	(39.6)	鉄	断面台形, 木貫付着	覆土中	

**第82号住居跡(第313図)**

**位置** 中央2区中央部のU45b1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

**規模と形状** 南部が調査区域外へ延びており、さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は東西軸が3.28m, 南北軸が1.02mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向である東西軸はN-5°-Wである。壁高は18~21cmほどで、ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦である。全体的に踏み固められている。壁溝は4~6cmで、確認された壁際を巡っている。

**炉** 確認されていない。

**ピット** 2か所。P1・P2は深さ63・59cmで、北東・北西コーナー寄りに位置する主柱穴の可能性があるが、本跡の全容が不明であるので、性格は不明である。

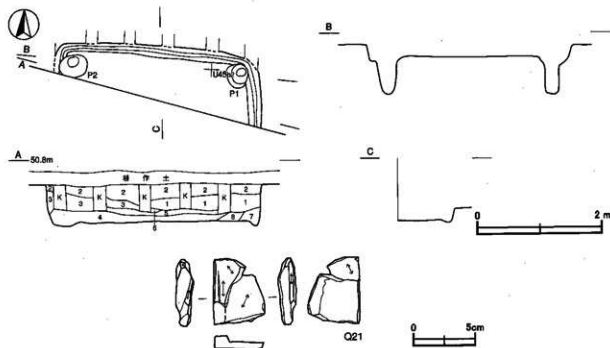
**覆土** 8層からなる。レンズ状を呈した自然堆積である。

土層解説

- |       |                |       |                  |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子少量        | 5 黒褐色 | ロームブロック微量        |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量  | 6 黒色  | ロームブロック少量、粘土粒子微量 |
| 3 黒色  | ロームブロック微量      | 7 黒褐色 | ローム粒子少量          |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック中量        |

遺物出土状況 土師器片1点(甕), 石器1点(砥石), 炉壁片1点, 礫1点(破砕礫; 被熱痕あり)が出土している。これらの遺物はすべてが覆土中から出土している。Q21はP2の覆土中から出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見 鉄に関連する遺構の可能性もあるが, 確認された部分が少なく, さらに本跡に伴うと考えられる土器がないため, 時期及び性格は不明である。



第313図 第82号住居跡・出土遺物実測図

第82号住居跡出土遺物観察表 (第313図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特 徴	出土位置	備 考
Q21	砥石	(5.3)	(4.1)	1.4	(23.0)	泥岩	砥面4面, 多方向の使用	覆土中	

第83号住居跡 (第314図)

位置 中央2区中央部のU45b2区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びており, さらにトレンチャーによる擾乱を受けているため, 遺存状態は不良である。確認できた規模は東西軸が2.88m, 南北軸が1.24mで, 平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向である東西軸はN-78°-Wである。壁高は10cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈・炉 確認されていない。

ピット 確認されていない。

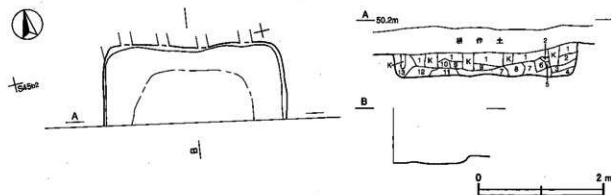
覆土 13層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 8 黒褐色 ロームブロック微量       |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量    | 9 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量  |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量    | 10 黒褐色 ロームブロック微量      |
| 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量    | 11 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量    | 12 黒褐色 ロームブロック微量      |
| 6 黒褐色 ロームブロック微量         | 13 黒褐色 ロームブロック微量      |
| 7 黒褐色 ローム粒子微量           |                       |

遺物出土状況 須恵器片1点(甕)が出土している。この遺物は覆土中から出土している。出土遺物は細片で、図示できる遺物はない。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見 出土土器が少なく、さらに細片であるため、時期は不明である。



第314図 第83号住居跡実測図

第84号住居跡 (第315図)

位置 中央2区中央部のT44f8区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸5.04m、短軸2.85mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。主軸方向はN-3°-Wである。壁高は19~21cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほは平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は深さ8~10cmで、確認された壁際を巡っている。

炉・竈 確認されていない。

ピット 3か所。P1・P2は深さ86・60cmで、中央部から南東・南西コーナー寄りに位置し、P1とP2が対応することから主柱穴と考えられる。P3は深さ39cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

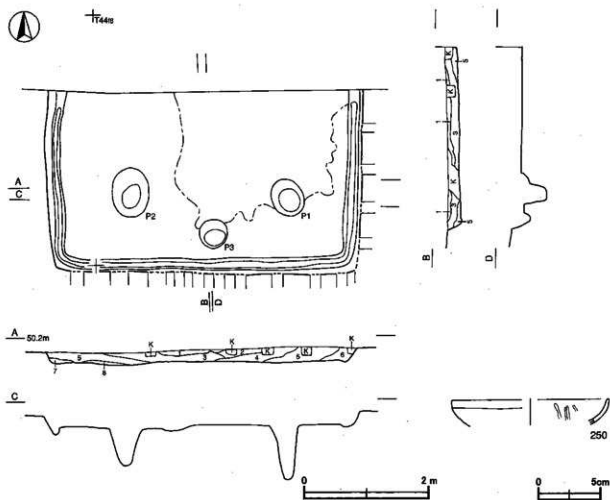
土層解説

- |                         |                             |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量         | 5 黒褐色 ローム粒子中量               |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量  | 6 黒褐色 ロームブロック少量             |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量    | 7 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量     |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片19点(坏3, 甕16)が出土している。これらの遺物はすべてが覆土中から出土している。このほかには、混入した縄文土器片6点が出土している。250は覆土中から出土している。

所見 本跡は規模と形状から平安時代の住居跡の可能性があるが、出土土器が少なく、さらにすべてが細片であるため、時期は不明である。





第315図 第84号住居跡・出土遺物実測図

第84号住居跡出土遺物観察表 (第315図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
250	土師器	坏	[12.4]	(2.2)	-	石灰・赤色灰子	明赤褐色	普通	体部外面ヘラ磨り、内面ヘラ磨き	覆土中	10%

### 第85号住居跡 (第316図)

位置 中央2区西部のT44f4区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第86号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、第86号住居に掘り込まれているため、遺存状態は不良である。

確認できた規模は東西軸が3.55m、南北軸が1.11mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向である東西軸はN-87°-Eである。壁高は13~16cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。壁溝は確認されていない。

炉・竈 確認されていない。

ピット 確認されていない。

覆土 2層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

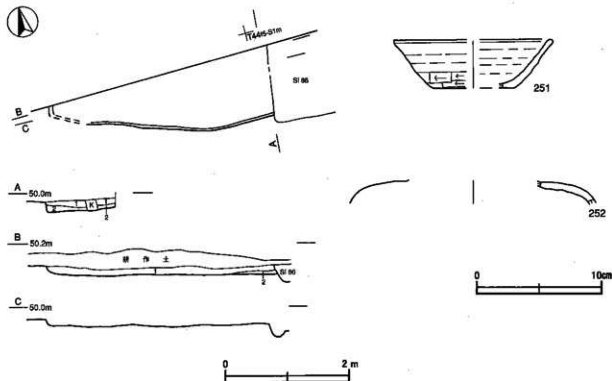
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片34点(甕), 須恵器片16点(坏6, 甕1, 甕7, 短頸壺2), 礫2点(破砕礫)が出土している。これらの遺物はすべてが覆土中から出土している。このほかには、混入した土師器片1点が出土している。251・252は覆土中から出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見 本跡は9世紀中葉と推定される第86号住居に掘り込まれているので、9世紀中葉以前と考えられるが、本跡に伴うと考えられる土器がないため、時期は不明である。



第316図 第85号住居跡・出土遺物実測図

第85号住居跡出土遺物観察表 (第316図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
251	須恵器	坏	[12.4]	3.8	[6.4]	白色乾子	灰	普通	ロクロ整形, 体部下縁手持ちへう割り	覆土中	10% 火燒
252	須恵器	短頸壺	-	(1.8)	-	黄土・黒色乾子	灰	普通	ロクロ整形	覆土中	10%

第90号住居跡 (第317図)

位置 中央2区西部のT43h0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第75号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びるため、確認できた規模は長軸4.00m, 短軸3.70mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向はN-5°-Wである。壁高は20~28cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、西部が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

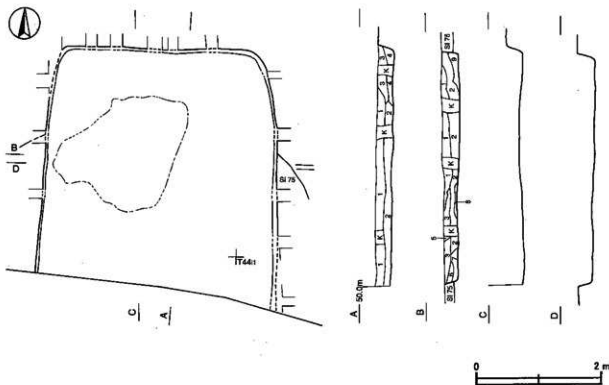
覆土 9層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- |       |                             |       |                          |
|-------|-----------------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス微量        | 6 黒褐色 | ロームブロック微量                |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、鹿沼パミス微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量               | 8 黒褐色 | 炭化物中量、ロームブロック微量          |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子・鹿沼パミス微量      | 9 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量           |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・粘土ブロック少量              |       |                          |

遺物出土状況 土師器片9点(坏7, 甕2), 須恵器片2点(坏, 甕)が出土している。これらの遺物は東部の覆土下層を中心に出土している。出土土器はすべて細片で、図示できるものはない。

所見 本跡は出土土器が少なく、さらにすべて細片であるため、時期は不明である。



第317図 第90号住居跡実測図

第93号住居跡 (第318図)

位置 中央1区西部のT46b6区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、さらにトレンチャーによる擾乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸が4.82m, 短軸が1.44mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。主軸方向はN-8°-Eである。壁高は12cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。壁溝は深さ8cmほどで、確認された壁際を巡っている。

炉・竈 確認されていない。

ピット P1は深さ12cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

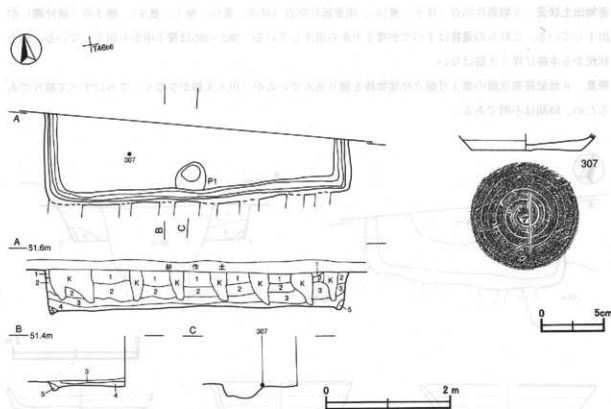
覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- |       |           |       |              |
|-------|-----------|-------|--------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量   | 4 黒褐色 | ローム粒子微量      |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量   | 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 |       |              |

遺物出土状況 土師器片1点(甕), 須恵器片1点(坏)が出土している。これらの遺物は南西部の覆土下層を中心に出土している。307は南西部の覆土下層から出土している。

所見 規模と形状から平安時代の可能性があるが, 遺構の全容が不明で, 出土土器も少なく, さらにすべて細片であるため, 時期は不明である。



第318図 第93号住居跡・出土遺物実測図

第93号住居跡出土遺物観察表 (第318図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
307	須恵器	坏	-	(1.2)	8.7	長石・石英	灰白	普通	ロクロ整形, 底部回転ヘラ切り	南西部下層	30% ヘラ書き PL.82

第106号住居跡 (第319図)

位置 中央1区西部北寄りのS43d8区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第4号掘立柱建物跡を掘り込み, 第13号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており, 中央部が第13号井戸に掘り込まれているため全容は不明であり, さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため, 遺存状態は不良である。確認できた規模は東西軸が3.14m, 南北軸が1.37mで, 平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向である東西軸はN-75°-Wである。壁高は58cmほどで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

炉・竈 確認されていない。

ピット 確認されていない。

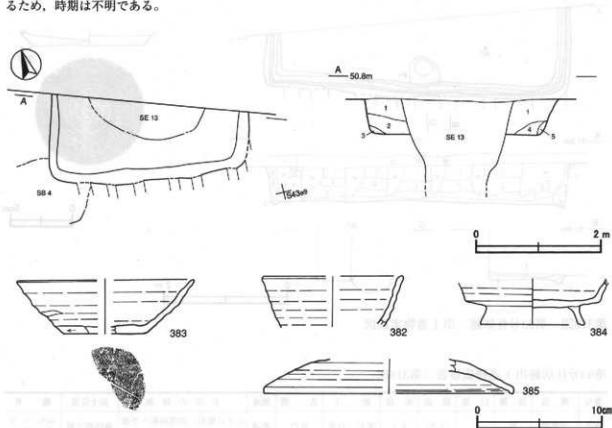
覆土 5層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |          |                    |          |           |
|----------|--------------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色    | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色     | ロームブロック中量          | 5 褐色     | ローム粒子中量   |
| 3 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量            |          |           |

遺物出土状況 土師器片25点(坏9, 甕16), 須恵器片55点(坏35, 蓋10, 盤1, 甕9), 礫3点(破碎礫)が出土している。これらの遺物はすべてが覆土中から出土している。382~385は覆土中から出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見 8世紀後葉以前の第4号掘立柱建物跡を掘り込んでいるが、出土土器が少なく、さらにすべて細片であるため、時期は不明である。



第319図 第106号住居跡・出土遺物実測図

第106号住居跡出土遺物観察表(第319図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
382	須恵器	坏	[11.0]	(4.0)	-	灰白	灰白	普通	ロクロ整形	覆土中	10%
383	須恵器	坏	[13.8]	(4.3)	[6.4]	長石	灰	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	覆土中	20% ヘラ記号「-」
384	須恵器	高台付坏	-	(3.3)	[8.0]	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後高台貼り付け、ナデ	覆土中	60%
385	須恵器	蓋	[19.8]	(2.7)	-	白色粒子・微塵	灰	普通	ロクロ整形、天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%

第107号住居跡(第320図)

位置 中央1区西部北寄りのS43c6区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、トレンチャーによる掘削を受けているため、遺存状態は不良で

ある。確認できた規模は東西軸が3.85m、南北軸が1.36mで、平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向である東西軸はN-98°-Eである。壁高は44cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は深さ10cmで、確認された壁際を巡っている。

炉・竈 確認されていない。

ピット 確認されていない。

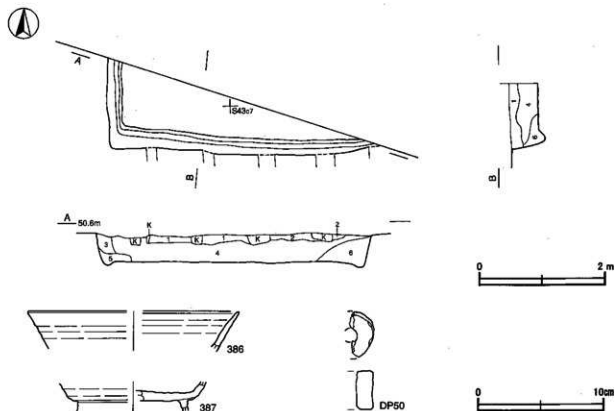
覆土 6層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |          |                          |          |                       |
|----------|--------------------------|----------|-----------------------|
| 1 暗褐色    | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子・粘    | 4 暗褐色    | ロームブロック・粘土粒子中量、炭土粒子・炭 |
|          | 土粒子微量                    |          | 化粒子少量                 |
| 2 暗褐色    | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 黒褐色    | ロームブロック・炭化粒子微量        |
| 3 におい黄褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量      | 6 におい黄褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量   |

遺物出土状況 土師器片28点(坏2, 甕26)、須恵器片16点(坏9, 甕7)、土製品1点(紡錘車)、礫5点(破砕礫)が出土している。これらの遺物は386・387・DP50を含めほとんどが覆土中から出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見 本跡に伴う土器がなく、時期は不明である。



第320図 第107号住居跡・出土遺物実測図

第107号住居跡出土遺物観察表 (第320図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
386	土師器	坏	[16.4]	(3.1)	-	長石・黒色粒子	におい黄褐色	普通	ロクロ整形	覆土中	10%
387	須恵器	高台付坏	-	(2.4)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後高台貼り付け、ナデ	覆土中	10%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
DF50	紡錘車	[3.4]	[1.0]	3.1	(24.7)	土製	円柱形, ナテ	覆土中	

### 第114号住居跡 (第321図)

位置 中央2区東部のU49i8区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第17号住居・第20号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第17号住居に掘り込まれているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸が4.54m、短軸が4.51mで、平面形は方形と推測される。長軸方向はN-17°-Wである。壁高は10~14cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦であり、あまり踏み固められていない。壁溝は確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

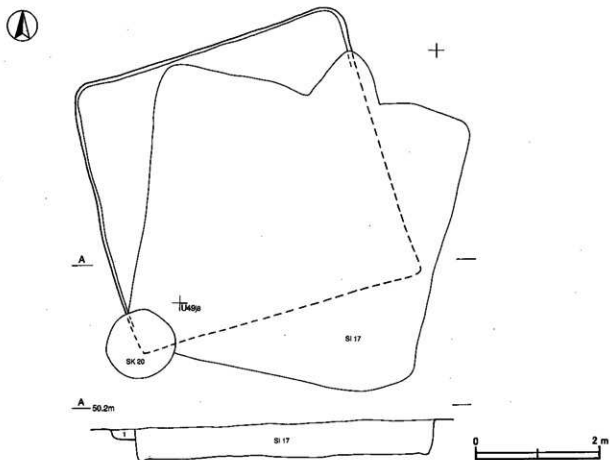
覆土 単一層である。覆土が薄く、残存部分が流れ込んだ様相が見られることから自然堆積と考える。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック混量

遺物出土状況 土師器片5点(莖)、炭化材が出土している。これらの遺物はほとんどが覆土中から出土している。出土した土器はハケ目調整がある土師器莖の体部細片であるが、図示できるような遺物はない。

所見 9世紀中葉の第17号住居に掘り込まれていることから、9世紀中葉以前である。出土土器からは古墳時



第321図 第114号住居跡実測図

代前期の可能性も考えられる。

## (2) 方形竪穴遺構

### 第5号方形竪穴遺構 (第322図)

**位置** 中央2区中央部のU49e3区に位置し、台地の微斜面部に立地している。

**規模と形状** トレンチャーによる掘削を受けているが、遺存状態は比較的良好である。規模は長軸3.35m、短軸2.67mの長方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は浅く4~9cmほどで、外傾して立ち上がっている。

**床** ほぼ平坦で、中央部がわずかに踏み固められている。壁溝は確認されていない。床面の中央部から北東コーナー寄りに、被熱で赤変した部分の確認されている。確認できた規模は、南北軸が130cm、東西軸が13cmの長方形であるが、掘削で残存部分が少なく、全容は不明である。位置・規模や形状から炉とは考えにくく、赤変の状況から長期間・長時間に火気が使用されたのではなく、一時的な使用と考えられる。

#### 被熱部分土層解説

- |                         |                               |
|-------------------------|-------------------------------|
| 1 明赤褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | 3 にぶい赤褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 明赤褐色 焼土粒子少量、ロームブロック微量 |                               |

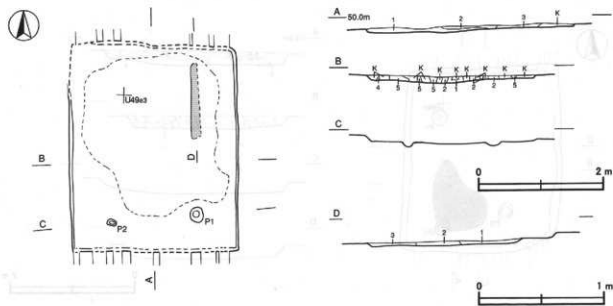
**ピット** 2か所。P1・P2とも深さ7cmと浅く、中央部から南東コーナー部寄り・南西コーナー部寄りにそれぞれ位置することから主柱穴と考えられるが、対応する柱穴が確認されず、その性格は不明である。

**覆土** 5層からなる。覆土が浅いが、ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

#### 土層解説

- |                 |                         |
|-----------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 黒褐色 ローム粒子少量、ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量、ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子微量   |                         |

**遺物出土状況** 土師器片38点(坏5, 甕33), 須恵器片6点(坏3, 甕3), 陶器片1点(皿), 瓦質土器片1点(鉢), 鉄滓9点, 礫6点(破砕礫; 被熱痕5)が出土している。これらの遺物は北東部の覆土下層を中心に出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。



第322図 第5号方形竪穴遺構実測図



所見 出土土器が細片であるため、時期は不明である。周辺の住居跡と形状が異なり、北東コーナー部の床面から被熱による赤変した部分が確認されていることと、本跡が第10～18号方形竪穴遺構などの鑄造関連遺構群から東へ2mの位置にあることから、鑄造関連遺構群との関係も考えられる。

### 第6号方形竪穴遺構 (第323図)

位置 中央部西寄りのT46j3区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第156号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 規模は長軸2.94m、短軸2.51mの長方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は16～20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、あまり踏み固められていない。壁溝は確認されなかった。粘土の広がりが中央部から南東コーナー部にかけて確認された。その用途については不明である。図示できなかったが、中央部が掘りくぼめられ、その部分にロームブロックを含む暗褐色土を埋まし、床面が構築されている。

竪穴 確認されなかった。

ピット 3か所。P1～P3は深さ11～27cmで、中央部からコーナー部寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。

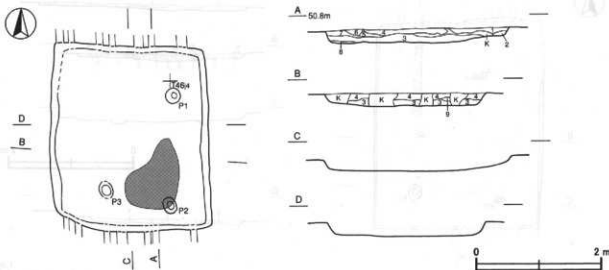
覆土 9層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

#### 土層解説

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 ロームブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量   | 7 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量      | 8 黒褐色 ロームブロック微量    |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量        | 9 黒褐色 ロームブロック微量    |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量      |                    |

遺物出土状況 土師器片21点(高坏1, 甕20), 須恵器片5点(坏2, 甕3), 陶器片1点(椀), 粘土塊1点, 礫8点(破砕礫; 被熱痕5)が出土している。これらの遺物はすべて覆土中から出土している。出土遺物は細片で、図示できるようなものはない。

所見 出土土器は細片であり、時期の判断は困難である。性格は床面が硬化していないことや日常雑器の出土



第323図 第6号方形竪穴遺構実測図

が少ないことから、住居跡のように日常的に使用された場所ではないと考えられる。また、中央部の床面下で確認された第156号土坑は本跡の付随する施設の可能性がある。

### 第7号方形竪穴遺構（第324図）

**位置** 中央2区中央部のT45i3区に位置し、台地の平坦部に立地している。

**重複関係** 第162・168・302号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 第162・168・302号土坑に掘り込まれ、さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状況は不良である。確認できた規模は長軸3.15m、短軸3.10mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は8~16cmほどで、外傾して立ち上がっている。

**床** は平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

**竈・炉** 確認されなかった。

**ピット** 8か所。P1・P4・P7は深さ22・23・40cmで、北東・北西・南東コーナー付近に位置することから主柱穴と考えられる。P2・P3は深さ22・36cmで、P1とP7の間、P1とP4の間に位置することから、補助柱穴の可能性があり、P5・P6・P8は対応する柱穴が確認できないことから、その性格は不明である。

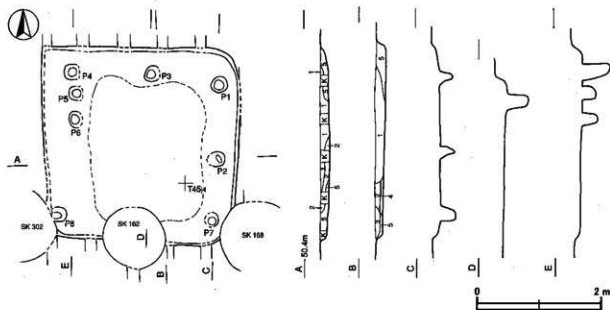
**覆土** 5層からなる。覆土が薄く、わずかな残存部分からロームブロックを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

#### 土層解説

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量   | 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量        | 5 黒褐色 ロームブロック微量      |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 |                      |

**遺物出土状況** 土師器片5点（坏1，甕4），粘土塊1点が出土している。これらの遺物はすべて覆土中から出土している。出土遺物はすべてが細片で、図示できるものはない。出土状況から本跡に伴う土器はない。

**所見** 出土土器が少なく、さらに細片であるため、時期は不明である。性格は炉・竈がないが、床面は踏み固められ、柱穴が南方向に開くコの字状になっていることから、通常の住居ではなく何らかの施設であった可能



第324図 第7号方形竪穴遺構実測図

性がある。柱穴がこのような配置である遺構は当遺跡では唯一である。

### 第8号方形竪穴遺構 (第325図)

位置 中央2区西部のT43g0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 規模は長軸3.94m、短軸3.91mの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は13~20cmほどで、ほぼ直立している。

床 ほは平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

ピット 4か所。P1~P4は深さ46~58cmで、各コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。

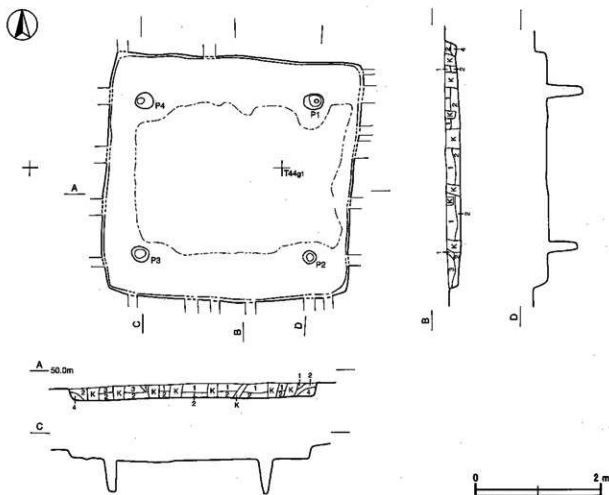
覆土 4層からなる。ロームブロックを含む人為堆積を示している。

#### 土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 3 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片3点(坏2, 甕1), 須恵器片3点(坏1, 甕2)が出土している。これらの遺物は覆土中から出土している。出土土器はすべて細片で、図示できるようなものはない。

所見 本跡は中央部の床面が硬化しているが、炉・竈は確認されていない。一般の住居とは異なる様相を持ち、その使用目的については不明である。出土土器が少なく、さらにすべて細片であるため、時期は不明である。



第325図 第8号方形竪穴遺構実測図

第9号方形竪穴遺構 (第326図)

位置 中央1区中央部のT44d2区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる擾乱を受けているが、遺存状態は比較的良好である。規模は長軸2.60m、短軸2.40mの方形で、壁高は60cmである。主軸方向はN-3°-Eで、壁はほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉・竈 確認されなかった。

ピット 確認されなかった。

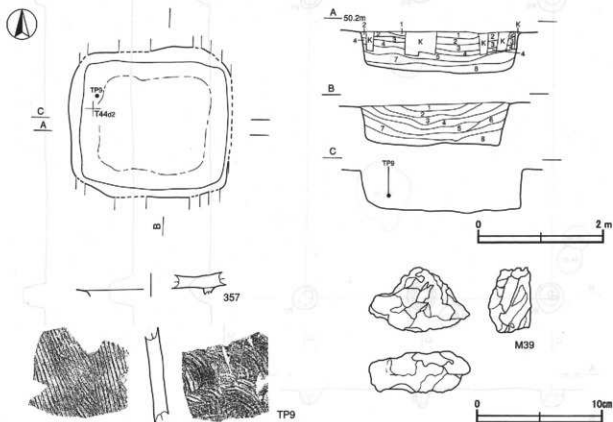
覆土 8層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- |       |           |          |           |
|-------|-----------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 褐色     | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量 | 6 暗褐色    | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック多量 | 7 黒褐色    | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片20点(坏4・甕16)、須恵器片12点(坏6、盤1、甕5)、鉄製品1点(不明)、鉄滓1点(流動滓)、礫3点(破碎礫)が出土している。これらの遺物は北西部の覆土下層を中心に出土している。357・M39は覆土中、TP9は北西コーナー部の覆土下層から、それぞれ出土している。出土状況から本跡に伴うものはない。

所見 出土土器が少なく、細片であるため、時期は不明である。性格は規模と形状及び出土遺物などから、住居跡ではなく、工房や貯蔵施設などのような場所であった可能性がある。



第326図 第9号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第9号方形竪穴遺構出土遺物観察表 (第326図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
357	須恵器	高台付 坏	-	(0.7)	-	長石・石英・ 黒色粒子	灰白	普通	ロクロ整形	覆土中	10% 見込 み自然釉

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP9	須恵器	甕	-	(8.0)	-	長石	灰	普通	外面は斜位の平行叩き、内面 は同心円状の当て具痕	北西部下層	PL77

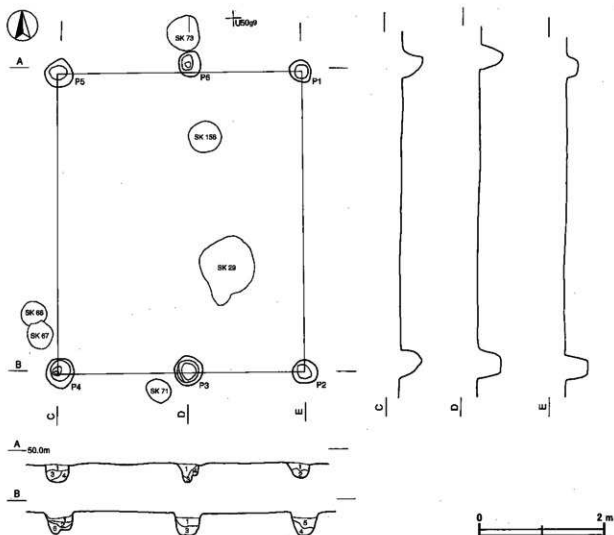
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M39	鉄滓	(7.9)	(5.2)	(3.4)	(96.0)	鉄	空気排出口が多数、一部錆付着	覆土中	PL100

(3) 掘立柱建物跡

第2号掘立柱建物跡 (第327図)

位置 東区のU50g8区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 重複している第29・67・68・71・73・158号土坑とは切り合いがなく、新旧関係は不明である。



第327図 第2号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行1間(4.8m)、梁間2間(3.9m)の側柱式の建物跡で、桁行方向はN-2°-Eの南北棟である。柱間寸法は桁行4.8m、梁間約1.95mで、面積は18.72㎡である。

柱穴 6か所(P1~P6)で、平面形は長径0.36~0.48、短径0.34~0.45mの楕円形または円形である。断面形は逆台形あるいはU字状を呈し、深さ16~36cmである。なお、柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。柱材の寸法は不明である。

土層解説

1 黒色	ロームブロック少量	4 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック中量	5 黒色	ロームブロック中量
3 黒色	ロームブロック微量	6 暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片1点(高坏)がP6から出土している。出土遺物は細片で、図示できるものではない。所見 掘り方の規模と柱間寸法には規則性があるが、性格などについては不明である。また、桁行の柱間1間で、他の掘立柱建物跡とは異なることから、時期も明確ではない。

(4) 井戸跡

第13号井戸跡(第328図)

位置 中央1区北西部のS43d8区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第106号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているため、確認できた規模は上部が長径1.81m、短径0.58mで、平面形は楕円形と推測でき、長径方向はN-71°-Wである。確認面から深さ1.08mまで漏斗状に掘り込み、下部は長径1.04m、短径0.24mで、平面形は楕円筒形あるいは円筒形に掘り込まれていると推測できる。確認面から1.34mまで掘り込んだ時点で湧水のため、それ以下の調査を中止した。

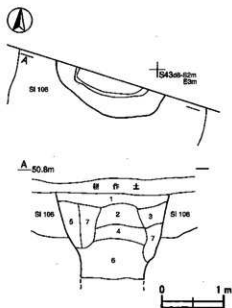
覆土 7層からなり、ロームブロック・粘土ブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック中量
5 褐色	ロームブロック少量
6 暗褐色	ロームブロック少量
7 暗褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量

遺物出土状況 出土遺物はない。

所見 8世紀中葉以降の第106号住居跡が完全に埋没した後に掘り込んでいることから、時期は8世紀中葉以降であるが、詳細は不明である。



第328図 第13号井戸跡実測図

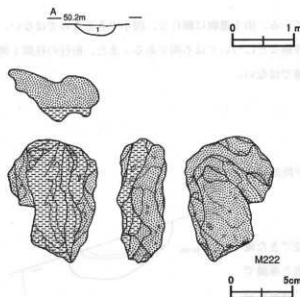
(5) 溝跡

第2号溝跡 (第329図・付図)

位置 東区西部のU51g3区からV51h4区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第5号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 V51h4区以南は調査区域外に延びている。V51h4区から北西方向(N-12°-W)にはほぼ直線的に延びている。規模は長さ42.0mで、上幅0.35~0.80m、下幅0.10~0.40m、深さ17~20cmである。形状は底面がほぼ平坦で、壁面が外傾に立ち上がり、逆台形状をしている。



第329図 第2号溝跡・出土遺物実測図

覆土 単一層である。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片59点(坏9, 甕48, 高坏2), 須恵器片20点(坏12, 蓋3, 甕5), 炉壁片10点(262g), 鉄滓10点(313g)〔炉内溶解物9(177g), 流動滓1(136g)〕, 石器3点(砥石), 粘土塊1点, 礫7点, 貝片1点(二枚貝)が出土している。M222は覆土中から出土している。

所見 出土遺物は、いずれも流れ込みによって混入したもので、時期及び性格は不明である。等高線に直交して位置し、台地から低地へ向かっているの、排水の役割を持っていた可能性がある。

第2号溝跡出土遺物観察表 (第329図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M222	流動滓	(9.8)	(7.2)	(3.9)	(136.1)	鉄	黒褐色をしたガラス質の光沢と青灰色の着磁性のある部分あり	覆土中	土師

第4号溝跡 (第330・331図・付図)

位置 東区南東部のV52g8区からV51i0区に位置し、台地の斜面部に立地している。

規模と形状 V51i0区から東方向(N-75°-E)にはほぼ直線的に延びている。規模は長さ37.68mで、上幅0.31~1.24m、下幅0.18~1.12m、深さ22~25cmである。形状は底面がほぼ平坦で、壁面が外傾して立ち上がり、逆台形状を呈している。

覆土 4層からなる。北西部から流れ込んだ堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

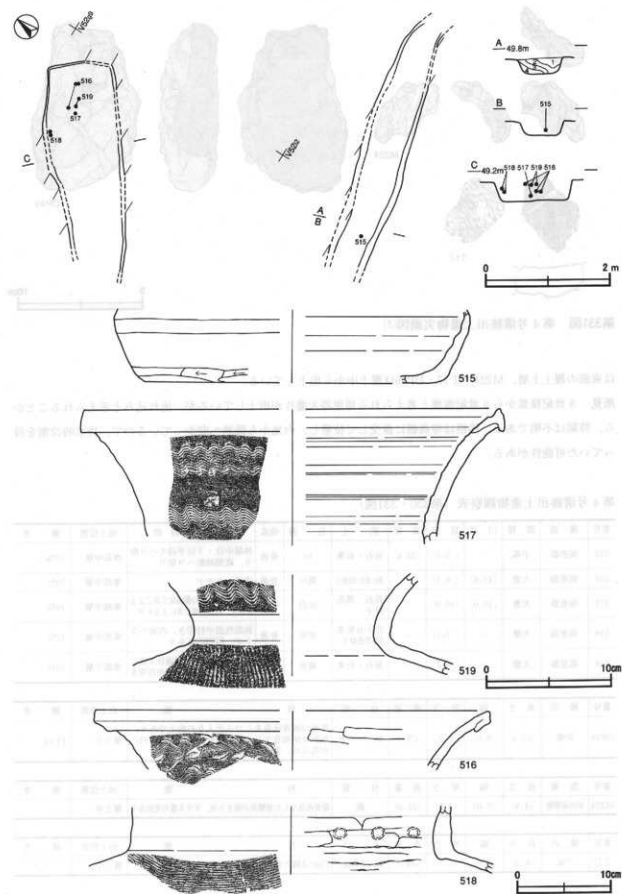
1 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量

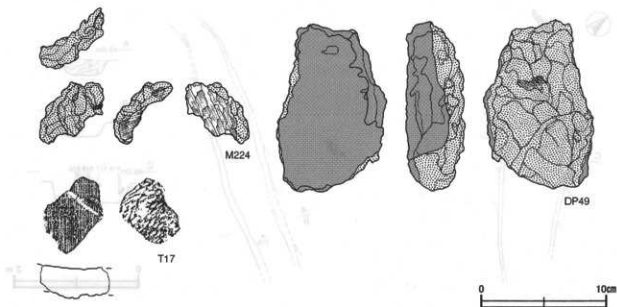
4 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片29点(坏3, 甕26), 須恵器片120点(坏4, 短頸壺2, 甕114), 炉壁片30点(1324g), 鉄滓11点(91g)〔炉内溶解物3(29g), 流動滓7(52g), 白色滓1(10g)〕, 瓦片1点(平瓦), 礫16点(破砕礫)が全域にわたって散在した状態で出土している。515は西部の覆土中層, 516~518は東部の覆土中層, 519



第330图 第4号溝跡・出土遺物実測図(1)





第331図 第4号溝跡出土遺物実測図(2)

は東部の覆土上層, M224・T17・DP49は覆土中から出土している。

所見 8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる須恵器大甕片が出土しているが, 流れ込みと考えられることから, 時期は不明である。性格は等高線に直交して位置し, 台地から低地へ向かっているの, 排水的役割を持っていた可能性がある。

第4号溝跡出土遺物観察表(第330・331図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
515	須恵器	平瓶	-	(5.8)	[23.4]	長石・石英	灰	普通	体部中位・下位手持ちヘラ削り, 底部回転ヘラ切り	西部中層	10%
516	須恵器	大甕	[41.6]	(6.4)	-	長石・黒色粒子	褐灰	普通	内面ヘラナデ	東部中層	10%
517	須恵器	大甕	[33.0]	(10.9)	-	長石・黒色粒子	灰白	普通	頸部10mm1単位の櫛歯状工具による波状文, 内面平状工具によるナデ	東部中層	10%
518	須恵器	大甕	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	普通	体部外面平行叩き, 内面ヘラナデ, 指痕圧痕あり	東部中層	10%
519	須恵器	大甕	-	(6.7)	-	長石・石英	黄灰	普通	頸部10mm1単位の櫛歯状工具による波状文, 体部外面平行叩き	東部上層	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP49	加壁	(13.4)	(8.8)	(6.2)	(377.0)	粘土・スサ	外面は暗青灰色をしたスサ入りの粘土であり, 内面は暗褐色をした半溶解状鉄が付着し, 凹凸が見られ, 着磁性は弱い	覆土中	PL94

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M224	内溶解物	(4.9)	(5.0)	(3.2)	(21.0)	鉄	暗青灰色をした溶解鉄が密まり状, ガラス質の光沢あり	覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T17	平瓦	(6.3)	(5.5)	(6.3)	(564.0)	長石・黒色粒子	凸面は縄の斜位の叩き目, 凹面は布目痕	覆土中	

### 第13A号溝跡 (第332図・付図)

位置 中央2区中央部のU47d5区からU47c6区に位置し、台地の斜面部に立地している。

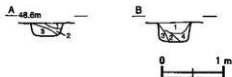
重複関係 第13B号溝に掘り込まれている。

規模と形状 U47d5区から北東方向(N-58°-W)にはほぼ直線的に延び、さらにU47c6区で北方向(N-80°-W)に屈曲し、第13B号溝跡と繋がる。確認できた規模は長さ6.95mで、上幅0.39~0.58m、下幅0.27~0.40m、深さ20cmである。形状は底面がほぼ平坦で、壁面が外傾して立ち上がり、逆台形状である。底面は北西から南東へ下がる。

覆土 3層からなる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量



第332図 第13A・B号溝跡実測図

遺物出土状況 土師器片7点(坏1, 甕6), 須恵器片2点(坏),

礫12点(被熱痕あり), 炉壁片50点(1105g), 羽口片1点(25g),

鉄滓54点(558g)(炉内溶解物42(471g), 流動滓1(13g), 白色滓11(74g)), 粘土塊2点(8g)が出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。

所見 中央2区中央部にある埋没谷の西側の斜面部に位置し、斜面の等高線に直交して位置していること、断面逆台形状を呈しているながら、第13B号溝跡同様に不規則な形状をしていることから、排水的役割を持っていたと考えられる。この施設は確認できなかったが、第2号排滓場に流れ込んでいることから、銕造に関連した遺構の可能性が考えられる。出土遺物が細片であり、時期については不明である。

### 第13B号溝跡 (第332図・付図)

位置 中央2区中央部のU47e6区からU47c6区に位置し、台地の斜面部に立地している。

重複関係 第13A号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 U47d5区から北西方向(N-21°-E)にはほぼ直線的に延び、第13A号溝跡と繋がる。確認できた規模は長さ7.95mで、上幅0.48~0.97m、下幅0.33~0.80m、深さ30cmである。形状は底面がほぼ平坦で、壁面が外傾して立ち上がり、逆台形状である。底面は北西から南東へ下がる。

覆土 4層からなる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 中央2区中央部にある埋没谷の西側の斜面部に位置し、斜面の等高線に直交して位置していること、断面逆台形状を呈しているながら、第13A号溝跡同様に不規則な形状をしていることから、排水的役割を持っていたと考えられる。この施設は確認できなかったが、第2号排滓場に流れ込んでいることから、銕造に関連した遺構の可能性が考えられる。時期については不明である。

### 第16号溝跡 (第333図・付図)

位置 中央2区中央部のT46i9区からT47j1区に位置し、台地の斜面部に立地している。

重複関係 第41号住居跡・第4号不明遺構を掘り込んでいる。



規模と形状 長径0.57m, 短径0.50mの楕円形である。深さは32cmであり, 底面は皿状で, 壁は直立している。長径方向はN-26°-Wである。

覆土 単一層である。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 石器1点(砥石)が覆土中から出土している。

所見 4世紀後半の第24号住居跡を掘り込んでいることから, 時期は4世紀後半以降であるが, 詳細な時期及び性格は不明である。

第24号土坑出土遺物観察表 (第334図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	位置	出土位置	備考
Q37	凹石	16.8	14.9	5.5	1380.0	泥岩	凹面1か所, 下部割離		覆土中	

第62号土坑 (第335図)

位置 東区のV52f1区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第118号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径1.32mの円形で, 深さは48cmである。底面はわずかに凸凹があり, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

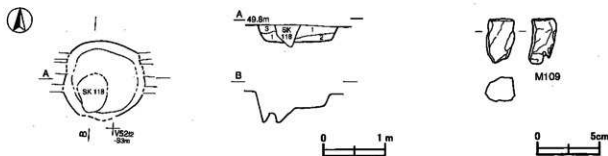
1 黒色 ロームブロック微量

3 暗褐色 ロームブロック中量

2 黒色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片5点(甕), 須恵器片7点(坏2・甕5), 鉄製品1点(不明), 炉壁片7点が覆土中から出土している。

所見 遺物は人為堆積による混入であり, 時期及び性格は不明である。



第335図 第62号土坑・出土遺物実測図

第62号土坑出土遺物観察表 (第335図)

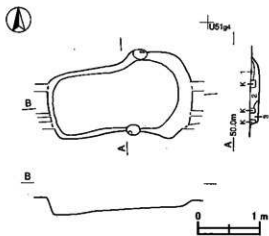
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	位置	出土位置	備考
M109	不明	(3.5)	(2.3)	(1.9)	(11.0)	鉄	全面破断面		覆土中	PL100

### 第92号土坑 (第336図)

位置 東区西部のU51g3区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 長軸2.30m、短軸1.05mの長方形である。深さは26cmで、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-79°-Eである。ピットが南・北壁の中央部にそれぞれ付設されている。ピットは径20cmの円形で、深さは32cmであり、本跡に伴うものと考えられるが、その性格は不明である。

覆土 3層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。



#### 土層解説

- |       |           |
|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片2点(甕), 須恵器片1点(坏)が覆土中から出土している。これらの遺物は埋没過程で混入したものと考えられ、出土状況から本跡に伴う遺物はない。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。

所見 南北両壁の中央部にピットを有した長方形の土坑である。出土している土師器片・須恵器片は混入したものであり、時期は不明である。近隣には中世の遺構が確認されており、中世の遺構との関連が考えられる。

第336図 第92号土坑実測図

### 第94号土坑 (第337図)

位置 東区のV51f4区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.27m、短径1.14mの楕円形である。深さは15cmで、底面はほぼ平坦で、壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN-22°-Wである。

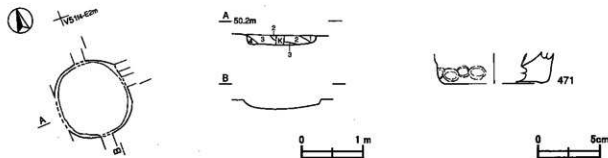
覆土 4層からなる。西部から流れ込んだ堆積状況を示した自然堆積である。

#### 土層解説

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量   | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片1点(手捏土器)が覆土中から出土している。471は底部外面に木葉痕を有し、また体部外面下端に指頭圧痕がある。

所見 時期及び性格については不明である。



第337図 第94号土坑・出土遺物実測図

第94号土坑出土遺物観察表 (第337図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
471	土師器	手置土器	-	(2.4)	[8.6]	長石・赤色 粒子	にぶい褐	普通	体部外面下縁指頭圧痕, 内面 多方向ヘラナデ	覆土中	10% 底部 木葉痕

第114号土坑 (第338図)

位置 中央2区南東部のU50j4区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第113号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.30m, 短軸1.67mの長方形である。深さは32cmで、底面にわずかに凸凹が見られ、壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-4°-Wである。

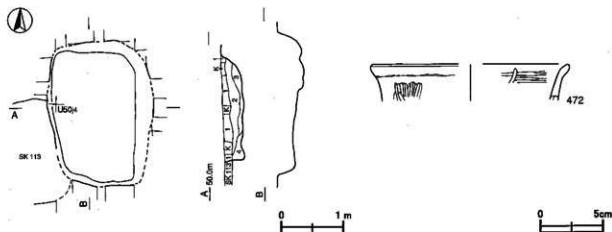
覆土 4層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量        | 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量 |
| 2 黒褐色 炭化物中量, ロームブロック少量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量        |

遺物出土状況 土師器片13点 (坏3・高坏1・甕9), 須恵器片3点 (坏2・短頸壺1) が覆土中から出土している。

所見 遺物は人為堆積により混入したもので、時期及び性格については不明である。



第338図 第114号土坑・出土遺物実測図

第114号土坑出土遺物観察表 (第338図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
472	土師器	甕	[15.4]	(2.9)	-	黒色粒子・ 赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内外面ヘラ磨き	覆土中	10%

第182号土坑 (第339図)

位置 東区のV49a8区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第210・266・267号土坑を掘り込み、第209号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.15m, 短径0.85mの楕円形である。深さは19cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して

立ち上がっている。長径方向はN-7°-Eである。

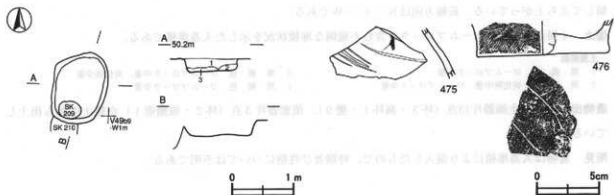
覆土 3層からなる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片1点(壺), 土師器片11点(坏1・甕10), 須恵器片11点(坏8・甕3)が覆土中から出土している。475は土師器甕の体部片で, 判読不明の墨書(「□」)がある。出土状況から本跡に伴うものはない。

所見 時期及び性格については不明である。

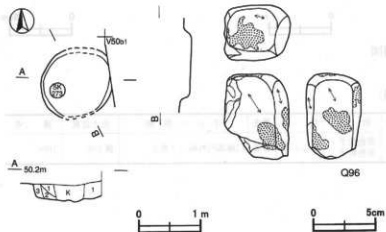


第339図 第182号土坑・出土遺物実測図

第182号土坑出土遺物観察表 (第339図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
475	土師器	甕	(3.2)	-	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面ヘラナデ	覆土中	5% 墨書「□」
476	弥生土器	壺	-	(2.6)	[10.2]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	付加糸一種(付加2糸)の縄文を施文	覆土中	5% 木葉痕

第194号土坑 (第346図)



第340図 第194号土坑・出土遺物実測図

位置 東区のV49b0区に位置し, 台地の平坦部に立地している。

重複関係 第273号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.16m, 短径1.09mの楕円形である。深さは25cmで, 底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-30°-Eである。

覆土 3層からなる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

## 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 3 黒褐色 ローム粒子微量  
2 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片4点(甕), 石器1点(砥石)が覆土中から出土している。Q96は覆土中から出土している。

所見 遺物は人為堆積による混入したもので、時期及び性格は不明である。

## 第194号土坑出土遺物観察表(第340図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q96	砥石	(6.8)	(5.2)	(4.3)	(234.0)	泥岩	砥面3面二方向	覆土中	運動神経骨片

## 第304号土坑(第341図)

位置 中央1区東部のT45c3区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.03m, 短径0.99mの円形である。深さは34cmであり、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長径方向はN-45°-Eである。東部の底面から斜め下位へ掘り込まれたピットが確認された。ピットの規模は長径0.24m, 短径0.18mの楕円形で、長さ0.32m, 比高差0.12mである。ピットの長径方向はN-88°-Eである。底面は緩やかな傾斜をしており、奥壁は直立して立ち上がった後、内傾している。

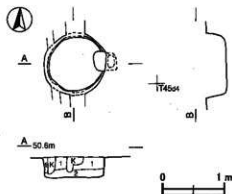
覆土 2層からなる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

## 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量  
2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 出土遺物がなく、時期及び性格については不明である。周辺には同様な形状をした第306・308・316・317号土坑があり、それらとの関係が考えられる。特に第317号土坑から人骨が出土しており、墓塚の可能性もある。



第341図 第304号土坑実測図

## 第306号土坑(第342図)

位置 中央1区のT45c0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.03m, 短径0.99mの円形である。深さは34cmで、底面はほぼ平坦で、壁は直立している。長径方向はN-85°-Wである。ピットの長径方向はN-77°-Eである。底面は緩やかな傾斜をしており、奥壁は垂直に立ち上がった後、内傾して確認面にいたる。

覆土 7層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

## 土層解説

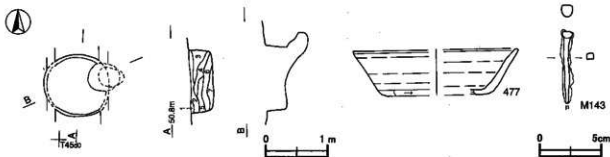
- 1 黒褐色 ロームブロック微量 5 黒褐色 ロームブロック少量  
2 黒褐色 ローム粒子微量 6 暗褐色 ロームブロック中量  
3 黒褐色 ロームブロック少量 7 明褐色 ロームブロック中量  
4 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片1点(甕), 須恵器片2点(坏・甕), 鉄製品1点(釘), 骨片が覆土中から出土している。M143は覆土中から出土している。

所見 時期及び性格については不明である。8世紀代の須恵器坏片が出土しているが、周辺には墓塚があり、



さらに同様の形状をしている第317号土坑の底面から人骨片が出土していることから、墓塚の可能性もある。



第342図 第306号土坑・出土遺物実測図

第306号土坑出土遺物観察表 (第342図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
477	須恵器	坏	[12.9]	3.6	[8.4]	長石・石英・炭母	黄灰	普通	体部下端手持ちへつ削り、底部多方向へつ削り	覆土中	10%

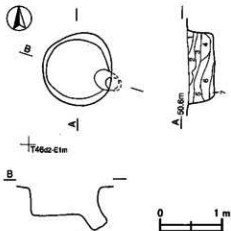
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
M143	釘	(5.7)	1.0	0.5	(7.1)	鉄	角釘、先端部欠損		覆土中	

第308号土坑 (第343図)

位置 中央1区東部のT46c2区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 長径1.17m、短径1.14mの円形である。深さは45cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は直立している。長径方向はN-17°-Eである。東部の壁面から底面の境界部の斜め下位へ掘り込まれたピットが確認されている。ピットの規模は長径0.40m、短径0.24mの楕円形である。長さは0.40m、比高差0.32mで、長径方向はN-69°-Eである。底面は平坦で、奥壁は底面から直立して内傾気味に立ち上がり確認面になっている。

覆土 7層からなる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。



土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量
- 7 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土器器片2点(坏・甕)、須恵器片4点(坏)、鉄製品2点(不明)が覆土中から出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。

所見 出土遺物が少なく、細片であるため、時期及び性格については不明である。周辺には同様な形状をした第304・306・316・317号土坑があり、それらとの関係が考えられる。特に第317号土坑から人骨が出土しており、墓塚の可能性もある。

第343図 第308号土坑実測図

### 第316号土坑 (第344図)

位置 中央1区東部のT45c1区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 トレンチャーによる視察を受けており、確認できた規模は長径1.30m、短径1.25mの円形である。深さは62cmであり、底面は中央部がわずかにくぼみ、壁はわずかに外傾して立ち上がっている。長径方向はN-48°-Wである。東部の壁面と底面の境界部の斜め下位へ掘り込まれたピットが確認された。ピットの規模は径0.24mの円形であり、長さは0.40mである。長径方向はN-80°-Eである。底面はほぼ平坦で、奥壁は垂直に立ち上がり、内傾して確認面にいる。

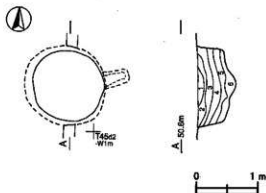
覆土 6層からなる。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 におい黄褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量
- 6 黄褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片5点(壺)、鉄製品1点(不明)が覆土中から出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるものはない。

所見 出土遺物が少なく、細片であるため、時期及び性格については不明である。周辺には同様な形状をした第304・306・308・317号土坑があり、それらとの関係が考えられる。特に第317号土坑から人骨が出土しており、墓塚の可能性もある。



第344図 第316号土坑実測図

### 第317号土坑 (第345図)

位置 中央1区東部のT45c2区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 長径0.93m、短径0.81mの楕円形である。深さは45cmであり、底面はわずかに凸凹で、壁はほぼ直立している。長径方向はN-77°-Wである。北壁の壁面と底面の境界部の斜め下位へ掘り込まれたピットが確認された。ピットの規模は径0.20mの円形である。長さは0.38mであり、長径方向がN-20°-Eである。底面はほぼ平坦で、奥壁は底面から垂直に立ち上がった後、内傾して確認面にいる。

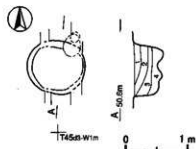
覆土 4層からなる。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物・骨片微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、骨片微量
- 4 におい黄褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 骨片が出土している。出土遺物は人骨片だけで、図示できるような状況でない。

所見 本跡は人骨片が出土していることから、墓塚の可能性がある。他の出土遺物がないため、時期は不明である。周辺には同様な形状をした第304・306・308・316号土坑があり、それらとの関係が考えられる。



第345図 第317号土坑実測図

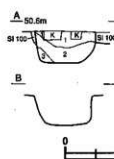
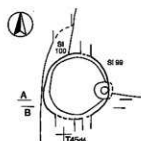
### 第318号土坑 (第346図)

位置 中央2区のT45c4区に位置し、緩やかな傾斜の台地平坦部に立地している。

重複関係 第99・100号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.05m, 短径1.00mの円形である。深さは45cmで、底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長径方向はN-23°-Eである。

覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。



土層解説		
1	黒褐色	ロームブロック少量
2	黒褐色	ロームブロック微量
3	黒褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片1点(壺), 鉄製品3点(不明)が覆土中から出土している。

所見 9世紀中葉と推定される第99号住居跡を掘り込んでいることから、時期はそれ以降と考えられるが、詳細については不明である。

第346図 第318号土坑実測図

### 第334号土坑 (第347図)

位置 中央1区北西際S43c4区に位置し、台地の平坦部に立地している。

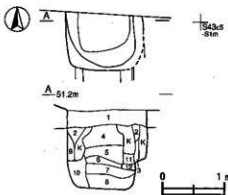
規模と形状 北部が調査区域外へ延びており、確認できた規模は長軸1.39m, 短軸0.90mで、平面形は長方形あるいは方形と推測される。深さは確認面から74cmで、調査区域際の土層から125cmであったと推定される。

底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。長軸方向はN-86°-Wである。

覆土 12層からなる。第1層は耕作土で、第2~6層は締まりの弱い層であるのに対して、第7~12層はロームを含み締まりが強く、黒褐色土と暗褐色土が互層になっている。すべての土層は不規則な堆積状況を示していることから人為堆積であり、掘立柱建物跡の柱穴の可能性はある。

#### 土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	10	黒褐色	炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
6	黒褐色	ロームブロック微量	12	褐色	ロームブロック少量



遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡は今年度報告をする調査区域の北西際にある、全容が不明な上に出土遺物がなく、時期判断は困難である。性格は覆土の状況と周辺に8世紀中葉と推定される掘立柱建物跡が5棟あり、その柱穴の土層と類似しており、埋土と考えられる第7~12層が黒褐色土と暗褐色土が互層であることなどから、掘立柱建物跡の柱穴と考えられる。南東部への伸長は見られず、西北部へ延びていると考えられる。

第347図 第334号土坑実測図

### 第360号土坑（第348図）

位置 中央2区西部のU45b3区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第359号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径3.19m、短径1.11mで、平面形は楕円形あるいは円形と推測される。深さは53cmであるが、底面は調査区域外にあり、確認できなかった。壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-86°-Wである。

覆土 2層からなる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

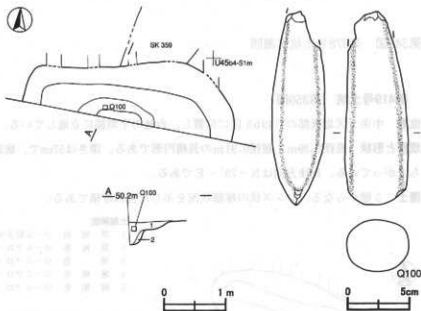
- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片1点

(欠)、石器1点（磨製石斧）が覆土中から出土している。

Q100は中央部の覆土上層から出土しているので、混入したものと考えられる。

所見 出土遺物からの時期判断は困難である。形状は大形で円形を呈すると推測されることから、隣接する第14号井戸跡と類似する井戸跡の可能性もある。



第348図 第360号土坑・出土遺物実測図

### 第360号土坑出土遺物観察表（第348図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特	数	出土位置	備考
Q100	磨製石斧	(15.4)	5.0	4.2	(480.0)	緑泥岩	輪刃型、基部欠損	—	中央部上層	Pl.87

### 第378号土坑（第349図）

位置 中央2区中央部西寄りのU45a5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第78号住居・第379号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.09m、短径0.46mの長楕円形である。深さは72cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-22°-Wである。

覆土 2層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

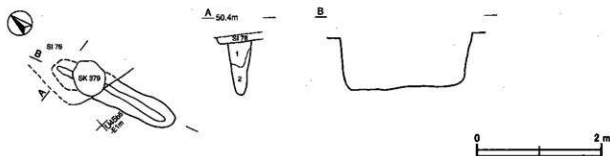
#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 規模と形状から縄文時代の陥し穴の可能性はあるが、出土遺物がなく、時期及び性格については不明である。周辺から石鏃や磨製石斧・敲石・磨石などの石器が住居跡に混入していることや、表面採集がされていることから、調査区域及びその周辺は縄文時代の狩り場で、周辺に縄文時代の集落が形成されていたと考えら

れる。



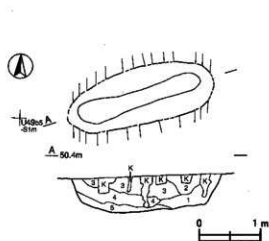
第349図 第378号土坑実測図

#### 第419号土坑 (第350図)

位置 中央2区北東部のU49b5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

規模と形状 長径2.39m、短径0.91mの長楕円形である。深さは57cmで、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-73°-Eである。

覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。



#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 規模と形状から縄文時代の陥し穴の可能性がありますが、出土遺物がなく、時期及び性格については不明である。周辺から石鏃や磨製石斧・箆石・磨石などの石器が住居跡に混入していることや、表面採集がされていることから、調査区域及びその周辺は縄文時代の狩り場で、差ほど遠くない場所に縄文時代の集落が形成されていたと考えられる。

第350図 第419号土坑実測図

#### (7) ビット群

##### 第1号ビット群 (付図)

位置 中央1区北西部のS43j5区からS43h7区に位置し、台地の平坦部に立地している。第111・112号住居跡の東部、第4号掘立柱建物跡の南側に広がっている。

規模と形状 南北8m、東西11mの長方形の範囲に13か所のビットが確認された。ビットの規模は長径23~50cm、短径17~47cmの円形及び楕円形で、深さが36~82.5cmであり、断面U字状をしている。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認されず、土層観察での堆積や締まりの状況などから、すべて柱の抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況 出土物は確認されていない。

所見 ビットの深さや配列などに規則性がないため、掘立柱建物跡や橋跡とは考えにくく、ビット群としてと

らえた。出土遺物がないため、時期及び性格については不明である。

#### 第2号ピット群 (付図)

**位置** 中央2区東部のT49i1区からU49b7区に位置し、台地の平坦部に立地している。第28号住居跡の周辺と第36号住居跡の東部に広がっている。

**規模と形状** 南北8m、東西7mの長方形の範囲に31か所のピットが確認された。ピットの規模は長径18～43cm、短径17～39cmの円形及び楕円形で、深さが6～36cmであり、断面U字状をしている。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認されず、土層観察での堆積や締まりの状況などから、すべて柱の抜き取り後の覆土と考えられる。

**遺物出土状況** 出土遺物は確認されていない。

**所見** 31か所のピットの内、P4・P6・P16・P17は方形に配置された状態を示している。周辺には中世の第7・11号溝跡で方形に区画されている内側（北側）に当たり、鉄鍋の鋳型が出土している第5号方形竪穴遺構が確認されていること、P4の西側には第16号井戸跡が位置していることなどから、中世の鋳造関連の作業場的な情景に作られた掘立柱建物跡の可能性も考えられた。しかし硬化面などが確認されてなく、その性格は不明であり、他のピット同様に、深さや配列などに規則性がないため、掘立柱建物跡や襜列跡ではなく、ピット群としてとらえた。出土遺物もないため、時期及び性格は不明である。

#### 第3号ピット群 (付図)

**位置** 中央1区中央部西寄りのS44h9区からS44j0区に位置し、台地の平坦部に立地している。

**規模と形状** 南北5m、東西4m四方の範囲に10か所のピットが確認された。ピットの規模は長径38～63cm、短径29～59cmの円形及び楕円形で、深さが29～57cmであり、断面はU字状を呈している。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認されず、土層観察での堆積や締まりの状況などから、すべて柱の抜き取り後の覆土と考えられる。

**遺物出土状況** 出土遺物は確認されていない。

**所見** ピットの深さや配列などに規則性がないため、掘立柱建物跡とは考えにくく、ピット群としてとらえた。出土遺物がないため、時期及び性格は不明である。

#### 第4号ピット群 (付図)

**位置** 中央1区北西部のS43d4区からS43e4区に位置し、台地の平坦部に立地している。第4号掘立柱建物跡の西側に広がっている。

**規模と形状** 南北7m、東西2mの長方形の範囲に6か所のピットが確認された。ピットの規模は長径24～45cm、短径17～40cmの円形及び楕円形で、深さが18～39cmであり、断面U字状をしている。

**覆土** 柱の抜き取り痕などは確認されず、土層観察での堆積や締まりの状況などから、すべて柱の抜き取り後の覆土と考えられる。

**遺物出土状況** 出土遺物は確認されていない。

**所見** 本跡の東側に位置する第4号掘立柱建物跡との関連があるのではないかと考え調査を行ったが、ピットの深さや配列などに規則性がないため、第4号掘立柱建物跡との関連する施設とは考えにくく、さらに襜跡とも考えにくいことから、ピット群としてとらえた。出土遺物がないため、時期及び性格については不明である。

#### 第5号ピット群（付図）

位置 中央2区中央部のU45b2区からU45b8区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第77号住居跡を掘り込んでいる。第20号溝跡の東側と第17・19・20号溝跡で方形に区画された区域に広がる。

規模と形状 南北8m、東西32mの長方形の範囲に45か所のピットが確認された。ピットの規模は長径19～57cm、短径16～51cmの円形及び楕円形で、深さが5～46cmであり、断面U字状をしている。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認されず、土層観察での堆積や締まりの状況などから、すべて柱の抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況 出土遺物は確認されていない。

所見 ピットの深さや配列などに規則性がないため、掘立柱建物跡や欄列跡とは考えにくく、ピット群としてとらえた。出土遺物がないため、時期及び性格については不明である。

#### 第6号ピット群（付図）

位置 中央1区北西部のS43e7区からS43f8区に位置し、台地の平坦部に立地している。第1号円形周溝状遺構と第4号掘立柱建物跡の東側に広がっている。

規模と形状 4m四方の範囲に9か所のピットが確認された。ピットの規模は長径30～117cm、短径24～111cmの円形及び楕円形で、深さ4～44cmであり、断面はU字状を呈している。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認されず、土層観察での堆積や締まりの状況などから、すべて柱の抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況 出土遺物は確認されていない。

所見 ピットの深さや配列などに規則性がないため、掘立柱建物跡や欄列跡とは考えにくく、ピット群としてとらえた。出土遺物がないため、時期及び性格については不明である。

#### 第7号ピット群（付図）

位置 東区西部のU50j4区からV50a5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第20号住居跡、第77・113・114号土坑、第9号溝跡・第1号不明遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 南北8m、東西12mの長方形の範囲に24か所のピットが確認された。ピットの規模は長径24～43cm、短径20～72cmの円形及び楕円形で、深さが10～60cmであり、断面U字状をしている。

覆土 柱の抜き取り痕などは確認されず、土層観察での堆積や締まりの状況などから、すべて柱の抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況 出土遺物は確認されていない。

所見 中世と推定される第9号溝跡を掘り込んでいることから、時期は中世以降と考えられるが、詳細は不明である。また、他のピットには規則性がないことから、第3号掘立柱建物跡に関係する施設に伴う可能性がある。

#### (8) ピット列

今回の調査では、2か所のピット列が確認された。第1号ピット列は第22号溝跡、第2号ピット列は第19号溝跡と重複し、溝の南側斜面を掘り込んでいることから、溝跡などが推測されたが、ピットの間隔やピットの

重複などから横跡であることが明確にとらえられないため、ビット列とした。以下、遺構の概要については記述する。

### 第1号ビット列 (付図)

位置 中央1区西部S43j3区から中央部のS44j3区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第22号溝跡の南側を掘り込んでいる。

規模と構造 確認された長さは80m、長軸方向はN-90°-Eで、柱間寸法が0.1~1.4mである。

柱穴 99か所(P1~P99)が確認され、深さ70~141cmで、断面U字状をしている。溝の壁面を掘り込んだ部分でわずかに1層だけが確認された。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 性格は第22号溝跡の南壁及び底面から多くのビットが確認された。溝と複合した施設で、櫛のような施設であったと考えられる。また、第2号ビット列も同様に溝跡の南壁を掘り込んでいる。本跡の覆土は第22号溝跡の南壁際の覆土とほぼ同じであることから、第22号溝跡が埋没過程に構築されたと考えられる。第22号溝跡は9世紀中葉以降と推定されることから、時期は9世紀中葉以降と考えられるが、詳細は不明である。

### 第2号ビット列 (付図)

位置 中央2区西部のT45h1区からT45g5区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第19号溝の南側を掘り込んでいる。

規模と構造 確認された長さは60m、長軸方向はN-90°-Eであり、柱間寸法は0.1~0.92mである。

柱穴 47か所(P1~P47)が確認され、深さ20~92cmで、断面U字状をしている。溝の壁面を掘り込んだ部分でわずかに1層だけが確認された。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 第19号溝跡の南壁及び底面から多くのビットが確認された。溝と複合した施設で、櫛のような施設であったと考えられる。覆土は第19号溝跡の南壁際の覆土とほぼ同じであることから、第19号溝と同時期あるいは埋没間もない時期に構築されたと考えられる。新旧関係から8世紀中葉以降と推定される第19号溝跡を掘り込んでいるので、時期は8世紀中葉以降であるが、9世紀中葉以降と推定される第1号ビット列と長軸方向の方向性が同一であることから、9世紀中葉以降の可能性も考えられる。

### 第3号ビット列 (付図)

位置 中央2区西部のT44h8区からT44i9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第17号溝跡の南側を掘り込んでいる。

規模と構造 南部が調査区域外へ伸びる可能性があり、確認された長さは5.4m、長軸方向はN-5°-Eであり、柱間寸法は0.16~1.20mである。

柱穴 6か所(P1~P6)が確認され、深さ18~55cmで、断面U字状をしている。溝の底面を掘り込んだ部分でわずかに1層だけが確認された。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 本跡は第17号溝跡の底面からビットが確認された。溝と複合した施設で、櫛のような施設であったと考えられる。ビット列の覆土は第17号溝跡の覆土とほぼ同じであることから、第17号溝と同時期あるいは埋没間



もない時期に構築されたと考えられる。長軸方向は第1・2号ピット列とも東西方向に対して、本跡は南北方向であり、長軸方向から異なった時期と考えられるが、方形の区画溝である第17・19号溝跡を掘り込むように構築されているので、第2号ピット列と同時期の可能性はある。

(9) 不明遺構

第1号不明遺構 (第351図)

位置 東区西部のU50j6区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第3号掘立柱建物跡を掘り込み、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸6.12m、短軸4.84mの不定形で、長軸方向はN-6°-Eである。壁高は7~16cmほどで、外傾して立ち上がっている。

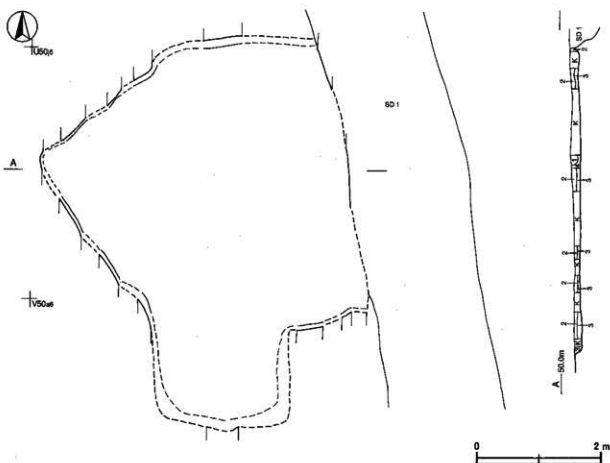
床 ほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量   | 3 黒褐色 ローム粒子微量   |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片22点(坏2, 甕20)、漆1点が覆土中から出土している。出土遺物はすべて細片で、図示できるようなものはない。



第351図 第1号不明遺構実測図

所見 中世と推定される第1号溝に掘り込まれているので、中世以前と考えられるが、出土遺物がなく遺構の形状が不定形のため、時期は不明である。また、性格は第2・4号不明遺構とも溝跡に掘り込まれているので、溝と関連する遺構の可能性があるが、詳細については不明である。

#### 第2号不明遺構（第352図）

位置 東区西部のV50c7区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸5.84m、短軸2.85mの不定形で、長軸方向はN-25°-Wである。壁高は10~18cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。床 はほぼ平坦で、全体的に踏み固められている。

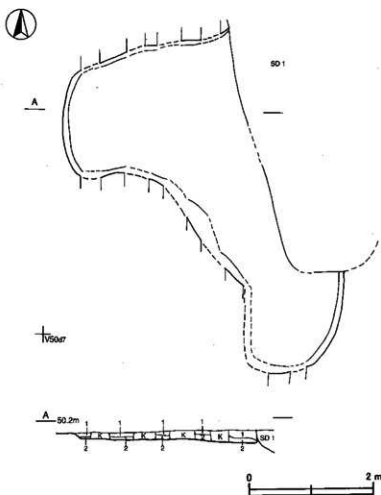
覆土 2層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

##### 土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック混量
- 2 黒褐色 ロームブロック混量

遺物出土状況 出土遺物は確認されていない。

所見 中世と推定される第1号溝に掘り込まれ、周辺に中世の遺構が確認されていることから、時期は中世以前と考えられる。遺構の形状が不定形であり、床面は平坦で踏み固められているが、出土遺物がなく、居住空間としての様相も見られないことから、その性格については不明である。



第352図 第2号不明遺構実測図

#### 第4号不明遺構（第353図）

位置 中央2区中央部のT46i9区に位置し、台地の平坦部に立地している。

重複関係 第16号溝に掘り込まれている。

規模と形状 トレンチャーによる攪乱を受けているため、遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸4.24m、短軸2.48mの不定形で、長軸方向はN-87°-Eである。壁高は7~20cmほどで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、壁際が部分的に踏み固められている。

覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

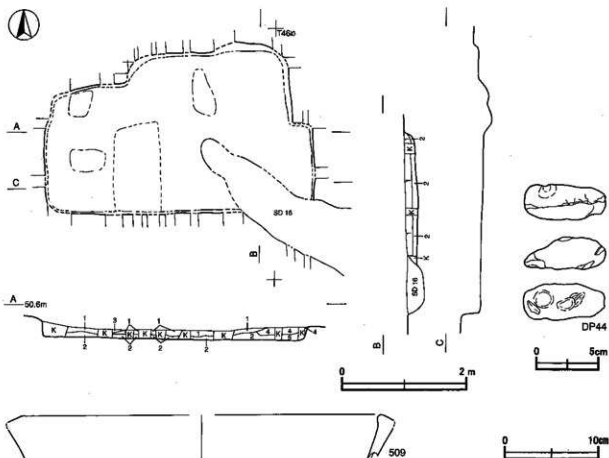
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量  
 2 褐色 ロームブロック多量  
 3 褐色 ロームブロック多量

- 4 黒褐色 ロームブロック中量  
 5 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢), 土師器片5点(甕), 須恵器片5点(坏1, 甕4), 土師質土器片1点(焙烙), 陶器片1点(輪), 炉壁片1点, 土製品1点(不明), 礫2点(破碎礫; 被熱痕1)が覆土中から出土している。

所見 本跡は第1・2号不明遺構と同様に, 形状が不定形で, 床面の一部が踏み固められていること, 出土遺物が少なく居住空間としての様子は感じられないことから, 工房や非日常的な空間であった可能性があるが, 詳細な性格は不明である。また, 第1・2号不明遺構と同様に溝に掘り込まれていることから, 溝との関係が考えられる。本跡周辺は中世と推定される遺構が確認されていることから, 中世の可能性はあるが, 出土遺物が少なく, 時期は不明である。



第353図 第4号不明遺構・出土遺物実測図

第4号不明遺構出土遺物観察表 (第353図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	織成	手法の特徴	出土位置	備考
509	土師質土器	焙烙	[38.0]	(4.9)	-	灰石・赤・緑色	濃い褐色	普通	内外面ナテ	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP44	不明	6.4	2.9	2.6	43.0	黒石・赤色粘土	不規則な指痕残	覆土中	

### 第5号不明遺構（第354図）

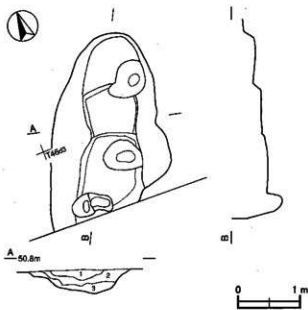
**位置** 中央1区のT46d3区に位置し、台地の平坦部に立地している。

**規模と形状** 南部が調査区域外へ延びているため、確認できた規模は長軸2.87m、短軸1.87mの不定形であり、長軸方向はN-23°-Eである。壁高は17~36cmほどで、緩やかな傾斜で立ち上がっている。床 わずかに段状になっており、3面の平坦部になっている。踏み固められた面はなく、壁際の床面から3か所のくぼみが確認されている。

**覆土** 3層からなる。レンズ状を呈しているが、ロームブロックを含むしまりの強い堆積状況を示した人為堆積である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量



第354図 第5号不明遺構実測図

**遺物出土状況** 出土遺物は確認されていない。

**所見** 性格及び時期は出土遺物がなく、不定形の形状をしていることから不明である。

### (10) 遺物包含層

#### 第1号遺物包含層（第355・356図・付図）

**位置** 中央2区中央部北寄りのT47g8区に位置し、緩やかな傾斜の台地谷部に立地している。

**規模** 中央2区中央部の谷部には黒色土が堆積し、この堆積する区域の北部に南北約60m、東西約60m、深さ40cmほどにわたって土器片の包含がみられる。

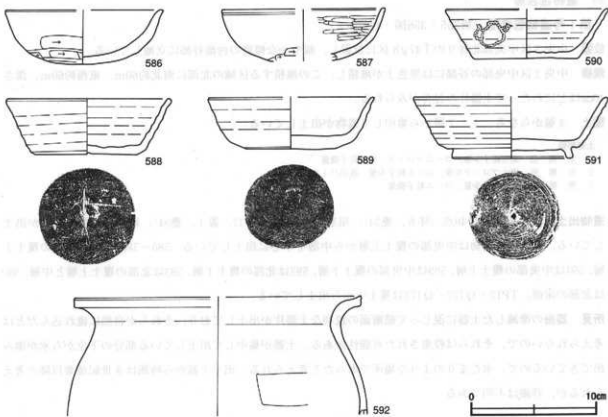
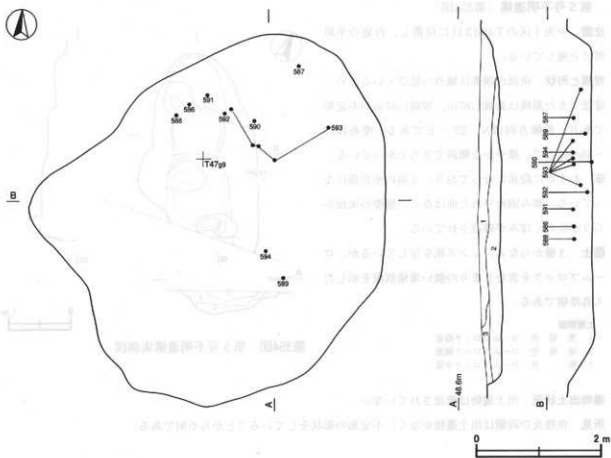
**覆土** 3層からなる。1・2層から集中して遺物が出土している。

#### 土層解説

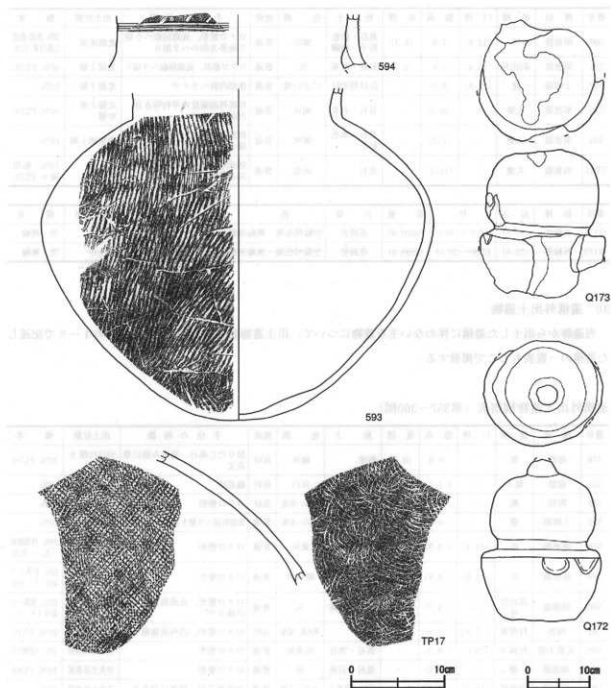
- 1 黒褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、黒沼バミス微量
- 3 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片40点（坏6、甕34）、須恵器片112点（坏17、蓋1、甕94）、礫4点（破砕礫）が出土している。これらの遺物は中央部の覆土上層から中層を中心に出土している。586~588・591は北部の覆土上層、594は中央部の覆土上層、589は中央部の覆土下層、592は北部の覆土下層、593は北部の覆土上層と中層、590は北部の床面、TP17・Q172・Q173は覆土中から出土している。

**所見** 器面の摩滅した土器に混じって破断面の鋭利な土器片が出土しており、それらが自然に流れ込んだとは考えられないので、それらは投棄された可能性がある。土器が集中して出土している部分の下位から水が滲み出ているので、水たまりのような場所であったと考えられる。出土土器から時期は8世紀後葉以降と考えられるが、詳細は不明である。



第355図 第1号遺物包含層・出土遺物実測図(1)



第356図 第1号遺物包含層出土遺物実測図(2)

第1号遺物包含層出土遺物観察表 (第355・356図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
586	土師器	坏	[12.4]	4.4	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り、内面丁寧なナデ	北部上層	20%
587	土師器	坏	[13.0]	(4.1)	-	長石・赤色粒子・黒色粒子	明赤褐	普通	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き	北部上層	10%
588	須恵器	坏	12.8	4.4	8.1	長石・微礫	灰黄褐	普通	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	北部上層	7% 底部ヘラ足号[X]凡2片
589	須恵器	坏	[13.1]	4.1	7.3	長石・黒色粒子	灰	普通	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	中央部下層	30% PL.76

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
590	須恵器	坏	[12.8]	4.0	[8.3]	長石・白色 粒子・微塵	黄灰	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	北部床面	20% 赤部・赤部に 赤付着 PL76
591	須恵器	高台付坏	[15.4]	4.9	9.7	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形、底部回転ヘラ切り	北部上層	40% PL76
592	土師器	甕	[22.6]	(9.5)	-	灰緑砂鉄質	にぶい褐色	普通	体部内面ヘラナゲ	北部下層	10%
593	須恵器	大甕	-	(35.5)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面縦位の平行印き目、内面ヘラナゲ	北部上層・ 中層	50% PL76
594	須恵器	大甕	-	(7.2)	-	長石・黒色 粒子	黄灰	普通	頸部内面ナゲ、外面3条の沈線と彫曲による波状文	中央部上層	10%
TP17	須恵器	大甕	-	(14.3)	-	長石	灰色	普通	体部外面指子目状印き、内面同心円状の当て	覆土中	10%、転用 疑々 PL78

番号	器種	長さ	径	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q172	五輪塔	(25.8)	(16.7)~(19.0)	(9520.0)	花崗岩	空輪部先端・風輪部短欠損	覆土中	空・風輪
Q173	五輪塔	(23.8)	17.8~(20.0)	(8990.0)	花崗岩	空輪部先端・風輪部短欠損	覆土中	空・風輪

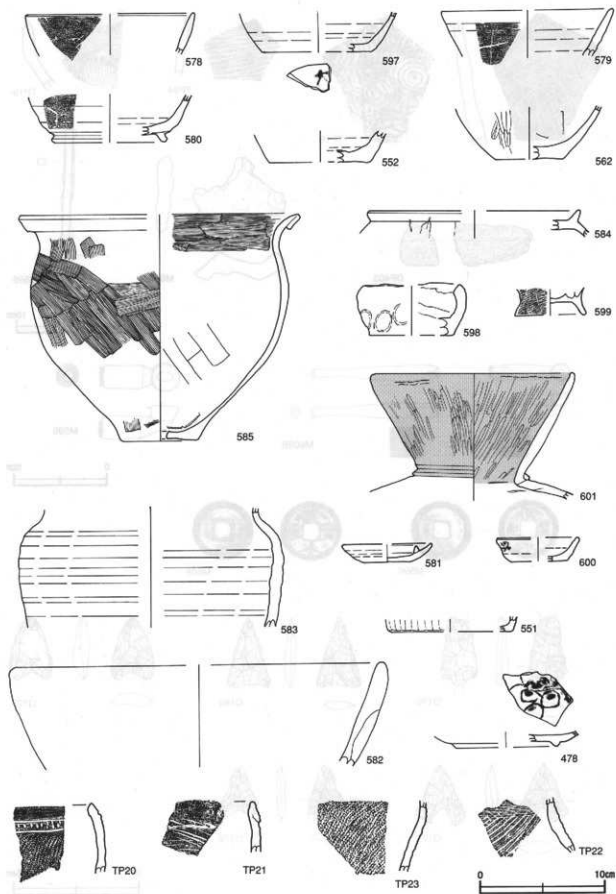
### (1) 遺構外出土遺物

当遺跡から出土した遺構に伴わない主な遺物について、出土遺物観察表で記載する。本節の1~5で記述した遺構の一覧表もここで掲載する。

### 遺構外出土遺物観察表(第357~360区)

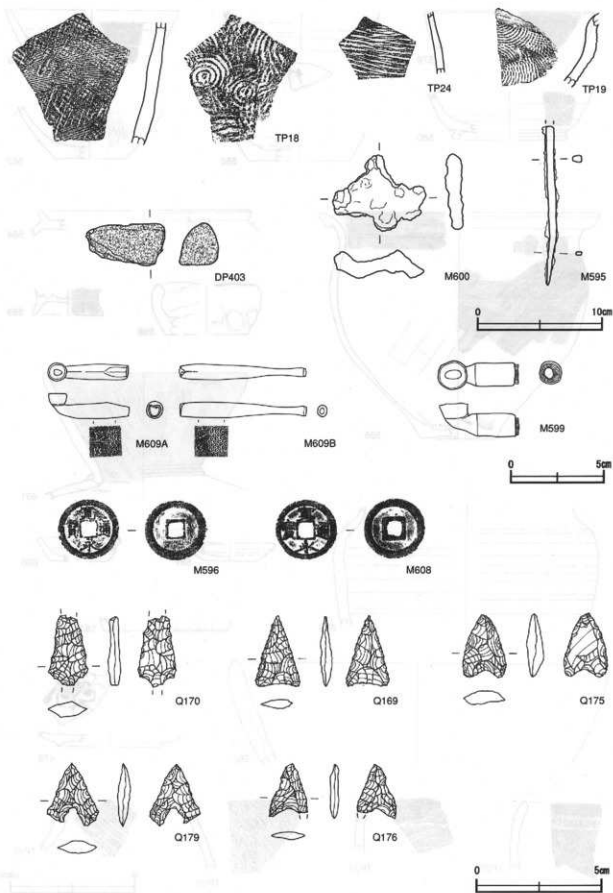
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
478	磁器	皿	-	0.9	[8.0]	緻密	緑灰	良好	削りだし高台、見込み部に草花文	SK312覆土中	20% PL76
551	磁器	瓶カ	-	(1.1)	[9.4]	緻密	灰白	良好	輪花状	中央2区表採	10%
552	陶器	甕	-	(2.5)	[8.0]	緻密	にぶい赤褐色	良好	ロクロ整形	中央2区表採	10%
562	土師器	甕	-	(4.1)	[5.2]	長石・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部外面ヘラ磨き、内面ヘラナゲ	中央2区表採	10%
578	須恵器	坏	[13.3]	(3.3)	-	長石	黄灰	普通	ロクロ整形	T48h6区表採	10%、赤部剥離 [入] o PL83
579	須恵器	坏	[13.6]	(3.8)	-	長石・赤色 粒子	暗灰黄	普通	ロクロ整形	東区表採	10%、赤部ヘラ 削り[十] PL83
580	須恵器	高台付坏	-	(3.7)	[9.0]	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形、底部高台貼り付け後ナゲ	表採	10%、赤部ヘラ 削り[一] o
581	陶器	灯明皿	[7.2]	1.5	[3.6]	緻密	赤褐色、黒	良好	ロクロ整形、内外面施釉	T48h5区表採	20% PL76
582	瓦質土器	控鉢カ	[29.0]	(8.3)	-	長石・雲母	灰黄褐色	普通	ロクロ整形	中央2区表採	10%、内面口縁
583	須恵器	甕	-	(4.1)	[5.2]	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形	中央2区表採	10% PL83
584	須恵器	円筒甕	[16.5]	(1.8)	-	長石・白色粒子	キリーブ黒	普通	海部製平皿、脚部に意あり	中央2区表採	10%
585	土師器	甕	[22.0]	18.1	6.0	長石・石英・ 赤色粒子	褐色	普通	口縁部内外面ハケ目、体部外面下位ハケ目後ナゲ、単孔式	U49j3区表採	70%
597	須恵器	坏	-	(3.1)	[8.4]	長石・雲母・ 黒色粒子	灰黄	普通	ロクロ整形、体部外面下端手持ちヘラ削り、底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	S18覆土中	10%、底部 磨き[大□]
598	手捏土器	坏	[7.6]	4.2	[6.6]	長石・赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部外面指調圧痕、内面ナゲ	S126覆土中	30%
599	紫生土器	鉢カ	-	(2.3)	[5.4]	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	底部ヘラナゲ	-	10%
600	土師質土器	小皿	[6.4]	1.9	[4.4]	長石・雲母・ 赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部内外面ナゲ	S192覆土中	20%、体部 外面磨痕
601	土師器	壺	16.1	(9.8)	-	長石	にぶい赤褐色	普通	口縁部内外面ヘラ磨き	S105覆土中	20%、赤部

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP14	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部片、口縁部外面に貼り付け	表採	PL77
TP15	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	胴部片、内面に凹位の凹線が施されている	表採	PL77
TP16	縄文土器	深鉢	-	(7.7)	-	純石・石英	暗灰	普通	須恵器製頸部片、胴部外面に波状文	表採	PL77

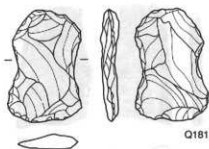


第357図 遺構外出土遺物実測図(1)

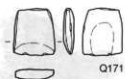




第358图 遺構外出土遺物実測図(2)



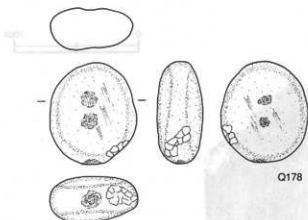
Q181



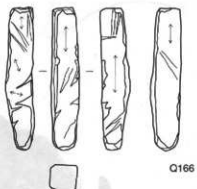
Q171



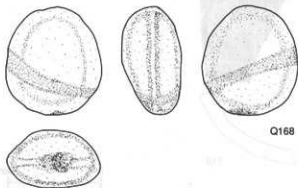
Q174



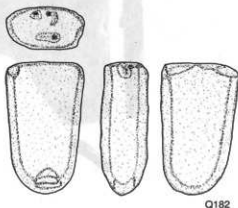
Q178



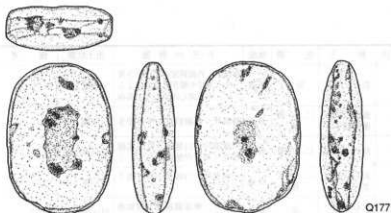
Q166



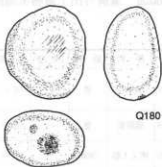
Q168



Q182



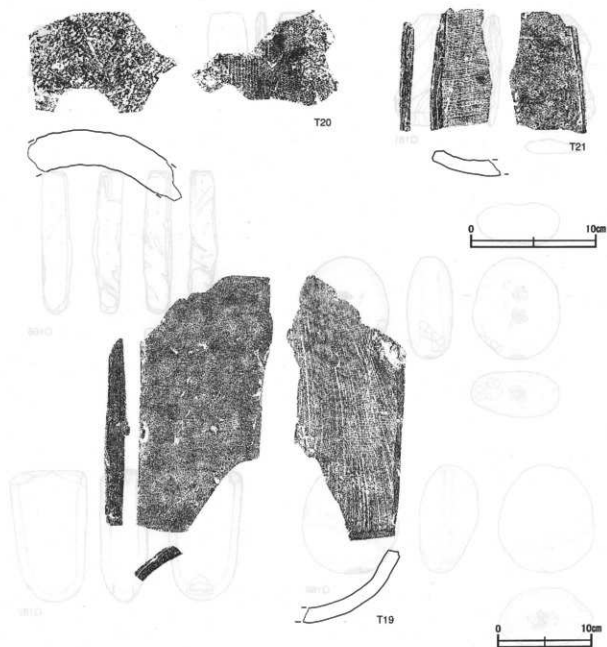
Q177



Q180



第359図 遺構外出土遺物実測図(3)



第360図 遺構外出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP18	須恵器	甕	-	(9.5)	-	長石・石英	灰白	普通	体部片、外面斜位の平行叩き後9条1単位の轡馬土工具によるナデ、内面同心円状の当て具痕	SI18覆土中	PL77
TP19	須恵器	甕	-	(6.0)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部片、外面斜位の平行叩き	SI18覆土中	PL77
TP20	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部片、口唇部下位に沈線が走り縄文が施文されている	SI44覆土中	PL77
TP21	縄文土器	深鉢	-	(4.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部片、口縁部が折り返されている	SI53覆土中	PL77
TP22	弥生土器	壺	-	(4.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	胴部片、横走鋸縄文と附加条一種附加2条を施文	SI112覆土中	PL77

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色	陶	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP23	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母	赤	滑	普通	胴部片、付加条一種附加2条を施文	SD1覆土中	PL77
TP24	弥生土器	壺	-	(4.9)	-	長石・石英	明黄褐	滑	普通	胴部片、縄文(付加条一種附加2条)が施文されている	SD12覆土中	PL77

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特	徴	出土位置	備考
DP403	銅型	3.4	(6.2)	(3.2)	(59.0)	砂粒	全面が赤褐色をし、内面は刷毛し、具存部分はナメ調整		東区表探	PL92
DP405	泥面子	2.5	2.4	0.8	5.0	砂粒	型取り、裏面に多数の指痕圧痕あり		SI53覆土中	実測値しPL8

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
M595	鐵	(12.7)	0.6	0.5	(19.0)	鉄	蓋部片、断面長方形		中央2区表探	
M600	不明	(6.2)	(7.4)	(2.2)	(98.0)	鉄	菱形、跡多数付着		中央2区表探	PL100

番号	器種	長さ	幅	径	重量	材質	特	徴	出土位置	備考
M599	煙管雁首	4.2	1.5	1.3-1.5	10.0	銅	火皿部円形、扁平竹残存		表探	
M607	不明	(2.0)	-	1.9	(2.22)	銅	皿状の部分に穿孔		SI37覆土中	遺管火皿部分+実測値しPL8
M609A	煙管雁首	4.2	1.5	0.8	18.0	銀	火皿部円形、接合部に「波の上に千鳥」の線刻		SI53覆土中	PL88
M609B	煙管吸口	6.6	1.5	0.4-0.7	8.0	銀	吸口部折り返し、接合部に「波の上に千鳥」の線刻		SI53覆土中	PL88

番号	器種	径	孔	幅	重量	初録年	材質	特	徴	出土位置	備考
M596	寛永通寶	2.5	0.6	1.96	1697年		銅	無背文、真書、新寛永		中央2区表探	PL91
M608	寛永通寶	2.5	0.6	2.00	1636年		銅	無背文、真書、古寛永		中央2区表探	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特	徴	出土位置	備考
Q96	砥石	(12.7)	6.8	(1.4)	(146.0)	泥岩	砥面2面、二方向に使用		SK59覆土中	実測値しPL8
Q166	砥石	(11.4)	2.4	2.1	(102.0)	凝灰岩	砥面4面、二方向に使用		東区表探	PL86
Q168	砥石	8.8	7.5	4.8	406.0	砂岩	先端部敲打痕、表面に帯状の摩擦痕あり		T47j6区表探	石面に刻印+PL8
Q169	鐵	2.8	1.8	0.5	1.2	チャート	両面押圧割離、基部の扱りは浅く、側縁は直線		東区西部表探	PL87
Q170	尖頭器	(3.8)	1.6	0.6	(2.0)	チャート	先端部・基部とも欠損、両面押圧割離、側縁は直線		U51j7区表探	
Q171	磨製石斧	(3.8)	3.2	0.8	(18.2)	泥岩	基部欠損、片刃		U49a1区表探	PL87
Q174	石製機道具	(4.1)	1.8	0.6	(5.6)	凝泥岩	側縁直、先端部欠損、穿孔(孔径0.15cm)あり		SI17上層	PL87
Q175	鐵	2.5	1.8	0.6	1.5	チャート	両面押圧割離、基部の扱りは深く、側縁は曲線		SI28上層	PL87
Q176	鐵	(2.2)	1.7	0.4	(0.93)	チャート	両面押圧割離、基部の扱りは深く、側縁は直線		SI38上層	PL87
Q177	凹石	12.1	8.4	3.5	461.0	泥岩	凹面表面1か所、裏面1か所		SI99覆土中	被熱痕PL87
Q178	凹石	8.1	7.0	3.6	314.0	砂岩	凹面表面2か所、裏面2か所、先端部敲打痕あり		SD1覆土中	龍石に転用か
Q179	鐵	2.5	2.0	0.5	1.30	黒曜石	両面押圧割離、基部の扱りは深く、側縁は直線		SD7中層	PL87
Q180	磨石	7.5	6.5	4.5	304.0	泥岩	先端部使用痕		SD5覆土中	被熱痕あり
Q181	打製石斧	8.9	5.9	1.5	84.0	安山岩	分銅形、押圧割離、扱りは浅い		SD22覆土中	PL87
Q182	鐵	10.5	6.2	3.7	378.2	砂岩	先端部使用痕		81特層埋込中	
Q183	鐵	9.2	6.5	4.4	390.0	泥岩	2か所の先端部敲打痕		SI24覆土中	実測値しPL8
Q184	鐵	9.8	8.7	5.2	578.0	泥岩	先端部敲打痕		SD22覆土中	実測値しPL8
Q185	鐵	7.6	7.2	3.7	3.6	泥岩	先端部敲打痕		SK37覆土中	龍石に転用しPL8

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特	徴	出土位置	備考
T19	丸瓦	(28.2)	(10.0)	1.6	(804.0)	長石・石英	凸面へリ削り、凹面有目度・未切り痕、側面へリ削り		表探	PL85
T20	丸瓦	(8.2)	(12.5)	(3.0)	(401.0)	長石・石英	凸面長い繩の印き目、凹面有目度一部残存		表探	
T21	平瓦	(10.0)	(5.6)	1.2	(100.0)	長石	凸面へリ削り、凹面有目度、へリ削り、側面へリ削り		表探	

表2 窑穴住居跡一覽表

番号	位置	主要方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	高さ (m)	内部施設						灶	主要出土遺物	備考 (遺物関係田一頁)	時代
						壁面	土間	土間敷	土間	土間	土間				
1	YS1e9	N-8°-W	方形	5.23×5.21	27	平掘	-	4	1	13	1	伊1	土師器片, 灰釉器片	本跡→S11	4世紀前半
2	YS1e5	N-7°-S	方形	4.00×3.85	35-44	平掘	全掘	-	-	-	1	磯1	土師器片, 須恵器片		3世紀前半以前
3	YS1c1	N-5°-W	方形	4.90×4.80	20-22	平掘	部分掘	4	-	2	-	磯1	土師器片, 須恵器片, 灰釉器片, 瓦片		4世紀中葉
4	YS1g2	N-3°-W	[方形]	4.25×3.70	30-42	平掘	[全掘]	2	-	2	-	磯1	土師器片, 須恵器片		5世紀前半
5	YS1a7	N-30°-W	長方形	4.35×4.05	18	平掘	-	-	1	-	-	-	土師器片, 土製品	本跡→SD2	4世紀前半
6	U50e7	N-10°-W	方形	4.41×4.15	18-29	平掘	-	1	-	1	-	磯1	土師器片, 須恵器片, 石蒜, 瓦片		3世紀後半-4世紀
7	U50e5	N-4°-E	長方形	5.75×5.10	27	平掘	-	4	-	4	1	磯1	土師器片, 須恵器片, 土製品, 石製品	本跡→SD3・SD10	3世紀後半
8	US111	N-49°-W	方形	4.30×4.17	24	平掘	-	4	1	-	-	伊1	土師器片	本跡→SB1	4世紀代
9	U50b2	N-77°-E	方形	2.27×2.21	15	平掘	-	-	-	-	-	磯1	土師器片, 須恵器片		4世紀以降
10	U50d2	N-7°-W	[長方形]	3.45×(1.62)	10	平掘	-	-	-	-	-	-	土師器片, 須恵器片		3世紀前半
11	U50e6	N-34°-W	方形	4.30×4.25	10	平掘	-	2	1	-	-	伊1	土師器片, 鉄蒔	本跡→SD1, SK21	4世紀前半
12	U50b5	N-5°-W	[方形]	4.05×(3.80)	14	平掘	-	2	-	1	-	-	土師器片, 須恵器片, 鉄製品	本跡→SD1	3世紀後半-4世紀
13	U49c1	N-7°-W	長方形	3.45×3.00	25	平掘	-	-	-	-	-	磯1	土師器片, 須恵器片, 石蒜		4世紀後半
15	U49d8	N-5°-W	[長方形]	4.22×(3.52)	32-42	平掘	平掘	-	-	-	1	磯1	土師器片, 須恵器片, 鉄製品, 瓦片	本跡→SE8	3世紀中葉
16	U49d9	N-3°-E	[長方形]	5.50×(5.30)	30-50	平掘	[全掘]	4	-	-	1	磯1	土師器片, 須恵器片, 鉄製品, 土製品	本跡→SC13, SC15, SC16, SC17, SC18, SC19, SC20	3世紀後半-4世紀
17	U4918	N-14°-E	方形	4.92×4.52	34-52	平掘	全掘	-	2	1	1	磯1	土師器片, 須恵器片, 土製品, 瓦片	SI11→本跡→SC20-26, SC22, SC23	3世紀後半
18	U4919	N-82°-W	方形	4.92×4.52	43	平掘	-	-	-	-	-	-	縄文土器片, 土師器片, 須恵器片	SK22→本跡→S5(4-5)・S10(4)	時期不明
19	Y50a5	N-0°	長方形	3.75×3.18	14-18	平掘	部分掘	-	-	1	-	磯1	土師器片, 須恵器片, 鉄製品, 瓦片	本跡→SD9	4世紀後半
20	Y5015	N-4°-E	[方形]	(3.61×2.90)	16-20	平掘	-	4	-	1	1	磯1	土師器片, 須恵器片, 鉄製品	本跡→SK77	4世紀後半
21	U49c7	N-5°-W	方形	3.38×5.28	22	平掘	-	-	-	-	-	-	土師器片, 須恵器片	本跡→SK134→S129	平安時代
22	T46e7	N-27°-W	[長方形]	(2.17×1.05)	15-21	平掘	-	-	-	-	-	-	土師器片, 須恵器片	本跡→S245	4世紀中葉以前
23	Y50c4	N-40°-W	方形	5.28×4.48	8	平掘	-	-	-	-	-	伊1	土師器片, 須恵器片	本跡→SK7-96	4世紀代
24	Y49c0	N-20°-W	長方形	6.00×5.31	43	平掘	-	3	1	9	-	伊1	土師器片, 須恵器片	本跡→SD10, SD11, SD12, SD13, SD14, SD15	4世紀前半
25	U49b7	N-0°	方形	5.92×5.78	28-52	平掘	全掘	4	-	3	1	磯1	土師器片, 須恵器片, 鉄製品	本跡→SK48-54, SD6	3世紀後半-4世紀
26	U49b6	N-1°-W	長方形	3.71×2.87	29	平掘	-	-	-	-	-	磯1	土師器片, 須恵器片, 灰釉器片		3世紀後半
27	U49b5	N-10°-E	方形	3.41×3.25	14-30	平掘	平掘	1	-	-	1	磯1	土師器片, 須恵器片		4世紀前半
28	U49a6	N-6°-E	方形	3.40×3.43	28	平掘	平掘	-	-	4	1	磯1	土師器片, 須恵器片		4世紀後半以前
29	U49e7	N-7°-W	方形	3.42×3.23	28-33	平掘	平掘	-	-	-	-	-	土師器片, 須恵器片, 瓦片	SI21→SK134→本跡	平安時代
30	U49b5	N-5°-W	長方形	3.70×3.04	4-12	平掘	-	-	1	-	-	磯1	土師器片, 須恵器片		4世紀中葉
31	U49e5	N-88°-E	方形	3.72×3.45	20-28	平掘	-	-	-	-	-	磯1	土師器片, 須恵器片, 灰釉器片		4世紀後半以前
32	U49b3	N-4°-E	[長方形]	4.23×(3.34)	28-34	平掘	平掘	-	-	-	1	-	土師器片, 須恵器片, 石蒜, 鉄製品	本跡→SD6, SK39-121-122	4世紀中葉
33	U4912	N-1°-W	方形	5.50×5.20	24-40	平掘	平掘	-	-	-	-	磯1	土師器片, 須恵器片	本跡→SK130, SD5-6	4世紀後半
36	T4912	N-3°-E	方形	3.10×2.84	10-16	平掘	-	2	-	1	1	磯1	土師器片, 須恵器片, 鉄製品		4世紀中葉
37	U4916	N-2°-W	方形	3.42×3.27	18-28	平掘	-	2	-	2	-	磯1	土師器片, 須恵器片, 鉄製品, 土製品		4世紀後半-4世紀
39	U49d7	N-3°-W	方形	5.50×5.08	26	平掘	-	-	1	-	-	-	土師器片, 須恵器片, 陶器	本跡→SD7	5世紀前半
40	T4711	N-2°-E	長方形	3.42×2.90	12-17	平掘	-	-	-	-	-	磯1	土師器片, 須恵器片, 鉄製品	本跡→第28号墓	平安時代
41	T4619	N-88°-E	長方形	(3.46)×2.73	17-24	平掘	-	-	-	-	-	-	土師器片, 須恵器片, 鉄製品		4世紀後半以前
42	U46c0	N-6°-E	方形	4.50×4.30	8-26	平掘	-	-	-	-	-	磯1	土師器片, 須恵器片		4世紀中葉
43	T46e7	N-87°-W	[長方形]	(4.07×(1.66))	27-31	平掘	-	-	1	1	-	-	土師器片, 須恵器片	SI22→本跡	4世紀後半-4世紀
44	T46g7	N-2°-W	方形	5.04×5.61	35	平掘	全掘	4	-	-	-	磯1	土師器片		3世紀後半以前
45	T4617	N-4°-E	方形	3.70×3.55	22-50	平掘	-	-	-	-	1	磯1	土師器片, 須恵器片, 灰釉器片	SI46→本跡	4世紀中葉
46	U46a7	N-21°-E	長方形	3.40×3.20	22-28	平掘	一部	-	-	-	1	磯1	土師器片, 須恵器片, 鉄製品	本跡→SI45	4世紀後半
47	U46a7	N-90°-W	長方形	3.20×2.85	24-40	平掘	-	-	-	-	-	-	土師器片, 須恵器片		時期不明
48	T4635	N-15°-E	長方形	4.36×3.35	32-36	平掘	全掘	-	-	1	1	磯1	土師器片, 須恵器片, 土製品, 石蒜, 磁石		4世紀後半
49	T4634	N-8°-E	長方形	5.52×4.35	10-17	平掘	-	-	-	-	-	磯1	土師器片, 須恵器片	本跡→SI50	4世紀後半

序号	位置	主轴方向	平面形	面积 (m <sup>2</sup> ) 长轴×短轴	埋深 (m)	层数	内部施設				加 覆	主出土遺物	備 考 (重複関係 日一新)	時 代	
							欄干	土柱	石礎	入口					
50	T4654	N-25°-E	长方形	2.42×2.18	22-24	平垣	-	-	-	-	覆1	土御器片, 須惠器片	SI49→本跡	9世紀中葉	
51	U4650	N-3°-W	方形	3.20×3.05	10-21	平垣	-	-	-	-	覆1	土御器片, 須惠器片	本跡→第29号基壇	平安時代前期	
52	T4613	N-3°-E	方形	3.59×3.58	40-47	平垣	-	-	-	1	覆1	土御器片, 須惠器片		8世紀中葉	
53	U4634	N-35°-E	长方形	8.90×7.80	35	平垣	-	4	1	17	炉1	土御器片, 須惠器片		4世紀後半	
54	T4611	N-72°-W	方形	3.95×3.75	15-25	平垣	-	-	-	1	-	土御器片		4世紀	
56	T4558	N-11°-E	长方形	2.92×2.45	16-24	平垣	-	-	-	-	-	土御器片, 須惠器片	SI95→本跡→SI96	9世紀中葉	
58	U4643	N-10°-E	方形	3.40×3.24	32-42	平垣	-	-	-	2	1	覆1	土御器片, 須惠器片, 鉄製品		8世紀前期
59	T4612	N-1°-W	[方形]	3.55×(1.80)	30-35	平垣 [全周]	-	-	-	1	-	土御器片, 須惠器片		時期不明	
60	T4622	N-50°-E	[方形]	(4.32)×4.35	17-22	平垣	-	-	-	-	-	土御器片		4世紀後半	
61	T4785	N-12°-E	方形	2.57×2.60	16-24	平垣	-	-	-	-	-	覆1	土御器片		9世紀中葉
62	U4929	N-34°-W	[矩形]	(2.96)×3.38	10	平垣	-	-	1	-	-	土御器片	本跡→SD 6	4世紀後半	
63	T4512	N-4°-W	长方形	5.55×4.29	13-33	平垣	-	-	-	2	1	覆1	土御器片, 須惠器片, 土製品, 鉄製品		9世紀中葉
65	U4622	N-3°-E	长方形	3.50×2.73	30	平垣	-	-	-	-	-	覆1	土御器片, 須惠器片		1世紀後半-2世紀
66	T4529	N-10°-E	长方形	3.68×3.21	44-50	平垣 全周	-	-	-	3	-	覆1	土御器片, 須惠器片	SI75→本跡	9世紀中葉
67	T4559	N-0°	长方形	3.64×3.11	36-50	平垣 凹状	-	-	-	-	-	覆1	土御器片, 須惠器片, 鉄製品	本跡→SI66	9世紀中葉
69	U4519	N-1°-W	方形	3.13×3.97	35	平垣 凹状	-	-	-	-	1	覆1	土御器片, 須惠器片, 石		8世紀前期
69	U4587	N-1°-E	方形	4.54×4.82	12	平垣	-	-	-	-	-	-	本跡→SI76, SK431		8世紀前期
70	U4584	N-0°	方形	2.43×2.32	20	平垣	-	-	-	-	-	炉1	土御器片, 須惠器片	SK433→本跡→SK380-438	時期不明
71	T4518	N-11°-E	[长方形]	3.70×(3.32)	24	平垣 全周	-	-	-	-	-	土御器片, 須惠器片, 土製品, 鉄製品	SI72→本跡	8世紀中葉	
72	T4567	N-1°-W	长方形	4.14×3.53	30-42	平垣 [全周]	-	-	-	-	-	土御器片, 須惠器片, 瓦片	本跡→SI71	8世紀前期	
73	T4527	N-17°-E	长方形	3.73×3.19	22-35	平垣 [全周]	-	-	-	-	-	覆1	土御器片, 須惠器片	本跡→SD13-SB13	9世紀中葉
74	T4517	N-5°-W	长方形	4.12×3.50	50-24	平垣 半周	-	-	-	-	-	覆1	土御器片, 須惠器片, 土製品, 瓦片	SK433→本跡	9世紀前期
75	T4330	N-65°-E	[长方形]	(5.00×4.88)	34	平垣	-	-	-	-	-	-	本跡→SI90		時期不明
76	U4537	N-1°-E	方形	5.83×5.61	30-45	平垣 [全周]	4	-	-	1	覆1	土御器片, 須惠器片, 鉄製品, 石製品	SI69→本跡→SK431	8世紀前期	
77	T4585	N-24°-E	长方形	4.85×4.03	40-49	平垣 全周	-	-	-	-	2	覆1	土御器片, 須惠器片, 土製品, 鉄製品	本跡→SD19→SK420-424-425	1世紀後半-2世紀
80	U45a2	N-3°-W	[长方形]	(3.40×2.96)	7-10	平垣	-	-	-	-	-	土御器片, 須惠器片	本跡→SD1	時期不明	
81	U45a3	N-3°-W	[方形]	3.98×3.67	12-17	平垣	-	4	-	7	-	炉1	土御器片, 須惠器片, 鉄製品	SI80→本跡→SK041-258-259-266	時期不明
82	U45b1	N-5°-W	[矩形]	3.28×(1.02)	18-21	平垣 [全周]	-	-	-	2	-	土御器片, 石		時期不明	
83	U45b2	N-78°-W	[矩形]	2.88×(1.54)	10	平垣	-	-	-	-	-	須惠器片		時期不明	
84	T4418	N-3°-W	[矩形]	5.04×(2.85)	19-21	平垣 [全周]	2	-	-	1	-	土御器片		時期不明	
85	T4414	N-87°-E	[矩形]	3.55×1.11	13-16	平垣	-	-	-	-	-	土御器片, 須惠器片	本跡→SI96	時期不明	
86	T4415	N-9°-E	[矩形]	5.00×(2.02)	30-35	平垣 [全周]	-	-	-	1	-	須惠器片	SI85→本跡	9世紀中葉	
87	T4425	N-18°-E	方形	4.45×4.40	15-18	平垣 凹状	-	-	-	1	覆1	土御器片, 須惠器片, 土製品, 鉄製品		1世紀→2世紀	
88	T4463	N-4°-E	[方形]	(5.37×5.28)	40-46	平垣 全周	4	-	-	6	1	覆1	土御器片, 須惠器片, 土製品, 鉄製品, 石		9世紀前期
90	T4330	N-5°-W	[长方形]	(4.00)×3.70	20-28	平垣	-	-	-	-	-	土御器片, 須惠器片	SI75→本跡	時期不明	
91	T4327	N-91°-E	长方形	(3.80×3.27)	35	平垣	-	-	-	1	-	覆1	土御器片, 須惠器片, 鉄製品	本跡→SK303	時期不明
92	T4627	N-82°-E	[矩形]	(6.80)×(1.42)	14-25	平垣	-	-	-	-	-	土御器片		4世紀後半	
93	T4854	N-8°-E	[矩形]	4.82×(1.44)	12	平垣 [全周]	-	-	-	1	-	土御器片, 須惠器片		時期不明	
94	T45a0	N-17°-E	[长方形]	3.75×(3.16)	20	平垣	-	-	-	1	覆1	土御器片, 須惠器片		8世紀後半	
95	T45c3	N-74°-E	[矩形]	5.35×(4.20)	10	平垣	-	-	-	3	-	土御器片	本跡→SI56→SI96	4世紀後半	
96	T45b8	N-5°-W	方形	4.02×3.87	45	平垣 全周	-	-	-	1	覆1	土御器片, 須惠器片	SI95→SI96→本跡	8世紀前期	
97	S4515	N-3°-E	方形	3.22×3.63	25-36	平垣 凹状	-	-	-	3	覆1	土御器片, 須惠器片, 鉄製品, 瓦片	本跡→SK326	8世紀前期	
98	T45a5	N-2°-W	方形	5.11×5.05	34	平垣 全周	4	-	-	2	1	覆1	土御器片, 須惠器片		8世紀中葉
99	T45c4	N-10°-E	[方形]	(3.65)×3.46	18	平垣	-	-	-	1	覆2	土御器片, 須惠器片	SI100→本跡→SK318	9世紀中葉	
100	T45c4	N-50°-E	[矩形]	5.80×(2.35)	20	平垣 一部	2	-	-	-	-	土御器片, 須惠器片	本跡→SI89, SK318	9世紀中葉	
102	T4427	N-7°-E	[矩形]	5.40×(2.32)	32-38	平垣 [全周]	2	-	-	-	覆1	土御器片, 須惠器片, 瓦片		9世紀前期	

番号	位置	主軸方向	平面形	長短(m) 長軸×短軸	壁高 (m)	壁面	内部構造			伊 羅 士	主な出土遺物	備考 (遺物番号 取→新)	時代	
							壁溝	土柱・石礎	土柱入口					
103	S443	N-8°-E	方形	3.27×3.19	36-52	平壁	平壁	-	-	-	土師器片、須恵器片、灰製品、瓦片	SB 6→本跡	9世紀中期	
104	S437	N-1°-W	方形	4.23×4.12	20-26	平壁	-	-	-	-	-	SX389→本跡→SH10→SB 9、SB12	9世紀中葉以前	
105	T43a7	N-33°-E	跡柱	2.80×(3.37)	8-25	平壁	-	-	-	-	土師器片、須恵器片	SX389→SH10→本跡→SH12→SB 9	9世紀中期	
106	S43d5	N-75°-W	跡柱	3.14×(1.37)	58	平壁	-	-	-	-	土師器片、須恵器片	SB 4→本跡→SE12	時期不明	
107	S43e6	N-96°-E	跡柱	(3.85×1.36)	44	平壁	(全面)	-	-	-	土師器片、須恵器片、土製品	-	時期不明	
108	S43e5	N-3°-W	跡柱(長方形)	3.36×(2.70)	16-25	平壁	-	-	-	-	土師器片、須恵器片、土製品、灰製品	本跡→SB 4	8世紀後半	
109	S4315	N-84°-E	跡柱	4.89×(3.73)	28	平壁	(全面)	-	-	-	土師器片、須恵器片	本跡→SK294-295、SK222、SB 9	9世紀前半	
110	T43a4	N-27°-E	長方形	6.20×5.38	28	平壁	一部	3	1	1	伊1	土師器片	本跡→SK296、SB 8・9	4世紀前半
111	S434f	N-9°-E	跡柱	3.65×(2.48)	24-54	平壁	(全面)	2	-	1	壁1	土師器片、須恵器片、瓦片、瓦片	本跡→SK293	5世紀後半
112	S43d3	N-5°-E	跡柱	6.15×(3.36)	30-49	平壁	(全面)	2	-	1	壁1	土師器片、須恵器片、瓦片	SK296-417→本跡	9世紀中葉以前
113	T43b3	N-6°-E	長方形	3.59×3.16	27-36	平壁	-	-	-	1	壁1	土師器片、須恵器片、瓦片、瓦片	-	8世紀前半
114	U4818	N-17°-W	[方形]	(4.54×4.51)	10-14	平壁	-	-	-	-	土師器片	本跡→SH7→SK30	時期不明	
115	T43a0	N-4°-E	跡柱	4.64×(3.34)	46-54	平壁	(全面)	-	-	1	-	土師器片、須恵器片、土製品	本跡→SD22	8世紀後半

表3 方形竪穴遺構一覽表

番号	位置	主軸方向	平面形	長短(m) 長軸×短軸	壁高 (m)	壁面	内部構造			伊 羅 士	主な出土遺物	備考 (旧遺物番号、遺物関係)	時代		
							壁溝	土柱・石礎	土柱入口						
1	V50a3	N-7°-W	長方形	3.45×3.00	25	外壁	平壁	-	1	-	人為	須恵器片、須恵器片、瓦片、須恵器片	SH14)14世紀後半		
2	U48e8	N-87°-W	方形	1.96×1.78	14	外壁	平壁	-	-	-	伊1	土師器片、須恵器片、須恵器片、瓦片、須恵器片	IS295)中世		
3	T43a9	N-0°	長方形	2.26×1.90	16	外壁	平壁	-	5	1	人為	須恵器片、伊羅器片、須恵器片、須恵器片	IS356)中世		
4	U45b1	N-5°-E	長方形	3.47×(3.11)	6	外壁	平壁	一部	2	-	伊1	陶器片	IS278)中世		
5	U49e3	N-5°-W	長方形	3.35×2.67	4	外壁	平壁	-	2	-	人為	土師器片、須恵器片、瓦質土器片	IS334)時期不明		
6	T4613	N-4°-W	長方形	2.94×2.51	16-20	外壁	平壁	-	3	-	-	自然	土師器片、須恵器片、瓦片	IS377)SK156→本跡、時期不明	
7	T4613	N-0°	方形	3.15×3.10	8-16	外壁	平壁	-	3	5	-	人為	土師器片、粘土質	IS279)本跡→SK182-183-302、時期不明	
8	T43g0	N-4°-E	方形	3.94×3.31	13-20	外壁	平壁	-	4	-	-	人為	土師器片、須恵器片	IS189)時期不明	
9	T44d2	N-3°-E	[方形]	(2.60×2.40)	60	垂直	平壁	-	-	-	-	人為	土師器片、須恵器片、灰質	IS110)時期不明	
10	U4911	N-0°	跡柱	2.25×1.84	18	外壁	平壁	-	-	-	-	人為	伊羅器片、赤土、伊内湖器片、白色漆	ISS27)SH11→本跡、中世	
11	U4911	N-85°-E	跡柱	2.74×1.10	17	外壁	平壁	-	-	-	-	人為	伊羅器片、赤土、伊内湖器片、白色漆	ISS28)本跡→SH10-14、中世	
12	U48e9	N-90°-E	跡柱	2.22×2.00	32	外壁	平壁	-	-	-	-	人為	伊羅器片、赤土、伊内湖器片、白色漆	ISS29)本跡→SH13、中世	
13	U48f9	N-87°-E	跡柱	1.90×1.32	35	外壁	平壁	-	-	-	-	人為	伊羅器片、赤土、伊内湖器片、白色漆	ISS30)SH12→本跡→SH14-15、中世	
14	U48f9	N-10°-E	跡柱	1.64×1.66	35	垂直	平壁	-	-	-	-	人為	伊羅器片、赤土、伊内湖器片、白色漆	ISS31)SH13→本跡→SH15、中世	
15	U48f9	N-0°	跡柱	2.10×1.22	16	外壁	平壁	-	-	-	-	人為	伊羅器片、赤土、伊内湖器片、白色漆	ISS32)SH13-14→本跡→SH16、中世	
16	U48f9	N-0°	跡柱	2.10×2.08	18	外壁	平壁	-	-	-	-	人為	伊羅器片、赤土、伊内湖器片、白色漆	ISS33)SH15-18→本跡、中世	
17	U48f9	N-0°	跡柱	1.60×1.60	38	外壁	平壁	-	-	-	-	人為	伊羅器片、赤土、伊内湖器片、白色漆	ISS34)SH18→本跡、中世	
18	U48f9	N-0°	跡柱	(1.94×0.48)	34	外壁	平壁	-	-	-	-	人為	伊羅器片、赤土、伊内湖器片、白色漆	ISS35)SH16-17→本跡、中世	

表4 掘立柱建物跡一覽表

番号	位置	掘立方向	風		長短(m) 長軸×短軸	構造	柱			伊 羅 士	主な遺物	遺物番号 (古→新)	時代		
			北→南	東→西			掘立柱穴	平壁	壁						
1	U50g0	N-21°-W	3×2	(3.67×4.85)	1.30-2.30	2.11-2.34	26.82	銅柱	10	円形・楕円形	42-70	35-68(4-4)	土師器片、須恵器片	SI 8→本跡→SK 6・8	[3世紀-4世紀]
2	U50g8	N-2°-E	(1)×2	(3.67×4.85)	-4.75	1.80-2.10	18.72	銅柱(6)	(6)	円形・楕円形	36-68	34-68(5-8)	-	-	時期不明
3	U5013	N-88°-E	5×2	(1.20×1.58)	1.40-2.15	1.15-1.35	26.3	銅柱	27	円形、楕円形	34-62	30-72(0-8)	-	SIS 9(31)IS 5(4)S 1(1)→本跡	中世
4	S43d5	N-86°-W	5×3	(2.85×3.88)	1.20-2.33	1.31-2.12	69.6	銅柱	16	圓形、長方形、正方形	139-160	139-160(9-11)	土師器片、須恵器片、瓦片、須恵器片	SI106-108→本跡	1世紀初-2世紀
5	T45a2	N-3°-E	3×3	(1.39×1.42)	1.30-2.10	1.10-1.31	40.45	銅柱	12	長方形、不整形	139-160	139-160(5-7)	須恵器片	-	1世紀初-1世紀





序号	位置	长径方向	平面形	长		壁面	底面	覆土	主要出土遗物	备注 遗物序号·新旧关系(古→新)
				长径(厘米)×短径(厘米)	深(厘米)					
8	U90a	N-11°-E	椭圆形	0.38 × 0.45	16	外倾	平坦	自然	-	本册→SB1
9	U49j9	N-1°-W	[方形]	0.62 × (0.52)	37	外倾	平坦	自然	土陶器片, 灰泥器片, 铁滓	
11	V49c0	N-49°-W	不整形内形	0.36 × 0.45	37	垂直	屈状	自然	-	SB4→本册
12	V49c0	N-14°-W	不整形	0.31 × 0.30	48	垂直	屈状	自然	土陶器片, 灰泥器片, 护甲片	SB4→本册
15	U49h9	N-32°-W	椭圆形	0.45 × 0.41	49	垂直	屈状	-	土陶器片, 漆	SB4→本册
16	U49h9	N-49°-W	椭圆形	1.08 × 0.88	70	外倾	平坦	自然	-	SB4→本册
17	U49h9	N-32°-W	椭圆形	0.48 × 0.45	50	垂直	平坦	人为	土陶器片, 灰泥器片, 漆	SB4→本册
18	U49h0	N-56°-E	椭圆形	0.83 × 0.71	54-58	外倾	屈状	人为	土陶器片, 漆	SB4→本册
19	V49c0	N-71°-E	不定形	0.45 × 0.38	43	外倾	屈状	-	-	SB4→本册
20	V49f7	N-39°-W	圆形	1.22 × 1.14	27	垂直	平坦	人为	土陶器片, 灰泥器片, 铁滓, 基石, 护甲片, 漆	SB7→本册
21	U50h6	N-59°-E	长方形	0.96 × 0.75	28	外倾	平坦	自然	-	SB11→本册
22	U49h8	N-0°	圆形	0.37 × 0.37	52	垂直	屈状	人为	土陶器片, 灰泥器片, 漆	SB4→本册
23	U49d0	N-23°-W	椭圆形	0.35 × 0.30	25	垂直	屈状	-	-	SB4→本册
24	V49d0	N-26°-W	椭圆形	0.57 × 0.50	32	垂直	屈状	人为	基石	SB4→本册
25	U50d9	N-57°-W	椭圆形	1.07 × 0.94	25	外倾	平坦	人为	土陶器片	
26	U50f9	N-75°-W	不整形内形	0.85 × 0.47	40	垂直	凸凹	自然	-	
27	U50f8	N-89°-E	圆形	0.87 × 0.91	27	外倾	平坦	人为	-	
28	U50g9	N-52°-W	椭圆形	1.61 × 0.87	28	外倾	平坦	自然	-	
29	U50g8	N-15°-E	不整形内形	1.11 × 0.90	13	外倾	凸凹	人为	-	
30	U50f8	N-71°-E	椭圆形	0.75 × 0.58	29	外倾	凸凹	自然	-	
48	U49h6	N-54°-W	圆形	0.90 × 0.85	12	外倾	平坦	自然	-	SB5→本册
54	U49f7	N-26°-W	椭圆形	0.43 × 0.37	40	垂直	屈状	自然	土陶器片	SB5→本册
55	U49f9	N-2°-W	椭圆形	1.07 × 0.88	22	外倾	平坦	人为	土陶器片, 灰泥器片, 漆	
56	U49f8	N-75°-W	椭圆形	0.30 × 0.34	42	垂直	屈状	人为	土陶器片, 灰泥器片	SB7→本册
59	U49h4	N-5°-W	椭圆形	2.92 × 1.45	37	倾斜	屈状	人为	土陶器片, 石器	SB5, SK122→本册
60	U49j9	N-3°-W	[方形]	0.55 × (0.34)	69	外倾	凸凹	自然	土陶器片, 灰泥器片	SB8-SK 99→本册-SK61
61	U49j9	N-5°-W	圆形	0.53 × 0.51	63	垂直	屈状	自然	土陶器片, 灰泥器片, 黏土塊	SB8-SK 99→本册-SK60→本册
62	V52f1	N-6°	圆形	1.32 × 1.31	48	外倾	凸凹	人为	土陶器片, 灰泥器片, 铁滓, 护甲片	本册→SK118
63	V52f4	N-65°-E	不定形	0.82 × 0.78	97	垂直	屈状	人为	土陶器片	
64	V52f4	N-49°-W	不整形内形	1.50 × 1.25	63	外倾	平坦	人为	土陶器片, 漆	
65	V52f4	N-67°-E	椭圆形	1.15 × 1.10	90	外倾	凸凹	人为	-	
66	V52d1	N-67°-E	不定形	0.80 × 0.47	95	外倾	凸凹	人为	-	SK66, 99→本册
67	U50h8	N-12°-W	圆形	0.40 × 0.40	30	垂直	平坦	人为	铁滓	本册→SK58
68	U50h8	N-88°-W	[椭圆形]	0.41 × (0.34)	15	倾斜	屈状	人为	-	SK57→本册
69	U50i8	N-69°-W	椭圆形	0.98 × 0.65	19	外倾	平坦	人为	-	本册→SK120
70	U50i8	N-15°-W	圆形	0.41 × 0.41	24	外倾	屈状	自然	-	
71	U50h8	N-47°-W	椭圆形	0.39 × 0.33	26	外倾	屈状	人为	-	
72	U50g0	N-39°-E	椭圆形	0.56 × 0.83	27	外倾	平坦	人为	-	
73	U50g6	N-31°-E	椭圆形	0.57 × 0.55	26	外倾	屈状	人为	-	
74	U50h6	N-12°-E	椭圆形	1.95 × 1.63	25	外倾	平坦	人为	土陶器片, 灰泥器片, 赭土土器片, 漆	
75	U50h5	N-89°-W	圆形	0.46 × 0.42	15	外倾	平坦	自然	-	
77	U50j5	N-2°-W	圆形	1.35 × 1.35	16	外倾	平坦	人为	土陶器片, 灰泥器片, 铁滓, 漆	SB5→本册
82	U50g7	N-71°-E	椭圆形	0.47 × 0.32	49	外倾	屈状	-	-	
83	U50g7	N-33°-E	椭圆形	0.21 × 0.19	15	外倾	屈状	-	-	
84	U50g7	N-88°-W	椭圆形	0.27 × 0.23	15	-	-	-	-	
85	V49b9	N-33°-E	椭圆形	1.03 × 0.90	17	外倾	平坦	自然	-	SB4→本册
88	U50g7	N-9°-E	椭圆形	0.25 × 0.21	10	外倾	平坦	自然	-	
89	U50h7	N-59°-W	圆形	0.49 × 0.48	21	倾斜	屈状	-	-	
90	V52d1	N-34°-W	不定形	0.74 × 0.66	45	外倾	凸凹	人为	-	
91	V52d1	N-87°-W	椭圆形	1.65 × 0.78	33	外倾	平坦	人为	-	
92	U51g3	N-79°-E	长方形	2.30 × 1.05	26	外倾	平坦	人为	土陶器片, 灰泥器片	
93	U51f6	N-52°-W	不整形内形	0.95 × 0.72	77	外倾	凸凹	-	-	
94	V51f4	N-22°-W	椭圆形	1.27 × 1.14	15	倾斜	平坦	自然	土陶器片	
95	V51c7	N-58°-W	椭圆形	1.43 × 1.25	28	倾斜	平坦	人为	-	
96	V50c3	N-16°-W	[不整形]	0.99 × (0.88)	12	倾斜	平坦	自然	-	SB3→本册
97	U51f7	N-56°-W	不定形	1.85 × 1.07	0.7	外倾	平坦	-	-	本册→SK38
98	U51f7	N-67°-E	不定形	1.04 × 0.59	27	外倾	凸凹	-	-	SK37→本册
99	V52d1	N-63°-E	[椭圆形]	0.45 × (0.60)	80	外倾	凸凹	人为	-	本册→SK66

番号	位置	長短方向	平面形	規 模		壁面	覆土	主な出土遺物	備 考 遺構番号・調査年度(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	間 隔				
100	V52d7	N-30°-W	楕円形	0.33 × 0.28	51	垂直	土為	-	
102	V5018	N-6°-E	楕円形	0.48 × 0.32	32	垂直	土為	-	
103	U50c5	N-8°-E	円形	1.00 × (0.97)	23	外傾	平皿	土為	
104	U50c9	N-47°-E	不整形	1.59 × (1.57)	23	外傾	平皿	土燧器片, 不明鉄	
105	U51b3	N-40°-E	円形	1.42 × 1.41	10	外傾	平皿	土為	
106	U51e5	N-15°-E	楕丸方形	0.45 × 0.44	57	外傾	土為	-	
107	U51d5	N-5°-W	円形	0.52 × 0.49	64	外傾	土為	-	
108	U51d4	N-2°-E	方形	0.45 × 0.40	50	外傾	土為	-	
109	U51d3	N-61°-E	楕円形	0.41 × 0.32	30	外傾	土為	-	
110	U51e4	N-65°-W	楕円形	0.50 × 0.45	55	垂直	土為	-	
111	V51d3	N-40°-E	楕円形	1.00 × 0.93	123	外傾	平皿	土為	
112	V51e2	N-12°-W	楕円形	0.93 × 0.87	11	外傾	平皿	土為	
113	U50j2	N-3°-W (長方形)		1.65 × (0.93)	15	外傾	土為	-	本跡→SK114
114	U50j4	N-4°-W	長方形	2.30 × 1.67	32	外傾	土燧器片, 須恵器片	SK113→本跡	
115	U50j3	N-3°-W	円形	0.65 × 0.61	61	垂直	土燧器片	-	
117	U50k7	N-3°-E	楕円形	0.93 × 0.73	34	外傾	土為	-	
118	V52f1	N-10°-W	不定形	0.60 × 0.46	46	外傾	土為	-	
119	V52d1	N-41°-W (楕丸方形)		(0.36 × 0.29)	46	外傾	土為	-	本跡→SK66
120	U5018	N-3°-W	楕円形	0.30 × 0.22	38	垂直	土燧器片	SK69→本跡	
121	U49h3	N-10°-W	楕円形	0.70 × 0.55	52	外傾	土為	-	SK32→本跡
122	U49i4	N-15°-W	不定形	0.67 × 0.52	50	外傾	土燧器片	SK32→本跡→SK59	
123	U49i9	N-22°-W	円形	1.10 × 1.05		外傾	土燧器片, 須恵器片, 不明鉄, 漆	-	
124	U49j9	N-0°	円形	1.20 × 1.20	23	外傾	土燧器片, 須恵器片, 鉄滓	-	
125	U49j0	N-60°-W	楕円形	0.67 × 0.6	37	外傾	土為	-	
127	V49a0	N-67°-E	楕円形	1.32 × 1.03	74	外傾	平皿	-	本跡→S110→SK10
129	V49c0	N-45°-W	楕円形	0.38 × 0.32	5	垂直	土為	-	S24→本跡
130	U49i2	N-36°-E	円形	0.48 × 0.47	10	垂直	土為	-	S13, SD 6→本跡
131	U49j0	N-80°-W	楕円形	0.56 × 0.42	15	垂直	土為	-	
132	U49b5	N-6°-W	円形	0.50 × (0.32)	19	垂直	土燧器片, 須恵器片	S110→本跡	
133	U49g9	N-65°-E	楕円形	0.87 × 0.69	34	垂直	土燧器片, 須恵器片	S110→本跡	
134	V49b6	N-74°-E	楕円形	1.07 × 0.87	19	垂直	土為	-	SK21→本跡
135	V49a0	N-49°-W	楕円形	0.63 × 0.51	25	垂直	土為	-	
136	V49a0	N-49°-W	楕円形	1.20 × 1.11	25	垂直	平皿	-	SK201→本跡
137	V49b9	N-0°	円形	1.00 × 1.00	30	外傾	土燧器片, 羽口片, 伊織片	-	
138	V49a9	N-10°-W	円形	0.52 × 0.50	22	垂直	土燧器片, 須恵器片	-	
139	V49a0	N-32°-W	楕円形	0.46 × 0.35	50	外傾	土為	-	
140	V49a7	N-31°-W	楕円形	1.10 × 1.02	24	外傾	土燧器片	-	
141	V49a7	N-29°-W	円形	1.17 × 1.13	14	垂直	土為	-	
142	U49j6	N-51°-W	楕円形	1.42 × 1.32	23	垂直	土燧器片, 須恵器片, 陶器片, 伊織片, 鉄滓	-	
143	V49a6	N-0°	円形	1.05 × 1.06	27	垂直	土為	-	
144	U49j7	N-6°-W	楕円形	1.19 × 1.15	29	外傾	土燧器片, 須恵器片, 伊織片, 鉄滓	-	
145	U49j6	N-55°-W	楕円形	1.22 × 1.12	24	垂直	土燧器片, 須恵器片	-	
146	V49a5	N-24°-E	楕円形	1.12 × 1.03	0.7	垂直	伊織片, 鉄滓	-	
147	U49j6	N-63°-W	楕円形	1.09 × 1.01	12	垂直	土燧器片, 須恵器片	-	
148	U49j6	N-54°-W	円形	1.20 × 1.07	0.8	垂直	土燧器片, 鉄滓, 不明鉄	-	
149	U49j5	N-40°-W	楕円形	1.18 × 1.14	14	垂直	土為	-	
150	T46b6	N-53°-E	円形	1.17 × 1.13	0.5	垂直	土為	-	
152	U51d3	N-54°-E	不定形	0.50 × 0.47	62	垂直	土為	-	
153	U51d3	N-29°-W	楕円形	0.48 × 0.35	47	外傾	土為	-	
154	U51e4	N-36°-W	楕丸方形	0.44 × 0.41	52	垂直	土為	-	
155	U51f7	N-84°-E	楕円形	0.80 × 0.54	30	外傾	土為	-	
156	T46j3	N-4°-E	円形	0.95 × 0.85	6	外傾	土為	-	本跡→S157
158	U50g8	N-83°-W	円形	0.53 × 0.49	28	外傾	土為	-	
160	U51e7	N-10°-W	不整形	1.86 × 0.95	10	垂直	土為	-	
161	U50b8	N-58°-E	楕円形	0.35 × 0.32	30	外傾	土為	-	
162	T45j3	N-40°-W	円形	1.01 × 0.92	25	外傾	土為	-	
163	U50j6	N-40°-E	円形	0.64 × 0.62	23	外傾	土為	-	
164	U50i5	N-78°-W	楕円形	0.75 × 0.68	11	垂直	土為	-	

番号	位置	長採方向	平面形	幾何		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
165	V507	N-47°-E	楕円形	1.10 × 1.03	10	外傾	平坦	人為	-	
166	V507	N-30°-W	楕円形	0.78 × 0.61	13	外傾	平坦	人為	-	
168	T45J4	N-36°-W	円形	1.18 × 1.15	14	外傾	平坦	人為	-	S279→本跡
169	V499	N-18°-W	楕円形	0.46 × 0.35	26	外傾	屈状	人為	-	
170	V499	N-30°-W	楕円形	0.28 × 0.22	25	外傾	屈状	自然	-	
171	V499	N-50°-E	楕円形	0.30 × 0.20	19	外傾	屈状	自然	-	
172	V499	N-64°-W	楕円形	0.37 × 0.30	47	垂直	凹凸	人為	-	
173	V499	N-40°-W	楕円形	0.22 × 0.17	19	外傾	屈状	自然	-	
174	V499	N-47°-E	楕円形	0.35 × 0.29	20	外傾	屈状	人為	-	
175	V499	N-0°	円形	0.43 × 0.41	18	外傾	平坦	自然	-	
176	V499	N-0°	円形	0.38 × 0.37	18	垂直	平坦	人為	-	
177	V997	N-34°-E	楕円形	1.15 × 1.05	8	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 礎	
178	V998	N-56°-E	楕円形	0.23 × 0.24	47	緩斜	屈状	自然	-	本跡→SK179
179	V998	N-39°-W	楕円形	0.46 × 0.37	54	緩斜	屈状	人為	-	SK178→本跡
180	U49J8	N-6°-W	隅丸長方形	0.32 × 0.21	16	外傾	屈状	人為	-	本跡→SK205
181	V499	N-50°-E	円形	0.21 × 0.20	30	外傾	屈状	自然	-	
182	V998	N-7°-E	楕円形	1.15 × 0.85	19	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 漆生土器片	SK120-266-267→本跡→SK209
183	V999	N-5°-W	隅丸長方形	2.88 × 0.60	7	外傾	平坦	自然	-	
184	V998	N-8°-W	隅丸長方形	2.75 × 0.80	12	外傾	平坦	自然	須恵器片	
185	V999	N-13°-W	楕円形	1.10 × 1.00	10	外傾	平坦	自然	-	
186	V999	N-60°-E	楕円形	0.34 × 0.25	49	垂直	屈状	人為	-	
187	T43I5	N-65°-W	円形	0.52 × 0.50	20	外傾	平坦	人為	-	
188	W49D	N-38°-W	隅丸長方形	0.57 × 0.55	36	緩斜	平坦	人為	土師器片	
189	V999	N-0°	円形	0.42 × 0.42	32	外傾	屈状	自然	-	
190	V999	N-0°	円形	0.39 × 0.39	25	外傾	屈状	人為	-	
191	V499	N-31°-E	隅丸長方形	0.30 × 0.29	43	垂直	屈状	自然	鎌倉土器片, 土師器片	SK192→本跡
192	V499	N-12°-W	隅丸長方形	2.60 × 0.82	8	緩斜	平坦	自然	-	本跡→SK191, 226
193	V499	N-10°-E (楕円形)	楕円形	0.45 × 0.40	70	垂直	屈状	人為	-	SK211→本跡→SK212
194	V999	N-30°-E	楕円形	1.16 × 1.09	25	外傾	平坦	人為	土師器片, 石器	本跡→SK273
195	V999	N-30°-E	楕円形	1.24 × 1.07	22	緩斜	平坦	人為	-	本跡→SD 8
196	W49D	N-47°-W	楕円形	1.19 × 1.12	39	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 養生土器片, 伊賀土	
197	U49J7	N-46°-W	楕円形	1.22 × 1.16	15	緩斜	平坦	人為	-	
199	U49J7	N-68°-E	長方形	2.04 × 0.70	34	垂直	平坦	人為	鉄片, 伊賀土	
200	V999	N-20°-E	楕円形	1.23 × 1.00	13-15	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 礎	
201	V999	N-30°-W (楕円形)	楕円形	1.16 × (0.54)	24	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 礎	本跡→SK136
202	U49J7	N-0°	円形	1.20 × 1.08	39	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 粘土塊	
203	U49J7	N-57°-W	楕円形	1.34 × 1.21	18	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 伊賀土	SK204→本跡
204	C49J7	N-70°-W (楕円形)	楕円形	1.10 × (0.41)	12	外傾	平坦	人為	-	本跡→SK203
205	U49J8	N-14°-E	楕円形	1.22 × 1.18	30	外傾	平坦	人為	土師器片, 伊賀土, 鉄片	SK190→本跡
206	V499	N-31°-W	隅丸長方形	0.25 × 0.25	10	外傾	平坦	人為	-	
207	V499	N-2°-W	円形	0.39 × 0.37	37	外傾	屈状	自然	-	
208	V499	N-72°-W	楕円形	0.38 × 0.24	49	緩斜	屈状	人為	-	
209	V998	N-74°-W	楕円形	0.33 × 0.28	15	外傾	屈状	自然	土師器片, 須恵器片	SK182→SK267→本跡
210	V998	N-77°-W (不定形)	楕円形	0.43 × (0.33)	45	外傾	屈状	自然	土師器片, 須恵器片, 礎	本跡→SK182
211	V499	N-33°-E	楕円形	1.73 × 1.16	14	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	本跡→SK212, 193
212	V499	N-15°-W	楕円形	0.88 × 0.49	71	外傾	平坦	人為	-	SK211→SK199→本跡
213	V499	N-25°-E	楕円形	0.43 × 0.33	27	外傾	屈状	自然	土師器片	
214	V998	N-35°-E	不定形	1.25 × 0.81	30	緩斜	平坦	人為	鉄片, 伊賀土	本跡→SK215
215	V998	N-49°-W	不定形	0.47 × 0.41	32	緩斜	屈状	人為	-	SK214→本跡
216	V998	N-45°-E	楕円形	0.30 × 0.25	46	外傾	平坦	人為	-	
217	V998	N-37°-W	円形	0.28 × 0.26	21	外傾	屈状	自然	-	
218	V998	N-21°-E	楕円形	0.46 × 0.37	23	外傾	平坦	自然	-	
219	V499	N-10°-W	楕円形	0.37 × 0.30	15	外傾	平坦	人為	-	
220	V998	N-39°-W	楕円形	0.50 × 0.47	52	外傾	屈状	自然	-	
221	V998	N-24°-E (楕円形)	楕円形	0.44 × 0.41	32	外傾	屈状	人為	-	本跡→SK222
222	V998	N-15°-E	楕円形	0.34 × 0.30	20	外傾	屈状	自然	-	SK221→本跡
223	V998	N-26°-W	楕円形	0.96 × 0.57	38	緩斜	平坦	人為	-	
224	V998	N-25°-E	隅丸長方形	0.25 × 0.25	33	外傾	屈状	自然	-	

番号	位置	方位	平面形	底 面		埋 入	断面	覆土	主な出土遺物	備 考 遺跡番号・新旧関係(古→新)
				長さ(縦)×幅(横)	深 さ					
225	V49b8	N-8°-W	楕円形	0.46 × 0.35	25	楕円	瓦状	人為	-	
226	V49c8	N-39°-E	楕丸方形	0.31 × 0.31	47	垂直	瓦状	人為	-	SK192→本跡
227	V49b9	N-55°-W	楕円形	0.75 × 0.71	15	楕円	平坦	自然	土層碎片	
228	V49d8	N-64°-W	楕円形	0.28 × 0.19	22	外傾	瓦状	人為	-	
229	V49a0	N-29°-E	楕円形	1.20 × 1.06	16	外傾	平坦	人為	-	SK272→本跡
230	U49j8	N-56°-E	楕円形	0.41 × 0.28	27	外傾	瓦状	人為	土層碎片, 灰層碎片	
231	U49j8	N-59°-W	楕円形	1.28 × 1.13	30	楕円	平坦	人為	土層碎片, 灰層碎片	
232	V49b7	N-65°-W	楕円形	0.50 × 0.26	15	楕円	平坦	人為	-	
233	V49c8	N-0°	円形	0.30 × 0.28	15	楕円	瓦状	自然	-	
234	V49b8	N-0°	円形	0.34 × 0.33	49	垂直	瓦状	人為	-	
235	V49c8	N-0°	円形	0.16 × 0.16	20	垂直	瓦状	人為	-	
236	V49c8	N-0°	円形	0.16 × 0.16	16	垂直	瓦状	人為	-	
237	V49c8	N-15°-W	円形	0.25 × 0.23	8	外傾	平坦	人為	-	
238	V49c8	N-19°-E	楕円形	0.35 × 0.28	28	外傾	瓦状	人為	-	
239	V49c8	N-0°	円形	0.23 × 0.23	16	外傾	瓦状	人為	-	
240	V49b8	N-21°-W	楕円形	0.33 × 0.25	12	外傾	瓦状	自然	-	
241	V49b7	N-39°-E	楕円形	0.29 × 0.24	18	外傾	平坦	人為	-	
242	V49b7	N-46°-W	円形	0.29 × 0.27	30	外傾	瓦状	人為	-	
243	V49b7	N-5°-W	円形	0.29 × 0.27	18	外傾	瓦状	人為	-	
244	V49b6	N-29°-E	円形	0.28 × 0.25	26	外傾	瓦状	人為	-	
245	V49c6	N-79°-E	楕円形	0.48 × 0.28	24	外傾	平坦	人為	土層碎片	
246	V49c6	N-45°-W	円形	0.36 × 0.35	36	外傾	瓦状	人為	-	
247	V49b5	N-50°-W	円形	0.27 × 0.25	15	楕円	瓦状	人為	-	
248	V49a5	N-0°	円形	0.36 × 0.35	25	外傾	瓦状	人為	-	
249	U49j5	N-0°	円形	0.70 × 0.69	0.5	外傾	平坦	自然	灰層碎片	
250	U49j6	N-22°-W	楕円形	0.52 × 0.50	41	垂直	平坦	人為	土層碎片, 塵	
251	U49h5	N-52°-W	楕円形	0.53 × 0.48	33	楕円	瓦状	人為	土層碎片	
252	U49j4	N-20°-W	円形	0.40 × 0.37	46	外傾	瓦状	人為	土層碎片	
253	U49j4	N-75°-W	楕円形	0.66 × 0.40	52	垂直	凸凸	人為	土層碎片, 灰層碎片	
254	V49b7	N-0°	円形	0.42 × 0.42	15	外傾	平坦	人為	-	
255	V49a4	N-72°-E	楕円形	0.32 × 0.26	18	外傾	平坦	人為	-	
256	U49i6	N-75°-W	楕円形	0.33 × 0.23	24	外傾	瓦状	人為	-	
257	U49i6	N-33°-W	円形	0.33 × 0.31	30	外傾	平坦	人為	-	
258	U49h6	N-9°-E	円形	0.23 × 0.22	21	外傾	平坦	自然	-	
259	U49h6	N-82°-W	楕円形	0.41 × 0.35	29	外傾	平坦	人為	-	SK260→本跡
260	U49b5	N-82°-W	楕円形	(0.36) × 0.41	45	外傾	平坦	人為	土層碎片, 灰層碎片	本跡→SK259
261	U49h5	N-0°	円形	0.30 × 0.30	13	外傾	平坦	自然	-	
262	U49h5	N-54°-E	楕円形	0.45 × 0.40	26	外傾	平坦	人為	土層碎片	
263	U49i5	N-11°-W	楕円形	0.65 × 0.40	27	外傾	瓦状	人為	土層碎片, 灰層碎片	
264	V49c5	N-7°-E	楕丸方形	0.64 × 0.40	60	垂直	瓦状	人為	-	
265	V49c5	N-13°-E	円形	0.27 × 0.28	15	楕円	瓦状	人為	-	
266	V49a8	N-40°-W	不定形	0.33 × 0.31	25	外傾	瓦状	人為	-	本跡→SK182
267	V49a8	N-42°-W (楕円形)	(楕円形)	0.46 × (0.36)	18	楕円	瓦状	人為	土層碎片	本跡→SK209→SK182
268	V49b5	N-27°-E	楕円形	1.06 × 1.02	24	垂直	平坦	自然	衛生土層片, 土層碎片, 灰層碎片	本跡→SK279
269	U49j0	N-6°-W	(楕円形)	0.96 × (0.38)	46	外傾	平坦	人為	-	本跡→SK270
270	U49j0	N-59°-W	楕円形	0.69 × 0.50	53	外傾	平坦	人為	衛生土層片, 土層碎片, 灰層碎片	SK209→本跡
271	V49a0	N-0°	円形	0.27 × 0.27	25	外傾	瓦状	人為	-	
272	V49a0	N-45°-W	(楕円形)	0.54 × (0.41)	17	外傾	平坦	自然	-	本跡→SK229
273	V49b0	N-0°	円形	0.25 × 0.25	20	外傾	瓦状	自然	-	SK194→本跡
274	V49b0	N-40°-W	楕円形	0.59 × 0.30	48	垂直	瓦状	人為	-	
275	V49b0	N-53°-W	楕円形	0.32 × 0.28	17	外傾	平坦	人為	-	
276	V49b0	N-0°	円形	0.24 × 0.25	25	外傾	瓦状	人為	-	
277	V49b0	N-0°	円形	0.34 × 0.26	12	外傾	平坦	人為	-	
278	V49d9	N-45°-E	楕円形	0.44 × 0.31	21	外傾	平坦	人為	-	
279	V49a9	N-27°-E	楕円形	1.50 × 1.17	18	楕円	平坦	自然	土層碎片	SK268→本跡
280	V49d9	N-14°-W	楕円形	0.56 × 0.48	19	外傾	平坦	人為	土層碎片, 砂層片	
281	U49j0	N-66°-W	楕円形	0.32 × 0.26	11	外傾	平坦	自然	-	
282	U49i0	N-16°-W	(円形)	0.62 × (0.49)	45	垂直	平坦	人為	-	

番号	位置	長短方向	平面形	規 模		壁面	土質	主な出土遺物	備 考
				長さ(㎝)×短径(㎝)	深さ				
283	V49d	N-0°	円形	0.45 × 0.45	32	外傾	混状	人為	-
284	V49c9	N-8°-E	方形	0.34 × 0.33	16	横傾	混状	人為	SK110→本跡
285	V49d5	N-0°	円形	0.24 × 0.24	19	外傾	混状	人為	-
286	V49d6	N-0°	円形	0.29 × 0.29	22	外傾	凸凹	人為	-
287	W49d	N-43°-E	楕円形	0.72 × 0.54	17	横傾	平坦	人為	-
288	V49a4	N-0°	円形	0.37 × 0.37	41	垂直	混状	人為	-
289	T43a7	N-3°-W	隅丸方形	1.20 × 1.10	21	横傾	平坦	人為	SI104→本跡
290	T43a4	N-44°-E	円形	0.55 × 0.49	42	外傾	平坦	人為	土師器片, 粘土塊
291	S43e0	N-54°-W	楕円形	1.45 × 1.00	25	横傾	混状	人為	-
293	S43f3	N-9°-E	隅丸方形	1.16 × 0.43	19	横傾	平坦	人為	SK111→本跡
294	S43f4	N-69°-W	円形	0.33 × 0.30	11	横傾	混状	人為	SI109→本跡
295	S43f5	N-0°	円形	0.30 × 0.30	20	外傾	混状	人為	SI109→本跡
296	S43h3	N-7°-E	楕円形	1.24 × 0.95	6	横傾	平坦	自然	本跡→SI112
297	S43f0	N-35°-E	不定形	0.95 × 0.70	52	外傾	凸凹	自然	SK 4→本跡
298	T44f2	N-47°-W	楕円形	0.46 × 0.41	20	外傾	混状	自然	-
302	T45j3	N-29°-E	円形	1.18 × 1.16	10	横傾	平坦	自然	SI78, SK301→本跡
303	T45g7	N-6°-W	円形	0.62 × 0.59	39	外傾	平坦	自然	SI91→本跡
304	T45c3	N-65°-E	円形	1.03 × 0.99	34	垂直	平坦	人為	-
305	T45c5	N-23°-W	円形	1.07 × 1.04	18	外傾	平坦	人為	-
306	T45e0	N-85°-E	円形	1.03 × 0.99	34	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄製品
307	T45b1	N-39°-W	円形	1.23 × 1.19	18	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片
308	T46c2	N-17°-E	円形	1.17 × 1.14	45	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片
310	T45c7	N-52°-W	円形	1.03 × 1.01	8	外傾	平坦	人為	-
311	T45c7	N-52°-W	円形	1.03 × 1.00	29	外傾	凸凹	自然	土師器片, 須恵器片, 海貝片, 不明鉄
314	T44c4	N-40°-W	楕円形	1.23 × 0.93	30	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片
315	T44c5	N-3°-E	不整楕円形	2.11 × 0.94	18	外傾	平坦	人為	須恵器片
316	T45c1	N-48°-W	(円形)	(1.30 × 1.25)	62	外傾	平坦	人為	土師器片, 鉄製品
317	T45e2	N-77°-W	楕円形	0.93 × 0.81	45	垂直	凸凹	人為	人骨片
318	T45c4	N-23°-E	円形	1.05 × 1.00	45	垂直	平坦	自然	土師器片, 鉄製品
320	T43c0	N-47°-W	楕円形	0.72 × 0.60	34	外傾	凸凹	自然	土師黄土器片
321	T44c1	N-84°-W	(楕円形)	(0.38) × 0.52	22	垂直	平坦	人為	土師器片
326	S45j5	N-8°-E	隅丸方形	1.85 × 0.95	40	外傾	平坦	人為	本跡→SK448
327	T43a7	N-73°-E	楕円形	1.62 × 1.50	70	外傾	平坦	人為	土師器片
331	T46c6	N-0°	円形	(1.11) × 1.04	22	外傾	凸凹	人為	-
334	S43c4	N-86°-W	(長方形)	1.39 × 0.90	125	垂直	平坦	人為	-
347	T46d9	N-7°-W	不定形	0.38 × 0.27	24	外傾	平坦	人為	SK109→本跡
352	U45a5	N-8°-W	楕円形	1.04 × (0.75)	8	外傾	平坦	-	SI79→本跡→SK365
353	U45a5	N-86°-W	楕円形	1.22 × 1.03	6	横傾	平坦	人為	SI79→本跡
354	U45a5	N-77°-W	円形	1.18 × 1.15	27	外傾	平坦	人為	SI79→本跡
356	U45a2	N-22°-E	楕円形	0.33 × 0.25	(34)	垂直	混状	人為	SI08, 81, SK357, 366→本跡
357	U45a2	N-37°-W	不整楕円形	0.34 × 0.29	(11)	外傾	混状	人為	SI08, 81, SK369→本跡→SK356
358	T45j2	N-85°-W	不整長方形	1.00 × 0.83	13	外傾	平坦	人為	SI88, SI81→本跡
359	U45a3	N-16°-E	隅丸長方形	3.93 × 1.06	32	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 鉄片, 銅片
360	U45b3	N-86°-W	(楕円形)	3.19 × (1.11)	53	外傾	-	人為	土師器片, 鉄製石斧
361	T45j3	N-24°-W	円形	1.14 × 1.06	12	外傾	平坦	自然	SK359→本跡
362	T45j3	N-5°-W	円形	0.96 × 0.97	7	外傾	平坦	自然	-
363	U45a3	N-67°-W	円形	0.91 × 0.88	5	横傾	平坦	自然	-
364	U45b4	N-34°-W	円形	1.12 × 1.08	18	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 鉄片
365	U45a5	N-64°-W	楕円形	1.41 × 1.27	19	外傾	平坦	人為	-
366	U45a2	N-38°-W	楕円形	1.10 × 0.88	19	外傾	平坦	人為	SI78, SK365→本跡
367	U45a3	N-64°-W	楕円形	0.73 × 0.65	20	外傾	平坦	人為	SI80-81→本跡→SK356-357
368	U45a3	N-24°-W	(長方形)	(0.85) × 0.63	22	外傾	平坦	人為	SK368→本跡
369	T45j2	N-5°-W	円形	1.00 × 0.97	11	外傾	平坦	自然	本跡→SK367
370	T45j3	N-64°-E	円形	1.14 × 1.09	13	外傾	平坦	自然	-
371	T45j5	N-45°-W	円形	0.99 × 0.99	6	外傾	平坦	人為	-
372	U45a6	N-31°-W	(楕円形)	1.06 × 0.80	40	外傾	混状	人為	本跡→SK372
373	U45a6	N-29°-W	楕円形	0.72 × 0.65	58	外傾	混状	人為	SK372-374→本跡
374	U45a6	N-26°-E	円形	1.14 × (1.06)	18	外傾	平坦	人為	SK372-375→本跡→SK373

番号	位置	長短方向	平面形	縦横		壁面	土質	主な出土遺物	備考 遺跡番号・新旧関係(古→新)	
				長さ(縦)×短さ(横)	深さ					
375	U45a8	N-75'-E	不整形円形	0.87 × 0.47	18	外傾	平土	人瓦	-	本跡→SK374
376	U45a6	N-9'-E	楕円形	1.18 × 1.00	17	外傾	平土	人瓦	-	-
377	U45a6	N-17'-E	不整形円形	0.88 × 0.49	55	外傾	凹凸	人瓦	-	-
378	U45a5	N-22'-W	長楕円形	2.09 × 0.46	72	外傾	平坦	自然	-	本跡→S178-SK379
379	U45a5	N-35'-E	楕円形	0.58 × 0.49	73	外傾	平坦	人瓦	-	本跡→S178-SK379
380	U45b9	N-43'-E	円形	1.11 × 1.05	22	外傾	平坦	自然	-	S170, SK433→本跡
384	T43g5	N-5'-E	円形	0.95 × 0.93	8	外傾	平坦	自然	-	-
385	T43g5	N-90'	円形	0.45 × 0.44	13	外傾	平坦	自然	-	-
386	T43g6	N-0'	円形	1.38 × 1.31	30	外傾	平土	人瓦	-	-
388	T43f5	N-89'-W	[楕円形]	1.07 × (0.53)	15	傾斜	平土	人瓦	-	-
389	T43f5	N-23'-W	円形	0.86 × 0.83	10	傾斜	平土	人瓦	-	-
392	T43f7	N-87'-E	[楕円形]	1.46 × (0.56)	27	傾斜	平坦	人瓦	-	-
393	T43a8	N-41'-E	円形	1.37 × 1.36	47	外傾	平坦	人瓦	-	土師器片, 須恵器片
394	T43f8	N-5'-W	楕円形	1.24 × 1.04	43	外傾	平坦	人瓦	-	-
395	T43f8	N-15'-W	楕円形	1.36 × 1.20	44	外傾	凹凸	人瓦	-	土師器片, 鉄滓
396	T43g9	N-15'-W	円形	1.38 × 1.30	41	垂直	平坦	人瓦	-	須恵器片
397	T43g9	N-24'-W	楕円形	0.97 × 0.82	21	外傾	平土	人瓦	-	-
398	T43g9	N-6'-E	円形	0.81 × 0.78	16	外傾	平坦	人瓦	-	-
399	T43f9	N-88'-E	[円形]	1.31 × (0.70)	30	傾斜	平坦	人瓦	-	-
400	T43f9	N-88'-E	[楕円形]	1.45 × (0.63)	34	外傾	窪状	自然	-	-
401	T44a1	N-2'-E	楕円形	1.52 × 1.22	13	外傾	平坦	人瓦	-	-
402	T44f1	N-5'-E	楕円形	1.18 × 0.96	11	外傾	平坦	自然	-	須恵器片, 鉄滓
403	T44g1	N-28'-E	円形	1.14 × 1.05	13	外傾	平坦	人瓦	-	-
404	T44h1	N-57'-E	楕円形	1.21 × 0.99	6	外傾	平坦	人瓦	-	-
405	T44g2	N-48'-E	楕円形	1.44 × 1.26	15	外傾	平土	人瓦	-	土師器片, 須恵器片, 鉄滓
406	T44g2	N-25'-E	円形	1.02 × 0.94	13	外傾	平坦	人瓦	-	土師器片
408	T44f2	N-89'-E	円形	1.16 × 1.10	10	外傾	平坦	人瓦	-	-
409	T44g2	N-89'-E	楕円形	1.08 × 0.93	70	垂直	平坦	人瓦	-	土師器片, 須恵器片
410	T44h2	N-51'-E	円形	1.31 × 1.27	17	外傾	平坦	人瓦	-	土師器片, 須恵器片, 鐵
411	T44h2	N-49'-W	円形	0.95 × 0.87	17	外傾	凹凸	人瓦	-	伊模片
412	T44g4	N-1'-E	楕円形	0.76 × 0.63	20	外傾	平坦	人瓦	-	-
413	T44f7	N-86'-W	隅丸長方形	1.59 × 1.23	30	外傾	窪状	人瓦	-	須恵器片
414	T44f7	N-74'-W	隅丸長方形	1.87 × 0.98	31	外傾	平坦	人瓦	-	-
417	S43b4	N-9'-E	[円形]	2.45 × (1.22)	18	外傾	窪状	人瓦	-	土師器, 須恵器
419	U49b6	N-73'-E	長楕円形	2.39 × 0.91	57	外傾	平坦	自然	-	本跡→S112
420	T45b5	N-28'-W	円形	0.48 × 0.45	24	外傾	窪状	人瓦	-	S177→本跡
421	T45b5	N-69'-W	楕円形	0.33 × 0.27	12	外傾	平坦	人瓦	-	S177→本跡
422	T45b4	N-51'-W	楕円形	0.34 × 0.29	55	外傾	窪状	人瓦	-	S177→本跡
423	T45b4	N-12'-W	[楕円形]	0.39 × (0.25)	13	外傾	平土	人瓦	-	S177, SD19→本跡→SK435
424	T45g4	N-17'-E	楕円形	0.41 × 0.30	31	外傾	平坦	人瓦	-	S177, SD19→本跡
425	U45a7	N-16'-W	円形	1.06 × 0.97	5	外傾	平坦	自然	-	-
426	U45a7	N-12'-E	円形	0.93 × 0.86	22	外傾	平坦	人瓦	-	-
427	U45a7	N-55'-W	円形	0.38 × 0.26	30	外傾	窪状	自然	-	-
428	U45c9	N-4'-W	円形	0.27 × 0.26	17	外傾	平坦	自然	-	S170, SK433→本跡
431	U45b6	N-86'-E	円形	1.46 × 1.38	66	外傾	平坦	人瓦	-	S169-78→本跡
432	T45j7	N-4'-W	楕円形	2.17 × 2.08	77	外傾	凹凸	自然	-	本跡→S174
433	U45b9	N-20'-E	楕円形	2.66 × 2.06	46	外傾	平土	人瓦	-	本跡→S170, SK380, SK428
435	T45b4	N-53'-E	楕円形	0.40 × 0.31	28	外傾	平坦	人瓦	-	S177, SD19, SK423→本跡
441	T45c9	N-78'-W	[長方形]	1.04 × (0.39)	81	外傾	平坦	人瓦	-	五輪等
448	T44c1	N-5'-W	不整形円形	0.50 × 0.39	24	外傾	平坦	人瓦	-	-
449	S43b5	N-50'-W	楕円形	1.46 × 0.96	14	傾斜	平坦	自然	-	-
451	U51b1	N-56'-W	楕円形	0.45 × 0.35	16	外傾	平土	-	-	S18→SB1→本跡

表7 墓塚一覽表

番号	位置	長短方向	平面形	規模		壁面	覆土	主な出土遺物	備考 (調査番号)・新旧関係
				長径(米)×短径(米)	深さ				
1	T47c1	N-10°-W	方形	0.82 × 0.75	130	垂直	凹凸	土師質土器, 釘	(SK1) 第40-43号墓塚→本塚→第49号墓塚
2	T46c9	N-15°-W	長方形	1.04 × 0.75	94	垂直	平坦	土師質土器, 釘	(SK2) 第2・3・4・55号墓塚→本塚
3	T46c9	N-25°-E	隅丸長方形	1.25 × (0.74)	48	外傾	平坦	土師質土器, 釘	(SK3) 第1・25・27号墓塚→本塚→第1号墓塚
4	T46c8	N-3°-E	楕円形	1.22 × 0.69	33	外傾	平坦	土師質土器	(SK24)
5	T47c1	N-9°-W	[長方形]	(0.60) × 0.73	63	垂直	平坦	古銭, 埴輪, 釘	(SK35)
6	T46c9	N-75°-E	[長方形]	(0.95) × (0.80)	22	外傾	平坦	[土師質土器]	(SK36), 本塚→第2・3・58号墓塚
7	T47c1	N-10°-E	[長方形]	(0.70 × 0.58)	48	垂直	平坦	埴輪	(SK37) 本塚→第47-49号墓塚
8	T46c9	N-4°-E	長方形	1.06 × 0.68	83	垂直	平坦	埴輪	(SK38) 第16号墓塚→本塚
9	T46c0	N-15°-W	楕円形	0.98 × 0.77	41	垂直	平坦	埴輪	(SK39)
10	T46c8	N-4°-E	方形	1.01 × 0.95	69	外傾	平坦	寛永通寶, 釘	(SK40)
11	T46c8	N-10°-W	長方形	1.25 × 0.86	36	垂直	平坦	土師質土器, 古銭	(SK41)
12	T47c1	N-9°-W	楕円形	1.16 × 0.95	85	垂直	平坦	[土師質土器]	(SK42)
13	T46c0	N-4°-W	方形	0.73 × (0.73)	95	垂直	平坦	古銭	(SK43) 第15号墓塚→本塚→第14号墓塚
14	T46c0	N-3°-E	不整形長方形	0.96 × 0.82	130	垂直	平坦	土師質土器, 釘, 散珠玉	(SK44) 第13-15号墓塚→本塚
15	T46c0	N-27°-E	不整形長方形	1.28 × (1.07)	30	垂直	平坦	土師質土器, 古銭, 釘	(SK45) 本塚→第13-14-44号墓塚
16	T46c9	N-6°-W	[方形]	0.93 × (0.83)	70	垂直	平坦	釘	(SK46) 本塚→第3号墓塚
17	T46c9	N-32°-W	方形	0.80 × 0.75	112	垂直	平坦	-	(SK47)
18	T47c1	N-59°-W	[長方形]	(0.74 × 0.52)	90	外傾	凹凸	古銭	(SK48) 第18号墓塚→本塚
19	T46d0	N-6°-E	方形	0.87 × 0.85	101	垂直	平坦	[土師質土器]	(SK50)
20	T46d0	N-6°-W	方形	0.82 × 0.75	78	垂直	平坦	土師質土器, 古銭, 釘	(SK51)
21	T46d0	N-12°-W	長方形	1.21 × 0.80	15	外傾	平坦	土師質土器	(SK52) 本塚→第33号墓塚
22	T46c9	N-4°-W	[長方形]	0.92 × (0.48)	6-27	外傾	凹凸	鉄製品	(SK53) 本塚→第35-37号墓塚
23	T46c0	N-6°-W	長方形	1.05 × 0.91	127	垂直	平坦	古銭, 釘	(SK57) 第24-21号墓塚→本塚
24	T46d0	N-79°-E	[隅丸長方形]	1.05 × (0.46)	52	外傾	平坦	土師質土器, 古銭	(SK59) 第10-11号墓塚→本塚→第10号墓塚
25	U49J8	N-10°-E	楕円形	0.80 × 0.77	47	外傾	平坦	古銭	(SK78) S17→本塚
26	T46d0	N-79°-E	[長方形]	(0.34) × 0.80	36	外傾	平坦	古銭	(SK79) 本塚→第24号墓塚
27	T47c1	N-8°-E	方形	0.85 × 0.80	79	外傾	凹凸	古銭	(SK80) 第34号墓塚→本塚
28	T4711	N-6°-W	長方形	1.07 × 0.8	95	垂直	平坦	古銭, 埴輪, 埴輪, 蛇尾	(SK151) S40→本塚
29	U46B0	N-6°-E	長方形	1.12 × 1.05	135	垂直	平坦	古銭, 釘	(SK157) S51→本塚
30	T46c7	N-0°	方形	(0.85) × 0.85	69	垂直	平坦	土師質土器, 古銭, 毛織物	(SK319)
31	T46c0	N-15°-W	長方形	0.89 × (0.70)	102	外傾	平坦	土師質土器, 古銭, 鉄線, 埴輪	(SK337) 第31号墓塚→本塚→第34号墓塚
32	T47c1	N-7°-W	楕円形	0.63 × 0.50	25	外傾	平坦	古銭	(SK338)
33	T46d0	N-16°-W	隅丸長方形	1.25 × 0.57	22	外傾	平坦	古銭	(SK339) 第21号墓塚→本塚→SK347
34	T47c1	N-83°-W	[不整形長方形]	1.24 × (1.03)	79	外傾	平坦	土師質土器, 古銭	(SK340) 本塚→第27号墓塚
35	T46c9	N-0°	[楕円形]	(1.25) × (0.36)	51	垂直	平坦	土師質土器	(SK342) 第29号墓塚→本塚→第2・3号墓塚
36	T47d1	N-2°-E	[方形]	0.70 × 0.48	101	外傾	平坦	古銭, 埴輪	(SK343) 第49号墓塚→本塚→第43-50号墓塚
37	T46c9	N-85°-E	[長方形]	(0.70) × (0.32)	12	外傾	平坦	-	(SK344) 第22号墓塚→本塚→第3・35号墓塚
38	T46c9	N-14°-W	[長方形]	0.95 × 0.95	30	垂直	平坦	古銭	(SK345) 第1号墓塚→本塚→第2号墓塚
39	T46d0	N-14°-W	長方形	1.06 × 0.90	102	垂直	平坦	釘	(SK346) 本塚→SK347
40	T47d1	N-4°-W	[長方形]	1.06 × 0.82	75	外傾	平坦	古銭, 釘	(SK348) 本塚→第1・36-41-43-50号墓塚
41	T47d1	N-5°-W	[長方形]	(0.93) × 0.58	53	垂直	平坦	古銭, 釘, 埴輪, 銅片, 金片, 埴輪玉	(SK349) 第40-45号墓塚→本塚
42	T46d0	N-84°-W	[長方形]	0.98 × (0.50)	124	垂直	平坦	釘	(SK350)
43	T47d1	N-88°-W	[長方形]	1.05 × 0.80	20	垂直	平坦	古銭	(SK361) 第36-40-47号墓塚→本塚→第1号墓塚
44	T46d0	N-24°-W	方形	0.92 × 0.92	129	垂直	平坦	-	(SK422) 第15号墓塚→本塚→第31号墓塚
45	T47d1	N-1°-E	[長方形]	(1.08) × 0.68	91	垂直	平坦	-	(SK443) 本塚→第41号墓塚

番号	位置	長短方向	平面形	縦 横		壁面	庭面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧遺構番号)・新旧関係
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
46	T47c1	N-4°-W	楕円形	0.71 × 0.35	42	垂直	平面	人瓦	-	(SK444)第1・47号基壇→本跡
47	T47c1	N-5°-W	[長方形]	1.08 × 0.90	112	垂直	平面	人瓦	-	(SK445)第7・48号基壇→本跡→第42・44号基壇
48	T47c1	N-28°-W	[長方形]	0.70 × 0.60	14	外傾	平坦	人瓦	-	(SK445)本跡→第18号基壇
49	T47c1	N-3°-E	[長方形]	0.87 × (0.56)	65	垂直	平面	[人瓦]	-	(SK447)第7号基壇→本跡→第42・47号基壇
50	T47d1	N-86°-E	[方形]	0.70 × (0.29)	60	垂直	平面	[人瓦]	釘	(SK450)第16号基壇→本跡

表8 井戸跡一覧表

番号	位置	長短方向	平面形	縦 横		壁面	庭面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧遺構番号)・新旧関係
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1	V51d9	N-17°-W	円形	0.95 × 0.92	135	垂直	-	人瓦	土師器片, 灰磁器片, 鉄滓	(SK115)S11→本跡, 中世以降
2	U50g2	N-41°-E	楕円形	1.48 × 1.25	101	外傾	-	人瓦	土師器片, 灰磁器片, 伊壁片, 陶器, 鉄滓	(SK76)中世以前
3	V50d5	N-34°-W	楕円形	1.02 × 0.88	(170)	垂直	-	人瓦	-	(SK81)SE5→本跡, 近世
4	V50d5	N-34°-W	不整形円形	2.48 × 2.28	127	外傾	-	人瓦	陶器片, 伊壁片, 鉄滓	(SK387)中世
5	V50d5	N-23°-E	[楕円形]	1.65 × (1.30)	182	垂直	-	人瓦	土師器片, 灰磁器片, 伊壁片, 鉄滓	(SK100)本跡→SE3, 中世
6	U50a1	N-20°-W	楕円形	1.18 × 0.95	110	垂直	-	人瓦	陶器, 羽口片, 伊壁片, 鉄滓	(SK116)中世
7	V49c0	N-52°-E	楕円形	2.10 × 2.05	(165)	外傾	-	人瓦	伊壁片, 鉄滓	(SK105)S24→本跡→SK283, 中世
8	V49e8	N-50°-W	[楕円形]	1.50 × (1.30)	(132)	外傾	-	人瓦	陶器, 伊壁片, 鉄滓, 磁石	(SK128)S110→本跡, 中世
9	U47f3	N-58°-W	楕円形	1.30 × 1.08	(134)	垂直	-	人瓦	羽口片, 陶器, 鉄滓	(SK159)SD16→本跡, 中世
10	U47a4	N-48°-W	楕円形	1.80 × 1.50	(128)	垂直	-	人瓦	土師器, 灰磁器, 青磁, 五輪塔	(SK187)SD16→本跡, 近世
11	T45i3	N-25°-W	円形	0.99 × 0.82	176	垂直	-	人瓦	土師器, 伊壁片	(SK301)本跡→SK302, 近世
12	S44h2	N-68°-W	楕円形	1.43 × 1.23	200	垂直	-	人瓦	-	(SK328)近世
13	S43d8	N-71°-W	[楕円形]	1.81 × (0.56)	(134)	外傾	-	人瓦	-	(SK329), S2106→本跡
14	U45a3	N-61°-W	[不整形円形]	2.13 × 1.82	141	垂直	-	人瓦	土師器, 灰磁器, 羽口, 伊壁	(SK365)本跡→SK359, 中世
15	U47f2	N-37°-E	楕円形	2.05 × 1.71	148	外傾	-	人瓦	陶器, 羽口片, 伊壁片, 鉄滓	(SK381)
16	T49h3	N-49°-E	円形	1.10 × 1.00	(145)	垂直	-	人瓦	-	(SK418)
17	T44h8	N-0°	円形	1.24 × 1.24	188	垂直	-	人瓦	灰磁器, 磁石	(SK430)UP1→本跡

表9 炉跡一覧表

番号	位置	長短方向	平面形	縦 横		壁面	庭面	覆土	出土遺物	備考 (旧遺構番号)・新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1	U52g2	N-88°-W	不整形長方形	1.43 × 1.03	27	緩斜	丘状	人瓦	陶器, 伊壁, 鉄滓, 陶型	(SS1)本跡→F7
2	U52g2	N-29°-W	不整形円形	0.84 × 0.78	15	緩斜	丘状	人瓦	伊壁, 鉄滓, 陶型	(SS2)
3	U52g2	N-88°-W	[方形長方形]	0.68 × 0.23	40	緩斜	丘状	人瓦	磁器, 伊壁, 鉄滓, 羽口	(SS3)CP7とは新旧不明
4	U52g2	N-6°-W	[不整形円形]	1.02 × 0.53	27	緩斜	丘状	人瓦	伊壁, 鉄滓, 陶型	(SS6)CP3→本跡
5	U52h1	N-86°-W	[不整形円形]	0.53 × 0.46	12	緩斜	丘状	人瓦	鉄製品, 伊壁, 鉄滓, 磁石	(SS10)
6	U52h3	N-86°-E	[不整形円形]	0.45 × 0.32	17	緩斜	丘状	人瓦	伊壁, 鉄滓	(SS11)
7	U52g2	N-36°-E	不整形円形	0.42 × 0.27	10	緩斜	平坦	人瓦	伊壁, 鉄滓, 陶型	(SS13)F1→本跡



表10 鑄造関連土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	縦横		埋深	底面	覆土	出土遺物	備考 (旧遺構番号)・新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1	U52g2	N-88°-E	不定形	0.62 × 0.61	12	横斜	直状	人為	伊壁片, 鉄滓, 鉄製品, 銅器	(SS4) CP2 → 本跡
2	U52g2	N-88°-E	不整長方形	0.67 × 0.59	10	横斜	直状	人為	陶器, 伊壁片, 鉄滓, 鉄製品	(SS5) CP19 → 本跡 → CP1
3	U52g2	N-89°-W	不整楕円形	1.49 × 1.29	18	横斜	直状	人為	石器, 伊壁片, 鉄滓, 硝子片, 銅製片	(SS2) 本跡 → F4
4	U52h2	N-2°-E	不整長方形	1.79 × 1.39	27	横斜	平坦	人為	伊壁片, 鉄滓	(SS3) CP15 → 本跡, CP12とは新旧不明
5	U52h2	N-88°-E	楕円形	0.80 × 0.48	12	横斜	平坦	人為	伊壁片, 鉄滓	(SS9) CP13 → 本跡
6	U52h1	N-9°-E	不整長方形	0.98 × 0.80	9	横斜	凹凸	人為	伊壁片, 鉄滓	(SS12) CP8とは新旧不明
7	U52g2	N-14°-W	不整楕円形	0.62 × 0.39	9	横斜	平坦	人為	鉄滓, 硝子片	(SS14) F3とは新旧不明
8	U52g1	N-6°-E	不整楕円形	1.65 × 1.39	74	外傾	平坦	人為	伊壁片, 鉄滓, 硝子, 銅製	(SS15) CP15-17 → 本跡, CP6とは新旧不明
9	U52h2	N-4°-E	[不整楕円形]	1.07 × 0.70	10	横斜	直状	人為	伊壁片, 鉄滓	(SS17) 本跡 → CP11-12
10	U52h3	N-89°-E	[不整楕円形]	1.05 × 0.80	15	横斜	直状	人為	鉄滓	(SS18)
11	U52h2	N-85°-W	[不整楕円形]	0.93 × 0.34	18	横斜	凹凸	人為	鉄滓	(SS19) CP9 → 本跡 → CP12
12	U52h2	N-6°-E	[不整楕円形]	0.72 × 0.53	6	横斜	平坦	人為	-	(SS20) CP9-11 → 本跡
13	U52h2	N-89°-W	[不整楕円形]	0.90 × 0.43	8	横斜	平坦	人為	伊壁	(SS21) 本跡 → CP5, CP9とは新旧不明
14	U52g1	N-4°-E	[不整楕円形]	0.42 × 0.35	27	外傾	直状	人為	-	(SS22)
15	U52g2	N-22°-E	[不整楕円形]	1.20 × 0.97	42	横斜	平坦	人為	伊壁, 鉄滓, 銅製	(SS23) CP12 → 本跡 → CP4・8
16	U52g2	N-88°-E	[不整楕円形]	0.88 × 0.28	76	外傾	平坦	人為	-	(SS24)
17	U52g2	N-89°-E	[不整楕円形]	1.17 × 0.48	68	外傾	平坦	人為	伊壁片, 硝子, 銅製	(SS25) 本跡 → CP8・15
18	U52g2	N-88°-E	[不整楕円形]	0.54 × 0.40	25	外傾	直状	人為	土師器片	(SS26) 本跡 → CP2

表11 不明遺構一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	縦横		埋深	底面	覆土	出土遺物	備考	
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					新旧関係(古→新)	時代
1	U50j6	N-6°-E	不定形	6.12 × (4.84)	7~16	外傾	平坦	自然	土師器	SB 3 → 本跡 → SD 1	不明
2	V50e7	N-25°-W	不定形	5.84 × (2.58)	10~18	外傾	平坦	自然	-	本跡 → SD 1	不明
3	U47a6	N-85°-W	楕円長方形	(7.07) × 4.40	8~25	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器, 陶器		1世紀中頃以降
4	T4619	N-87°-E	不定形	4.24 × 2.48	7~20	外傾	平坦	自然	甕土器, 土師器, 須恵器, 土師質土器, 陶器, 伊壁	本跡 → SD16	不明
5	T66d3	N-23°-E	不定形	(2.87) × 1.87	17~36	横斜	平坦	人為	-		不明

表12 円形周溝状遺構一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	縦横		埋深	底面	覆土	出土遺物	備考 (旧遺構番号)・新旧関係(古→新)	時代
				長径(軸)×短径(軸)	深さ						
1	S43e0	N-47°-E	円形	6.00 × 5.00	14~20	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	(SX6) 本跡 → SB6-SX291-297	8世紀後半以降

## 第4節 まとめ

当遺跡の調査は、平成14年4月から平成15年3月にかけて実施された。今回は、そのうちの平成14年4月から10月の調査で確認された竪穴住居跡106軒、方形竪穴遺構18軒、掘立柱建物跡13棟、土坑368基、井戸跡17基、墓塚50基、溝跡22条、地下式墳1基、円形周溝状遺構1基、炉跡8基、鋳造関連土坑19基、排滓場2か所などの報告である。

これまでの調査結果から、古墳時代前期、奈良・平安時代に断続的に集落が形成され、中世には鉄生産に関わる鋳造が行われ、近世には墓域として使用されていた複合遺跡であることが判明している。ここでは、確認された古墳時代、奈良・平安時代、中世の鋳造関連遺構を中心に概要を述べ、まとめとしたい。

### 1 縄文・弥生時代

縄文時代の遺構と遺物については、中期から後期にかけての縄文土器片や石鏃、磨石、蔽石などの石器類が中央2区中央部以東を中心に出土している。耕作による攪乱などで出土したものがほとんどであり、陥し穴の可能性のある第419号土坑が1基だけ確認されていることから、狩り場であった可能性がある。また、弥生時代の遺物は、土器片が東区及び中央2区東部を中心に出土しているが、遺構は確認できなかった。

### 2 古墳時代

当遺跡は古墳時代前期になって、集落が営まれはじめた。古墳時代前期（Ⅰ期）の遺構としては、住居跡13軒、土坑1基、中期（Ⅱ期）の遺構として住居跡1軒が確認されている。遺構の形態や土器の特徴から下記の2期に区分することができる。

#### Ⅰ期（4世紀前半）

当該期の竪穴住居は13軒で、調査区中央部から東部の台地の平坦部に分布している。長軸が7mを超える大形の住居跡は、第53号住居跡だけである。長軸が4m～7mの中型の住居跡は9軒で、長軸が3m以下の小形の住居跡は3軒である。集落構造について考えると、住居の配置から3つの単位集団があったと推定される。中央区埋没谷の東側には、中形の住居跡6軒、小形の住居跡1軒が検出され、住居の規模の差はあまり見られない。それに対し西側では、大形の第53号住居跡の周辺に中形の住居跡3軒、小形の住居跡2軒が位置し、住居の規模の差が比較的是っきりしている傾向がある。さらに埋没谷の中心から西へ約100m離れたると古墳時代の住居跡は見られなくなる。これについては古墳時代の住居跡が最寄りの湧水点から150mの範囲内に位置しているというひたちなか市武田石高遺跡における集落の立地と共通する傾向が指摘できる<sup>1)</sup>。さらに調査区の西寄りに1軒だけ離れて位置する第110号住居跡は、西側の別の集落に含まれる住居跡と推定される。

内部施設については、主柱穴、炉、貯蔵穴を有するもの（第1・8・24・53・110号住居跡）、主柱穴と貯蔵穴を有するもの（第11号住居跡）、主柱穴を有せず、炉、貯蔵穴などを有するもの（第5・23・60・62号住居跡）、主柱穴を有せず、ピットだけを有するもの（第54・95号住居跡）、その他（第92号住居跡）に区別することができる。炉はすべて床面を掘りくぼめた地床炉で、基本的に1か所である。炉の位置は中央部から北寄りに偏っている。貯蔵穴の位置は、南東コーナー部に設けられている例が多い。貯蔵穴の平面形は円形あるいは楕円形を基本とし、深さや覆土の様相には若干の差異が見られる。第24号住居跡の貯蔵穴だけ北東コーナー部に設けられている。また、この住居跡の炉からは直方体状の粘土塊が検出されており、炉石の



穴居変遷図



第361図 穴居変遷図(1)

代用として使用されたと考えられる。また、第110号住居跡の炉の南側からは泥岩を利用した炉石が出土している。古墳時代前期の13軒のうち、この2軒だけが炉石を付設している住居跡である。

出土遺物では土師器に、坏・高坏・器台・埴・壺・甕・台付甕・甌・手捏土器・ミニチュア土器と多くの器種が認められる。破片を含めた出土点数では、壺・甕が圧倒的に多く、高坏、器台がそれに次いでいる。坏、甌はわずかである。器種により出土地点に目立った傾向は見られないが、壺・甕は貯蔵穴やその周辺から出土する例が比較的多い。高坏は坏部が大きく開き、脚部に孔を有し、ラッパ状に開く特徴を持つ東海系のものが出土している。器台には受け部が丸味を持つもの以外に、直線的なものや端部をつまみ上げたものなどがあり、種類が豊富である。この高坏と器台は薄手で、丁寧な磨きや赤彩が施されているものが多い。壺は口縁部の形態が単口縁のもの、折り返し口縁のもの、有段口縁のものなどが見られ、ハケ目調整後にナテや磨き調整がされている。甕はハケ目調整がほとんどであり、口縁部が単口縁で、頸部が「く」の字状を呈するものが多い。手捏土器は第8号住居跡で、貯蔵穴、灰、床面から1点ずつの計3点出土している。同時期の住居跡からは計6点出土しているが、その内3点がこの住居跡から出土している。

この時期の出土土器の特徴としては、外来系土器の影響が多く見られることである。第1号住居跡からは東海方面の高坏（元屋敷系）が、第5号住居跡からは口唇部に刻み目のある南武蔵方面の台付甕が波状口縁を持つ南関東方面の平底甕と共に出土している。さらに、第8号住居跡からは、細片ではあるが口縁部外面に輪積み痕を残す房総系平底甕が出土している。これらの遺物からは東海方面や、南関東方面など南からの影響をうかがうことができる<sup>3)</sup>。また、西関東や北陸方面からの影響がうかがえる土器も出土している。第1号住居跡では、赤彩された3点の底部が突出した平底の小形鉢形土器が出土しており、これらは赤井戸系土器や吉ヶ谷系土器の系譜を引いている。県内では、結城市善長寺遺跡第20号住居跡などにも類例があり<sup>4)</sup>、西関東方面の影響である。また、第9号掘立柱建物跡から出土した、混入したと考えられる装飾器台は受け部に三角形の透かしを持っており、北陸系のもと考えられる<sup>5)</sup>。

## II期（5世紀前葉）

当該期の堅穴住居跡は第39号住居跡の1軒だけで、標高51mの台地の北部に立地している。これに対し、前期の住居は標高50mの台地の平坦部に分布している傾向が見られる。このことから、中期の集落は調査区域外の標高が若干高い地点に立地していると考えられる。当遺跡の北西の500mに位置する調査している当向遺跡は、標高が若干高い地点に立地しており、中期の住居が多く検出されている点からもこの傾向をうかがうことができる<sup>6)</sup>。

## 3 奈良・平安時代

一時期断絶した集落は、8世紀前葉に再び形成され、8世紀前半と9世紀中葉に最盛期を迎えたと考えられる。奈良・平安時代の遺構としては、堅穴住居跡89軒、掘立柱建物跡9棟、溝跡1条、土坑1基が確認されている。遺構の形態や土器の特徴から下記の3期に区分できる。

## III期（8世紀前葉）

当該期の堅穴住居跡は15軒で、標高50.5m～51.0mで、比較的高い場所に立地している。地形と位置から、東区の第4号住居跡の1軒、中央2区東部の第26・27・28・37号住居跡の4軒、中央1区東部の第96・97・113号住居跡と中央2区中央部の第44・46・58・68・72・76号住居跡の9軒、中央1区西部の第108号住居跡



第362図 遺構変遷図(2)

の1軒で単位集団が形成されていたと考えられる、その村落内でも、中世に排渾場として利用されることになる東区東部と中央2区中央部は自然の谷部であり、遺構は谷部に挟まれた台地に集団が形成されていたと考えられる。谷部からは当該期の土器片が出土しており、水場として使用された可能性がある。住居跡は、規模が第4・72・76号住居跡を除いて、いずれも12.35㎡以下であり、主軸方向が北方向(N-1~10°-E-W)となっている。竈も北壁の中央部東寄りに付設されており、壁外への掘り込みもわずかで、袖部がローンを掘り残して、その上に粘土を貼り付けて構築されている。この竈の傾向はⅣ期まで継続されている。また、主柱穴が4か所が確認できたものはわずか2軒であるのに対して、出入り口施設に伴うピットが付設されている住居が8軒で半数を占めている。出土遺物では底部外面にヘラ記号(「キ」・「一」・「×」)で須恵器坏の施されており、出土している住居跡は第31・68・72・76・97号住居跡である。

#### Ⅳ期(8世紀中葉)

当該期の堅穴住居跡が16軒、掘立柱建物跡が1棟で、標高が東区で50.5m、中央1・2区で51.0~51.5mの平坦部に位置している。集落は東区の第3号住居跡と中央2区東部の第16・25・30・36号住居跡の5軒、中央部の第42・43・52・69・71号住居跡と中央1区の第98号住居跡の6軒、中央1区の第112号住居跡の1軒でそれぞれ単位集団が形成されていたと考えられる。また、このころから掘立柱建物跡が作られ始められ、9世紀中葉まで続くが、住居跡との重複関係は少なく、掘立柱建物跡と住居跡の地区分けはされていたと考えられる。住居跡は規模が第16・25・69・98・112号住居跡は23.33~34.22㎡で、その周辺に2.28~14.13㎡の小形の住居跡が位置しており、大形の住居跡が集団の有力者の住居であった可能性がある。主軸方向は北方向(N-0~11°-E-W)であり、竈がⅢ期では北壁中央部の東寄りの付設されていたのに対して、当期はわずかに2軒だけで、他は北壁中央部に付設されている。主柱穴が4か所が確認できたものは5軒と増え、出入り口施設に伴うピットを有するものは9軒と半数を占めている。

出土遺物ではヘラ記号のある土器は6軒(第16・25・45・52・98・112号住居跡)から「一」・「×」の2種類で9点、墨書き文字のある土器は2軒(第25・42号住居跡)から「川」・「廿」の2種類で4点が確認されている。墨書土器は第71号住居跡の1軒から4点出土しており、須恵器坏体部に「道」と墨書されたもの以外は、判読不能である。また、第42号住居跡からは須恵器壺・坏の転用硯が2点と朱墨痕のある須恵器壺、第45・98・112号住居跡からは円面硯が各1点出土している。こうした遺物などから、東区及び中央2区東部に広がる集団と中央2区中央部及び中央1区に広がる集団とは性格が異なり、中央1区と中央2区中央部に広がる集団は大形の掘立柱建物跡もあり、新治郡衙と関わりがあったのではないかと考えられる。

#### Ⅴ期(8世紀後葉)

当該期の堅穴住居跡が11軒、掘立柱建物跡が1棟で、標高が51.0mの平坦部に位置している。集落は東区の第2・6・12・19号住居跡と中央2区東部の第33号住居跡の6軒、中央2区西部の第87号住居跡と中央1区の第94・111・115号住居跡の4軒が第8号掘立柱建物跡の周辺に散在して、集団が形成されていたと考えられる。前期までは中央2区中央部に集中していたのに対して、この時期になって、周辺への広がりが見られるようになる。遺構の住居跡は9.05~29.33㎡と規模の差が大きく、主軸方向も北方向(N-10°-W~N-17°-E)で、ばらつきがみられた。竈の位置は北壁中央部東寄りに付設されているのが第87号住居跡だけで、これ以降の時期では確認されていない。主柱穴が4か所ある住居跡はなく、出入り口施設に伴うピットは第6・19・33号住居跡を除いて、他の住居では確認されている。

出土土器ではヘラ記号のある土器は3軒(第7・12・87号住居跡)から「カ」「キ」「×」「一」「＝」の5種類、7点が確認されている。宛書き文字のある土器は1軒(第12号住居跡)から「上」の1種類1点で、須恵器坏の底部内面で確認されている。墨書土器が出土しているのは第87号住居跡(「坂□」;土師器甕体部)と、判読不能の墨書土器が出土している第7号住居跡の2軒だけである。そのほか、第7号住居跡からは朱墨痕のある須恵器壺や重ね焼きの際他の土器が附着した須恵器壺が出土し、隣接する第12号住居跡からは須恵器壺の転用硯が出土している。墨書土器・刻書・ヘラ記号が東区への広がりが見られる。

#### Ⅵ期(9世紀前葉)

当該期は竪穴住居跡が10軒と掘立柱建物跡が4棟である。標高は50.5~51.0mの範囲に位置している。掘立柱建物跡は最も多く建てられた時期である。東区は10・20号住居跡の2軒、中央2区東部の第17号住居跡の1軒、中央2区中央部の第41・49・74号住居跡と中央2区西部の第88号住居跡と中央1区の第102・104・109号住居跡の7軒で、それぞれ集団を形成していたと考えられる。当該期以降東区・中央2区東部で確認される住居跡は7軒となり、集落の範囲が縮小していく傾向にある。規模は第20・41号住居跡を除いて12.53~28.35mとなり、Ⅴ期よりも規模差は縮小の傾向にある。主軸方向は北方向であるがやや東向きの傾向(N-7°-W~N-14°-E)が見られる。竈の位置は東壁に付設されている住居跡(第109号住居跡)が1軒、北壁の中央部東寄り付設されている住居が1軒(第49号住居跡)である。主柱穴が4か所が揃うのは2軒、出入り口施設に伴うピットがあるのは3軒で、両方が揃っているのは2軒と非常に少ない。Ⅴ期で東側には集落の広がりが見られなかったが、再び中央2区中央部と中央1・2区西部に広がる傾向にあり、当該期の住居跡の5軒がそこに位置している。さらに、第104・109号住居跡にいたっては掘立柱建物跡群の内側に位置している。

出土遺物では、今回の調査では火罨が認められる須恵器が4点のうち2点が当該期の住居跡から出土し、ヘラ記号のある土器は第49号住居跡から「一」の1種類1点のみである。宛書き文字のある土器はヘラ記号と同じ第49号住居跡から「廿」の1種類1点で出土しており、ヘラ記号・宛書きが認められるようになってからでは最も数の少ない時期と考えられる。それに対して墨書土器の増加し、記される文字や土器の種類にも変化が見られる。墨書土器は5軒の住居跡(第17・20・49・88・109号住居跡)から「大□」・「一」・「万年□」・「生」・「八俣」・「巨または臣」・「□南」などを合せて12点で、須恵器坏・皿・盤、土師器皿・高台付坏に認められ、器種も多様化している。3軒の住居跡から転用硯3点(第74・88・102号住居跡)、1軒の住居跡から円面硯1点(第102号住居跡)が出土している。住居跡は多くないが、出土遺物などから見て、集落が栄えた時期と考えられる。その他の遺物では、第88号住居跡からはほぼ完形で漆附着の須恵器坏(266)・高台付坏(276)が出土している。高台付坏は大形で、底部中央部が外面から穿孔された痕跡がある。前述のようにこの住居からは多くの墨書土器が出土し、円面硯や転用硯も出土しているので、漆掻き職人の住居などではなく、漆の流通・消費に関わる人物の住居跡であった可能性がある。

#### Ⅶ期(9世紀中葉)

当該期は竪穴住居跡が18軒と掘立柱建物跡が2棟である。今回の調査では最も多い住居跡数で、標高51.0mの台地に位置している。中央2区東部の第15号住居跡を除いて、7軒の住居跡は中央2区中央部から中央1区西部にかけて平均的に散在している。前期に比べさらに西に移り、集落の範囲が縮小する一方で、住居跡数の増加が見られ、集住化傾向が見られる。規模では第15・63・77・100号住居跡は14.98~23.81mとそ



第363图 遺構変遷図(3)



の他は5.02~12.59㎡と規模の二極化が見られる。主軸方向は真北からわずかに西に振れる住居跡(N-4・5°-W)が2軒で、北から東に振れる幅が大きく(N-3°~93°-E)になっている。東壁に竈が付設された住居跡は今回の調査で5軒が確認され、3軒が当該期である。主柱穴が4か所確認されている住居跡はなく、出入り口施設に伴うピットが確認されているのも4軒(第15・63・77・86号住居跡)だけで、規模の縮小化・施設の簡素化が進む傾向にある。出土遺物では朱墨痕のある須恵器高台付坏が第65号住居跡から出土している。ヘラ記号のある土器は第65号住居跡から「×」の1種類1点、刻書のある土器は第77号住居跡から「廿一」の1種類1点出土している。墨書土器は第50・56・65号住居跡の3軒から3点出土、一般的には墨書は坏や高台付坏に見られるのに対して、2点が土師器甕に書かれていたのは珍しい。また、硯としては転用硯がほとんどで、第91・103号住居跡から3点で、円面硯は第91号住居跡から1点だけである。住居跡数の増加に反して墨書及びそれに関係する遺物が減少していることから、集落の質的变化があったと考えられる。それは、社会の変化つまり弘仁8年の新治郡衙の火災で、郡衙の勢力低下に伴い、中央勢力の庇護を受けていた集落や郡衙関連からの流入により一時期は増加したものの、在地勢力に押される方で他へ移動したかあるいは在地勢力に組み込まれていったことが推測される。

#### Ⅷ期(9世紀後半)

当該期は竪穴住居跡が、中央2区東部の第13号住居跡の1軒で、Ⅷ期では見られなくなった東区及び中央2区東部で確認された。その一方でⅥ期からⅧ期に増加した住居跡数が、当該期になり急激な減少傾向を示している。規模は11.04㎡で、主軸方向が北方向(N-7°-W)であり、主柱穴及び出入り口施設に伴うピットも確認できず、北壁中央部東寄り付設された竈も簡易な作りである。当該期は、Ⅶ期までとは、あきらかに集落が変質し、郡衙または中央との関係を持った集落から、在地勢力に組み込まれた、性格の異なった集落になったといえる。

以上、Ⅲ期からⅧ期の奈良・平安時代は、集落規模の拡大と縮小を繰り返し、最盛期が東区まで広がったⅣ期で、終焉期がⅦ期であったと考えられる。当遺跡では遺構は古墳時代後期の住居跡などは確認されていないことから、奈良時代になって、計画的に集落が形成されたと思われる。さらに近くには新治郡衙が位置していることから、それらの施設との関連も推測される。

## 4 中世

中世の遺構は、方形竪穴遺跡13軒、掘立柱建物跡1棟、井戸跡4基、土坑1基、溝跡12条、地下式竃1基、鑄造関連遺構の炉跡9基、鑄造関連土坑17基、排滓場2か所が確認されている。以下、遺構について、項目を立て記述する。

### (1) 溝跡

溝跡は深さの差はあるものの、すべて断面逆台形をしている。第7号溝跡は中央部2区東部に地山を掘り残した土橋があり、東側は東区から調査区域外へ延びており、西は中央2区中央部の第2排滓場までは確認されている。深さが1mを超え、形状が類似しているのは第11・12号溝跡は、方形状に巡る可能性がある。それらは防衛的性格を有し、大ききから居館などの小区画のための溝の可能性が考えられる。北側が施設の内側、南側が外側となり、土橋がその出入り口として使用されたと考えられる。しかし第1・3・5・6・9・10・17・19・20号溝跡があり、それほど深くないことから区画溝と考えられる。これらの区画溝の南側には工房跡と推定される方形竪穴遺構、掘立柱建物跡、井戸跡などが確認され、差ほど深くな

く、内部に工房もあることから、火除け的な意味合いをもっていた可能性がある。中央2区中央部では、第17・19・20号溝跡に南側だけから鉄滓や炉壁片が出土することが多いことから区画内に工房があったと考えられる。中央2区東部では、深い溝と浅い溝との狭間に、第2・5・10~18号方形竪穴遺構が一直線に並んでおり、その周辺に付設されていた溶解炉の炉壁の破壊されたものが、第7号溝跡に投棄されたと推定していることは本文でもふれたとおりである。この周辺では鑄造関連遺構が多く確認されており、それについては後述する。そのほかに地下式竪は1基が中央2区西部で確認されているが、他遺跡の調査例から単独で存在することは考えにくく、調査区域外に広がっていた可能性がある。

## (2) 鑄造関連遺構

東区の第1号鑄造関連遺構群は炉跡8基、鑄造関連土坑18基、中央2区東部の第2・3・10~18号方形竪穴遺構で構成される。第2号方形竪穴遺構は斜面部にあり、方形の掘り込みに、東壁が大きく三角形に掘り込まれている。中央部床面には炉と推測されるくぼみがあり、東壁を除く3方の壁面から鉄滓が出土しているが、具体的に何を作っていたのかは不明である。中央部の炉は規模から梵鐘のような大きなものではなく、小形のものも作られた可能性が考えられる。第3号方形竪穴遺構からは良好な鉄鍋の鑄型、S字状の鉄鍋の把手、炉壁片などが出土していることから、鑄型から鍋を取り外し、把手などを取り付けた場所ではないかと考えられる。第10~18号方形竪穴遺構は遺物の遺存が土壌の取り上げた結果、砂鉄や製錬滓が出土していることから、製鉄も行われていた可能性がある。しかし、遺構としては確認できなかった。

当遺跡周辺では、西にある当向遺跡で鑄造の仏像の鑄型が出土し、また鉄滓などが出土していることから、鉄生産に関わる遺構があったと考えられている。また、東にある辰海道遺跡では10世紀の鍛冶工房跡が確認されている。この周辺には金山、金谷、金井前など、「金」のつく字が多く、古代から中世にかけて製鉄・鍛冶・鑄造などの鉄生産との関わりが非常に深い地域であると考えられる。

## (3) 鑄造関連遺物

### ア 鑄型

出土している鑄型の種類は、鍋、壺と蓮弁文状のものが確認されている。第2号方形竪穴遺構から出土したDP7は良好の鍋の鑄型(外型)で、中央部がトレンチャーによる攪乱を受けているが、その部分を除いて、鑄型(外型)はほぼ完形である。第7号溝跡及び第2号排滓場からは外型の細片が多く確認されているが、中型と確認できるものは少なく、外・中型とも粘土塊としたものの中にも両面斜離した鑄型の細片が含まれている可能性がある。鑄型は内面が暗青灰色をした麻状のものを塗り、その外側に薄く砂粒を混ぜた粘土で、さらに外面にはスサなどを含む粘土で作られている点ではほぼ一致している。鑄型からみた鍋の形状は鍋Bあるいは鍋C<sup>®</sup>と推定される。

### イ 炉壁

出土している炉壁片は、外面の粘土にはスサを多く含みで、半溶解状の鉄が付着している。実測可能なもので、推定される径は60cm~80cmである。遺構に伴って出土したものは少なく、実測可能なものは第7号溝跡や排滓場から出土している。

### ウ 羽口

粘土にはわずかに砂粒が含まれる程度で、内・外面ともヘラ状工具によるナアが施されている。羽口と炉壁の接合する羽口受け部には半溶解状の鉄が付着し、内径は10cm~16cmの円形である。

### エ 鉄滓



第364图 墓域变迁图

白色滓の出土数は多く、破片であり、鉄の含有量が少ないため重く、着磁性はない。炉内溶解物としたものは、炉壁に付着した半溶解鉄が破損したのや流動滓とは判断できなかったものなどを総称し、大形のものも多く、重量も大きい。鋼滓は確認できなかったが、コバルト色滓や銅発色滓などがわずかではあるが出土している。炉壁片と同様、実測可能なものは遺構に伴ってなく、溝跡と排滓場や井戸跡から投棄された状態で出土しているが多い。

#### オ 鉄鍋片

明らかに鉄鍋片と認定できるものは2点である。1点は第2号方形竪穴遺構から出土したM23で、内耳鍋の把手に類似したS字状のもので、その形状から鍋Cの把手と考えた。もう1点は第7号溝跡から出土している。口縁部片である。口縁端部は平坦な面をもち、T字状になっている。鉾田町の畑田遺跡<sup>7)</sup>出土している鍋Bとは形状的には異なるが、長野県松本市中山千石遺跡から出土したものと類似している。近世の墓塚から鍋Bが出土しているが、形状も異なり、さらに、自然科学分析の結果、当遺跡で作られたものではなく、他の地域からもたらされたものであることが判明している。

### 5 近世

確認された墓塚50基。そのうち中央1区東部に47基が集中しており、非常に狭い空間が墓域として利用されていたことがわかる。また副葬銭が出土している墓塚が23基とほぼ半数を占めている。その銭の種類は寛永通寶(背文字に「文」のある新寛永銭、背文字の「文」のない新寛永銭、背文字に「足」のある寛永銭、古寛永銭)、政和通寶、治平元寶、元豊通寶、紹興元寶、開元通寶、熙寧元寶、天禧通寶、永樂通寶、元祐通寶、淳化元寶など14種類である。このことから4期に区分することができる。I期は明銭や北宋銭などの渡来銭のみの出土する時期、17世紀前葉以前。II期は古寛永銭だけ、または渡来銭を含んでの出土する時期、17世紀中葉。III期は新寛永銭だけ、またはそれに渡来銭や古寛永銭を含んでの出土する時期、17世紀後葉。IV期は新寛永で「足」「文」の背文字のあるものが出土する時期で、18世紀初頭となる。

また、埋葬方法も座葬と屈葬の2種類が確認でき、時期的な変化が見られる。I期は第11・25号墓塚の2基が該当し、屈葬である。出土した古銭だけをみれば第15・24号墓塚も当該期に相当するが、重複関係から除外した。II期は第27・29・30・33・34・40号墓塚の6基が該当し、屈葬4基、座葬2基である。主流は屈葬であるが、座葬が行われるようになり、座葬の1基に棺が使用されていると思われる。III期は第5・10・13・18・20・23・24・28・31・32・36・41・44・45・48・50号墓塚の16基が該当し、屈葬6基、座葬10基と、屈葬と座葬の割合が逆転する。IV期は第7・14・21・43・46・47・49号墓塚の7基が該当し、屈葬1基、座葬6基で座葬が大部分を占めるようになる。

この周辺の土坑や井戸跡から五輪塔も出土しており、中世後半に石塔を有する墓域であった地域が近世になっても墓地が営まれたといえる。

#### 註)

- 1) 白石真理「武田石高遺跡 古墳時代編」朝ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告 第17集 1999年
- 2) 古墳時代研究会「茨城の『S字状口縁台付蓋』について(3)」『研究ノート』7号 朝茨城県教育財団 1998年6月
- 3) 日本考古学協会新潟大実行委員会「東日本における古墳出現過程の再検討」日本考古学協会 1993年10月

- 4) 加藤雅美ほか「一般国道4号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書2（結城地区）本田遺跡，善長寺遺跡，小田林遺跡」  
『茨城県教育財団調査報告第51集』 財団茨城県教育財団 1989年3月
- 5) 塩谷修ほか『土器が語る－関東古墳時代の黎明－』 古墳時代土器研究会 1998年5月
- 6) 当向遺跡の調査報告書は茨城県教育財団から2004年3月に刊行予定である。
- 7) 橋本勉・高橋杏二「鹿島線関係遺跡発掘調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告V』 財団茨城県教育財団 1980年3月
- 8) 五十川伸矢「古代・中世の鉄鉄鑄物」『国立歴史民俗博物館研究報告第46集』 国立歴史民俗博物館 1992年12月

#### 参考文献

- ・ 櫻村宣行「和泉式土器編年考－茨城県を中心として」『研究ノート』5号 財団茨城県教育財団 1996年6月
- ・ 甘粕健・春日真実 『東日本の古墳の出現』 山川出版社 1994年
- ・ 千葉県文化財センター「房総地方における前期古墳の展開」『千葉県文化財センター研究紀要21』 財団千葉県文化財センター 2000年
- ・ 赤熊浩二「金井遺跡B区」『埼玉県埋蔵文化財調査事業報告書第146集』 財団埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1994年10月
- ・ 村上伸二「金平遺跡Ⅱ 嵐山町平沢土地区画事業に伴う発掘調査報告書」『嵐山町遺跡調査会報告9』 嵐山町教育委員会 2000年12月
- ・ 五十川伸矢「銅釜の生産と供給」(『鑄物の技術史』) 鑄物の科学技術史研究部会 1997年3月
- ・ 佐生衛「東における中世墓地の諸相－房総の事例を中心に－」『研究紀要』16号 千葉県文化財センター 1995年3月

## 付 章

- 金谷遺跡出土赤色塗彩土器塗彩断面の自然科学的調査 .....岩手県立博物館 赤沼英男 449
- 金谷遺跡出土鉄関連遺物からみた鉄関連遺物の組成とその意味 .....岩手県立博物館 赤沼英男 457

掲載不可

掲載不可



掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可



掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可



掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

写 真 图 版



遺跡遺景



東区完掘全景



中央1区西部全景



PL 2



第1号住居跡  
完掘状況



第1号住居跡  
遺物出土状況



第1号住居跡  
遺物出土状況



第1号住居跡  
遺物出土状況



第8号住居跡  
完掘状況



第11号住居跡  
完掘状況

PL 4



第24号住居跡  
遺物出土状況



第24号住居跡  
遺物出土状況



第39号住居跡  
貯藏穴遺物出土状況



第53号住居跡  
遺物出土状況



第53号住居跡  
貯蔵穴遺物出土状況



第110号住居跡  
完掘状況



第110号住居跡  
遺物出土状況



第110号住居跡  
遺物出土状況



第417号土坑  
遺物出土状況



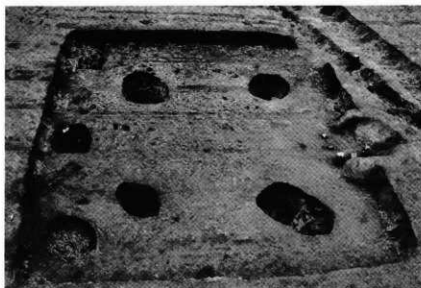
第2号住居跡  
完掘状況



第4号住居跡  
完掘状況



第6号住居跡  
完掘状況



第7号住居跡  
完掘状況



第7号住居跡  
遺物出土状況



第7号住居跡  
竈遺物出土状況

第9号住居跡  
完掘状況



第12号住居跡  
完掘状況



第13号住居跡  
完掘状況







第16号住居跡  
完掘状況

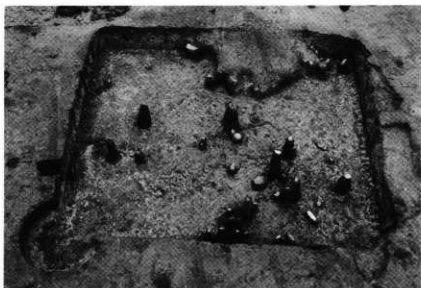


第16号住居跡  
遺物出土状況



第17号住居跡  
完掘状況

第17号住居跡  
遺物出土状況



第17号住居跡  
遺物出土状況



第17号住居跡  
竈遺物出土状況





第17号住居跡  
竈遺物出土状況



第19号住居跡  
完掘状況



第19・20号住居跡  
完掘状況



第25号住居跡  
完掘状況



第25号住居跡  
遺物出土状況



第26号住居跡  
完掘状況



第27号住居跡  
完掘状況



第28号住居跡  
完掘状況



第28号住居跡  
竈遺物出土状況

第30号住居跡  
完掘状況



第31号住居跡  
完掘状況



第32号住居跡・第6号溝跡  
遺物出土状況





第33号住居跡  
完掘状況



第36号住居跡  
完掘状況



第37号住居跡  
完掘状況



第41号住居跡  
遺物出土状況



第42号住居跡  
遺物出土状況



第42号住居跡  
遺物出土状況





第44号住居跡  
完掘状況



第45号住居跡  
完掘状況



第48号住居跡  
完掘状況

第49・50号住居跡  
完掘状況



第49・50号住居跡  
遺物出土状況



第49号住居跡  
遺物出土状況





第51号住居跡  
完掘状況



第52号住居跡  
完掘状況



第58号住居跡  
完掘状況

第63号住居跡  
完掘状況



第63号住居跡  
遺物出土状況



第65号住居跡  
完掘状況





第65号住居跡  
遺物出土状況



第66号住居跡  
遺物出土状況



第66号住居跡  
竈遺物出土状況

第68号住居跡  
完掘状況



第73号住居跡  
完掘状況



第77号住居跡  
遺物出土状況





第87号住居跡  
遺物出土状況



第87号住居跡  
遺物出土状況



第88号住居跡  
完掘状況



第88号住居跡  
遺物出土状況



第88号住居跡  
遺物出土状況



第88号住居跡  
遺物出土状況





第91号住居跡  
遺物出土状況

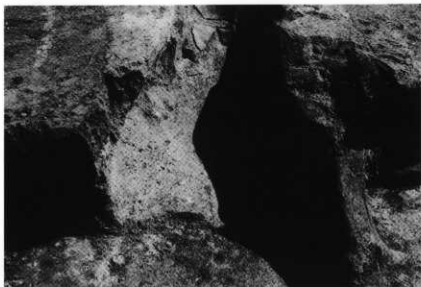


第91号住居跡  
遺物出土状況



第91号住居跡  
遺物出土状況

第91号住居跡  
電遺物出土状況



第94号住居跡  
遺物出土状況



第94号住居跡  
電遺物出土状況





第96号住居跡  
完掘状況

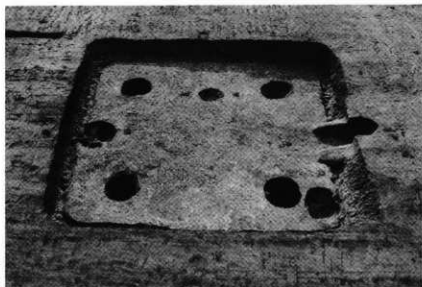


第96号住居跡  
遺物出土状況



第97号住居跡  
完掘状況

第98号住居跡  
完掘状況



第99号住居跡  
竈遺物出土状況



第102号住居跡  
完掘・竈遺物出土状況

